

310
137

情報宣傳研究資料

第十一輯

昭和十四年八月
内閣情報部



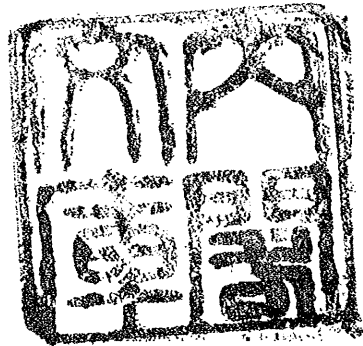
宣傳の心理と技術

一九三五年

宣傳の心理と技術

エール大學
レオナード・W・ドゥーブ

内閣文庫
八九四九六号 冊
和書



310
137

本輯は事務上参考の爲レオナード・W・ドローブ著「宣傳
の心理と技術」(ニューヨーク、一九三五年發行)を翻譯
せるものなり

宣傳の心理と技術

目次

第一部 序 説	頁
第一章 武器の探究	1
第二章 果して心理學は役立つか	10
第二部 現代人の心理	
第三章 人間の行爲を理解する爲の基礎	10
一、動機の問題	10
二、態度	14
三、ステロ版	16
第四章 人格と社會	16
一、態度の組織	16
二、社會的價值	18
第五章 暗示、勢威及び社會的變化	18
一、暗示の心理	18

二、暗示の種類…………… 一〇五

三、言 語…………… 一〇六

四、勢 威…………… 一〇七

五、社會的變化…………… 一〇八

第三部 宣傳の性質

第六章 意圖的宣傳と無意圖的宣傳

一、意圖的宣傳…………… 一〇九

二、無意圖的宣傳…………… 一一〇

三、宣傳と教育…………… 一一一

四、宣傳の定義…………… 一一二

第七章 知覺と宣傳

一、知覺の問題…………… 一一三

二、宣傳の知覺…………… 一一四

第八章 宣傳の型

第九章 人格の再構成

一、關係的態度の喚起…………… 一一五

二、所期の統合…………… 一一六

三、感動的條件づけの理論…………… 一一八

第十章 豫測し得べからざることの範圍

一、補助的、服從的態度…………… 一二〇

二、行動の経路の指示…………… 一二一

三、所期の統合の補強…………… 一二二

四、刺戟情勢の局限…………… 一二三

五、始 原 性…………… 一二四

第十一章 逆宣傳と説得

一、逆 宣 傳…………… 一二五

二、説 得…………… 一二六

三、摘 要…………… 一二七

第四部 宣傳の風靡

第十二章 商業宣傳(其の一)

一、説 得…………… 一二八

二、廣 告…………… 一二九

三、兒童間の宣傳…………… 一三〇

四、新聞紙上の煽情主義…………… 一三一

第十三章 商業宣傳(其の二)	171
一、紙面奪取 "spacegrabbing"	171
二、公共關係顧問 Public Relations Counsel	171
第十四章 宣傳團體	180
一、ニューヨーク矯風會	181
二、合衆國主の日同盟	182
三、アメリカ社會保險協會	180
四、有色人種の福利増進の爲めの全國協會	184
第十五章 アメリカの共産黨	183
一、共産黨の戰術	183
二、スコツツボロー事件	186
三、分析と批判	183
第十六章 ナチスの宣傳	186
一、一九三三年以前	186
二、一九三三年以後	186
三、米國に於けるナチス	185
第十七章 戰爭、平和及び宣傳	187

一、戰爭宣傳	186
二、兵器製造業者	186
三、平時の宣傳	186
第五部 宣傳の媒介物	
第十八章 新聞紙	186
一、新聞に於ける意圖的及び無意圖的宣傳	187
二、新聞が新聞として有する印象的要因	183
三、新聞の技術的呈示の諸要因	187
四、新聞の内容呈示の諸要因	186
第十九章 ラヂオ	188
第二十章 映畫、演劇、藝術	188
一、映畫	188
二、演劇	188
三、藝術	188
第二十一章 他の宣傳媒介物	188
一、パンフレット、折込印刷物、引札	188
二、廣告板、看板、サンドウイッチメン、空中文字、自動車、飛行器、ツッペリン廣告	189



及び「補充的廣告」	三六
三、雜誌	三三
四、書籍	三五
五、集會	三七
六、風評	三〇
七、行列	三三
第六部 結論	三六
第二十二章 何れの宣傳	三六
附 録	四〇六
宣傳の諸原理	四〇六

宣傳の心理と技術

第一部 序 説

第一章 武器の研究

アメリカに於ては「宣傳」といふ言葉は悪い香ひを持つてゐる。この言葉は戦争その他の有害な行爲と結びつけて考へられる。言語學を研究する者は、この言葉の尊敬すべきラテン語の祖先、即ち、「種子を播く」といふ意味の動詞を指摘するだらうし、又、歴史を研究する者は、是亦同様に尊敬に値するところの、一六一〇年頃に於ける外國傳導係の僧正の委員會の公の名稱に含まれた意味に注意を索くであらう。併し、言語學も歴史も共にこの言葉の悪評を除く力はないやうである。パウル・ヨゼフ・ゲッベルスの如き現實主義の政治家が「報導、宣傳大臣」の名を冠せられることを躊躇せぬところを以て見ると、ドイツに於ては、この言葉は全く違つた響きを持つてゐるに相違ない。

併し、アメリカ人でも亦宣傳によつて支配されてゐることを意識するに至つた。このことは必ずしも驚くに足りない。何故かと云へば、アメリカといふ國は、大戦中には行はれた典論「指導」の巨大な企圖の効果を今尚ほ感じてゐる國であり、人々を驅つて怪奇な商品を買はせるやうにする一切の努力を奨励する制度を固執してゐる國であり、幾分苦境に立つてゐる聯邦政府の新戦術に協力するやうに民衆を指導する組織的な戦法の助けによつて經濟的回復を成功させようと努力してゐる國だからである。現今のやうな自己批判と社會的評價の時代に於ては、社會を形成する種々な

力を見抜き得る觀察者、思想家の数は必然的に増加する。

宣傳の定義が何であらうと、この言葉が最初には、他の者を動かす爲めの企圖に關するものであることは、明瞭である。宣傳に含まれる征戰は一種の闘争状態、理想、權力又は商品に關する争闘の状態を意味する。現今の世界は平和的な世界ではない。計畫することを躊躇する國家はその市民がある點まで互に競争することを放置する。計畫を立てる國家は彼等がその個性と信するものを保持する爲めに懸命である。そして總ての國家は現實の、又は想像上の攻擧國に對して自己を防衛することに汲々としてゐる。現代人はその最も樂天的な者ですら争闘の終局を考へない。事實、彼等の多くは争闘が人間の動きの必然的な現象であると考へてゐる。とすれば宣傳は繼續されるであらうし、寧ろ一層盛んになりさへするであらう。

夢想的な詩人や作曲家としては意想外の社會的認識を以て、リヒルト・ワグネルは、「歌の先生」*Meistersinger*の初めに於て、ハンス・ザックスの口を藉りて次のやうな言葉を云はしめてゐる。

「永い々々間、人類は詩を棄て去るであらうと思へ。戦ひは歌以外の武器によつて闘はれるであらう。暗愚と迷信とに對し、理性と哲學とによつて、闘はれるであらう。」

ワグネルが説いてゐる中世の破綻期の如き時代に於ては、藝術が人心を専らにし得ぬことを指摘した點で、彼は當つてゐる。或る種の宣傳の副産物であること明らか暗愚と迷信とは、もつと一層有效な方法で攻撃せねばならない。

悪に對する戦ひは素より、善に對して戦ふ場合にも、先づ第一に目標を明らかにし、然る後に目標を陥れるべき武器を準備することを要する。多くの著述家が主張するやうに、宣傳は一切廢止すべきだ、と叫ぶことは無益である。かゝる主張は宣傳が實際に如何なるものであるかに關する認識の不足に基づく。否、宣傳は不可避であり、その廢止は、友好

的にせよ、對立的にせよ、人と人とを結合せしめる複雑な社會的紐帶の一切が實際に斷ち切られた時に至つて初めて可能になる。ハンス・ザックスと同様、著者と雖も詩や歌その他の吾々の共同の貴重なる相續財産を保護する爲めの戦ひに參加する熱意を持つ者ではあるが、風車に挑戦することは御免を蒙りたい。

「宣傳」といふ言葉が然く曖昧に用ひられてゐるといふ事實自體が、人々に慎重な注意を要求し、宣傳とは何であるかを考察すべきことを要求する。是が著者の第一の目標である。現象自體が理解される以前に宣傳に賛否の意見を呈することは賢明でない。擬、宣傳の概念が比較的明らかに焦點にまで持つて來られた後に、宣傳が如何にして働くか、如何にして人々を動かすかを敘述し、分析することを期待することは合理的であらう。かくして、敘述、分析も亦、直接の目標となる。

加之、この書物の究極の目標は、より包容的、根本的な社會哲學を含む。即ち、より平易な言葉で云へば、信念の表明を含む。著者は、或る現象の認識と理解が個人をして或る程度までその現象の持つ力から自己を解放することを得しむるものである、といふことを臆病ながら信する者である。この信念が、同様の、そして現在では平凡なことになつてゐる聖書の命令と密接な關係を有することは明らかであり、正しく、既に懺悔室に於て發達を見せ、今や精神分析學者によつて行はれてゐる「汝の體系から語る」技術(即ち、*abreaction* : 「正氣に復らせること」)の延長であることは確かである。或ることを宣傳、或る者を宣傳家なりと烙印を捺し得る能力、及びそれと同時に宣傳の根本性質に對して有する洞察とが、多くの宣傳をしてより効果薄きものならしめる力を持つと考へることは、餘りに敬虔すぎる希望ではないといふ程度に留まるかも知れないが、茲では寧ろ是を主張し、更に後にもそれを繰り返すことにする。要するに、宣傳に就いて考へることは、或る宣傳の破滅に導く所以である。

宣傳を理解する爲めには、それに相應する武器を使用する必要がある。「理性」と「哲學」とに訴へよ、とするハンズ・サックスの提案は充分機宜に適つてゐるとは云へない。「理性」が當然のことであることは、恰も、刀が抜かれる前、引金が引かれる前に、正常な機能を持つ神經系統の存在が必要である、と同斷である。そしてソグネルの「哲學」とは單に體系的學問を指す一般的名稱に過ぎない。宣傳を主題とする眞に浩瀚な、そして時によつては示唆に富む著述は、多くは敘述法にその範圍を限つてゐる。多くの著者は、大得意で、又は絶望の苦悶を漏しながら、彼等の好む宣傳の實例を、本の覆ひの間に挿し込むのである。不幸にして此等の著者は、餘りに彼等の物語りに没頭して、彼等が記述してゐた宣傳の言外の意味を説明し、複雑な機構を分析することを忘れてしまふのである。

併し、これ等の著者の缺點を利用して宣傳の問題の眞の核心を衝き得べき筋道を發見することはできる。彼等の誇示や法螺も、それを社會組織の枠の中に入れて考へると價値がある。宣傳の一つの實例は人間の邪惡の孤立した、珍奇な又は忌むべき見本と見るべきではなく、特殊な社會の一機能と見なければならぬ。最近、ロイ・テイ・ビー^(註1)は廣告の問題を取扱ひ、之を以て資本主義文明の所産とした。この見方からすれば、廣告の示す異様な種々な様相も最早不思議でもなければ、興味もなければ、有害でもなく、只管睿智的である。ロイ・テイ・ビーの分析は本質的には社會學的若しくは人類學的であり、その結果として、彼が印畫した寫眞の各部分はよく辻褄が合ひ、意味を成す。かうした分析は、ロイ・テイ・ビーを批評する者の或る者は彼の「愈進的な」性向を云々するとは云へ、著者が相當の距離を獲得して初めて可能である。宣傳に動かされる者は宣傳を理解することを希ひ得ない。宣傳によつて動かされること自體が、彼等が、好むと好まざるとを問はず、彼等をして罵詈雑言を吐かせるやうに影響を與へた他の種類の宣傳の犠牲となつてゐることを證明する。それ故に、敘述を何等かの興味本位の文學の一種として使用せずして、廣い文化的解釋の基礎として

用ひるところの社會學は、宣傳の翼を捕へ、之を檢討するに適する第一の武器である。

第二の武器は心理學である。少數の例外を除き、宣傳に關して著述を著した者は、彼等が擇び出して例に引いてゐる宣傳家が、如何にして、そして何故に、宣傳に成功したかを記述してゐない。若しも宣傳とは他の者を動かさんとする或る者の企圖であるとするならば、その或る者がその他の者に對して心理的に影響を與へ、そしてこの點に疑もなく宣傳の過程の謎が存することは明白な筈である。一般の著者は宣傳の持つ刺戟といふ點よりも以上に宣傳の「犠牲者」に接近しなかつた。彼等はこれ等の刺戟を因果關係的に又は極めて詳細に記述はしたが、さうした刺戟が心理學的重要な性質を持つ、或は持たぬといふは何故であるかを示してゐない。實際に於て總ての著者が、例へば宣傳家は隱蔽、歪曲、虚構等の方法に訴へることを説いてゐるが、此等の方法がこれによつて動かされる個人の側に於て如何なる意義を持つかを説明しないのである。物語りの英雄が二人の海賊を忽ちにして殺して了つた、と話したのみでは子供でも満足しない。この興奮的な行爲の動機と、これを遂行した技巧とを知り度がるに相違ない。

宣傳が廣い心理學的な含蓄を持つ社會現象である以上、その一切の派生を分析する爲めには社會學と心理學とを共に用ひることが必要である。孰れの學問を單獨に用ひても不充足、不完全である。再びソグネルの精神を藉りて云へば、社會學は砲、心理學は彈藥と見ることが出来る。彈丸が發射される爲めには兩者が共に必要である。加之、彈藥は砲に適合せねばならない。或は、別の觀方から云へば、砲は彈丸を發射し得るものであらねばならない。要するに、宣傳を捕へる爲めには二つの別々の武器によらずして、各部分が互によく調整されてゐる一個の複雑な武器によらねばならぬのである。この單一の武器は社會心理學と呼ばれる。社會心理學の立場よりすれば、如何なる宣傳も、一定の社會に於けるその役割が理解され、その心理學的技巧が明らかにされて初めて、學問的な意味で知られるといふことになる。

社會學は近年幾分實用主義的な傾向を持つやうになつたとは云へ、それは依然として、社會法則を決定する學問として留まらねばならない。社會心理學といふ不可分の結合に於ける心理學の相俦としては、現今の社會學は單に心理學的素材を嵌め込むべき枠組を提供し得るに過ぎない。この意味に於ける社會學は、社會心理學的現象を眺める一つのやり方である。此等の現象は個々の珍らしいものとしてではなく、多少なりとも全體として綜合された文化的雜型の一部分として觀察されねばならない。社會人類學の模範に従ふべきである。加之、社會學の基礎は之に伴ふ心理學に先行せねばならない。社會學は彈丸としての心理學が適合するやうにせねばならぬところの砲である。差當りの問題としては方程式は逆にするとはできない。社會學的論旨に適合するやうな心理學的概念を選択する問題は、次の章で論ずる。

宣傳の社會心理は——教授の研究室以外で行はれてゐる生活に關する問題が總てさうであるやうに——思惟の二つの水準に於て殆んど同時に働く。超有機的とは有機的とは是である。超有機的には、即ち社會學的には、宣傳はその歴史的發展に於て、そして一群の風俗習慣と關聯して觀察される。それ故に、宣傳の起原と作用とは、人々の一つの集團に倚繋せずして、特殊の組織を有する社會に倚繋する。戦争、公共事業、軍需品會社、「高壓團體」等の曝露記事を物する人の多くは、自分達の地位の社會學的意義を評價することを閑却し、従つてこれに論及することを怠つてはゐるが、大體に於てこの方面から論述してゐる。他面、有機的には、又は心理學的には、宣傳は如何なる瞬間に於ても、この手續を指導し若しくはこれによつて動かされる人々の心理學的構成に倚繋する。加之、これ等二つの思惟の平面は密接に關聯してゐる。即ち、個人の心理學的構成は超有機的な風俗習慣の所産であると同時に、新たな、修正された社會生活の様式の創造者でもある。社會心理學が社會學と心理學との綜合であるのは、社會心理學的現象が社會力と心理學的行動との綜合だからである。

この種の社會心理學は次の哲學的前提を認めねばならない。即ち、社會心理學は如何なる「絕對的眞理」の概念とも關係せず、寧ろ或る特殊の時代に生活する人々にとつて或る程度の「相對的眞理」を持つやうに見へるところの材料を取扱ふ、といふことである。^(註2)この前提を以てすれば、宣傳を虚偽と同一視し、教育を眞實と同一視しようとする企圖が、輝やかしくはあるが生命の極めて短い、美しいシャボン玉にも等しいものであること明瞭である。宣傳、教育、説得、煽動、廣告、辯護士業、街頭歩行者の勧誘等は、この觀方よりすれば、善でも悪でもなく、眞でも偽でもなく、神聖でも同濟でもない。これ等は總て眞實であり、その相對性はこれ等のものが接觸する人々の觀念形態の作用の結果として生ずるものとなる。「眞實性」の程度の相違は重要でないことはないが、併し畢竟するにそれは程度の相違に留まる。

過去及び現在の宣傳に於ける社會心理學を窺つて假に金の貫き得たとしてもそれは充分ではない。何となれば、著者が假令如何にこの書物に於ける遭遇戦に於て成功を收めようとも、宣傳は依然として繁榮の道を進むからである。或る型の宣傳は社會自體が變化せぬ限り變化しないといふことが疑を容れないとしても、洞察の力が増強して、將來起るべき宣傳の或るもの、効果を減殺することを期待し得るのである。この洞察力に基礎を與へる爲め、そして第二義的には、社會心理學の如き學問の潜在的な重要性を證明する爲めには、スピノーザの流儀に従つて一群の「宣傳の原理」を編み出すことが效能があるやうに思はれる。これ等の原理は、後に設けられてゐる諸章に於て爲されるべき社會心理學的觀察の便利な要約として役立つに相違ない。そしてこれ等の原理の妥當性は、過去に於て知られ、當時人々を渦中に巻き込み、將來に於ても累積するであらうところの、宣傳の諸々の實例に適用することによつて吟味することができる。その治療的價値は、讀者をして數多の社會力から解放せしめ得るといふ點に存するであらう。

「宣傳の原理」の妥當性の問題は、退屈な方法論の問題を喚び起す。雜多なものの中から齊一的、恒常的なものを發

見する爲めには、合理的な所謂科學的思惟は慎重な歸納の手續を要求する。資料は廣く散らばつた代表的な範圍から提供され、そしてこれ等の資料の中に原理自體が窺はれねばならない。然る後に更に、歸納せられた原理は新たな資料に適用することによつて吟味される。かうした方法が宣傳に就いて行はねばならない。即ち、凡ゆる種類の宣傳が蒐集され、然る後に、その中の著しいものを分析することによつて原理を抜き出すやうにするのである。併し、この著述に於てはかうした方法を採らない。それには二つの理由がある。

先づ第一に、資料を原理から切り離すことは實に甚だ退屈であるのみならず、幾分難解でもある。宣傳の實例を一つ一つ挙げることはできるが、讀者は籤の中をあてどもなく探り歩くやうな感じがして退屈であらう。そして歸納の結果得られた原理が提示される段になつても、資料に對する煩瑣な照合が頻りに行はれて、讀者は昏迷に陥るであらう。その結果として原理は「キチッと合ふ」ことなく、恐らくは追購思案として蛇足をつけた理論的抽象と云つたやうなそぐはぬ感じを與へることになるであらう。

更に、第二には、宣傳に關する多くの著者が行つたことを眞似たい誘惑が起る。彼等は讀者を駭かせると同時に、著書の人氣を高める爲めに、宣傳の最も美味な部分を選び出した。かうした例示は華美ではあるが忽ちにして陳腐なものになる。宣傳は世界の他の事象と同様に、轉變するものであり、而も加速度的に動く。それが眞新しいものにせよ過去ものを發いて有頂天になることは愚かしき沙汰である。何故かと云へば肝心なものは將來であつて過去ではないからである。

他面、一群の「原理」は、讀者をして總ての宣傳を理解することを得しめ、或る社會的標準に従つてその宣傳が「善」と見られるか「惡」と見られるかを知ることが得しむるものでなければならぬ。矛盾撞著の世界を要約し、解明しよう

と努力するかうした原理は、若しそれが一切の資料を包容しようとするならば、かなり抽象的のものでなければならぬ。或る與へられた問題にこれを應用することは恐らくは微妙な直感と言語に絶する程の徹底した研究と観察とを要するであらう。そしてこれ等の原理が如何なる宣傳に對してもそれをバンクさせる助けとなり得るものであることが認められると、その目的を達成したことになるのである。

勿論、筆者は歸納法を避けたとは主張しない。この著述を通じて論述されてゐる宣傳の諸原理は筆者の體驗から歸納したものである。彼のアメリカの生活の諸相に對する接觸及びそれより少ない程度に於てヨーロッパの生活の諸相との接觸は、必ずしも彼獨特のものではない。それは大多數の正常な人々の體驗と共通するのである。自彼傳を滔々と吐露することはひどい悪趣味の一例であらう。

同時に、宣傳の諸原理はモーゼが十誡を授けられたときのやうに急激な爆發性を以て説述出来るものではない。これ等の原理は一面に於ては心理學上の學識に關聯をもたせて説明せねばならぬし、他面に於ては宣傳の實例を参考に引いて説明を加へることを要する。加之、現代の宣傳を明らかにする爲めに六章を費やした。併しこれ等の實例は主たる論點を戲曲化する爲めに選出されたものでもなければ、讀者を喜ばせる爲めにとり出されたものでもない。近代的宣傳の最も著しい特質と思はれるものを示し、宣傳の諸原理は如何にして最も有効に應用せられ得るかを表明する爲めに掲げたのである。現時の世界を知る爲めには、事業の、少數黨の、アメリカ共産黨の如き政治組織の、ドイツのフアッシの、戦時や平時の投機屋の宣傳を「見透す」ことが必要である、といふことを筆者は主張したのである。眞面目な裸體主義者の言行の方がアメリカ社會保險協會の散文的な努力の記述よりも面白いかも知れない。然るに後者を述べて前者に言及せぬ所以は、養老年金制度の爲めの宣傳が讀者をして宣傳と社會的變動との間の關係を知ることを得しめるからである。

要するに、ハンス・サックスの暗示を承引したのである。差當り——そしてほんの差當りだけ——詩に替ふるに社會心理學を以てしたのである。社會心理學といふ武器により、宣傳一般及び就中重要な社會的傾向を分析しようとするのである。かうした分析により、未だ發生せぬ情勢に對する將來の分析にとつての指針が得られる筈である。

註1. James Borfy, *Our Master's Voice*, New York, 1934.

註2. このことの認識論的結果に關する詳細な論述は Karl Mannheim, "Wissenschaftssoziologie," in Alfred Vierkandt (ed.), *Handwörterbuch der Soziologie*, pp. 659-680, Stuttgart, 1931. 參照。

註3. 「見本法」の問題は統計學者が甚だ重要視してゐることであるが、次の理由によりこの問題に立入ることを省く。即ち、覺醒した個人は彼自身の社會的環境に於て既に獲得し、又、將來獲得すべき極めて概括的な體験の結果として、この種の宣傳の原理の公算性を充分決定する能力を具へてゐる。

第二章 果して心理學は役立つか

宣傳の如き社會問題の分析に役立つべき心理學的諸概念を選び出すに先立ち、現時の心理學の貢獻と地位とに就いて簡単に述べる必要がある。何故かと云へば、心理學は今や困つた地位に置かれてゐるからである。心理學を保護してゐる學究的な團體の外部に於ては、心理學は一般に可憐な又は微意を置めた敬禮を以て迎へられつゝある。人間の自然性の研究は推奨すべき娯樂であり、従つてこの難かしい仕事を行ふ心理學者はアメリカがその學者に對して與へる一切の名譽と評判とに値することは當然である、といふことが屢々説かれる。併し名譽と評判とは、その利益を受ける者と想像されるところの心理學者自身よりも以上に、利益を與へる者を利するのである。その結果として心理學は週刊新聞

を讀む人々やラヂオの健康時間を好む人々を利用する手段として用ひられて來た。心理學は成功、人格、將來、性生活、少數黨の政治的運命への鍵といふ貼札を附けられた。最近、東部の或る大都市の失業者に對して「健康、娯樂委員會」が講習會を催した。心理學の講義は最初には最多數の申込を集めたが、講師が心理學は就職の助けにはならないと説くに及んで聽講者の數が激減した。

アメリカの専門學校や大學の内部に於ては、心理學の教授はその非友誼的な同僚に對して彼等の存在を擁護する必要に迫られることが屢々ある。一方に於ては、「科學者」としての地位を誇り、そして屢々盲目的に主張する人々が心理學を非科學的であると非難する。この點、生理學者が最も苛烈であり、斟酌がない。といふのは彼自身が物理學者、化學者達から同様に攻撃される場合があるからである。その結果として心理學者は自分の自尊心を恢復する爲めに社會學者に對して憤慨の飛沫を飛ばすのである。科學者が心理學に對する輕侮の念を摘要する爲めには、標準的な心理學參考書の表題二つを挙げさへすれば足りる。一九二五年の諸心理學及び一九三〇年の諸心理學が是れである。諸心理學といふ言葉自體が既に、心理學者達は互に攻撃し合ふことに汲々として一つの科學を打建てるに熱心でないといふことを説明してゐる。他面に於ては、大學の教師達は人類の爲めの宣傳を行ふことを一生の仕事としてゐるのであるから、心理學者が香ばしくない理論、品位のない穿鑿、計算、無意味な器械等によつて人間の生氣を汚すやうなことをせぬやうに要求する。哲學者は心理學が彼の物辭かな指導から斯くも遠くまで御ひ出て終つたことを憤るやうな氣持を抱き、親の立場として忠告、訓誡を附加して喜んでゐる。自分の好む詩文、戯曲、小説等の斷片を教室で教へてゐる教師は「説明する」ことのできない人間の行爲や天才の微妙さを激賞する。又、古典を研究する者はアリストートル（又はプラト）その他彼の博士論文の材料となつたギリシヤ人が既に有り得べき一切の心理學的觀察又は基礎の大部分を説き

盡したと主張する。要するに、學究は心理學が精神を尙未だ充分脱却し切らないとか、或は、精神を幾分か缺いてゐるとか云つてこれを非難する。

病院、學校、刑務所、百貨店の如き大規模な設備に於ては到るところ心理學の機能が充分に認められてゐる。心理學者が「工合の悪い」個人に對する治療の方法を指示するやうに要求された場合に、彼の備主又は醫者が彼も亦醫學博士であつたらなあと感ずることが屢々あることは事實である。併し心理學者が役立つやうに見へるのは、心理學者としてである。商業生活は能ふ限り多數の心理學者を吞み盡して終つたやうである。その理由は、第一には、心理學が行爲を左右し得るといふ通俗的の感じであり、第二には、産業がその散亂した目的を果す爲めに用ひた試験的な、無批判的な政策である。フロイドの所謂「素人分析」は社會的現實となつた。

かうした一般的情勢の結果として心理學者の地位は曖昧なものになつた。自分が「心理學者」であることを自認する者は、「併し如何なる種類の心理學者であるか」といふ問に答へられるやう準備してゐなければならぬ。そして、若し彼が眞に心理學者であるならば、これに對して即答が出来る筈である。何となれば、心理學者ならば他の學者と同様に、自分の研究範圍の分類、分化を知悉してゐる筈だからである。

筆者が宣傳の問題に對して社會學的接近を企てるに當つて之と適當に連繫し得べき心理學を選び出さうとする時に、筆者は現實の仕事に直面する。何故かと云へば、一般心理學が多種多様であると同様に社會心理學にも多くの種類があるからである。例へば、數多の社會心理學教科書編纂者は、通常、彼等の努力の前半を、「心理學」とは何であるか、若しくは、何であるべきかに關する自己の見解を論述することに費やし、研究室の心理學者が白鼠又は類人猿に對して實施した試験や苦難の記述にまで踏み込んで了ふことが實に頻繁に見られる。それ故に、この著述に於ては宣傳の心理

に關係ある行爲の諸相のみに言及し、人類以下の動物に關しては記述を避けることにする。

冒頭に於て、心理學とは何か、そして如何なる仕事を爲し得るかに關する通俗の考へ方を簡単に一顧する必要がある。この考へ方はアメリカの生活の數多い歪曲の一つとして生れ出た産物であつて、人を誤りに導き易い。而も、かうした誤れる見解を抱いてゐる素人達は同時に人間でもある。そして人間としては彼は心理學の主體でもあり、創造者でもある。この點、心理學は體系的學問の中で獨特の地位を持つてゐる。即ち、その機能の大部分は多くの人々が既に知つてゐることを集成しようとする企てである。それ故に、社會的に有用な心理學は専門外の者にも意味され、理解されるものであり、秘教の如きものであつてはならないといふことが主張され得る。これに對して、患者の内部機關を侵しつゝある疾病の正確な醫學的性質を患者が理解するか否かは重要ではなく、従つて心理學も亦必ずしも通俗的なことを必要としない、といふ比喩は當て嵌らない。何故かと云へば、醫者は患者に疾病の模様を語り、患者は之によつて自身でその治療法を施すことができるといふ事實を見逃してゐることが一つ、次では、將來の行爲を決定する要因の一つであり得べき自己知覺の重要性を閑却してゐる點が誤謬である。總ての心理學が通俗的であらねばならぬといふ譯ではない。例へば生理學的心理学は必ずしも自動車運轉手の理解し得る用語にまで引下げることが要しない。併し或る種の心理學——特に宣傳を理解せしめようと努力する心理學——は知識人によつて吹き出された雲の上から降つて、あるが儘の一般民衆によつて把握されねばならない。

通常理解され、實行されてゐるやうに、科學はその問題の一つ々々に就いて從屬的變數と獨立的變數とを設ける。從屬的變數は獨立的變數を検査、規整することによつて研究される。若しも讀者が、アップルパイの味はチーズをつけた方が美味であるか、つけない方が美味であるかといふ極めて重大な問題に興味を持たれるならば、讀者は科學的吟味を

行はれるがよい。讀者は一を除いて他の一切の變數を實數として持つてゐる。そこで讀者はパイの一切れにはチーズをつけて、他の一切れにはチーズをつけずに喰べてみる。かくすることによつて讀者はチーズを獨立變數とし、從屬的變數たる讀者の嗜好に對するその効果を確かめることになるのである。

心理學はライブナチヒに於けるその最初の研究室の創設以來、尊敬すべき科學としての聲價を獲得する爲めに、その變數を切り離すことに努力して來た。それ故に、心理學者は研究の對象として研究し易い問題を選択したことは自然の成行きであつた。その結果として、「感動」、「認識」、「記憶」、「學習」等の範圍が心理學上の文獻に於て焦點的地位を占めることになつた。かやうにして人間を種々な構成部分に區別することが純然たる獨斷であるといふ事實にも拘はらず、これ等「低級な」精神過程の心理學は多くの貴重な資料を啓示し得たのである。加之、近年に至つてこれ等の資料は形態派として知られる心理學者の野心滿々たる三頭政治により、その固有の、そしてより意味のある見透しの中に置かれるやうになつた。何故かと云へば、形態派心理學は、賢明にも、これ等の過程の相互關係と綜合的諸様相に重點を置いてその理論と實驗とを開始し、舊派の心理學者が行つたやうに、かうした相互補充の關係を閑却したり、推定したり、竊やかに暗示したりはしなかつたからである。

宣傳の研究に於てはこの種の體系化された知識は當然のこととされねばならない。何故かと云へば、宣傳を行ふ者が他の人々をして宣傳の主旨を認識し、學び、記憶せしめようと努めてゐるからである。かくして、この點に、心理學の吾々の論じてゐる問題に對する第一の貢獻が存する。

總ての人類が認識し、學び、記憶することが明瞭である一方、各個人は夫々固有のやり方で認識し、學び、記憶するといふことは一層明瞭である。「一般化された」精神といふ神秘的な型を描き出さうと努力してゐた古典的傳統を嚴守

する心理學者達は、久しい苦悶の擧句、漸く兜を脱いで、個別的相違を認めるやうになつた。殊にアメリカに於ては、心理學者は能ふ限り正確であらうことを希つた。彼等にとつて正確とは測定を含み、測定は精密な統計の技術を含む。知性、人格の特徴、態度、能力、人體測定學上の諸指標等を吟味して累積された資料の結果として、個人は夫々相違を持つが、その相違は通常靜學的曲線又は函數の形で表示されるころの或る一般的原理に終るものであるといふことが、嚴肅に認容され、公示される事實となつた。人々を相互に比較した場合、或る與へられたる特質に關する彼等の相違は質的の相違にあらずして、量的の相違であるといふことが知られる。男女は天才にあらずれば愚者、正直にあらずれば不正直、耳が長くなければ耳が短い、といふ風には區別されない。彼等は夫々或る程度の知性、正直さ、耳の長さを持つてゐる。唯、この三つの點に就いて測られた大多數の人々に於ては、一つの極端から他の極端に至るまで程度の相違があるのみである。かうした散文的な発見も一概に輕蔑の忍び笑を以て念頭から去るべきものではない。何故かと云へば、これは常識と一致するし、又、常識をして人々の集團が問題となつてゐるときに慎重な態度を採らしめるからである。心理學を職業としてゐる殆んど總ての人が低く頭を下げて個人的相違に敬意を表してゐるといふことは、同時に、人間の自然性を壓縮するプロクルステスの寢床の拋棄を意味する。

近代の心理學に於ける第三の重要な、そして認むべき傾向は、人間の行爲から知性を除去することである。ダーウィンがこの運動に刺戟を與へたことは勿論である。そしてマクドガル McDogall 教授及び精神分析學者達がその含蓄する階級の意義を秩序つけた。人は最早、餘りにも多くの經濟學者、法律學者が依つて以て彼等の體系の基礎とした合理的個體とは考へられないやうになつた。人は衝動、本能、氣紛れ、欲望、需要、リビド又はそれ等のものゝ結合によつて左右される動物として紹介されるやうになつた。人をかうした姿で描き出すことを憚る人々もあつたし、それを種々

第二部 現代人の心理

第三章 人間の行爲を理解する爲の基礎

一、動機の問題

宣傳する者が努力を傾注する目標たる個人は、一般には現實の諸情況に於て種々雑多な刺戟に對して反動を示しつゝあるところの成年者である。かゝる個人はあつてはあつて、然るに於て觀察されねばならない。即ち、行爲する、運動する、愛する、憎む、野心的な、道徳的な、愛國的な、そして社會的な人格として考察されねばならない。彼等を理解せんと企てる心理學はこれ等の動的性質を無視することはできない。複雑な、敏感な、何等かの形で完體を成してゐるものとしての人を見なければならぬ。心理學が非實際的でない爲めには、現實的であることを要し、餘りに理論的であつてはならない。

同時に、在るがまゝの人間を取扱はんとする心理學は、動物世界に於ける人間の獨特の地位を無視することを得ない。人をより低級な動物から區別しようとする努力が行はれる場合、多くの獨斷的な標準が不適當であることが直ちに發見される。或る動物は少なくとも一つの點では人間よりも優れてゐることが證明され得るのである。多くの鳥はより良き視力を持つし、犬はより鋭い嗅覺を持ち、魚は海底で生活し得るし、蜜蜂は精巧な巢を造ることが出来る等である。又、或る特殊な場合には、高等動物は人間よりもより大きな適應力を發揮するやうに見える。而も、人間はこれ等總て

のものに優越する。少くとも人はさう思つてゐる。

この優越性の理由は、人がその同類から殆んど無限に學び得るといふ點に在るやうである。或る種の動物も亦社會的集團を組織することは事實であるが、これ等の動物の行動の型は多くは環境からの習得の作用に基づくものではなく、程度の相違こそあれ生來の機構に基づくことが多いやうに思はれる。加之、人がその同時代の者から學び得るといふ能力は、この利益又は進歩を次の世代に傳達し得るといふ能力をも含む。要するに、人はその祖先に對して生物學的子孫であるのみならず、社會的子孫でもある。この遺傳は、一方、人間の言語の力——口頭の形式も文書の形式も含み——に依るのである。

言語の發達の或る始原的形式を示してゐる動物もないことはないが、如何なる動物と雖も人間程の聲の微妙を得てゐるものはない。この能力のみが人類をして社會的に進歩せしめたのだとも考へられさうである。併し、進歩は種々な因の結合、就中脳の分化とこれに伴ふ睿智に負ふところが多いと云つた方が一層眞實に近い。^(註1)ともあれ、宣傳を分析するに讀者の助けとなるべき心理學は、顯著な人間の特徴、即ち社會的遺傳によく適合する心理學でなければならぬ。

併し、所謂動的心理學を編み出した學者達は一樣に、人間の行爲の背後に在るところの動機力が行爲の最も重要な心理學的形相であるといふ常識的見解を認めてゐる。この問題を最も簡單な形で言ひ表はせば、人は何故にかく行ふかである。近代文化が住み心地の悪い都心に居住する運命を荷はせた慘めな人は、自分の家又は隣人の家に火災が起つて、消防機關を呼び得る手段を彼是と捜すに至るまでは、火災報知器の存在に氣がつかないであらう。彼は日常、火災報知器の機能を知つてゐる。併し唯火災のみが、或は恐らくは酔つた紛れの出来心が、彼をしてこの器械を使用せしめる。

同様に「教養ある」男性は毎夕タキシードを着用することができる。けれども通常彼はもつと氣樂な衣服を着け、何等かの社交的な會合に出席する必要があるれば固苦しい服装はしない。又、一弗紙幣を有する者が、好むところに従つて、又は社會力の命ずるところに従つて、これを、又はその一部を費消することも亦同様に明瞭である。而も、一弗紙幣としては他にいくらかも使用の方法があるのである。

かくして、單なる知識はほんの潜在的行為を意味するに過ぎない。人が何を爲し得るかを知ることは、或る特定の瞬間に於て彼が何を爲すであらうかの保障にはならない。彼が現實にこの知識を用ひる以前に、彼はこれを用ひるべき刺戟を持たねばならない。この刺戟の性質を探究することが吾々の目下の問題である。素朴な人及び多くの哲學者は、この問題に對する解答を即座に與へる。即ち、人は「生きんとする意志」によつて動かされるが故に、變化する條件に適應して行く、と。彼が火災報知器を鳴らすのは住宅を保存する爲めであり、そして彼の住宅なるものは彼の幸福の要件である。儀式張つた服装を着用するのは彼の社會的地位を安固にする爲めであり、そしてその社會的地位は彼の幸福にとつて缺くべからざるものである。彼が一弗を費やすに當つては、彼自身を進歩させ、宇宙に於ける彼の地位を改善することを考へる。人の行為に關する斯やうな統一的な説明は人間の影しい行為を總て包容し得るが、この包容力は餘りに廣いが故に無意味である。稀な例外を除いては人の生きんとする意志は否定し得ぬことは事實である。併し、この目的を果す爲めに人が採り上げ、又は受取る手段は極めて種々雑多であるから、この手段に就いて特別な考察を行ふことが必要である。加之、行為者自身がこの目的を意識せぬこともある。人は手段的活動に没頭する結果として、彼が行つてゐること、彼の生きんとする意志との間の關係に就いての意識を全く失つて了ふことがある。又、ある場合には彼が衝動的に行爲することがあることも忘れてはならない。

心理學者は體系的に、藝術家は非體系的に、かうしたやり方で人を觀察することの不完全であることを覺つた。そこで彼等は「本能」及び「必要」の表を作成することを試みた。これ等が前章で觸れた「人間の自然性の定數」であると考へられた。併し、本能も必要も眞空な環境では機能發揮しない。反對に、それ等は、學者自身がよく知つてゐるやうに、個人を圍繞する條件によつて著しい相違を示すのである。例へば、總ての人が内面的及び外面的の刺戟の結果として空腹を感じ、渴を覺へ、性欲を昇進させられることは疑ひもなく事實である。併し、これ等の本能又は必要を満足させる爲めに、歐洲及び米國の住民の大多數は、或る原始人が行つたと云はれてゐるやうに、鵝の肝臓を喰べたり、殺したての豚の血を飲んだり、近親の者と同食したりすることは行はない。地上の所謂「文明化」された地方の人々は決してかうしたことは行はない。個人自身及び個人の屬する集團を繞る社會的環境が、必要及び本能を満足せしめる方向と方法を決定するからである。

繰り返して云ふが、筆者は活動に對する生來の刺戟の存在を否定する者ではない。寧ろ筆者の主張しようと欲することは宣傳の如き社會問題の分析は、個人を繞る社會的環境内に於ける個人の地位の故に或る一定の個人の中に存在するところの特殊な組織と一層緊密に關聯のあるやうな概念を要求する、といふことである。「定數」の探索は勿論賞揚すべき企てである。併し、かやうな悠揚なことをやつてゐる間にも、人々は生活を続け殆んど即時的解決を要求するやうな問題を創り出しつゝあるのである。

それ故に、人間といふものは大多數の情勢に對して遲疑逡巡の末適應して行くものではなく、彼等の適應は多くは、彼等自身の中に豫め存在する何等かの組織によつて決定される、といふことは、個人の體験から云つても、心理學實驗室の結果から云つても、證明し得る事實のやうに思はれる。或る與へられた瞬間に於て支配する特殊の組織が彼等の行

爲に影響を及ぼす。月明に氣をとられた戀人は火災報知器の存在に氣がつかない。何故かと云へば、先程論じた通り一片の「弗札」では到底追いつかないやうな入場料を支拂つて舞踏會に出席する爲めに、彼はタクシーに身を固めてゐるからである。彼は生きんと意欲する。然り。甚だしく。併し彼の生きんとする意志は、差當りは一の特定個人の方向に向けられてゐる。或は、彼は一般に承認されたやり方で性的衝動を満足させる爲めにさうしてゐるのだ、とも云ひ得るかも知れない。更に、この承認されたやり方なるものは社會的事象であり、生來的といふ味は殆んど含んでゐない——儀式的服装や入場料は腺分泌とは凡そ縁の遠いものであることは確實である。

二、態度

管々しい序説をこの位にして、今や、述べ來つたやうな種々な性質を満足せしむべき用語を提出すべき適當な時機である。

この條件を充たす用語が個人の中に豫め存在する構造組織に關聯あるものでなければならぬことは明瞭である。動機の淵源が考察されるときにも用ひ得る用語でなければならぬ。人々をして行爲に驅り立てる力として、専門外の者にも、心理學者にも、齊しく眞價を認められるものでなければならぬ。環境の異なるに従つて人間が蒙る數多の變化の總てを包容し得る程廣いものでなければならぬ。總ての行爲に平等に妥當することなく、人々の間に存する微妙な相違に對して便利な焦點を與へ得る程度には狭いものでなければならぬ。この用語が即ち態度 *attitude* である。

運轉概念としての態度は何人に對しても著しい困難を齎らすものであつてはならない。心理學者や社會學者が態度といふ語の種々な含義^(註4)を表現する爲めに、別の語を用ひたことはあつたとしても、兩者は共に、多年この語の便益を認め來たのである。加之、かやうな用語で態度といふ語を使用することは、英語としての通常の用法と抵觸しない。行爲

は生活に對する態度によつて決定される、といふことは、偉大な人物に就いても犯罪人に就いても榮しく云ひ得る。實業家は彼の共同者に對して或る取扱を行ひ、妻に對しては別の取扱をし、給仕に對しては更に他の取扱をする。これ等三人の者に對して別々な態度を持つからである。勞働者の生産する物は彼が彼の仕事に對して持つ態度によつて影響されると考へられてゐる。

態度といふ概念は、心理學者及び讀者をして「生きんとする意志」といふ概括的原理の殻を破り、個人の内にある動機といふ現實の淵源に突入することを可能ならしめる。人が生活せんとする意欲を續けてゐるのは、彼が彼の環境の内にある特定の人と又は物、或は彼自身、に對して好意的態度を持つからである。「生活」とは理解するには餘りに抽象的なものである。これに對して、生活を作り上げてゐる組成要素は意味を持つ。

又、假定された衝動や必要の存在を問題とする必要もない。或る與へられたる情勢は、總て個人がそれに對して何等かの文化的に決定されたやり方で反作用を行ふ原因となる。この反作用が嚴密に生來的な刺戟に因つて起ると考へるとは、外面的影響の總てを無視することを意味する。態度といふ語は確かに豊かな社會的含義を持ち、行爲は個人と彼の全環境との間の相互作用から動機力を抽出するところの刺戟の結果であるといふことを示唆する。同時に、人が刺戟によつて左右されるのは、人の内に在る或る生來的要素が満足を求めるからである、といふことも考へられる。人間が家庭に住まふのは種々な天候の條件から自身を保護する爲めであり、従つて彼等が保護に對して持つ生來の「必要」を満足させる爲めであることは眞理に當つてゐるかも知れない。併し、ベクン・ヒルの住人がヴァーノン山街所在の彼の相續財産たる褐色砂石建築物に對して持つてゐる特殊な、微妙、複雑な感情を、この建築物に對する彼の態度であるとし、それがこの建築物に關する彼の行爲に影響を與へるのだ、と考へる方が一層意義がある。これに反し、彼の地

理的位置又は十年毎に家屋を修繕する費用に就いての彼の誇りを遡つて、彼が母胎に在るときに受けた特殊の影響に歸せしめるが如きは、不合理であらう。

實に、態度といふ語は、個人の内面に豫め存在するところの、或る將來の行動に對する準備を説明する便利な方法である。諸君の隣人に對する態度は、隣人が諸君に對して話しかけるときに彼が受けるべき應待に影響する。彼の挨拶を返す以前に諸君は彼を如何に取扱はふとしてゐるかを知つてゐる。かうした態度は特殊の態度と呼ばれた。^(註5)それ以外に、諸君は、諸君の隣人に何等かの點で似てゐる人々に對する、より廣い態度を持つてゐる。その點は、人種でも、顔色でも、教育的背景でも、庭作りの趣味でもよい。この種の態度は一般の態度と呼ばれる。^(註6)一般の態度は極めて一般的でもあり得る。生活に對する態度でもよいのであつて、この場合には、同一個人の内面に在る他のより特殊な態度に對して深く影響を及ぼす。

態度は個人の活動と極めて緊密な關係を有するものであるから、多くの態度は何等かの感情的要素を持つと考へるとは自然である。或る個人に於て、或る感動が起つた場合には、脈搏が増すと、瞳孔が擴大すると、アドレニンと呼ばれるホルモンの分泌が起るとか、肝臓に於ける糖分の遊離が起るとか云つたやうに、何等かの有機的變化が起る。これ等の附隨的な有機的變化は、試験者に對して感動に對する洞察を得しめる助けにはなるが、個人の意識又は行爲の中に起りつゝあることを正確に指示し得るものではない。^(註7)内省的には、感動をそれ自體、換言すれば、上述の有機的變化といふ點から見た感動は、個人の内面に緊張感を作り出すことは明らかであるかの如くである。彼は動かされ、そして彼の感情の状態を認識することもあるし、せぬこともある。併し、かやうな感動は多分は科學的抽象であり、然らずともその起ることは稀である。事柄の連る正常の経路は次の如きものであらう。即ち、個人は緊張感を覺へる。併し、そ

れと同時に彼は、彼が彼の外部的環境に於ける或る物又は人に向つて牽きつけられてゐるのだといふことを知つてゐる。「戀愛」といふ茫漠たる感情に浸るといふことは、凡そ普通でない。寧ろ感情は特定人には旗の如き象徴を含むやうに見へる。別の、より直接な言葉で云へば、感動は個人をして種々ある方向の中の一に趨かしめるところの態度によつて表現される。感動と態度と孰れが先に現はれるかといふ問題は考察する必要はない。何となれば兩者が同時に起ることがあるからである。愛する者に對する態度の發生を、これに對應する感動なしに考へることは困難である。そしてこの道も亦眞である。

繰り返して云へば、宣傳する者が影響を及ぼさうとしてゐる個人は、生きてゐる人間である。これ等の個人が彼等の正常の、又は、變態的な存在の活動を行ひつゝあるときには、彼等は文字通り運動しつゝある。即ち、彼等の或る部分が與へられたる目的を達成する爲めに動きつゝある。この目的が達成された後には瞬間的には、彼等は平衡状態に在る。換言すれば、平和を發見する。併し、この平衡状態は、有機的並びに無機的世界の性質上、永遠に續き得るものではない。そして、次の瞬間には、人々は一般に、何か他の活動を行ふやうにさせられるものである。要するに、生活は一列の緊張から成り、その緊張の或るものが解消して、その後から未解決の緊張が附加はる、といふやうなことが繰り返されるのである。

而も、この緊張は個人自體によつて感じられる緊張である。その特殊の目印は、その性質が餘りに普遍的であるから論述に價しない程である。若し、態度が人間の動機の淵源として認められるならば、態度の喚起が個人の中に或る緊張を惹き起すことは論理的にも、心理的にも當然である。

或る特定の態度から惹き起される緊張の力は必ずしも恒常的ではない。それは有機體の状態、換言すれば、その時の

生理的狀態及びそれと同時に喚起される他の態度によつて左右される。牛肉の一片は、人が牛肉を好むと好まざるとに拘はらず、何等かの態度を喚起する。人が牛肉を好んでも、彼が今食事を終へたばかりであるならば、この肉を食べようといふ緊張は輕微である。空腹であつても、例へば一流の探偵小説と云つたやうな他のことに没頭してゐる場合にはこの文學的著作に對する態度の方が強いであらうから、緊張は矢張り微弱であらう。

態度とこれに伴ふ緊張とが喚起された場合には次の三つのことの孰れか起る。緊張が適宜な行爲によつて解かれるか、態度が他の態度と統合されるか、或は態度が抑壓されるか、が是である。態度が抑壓される場合には、それは有機體をして或る物又は人に對して反作用を起すやうな素質を持たしめるやうなことは續けるが、他の變化が起るまでは多少ともに潜在的となる。政治家は上院に對して甚だ特殊な態度を持つ。彼は上院議員たらんことを欲する。この態度から生ずる緊張は彼をして夜の日も眠らせない。彼は、彼が議事堂の建物の右の翼で處女演説を行つたとき、如何なる新聞のセンセーションが起るかを想像する。若し彼がこの公職に選舉されることに成功するならば、この態度の緊張は六年間の任期が終了するまでは、かなり緩和されるであらう。又、かうした政治運動を自ら行ふだけの金銭を持たないことが判然することもあり得る。この場合、彼は彼の選舉區に於ける政黨の領袖になることによつて氣休めを感じるであらう。即ち、かやうにして、彼はアメリカの政治制度に關する彼の知識と、之に對する彼の態度とにより、彼の上院に對する態度を統合しつゝあるのであり、そしてその結果として起る態度はより地味な地位に向けられる。又、ある場合には、このことを忘れようと思ふか決心して、癡に入ることもある。若し彼がこの態度を抑壓するに成功したときには、彼はその経過がさうさせたものと思ふかも知れない。併し、若し抑壓の手續が部分的にしか成功しなかつたときには、例へば、彼は上院議員となることの榮光の夢を見續けたり、彼の家族の者に對して、彼が彼等を彼の忘れられたる野心の無

實の犠牲者としてゐるといふことに氣が付かないで、一層冷感な態度を採つたりする。

又、態度は、特別な刺戟を與へさへすれば個人の中に器械的に喚起され得る便利な能力である、と考へてもならない。同一の刺戟もその道具立が二通りあるから、それに應じて異なる態度を喚起する。例へば、或る研究家は、極めて科學的^(註8)なやり方で、學校制度がまだ打ち建てられぬ迄か以前から知られてゐる事實を證明した。彼は、同一の個人が「制度的」道具立に於て或る物に對して持つ態度と、同じ物に對して「私的」道具立に於て彼が持つ態度との間には、相違があることを證明したのである。教會に通ふ人間として賭博に關する意見を尋ねられたときには、不快さうに頭を振るかも知れないが、自分の家で私的に會見してゐる場合には、賭博を肯定する意見を吐きかねないのである。

最後に、態度の概念は、これと混同される恐れのある他の概念と區別せねばならない。情緒は「唯一の形成であり、心の全機構の構成的、機能的單位である。情緒の唯一であることはその對象の唯一であることに對應する」と説かれた。^(註9)この定義は個人とその環境内の特定の對象との間の恒常的關係を想定するものであり、情緒の緊張とこれに續いて行はれる行爲とが變化することを問題としない。然るに、これ等の變化は主たる關係を變更せず、それ故にこの關係は特殊の態度と呼ばれて差支へない。かくして情緒とは態度の或る特殊な場合に他ならない。同様に精神分析學者によつて通俗化された複合といふ語も亦、強い緊張を伴つて個人に「無意識裡に」影響するところの二つの態度と見ることができ。この特殊な語は避けた方が賢明である。

何故かと云へば、この語は明確な性的含蓄を持つやうになり、弱い緊張を伴ふ態度はその中には含まれないからである。人の行爲の多くは「無意識的なもの」によつて決定される。といふ論旨は精神分析學者によつて餘りにも一般化されて了つたから、態度の概念は過度に主智論的にはなり得ない。事實、比較的一般的な態度の多くはそれを持つ個人

によつて明瞭に形成されておはしないのである。何となれば態度を持つ者自身が、彼の行爲を決定するものとしての態度の意義を知らないからである。

意見とは表現せられたる態度である。それは表現せられたと想像される態度に合致することもあるし、せぬこともある。乙に對して面白からぬ態度を現に持つ甲が、丙に、乙に關する意見を陳べること求められた。甲は乙が信頼すべき、善良な、従順な人間であると答へた。この答は甲の乙に對する眞實の態度を全く誤解せしめ易い答である。それ故に、この意見は甲の乙に對する現實の態度の作用に基づくのみならず、甲の丙に對する態度の作用にも基づくものである。甲は丙に對して何等かの特殊的態度を持ち、それが甲をして、彼が眞實に乙に關して考へてゐることを語らしめなかつたのである。若し甲が丁に對して別の態度を待つならば、彼の乙に關する説述は、彼の乙に對する行爲を現實に動機づけるところの態度と合致するものであるかも知れぬ。

三、ステロタイプ版

ウォルター・リップマン氏は、確かにプラトンの言を借りて、人はこの複雑なる世界に於て、實在の正確な描寫を行ひ得ぬことを指摘した。^(註10)それ故に人は自分の好み、自分の行爲に影響を與へる世界を描く。人々を圍繞する現實の諸條件は、これ等の條件に對して彼等の有する概念ほど重要ではない。リップマン氏はこの現象を説明する爲めにステロタイプといふ語を用ひた。著者の觀點よりすればステロタイプは、人々が自ら持つと想像してゐるところの知識を意味するものでなければならぬ。心理學的には心像、暗々裡の反動、又は漠然たる感情の形をとるであらう。更に、ステロタイプが重要性を持つのは、それが個人を驅つて彼是の方向に指向するとき、換言すれば、偽似知識が一つの態度を生み出すときに於てのみである。社会心理學者は、エスキモーの行爲に關する諸君の「精神的繪畫」に別段の關心を持たない。

併し、この繪畫を基礎として諸君が民族としてのエスキモーに對して一つの態度を持ち初め、そしてその態度が、諸君が偶然遭遇する傍へるエスキモーに對する諸君の態度、又は、合衆國のアラスカ政策に對する諸君の態度に影響を及ぼし初めた場合には、この繪畫は社会心理學者にとつても重要な意義を持つことになるのである。加之「ステロタイプ」といふ語は、主觀的知識はそれ自體としては無に等しく、その妥當性は社會的實在の傍にそれを置くことによつて吟味されねばならぬといふことを暗々裡に主張する意味を持つてゐるから、人間の知識の社會的内容を極めて明確に指摘する性質を有する。

多くの態度が形成されるのは、ステロタイプの基礎の上に於てである。黒人に對して面白からぬ態度を持つ一人の青年を考察するとする。かゝる態度は何等かのやり方で彼が持つやうになつたところの、黒人種に對する概念から抽き出されたものである。特定の黒人に遇つたときの不愉快な個人的經驗から起つたかも知れない。黒人種との數々の遭遇に於てこの種の個人的、第二義的經驗が繰り返されたかも知れない。黒人を見たことがあるのみならず、黒人に關して書かれたものを讀んだこともあるであらう。最初には凡ゆる外國人に對して不氣味な感じを持ち、それが結局黒人に集中されたのかも知れない。或は、両親、教師、友人等から黒人に關する正しい、又は正しからざる知識を得た場合もあるであらう。これ等の場合を通じて、ステロタイプは或る刺戟を受けるといふ過程によつて獲得せられ、その兒童の内なる他の種々な態度の結果として保持される。成人して彼はステロタイプを部分的に忘れて了ひ、何故に彼がかやうな偏見を持つかを想起するに困難を感じることもあらう。併し、態度は依然として低徊し、後にも、彼を刺戟して當初のステロタイプの殘存物を強めるやうにせしめるであらう。

筆者の川ひる態度の概念は決して言辭上の魔術ではない。個人が或る特殊のやり方で行爲するのは彼の内に喚起された態度の結果であると述べることは、彼の行爲の分析を意味するのは、「態度」といふ語の心理學的な包攝力が完全に

理解された時を待つて初めてある。社会現象の心理學的含蓄が評價されねばならぬとすれば、行爲を「態度」よりもより「始原的」な心理學的又は生理學的水準に還元せしめることは、餘りに煩瑣であり、恐らくは不可能であらう。態度」が行爲の唯一の説明にあらざることは否定できない。何となれば、個人の態度は行爲と同様に種々雑多であり得るからである。従つて、行爲自体が單純でもなければ、統一されてもゐないが故に、一群の態度も亦、單純でも、完全に統一されたものでもなし。このことは、個人が持つ態度が多數であるから、彼の行爲は餘りに不規則で理解し得ないといふことを主張しようといふのではない。何故かと云へば、態度と行爲とは共に全體に統合されて茲に「人格」が構成され、この人格を通じて彼は何等かの秩序的總體を形作るからである。

- 註 1. G. Spiller, *The Origin and Nature of Man*, London, 1921; George H. Mead, *Mind, Self and Society*, Chicago, 1934. 參照。
- 註 2. 例へば William McDougall, *An Introduction to Social Psychology*, pp. 32—44, London, 1908. 參照。
- 註 3. 由緒ある心理學の歴史に於て、所謂ウォルソップル派は、意識位置 (Orth) 又は決定的傾向 (Act) 等の重要性を證明する爲めに實驗を行った。その要點を敘述した便利な著述としては Edwin G. Borng, *A History of Experimental Psychology*, pp. 393—402, New York, 1929. がよい。
- 註 4. Gordon W. Allport, "Attitudes" in Carl Murchison (ed.), *A Handbook of Social Psychology*, pp. 799—801, Worcester, 1935.
- 註 5. Harley Cartiri, "General and Specific Attitudes," *Psychol. Monog.*, 1932, v. 42 no. 192.
- 註 6. Cartiri, loc. cit.
- 註 7. Carney Landis, "The Expression of Emotion," in Carl Murchison (ed.), *A Handbook of General Experimental Psychology*, pp. 327—338, Worcester, 1934.
- 註 8. Robert L. Selank, "A Study of a Community and Its Groups and Institutions Conceived of as Behavior of Individuals,"

- Psychol. Monog.*, 1932, v. 43, no. 135.
- 註 9. William McDougall, *The Energies of Man*, p. 297, London, 1932.
- 註 10. Walter Lippmann, *Public Opinion*, New York, 1932; Hans Vaihinger, *The Philosophy of "As If"*, London & New York, 1924. 參照。

第四章 人格と社會

一、態度の組織

宣傳を行ふ者が目標とする個人が、態度によつて動かされることは前に述べた如くである。併し、これ等の態度は、同時に、混沌たる寄せ集めではない。寧ろ、それ等は互に關聯を持ち、互に補充する。宣傳者が人々の態度を變化させようとするときには、彼が働きかける對象は支離滅裂した實在ではなく、別々の態度の堆積より以上のものと考へねばならぬところの、生きてゐる人間である。如何にして態度が組織化されるかは、人格の問題の重要な一面である。

先づ第一に、人格に於ける或る態度が他の態度よりも重要であることは明らかである。中世の極めて宗教的な、熱狂的僧侶は、教會並びにその教説に對して、概して好意的な態度を持つてゐた。殆んど總ての物や人は、最初には何等かの別の態度、例へば同僚たる僧侶に對する態度、受胎告知に對する態度、聖アグネスに對する態度等を喚起するかも知れないが、同時に總てを包容する態度として教會に對する態度が喚起され、それが文字通り總ての他の態度を色づけ、かくして或る程度これ等の態度の内容を限定する。恰かも鐵屑(他の種々な態度)が撒き散らされ、磁石(教會に對する態度)がそれ等を統一的に整理するが如きである。かやうな態度は中心的態度とも呼ばるべきものである。何故かと云へ

ば、それは個人の人格の比較的、持続的、調和的なる様相を示すものであり、且、他の諸々の態度が集つて總體を作る場合にその中心となるからである。加之、大多数の中心的態度は、「より特殊なる態度に對して動的、又は指導的、又は少なくとも限界的影响として役立つ」ところの一般的态度である。併し情緒は殆んど常に中心的態度であるに拘はらず、正確に分類するときには特殊的态度に屬する。勿論、通常の個人には、例へば社會關係に對する態度、商業界に對する態度、宗教に對する態度、娯樂に對する態度と云つたやうに、種々な中心的態度があることを常とする。これ等の中心的態度は相互に關聯を持ち、互の關係に於ては、夫々他のものに對してより多く中心的であるか、より少なく中心的であるかの孰れかであると考へられねばならぬ。

更に、人格のより高尚な統合に密接な關係を持たないところの非中心的態度もある。これ等の態度の機能は P. H. アルボート教授の用語、即ち斷節的態度 (disjunctive attitude) を借用して來ると明らかになれる。それは要するに、人格の一断面のみを指示する態度の謂である。アルボート教授が指摘したことであるが、例へば、平均のアメリカ市民の中心的態度は比較的個人的な制度の方に向けられてゐるが、聯邦政府に對しては斷節的態度を持つ。政府と接觸するのは彼の人格の單に一部分のみであり、従つて彼の政府に對する反作用はこの斷節的態度に基づくものであつて、彼の人格の中心的様相に基づくものではない。かゝる斷節的態度は一般的でも、特殊のでもあり得る。一般的である場合には、キントリル博士が指摘するやうに、それは他の斷節的、特殊的態度に對して「指導的影響」を持ち、而も、人格總體に對する關係に於ては中心的ではない。これに對して特殊の場合には、特殊な物又は人に關するものであり、マクドガル教授に分類させれば恐らくは情緒とするであらう。

以上の説述に於ては、人格は長期間の觀點から論ぜられた。即ち、或る期間を通じて行爲を支配する種々な重要性を有する態度を列擧、分類したのである。ところが、宣傳を行ふ者は屢々、彼が或る與へられたる瞬間に於てこの人格の

恒常的組織の或る部分を支配し得るといふ限りに於てのみ、之に對して關心を持つことがある。それ故に、人格の瞬間的狀態を觀察する必要がある。

緊張しつゝある態度を支配的態度と呼ぶことができる。この活動的態度は意識の中心に存しないこともあり得る。事實、前章に於て觸れたやうに、人間の行爲の少なからざる部分が無意識の源泉から動機を與へられる。かやうな支配的態度は、例へば人が自分の家族と對話してゐる場合のやうに、中心的態度であることもあるし、或は、例へば投票場に出頭して地方検事立候補者の姓名の次にある挺を引くときのやうに、斷節的態度であることもある。正常の状態としては、長い時間の間には、支配的態度は同時に中心的態度であると云へる。何となれば、中心的態度は動機の重要な源泉として能動的に働くことが屢々あるからである。支配的にあらざる他の態度は潜在的態度 latent attitude と呼ぶことができる。

概して、各人の内には態度の相互作用がある——人間の動的性質を態度といふ言葉で表現すればかういふことになる。この相互作用の行はれる場所を心界 mental field としよ。併し、「心界」の概念は物理學者の所謂「力場」 field of forces と同様に用ひたのではない。この語を特に選んだ理由は、それが意識と行爲との心理學的實在を最も精確に、且、最も簡潔に説明するやうに思はれるからである。心界は或る與へられたる瞬間に於て支配的な意識的並びに無意識的態度を兩つながら含む。これ等の態度の間に入りつゝある相互作用は、又、態度及びそれに従つて生ずる緊張を喚起することによつて心界の不衡状態を擾亂した感覺的印象又は心像の形に於ける認識資料によつて左右される。平衡が次の三つの態様の何れかに於て恢復されることは既に述べた。即ち、喚起された態度が行爲に移されるか、抑壓されるか、或は支配的態度の又は支配的態度及び認識資料の新たな統合が起るか、が是である。行爲に移される場合には支配的態度

度の緊張が減じ、潜在的態度となる。態度が抑壓された場合には、潜在的になることもあるし、又は、若しその態度が心界に對して緊張を與へ續けるときは、支配的態度として、存続するがそれは無意識的なものとなる。新たな統合が生ずる場合には、それが行爲に移されるか又は更に他の態度に統合されるまでは支配的であり、或は潜在的になることもある。

「統合」: "integration" といふ語は稍々形而上學的な響きがある。その點を慮つて、筆者が茲で用ひてゐる意味は、ロイド・モーガンの言語に於ける「出現するもの」: "emergence" であり、諸々の力の相互作用と結合とによつて生れるものである。^(註5) 曹達と鹽素とが適當な割合に、適當な條件に於て結合されると、組織要素には發見せられぬやうな固有の性質を有する鹽が、相互作用によつて「出現」する。個人が單獨では運搬できぬ材木も、二人の個人が力を合はせると運搬出来るやうになる。社會的「加生産」: "plus product" ^(註6) が「出現した」のである。マルクスの言葉によれば、對立する二つの階級が優越を競ひ、そして革命からして別個の社會が「出現する」。それ故に心界に於ける「統合」は、豫め存在する諸々の態度及び、恐らくは、認識資料の相互作用と結合とによつて齎されること、新たに出現する態度を意味する。かゝる統合は新たな態度を意味する。何故かと云へば、それは他の種々な態度を基礎とするものではあるが、個人を、従前の何れの方向とも異なる方向に指向するからである。

態度の統合が起る場合には、統合の基礎を成したか或はその一部となつたところの既存の諸態度は關係的態度 "relative attitudes" と呼ばれる。又、既存の支配的態度が、統合に影響を與へはするが、それ自身統合せられない場合に、それを補助的態度 "auxiliary attitudes" と呼ぶ。關係的態度と補助的態度との間の區別を明らかにする爲めには、認識的比喻が役に立つ。但しそれが畢竟するに比喩であることに豫め注意すべきである。即ち、二つの點と三つの直線とがある(支配

配的態度)。三つの直線(關係的態度)を以て一つの三角形(出現する統合)を作る。この新たに生れたる三角形に於て二つの點(補助的態度)は用ひられてゐない。けれども、三角形を作圖するに當つて二點の位置が作圖者に刺戟を與へたことはあり得る。統合に「關係ある」態度は統合に對して何等必然的、論理的結合を持たない。それが關係的であるのは純粹なる心理學的理山に基づくのである。不偏な客觀的觀察者にとつては何の「論理的關係」もないやうに見へるところの態度の間に關係を見出すことは、明瞭な人間の倒錯性であるやうに考へられる。感情決定の行爲主義的理論が主張するに相違ないやうに、^(註7) 二つの態度を喚起する刺戟が接續しておればこれ等二つの態度の間には關係がある、とすることは正しくない。關係を認めるが爲めには個人は然るべき動機を與へられねばならない。^(註8) 有機體の持つこの組織的能力の結果として、逆に、二つの關係的態度を喚起する刺戟は必ずしも接續的であることを要せぬ、といふことが云へる。例へば、一つの刺戟が一つの態度を喚起し、この支配的態度が一つの中心的態度に統合され、而して、この中心的態度の刺戟は單に漠然たる過去に存した、といふことがあり得る。同様に、補助的態度は、統合と論理的な關係に立つか若しくはその刺戟が接續的であるかにより「關係的」であらねばならぬかと思はれるかも知れない。併し、この場合にも、これ等の補助的態度を無關係的に、補助的なものとして平然たるのが有機體である。

併し、補助的態度は、統合の一部となることなくして、觸媒的に統合に影響を與へることがある。例へば、一の補助的態度の喚起が他の態度が支配的となることを妨げることがある。若しこれ等の他の態度が喚起されたとしたら、換言すれば、若しこの補助的態度が他の種々な態度の喚起を妨げるだけの力がなかつたならば、統合は起らなかつたであらう。^(註9) 或は、補助的態度の喚起が個人を一人の人又は物の方に指向し、その結果として、統合を出現せしめる關係的態度が支配的になることもあり得る。

心界に起る新たな統合の安定の程度は種々ある。若しそれが單に一時的のものであれば、換言すれば若しそれが忽ちにして行爲又は更に別の統合を齎らすものであれば、この統合は即時統合 immediate integration と呼び得る。併し若しそれが或る期間を通じて、潜在的な、そして時には支配的な態度として持続されれば、この統合は長期統合 long time integration と呼ばれる。

(一) これ等の態度の術語はさほど複雑ではない。圖表的に示せば大體次の如きものである。

A 一般的態度即ち種々な事情に於て行爲を規整し、個人内の他の態度を統制する態度
B 特殊の態度即ち特殊な事情に於て行爲を規律する態度

中心的態度即ち個人の行爲の比較的持続的恒常的な様相を規律する態度
A 斷節的態度即ち個人の行爲の單に一小斷節のみを規律する態度

(二) 或る與へられたる瞬間に於て人格の活動は次のやうにして示される。

A 支配的の態度即ち心界に緊張を與へつゝある態度
B 潜在的態度即ち心界に緊張を與へつゝあらざる態度
補助的の態度即ち心界に影響を與へはするが心界に出現する

なる態度

新統合の一部分とはならざる態度

用語の簡単な假説的例示として、ソヴィエト・ロシアに關する書物を読みつゝある一米國人を考へて見る。彼の中心的態度は彼の妻と彼の仕事の方に向けられてゐる。前者は一般的態度であり、後者は恐らく特殊の態度であらう。彼が讀書をしてゐる間はこれ等の態度は潜在的である。その代りに、彼の人格に對する關係に於ては斷節的態度であるところの、ロシアに對する幾分か敵意を含んだ既存の態度が支配的のものとなつてゐる。讀み來つてその書物の著者が、ソヴィエトがアメリカ風の利益の動機に代りに採用した刺戟を描寫するくだりに到る。忽ちにして彼の内には、ロシアに對する一般的、斷節的の他に、種々な既存の態度が喚起される。即ち刺戟としての利益に對する態度、彼自身が仕事に於て獲得しつゝある利益に對する態度、生活に於ける金錢の役割に對する態度、収入の調節に對する態度等が喚起される。彼の心界の平衡が破れ、その結果として既存の、支配的の緊張が今や解かれねばならない。心界には新たな統合が起りロシア及びロシアに適用せられたるロシアの制度に對する幾分か好意的な態度が生ずる。統合はロシアに關する、刺戟としての利益に對する、及び収入の調節に對する彼の以前の態度を基礎として行はれる。これ等の態度は今や關係的の態度と見ることが出来る。喚起された他の二つの態度即ち生活に於ける金錢の役割に對する態度と彼自身が仕事に於て獲得する利益に對する態度とは新たな統合の一部分とはならなかつた。それ故に、これ等の態度は單なる補助的の態度であり、瞬間的に抑壓されて了つたものである。併し、この抑壓は新たな統合を不安定なものとする。何故かと云へば、次の章に於てこのアメリカ人はロシア人のその他の種々な實行を發見し、それによつてこれ等の抑壓された態度が再び支配的となり、彼の内に他の敵意的態度をも喚起するからである。その結果として、彼は再びロシア全體に對して面白からぬ氣持を抱くに至る。一言にして云へば統合は忽ちにして舊態度に再び統合されたからして、その統合

は單に即時的なものであつたのである。

二、社會的價値

心理學者と社會學者とは共に、例へば、保護關稅、變化する性道德、通俗的英雄としてのジョージ・ワシントン^(註10)の地位と云つたやうな種々な環境的地位を選び出し、それが人々の集團に於て種々な態度を喚起する刺激であると説く。かくして喚起された態度は統計的、圖表的な形で呈示される。この技巧は「態度測定」の論證として喝采を以て迎へられ、その潜在的効用は多くの分野に於て、「測定」を行つた心理學者、社會學者の最早疑問とせぬ域に達してゐる。これ等の實驗の多くの示すところによれば、態度は高さや重さと同様に「正常的」に分配される。換言すれば、秤の極端に置かれてゐる態度を有する人は稀であり、多くの人は「程のよき」位置に支持を與へることに互に同意する。

より最近には、他の研究家達は^(註11)、鞏固に組織された制度は或る程度統一的なやり方で人々の態度に影響を及ぼすことを證明した。例へば、既成宗教を信する人々は神、不滅、聖餐等に對して同様の態度を持つ傾向がある。假に彼等が相拮抗する多數の社會力に服したとすれば、彼等の態度の間に生じたであらうところの種々な相違は、教會によつてアイロ^(註12)ンをかけて戻されて了つたのである。かゝる「制度的態度」は「正常的に」は分配されない。寧ろこれ等の態度は「J曲線」を描く。即ち、測定されつゝある態度は或る一極端に集束する傾向があるのである。

人格と人格を巻き込む社會との間の關係といふ觀點よりすれば、これ等の量的の結果は、驚くべく新鮮ではないが、重要な意義はある。「正常な」分配が行はれる場合には、この事實は、社會的地位に對する個人の態度は一極端から他の極端にまで相違はあるが、かやうな相違をあまり混沌たる感じのないやうにするところの、少なくとも統計的統一性は存するのである。各人はその好むところに従つて不滅又は大海軍力に對して感ずるが、これ等のことに對する大多數の

人々の態度の範圍と頻度とは確かめ得る。併し、宣傳家の如き者にとつてより一層重要なことはこれ等の大きな個人的相違ではなく、J型分配によつて暗示されるところの、態度の集束である。

何故かと云へば、各アメリカ人は他の總てのアメリカ人と何等かの點に於て異なつてゐることは事實であるが、全體としてのアメリカ人がアフリカのウガンダと異なることも亦同様に事實だからである。人間の大集團に存在、固着する數多の統一の態度がある。そして社會心理學者が取扱はねばならぬのはこれ等の統一性である。統一性が現はれるのは、社會的環境に於ける制度がそれを存在せしめるやうに強制するからである。兒童は何等かの型に強制され、成年者の態度は或る程度輿論の機關によつて牽制される。或は、別の言葉を以て云ふれば、人々をして似たものにするものは宣傳である。

或る與へられたる社會内の種々な制度から發せられる宣傳は、個人の集團の態度の大部分を決定する。人民の特徵的中心的態度は容易に特殊な社會機構に廻ることが出来る。ギリシヤの奴隸民主制、ローマ帝國の基礎、中世の封建制度、初期資本主義に於てブルジョアに與へられた安逸、現在の制度に於ける競争的精神、これ等の文化の各々は夫々異なる人間の型を生み出した。ギリシヤ人が總て哲學者であつた譯ではなく、ローマ人が總て權力を欲した譯ではない。十一世紀のヨーロッパ人が總て騎士か貴族でもなければ、エリザベス朝の人が總て紳士でもなく、アメリカ人が總て實業家でもない。併し、多くのギリシヤ人、ローマ人、ヨーロッパ人、エリザベス朝時代の人々、アメリカ人は如上の傾向を持つてゐたのである。或る與へられたる時代に於て求められたる理想的の型を知ること、軌直しや將軍の動機づけに關する確實な手懸りにならないが、その時代の多數の人々の主義を示すに足る。諸君の關心を捉へる人格は特殊的、無比、個性的、時には難解でさへもある。併し、彼の同時代の人々の人格は集團としては彼等がよつて以て宣傳の強い

樂を利かされた環境を瞥見することによつて捉へることができ。

加之、社會的環境は人々の集團の斷節的態度を啓示することもある。多くのアメリカ人は實業に對する中心的態度を持つてはゐるが、アメリカ人の總てがそれを持つてゐる譯ではない。併し、大多數のアメリカ人はかゝる態度によつて何等かの影響を被つてゐる。所謂制度的態度の多くがこの斷節的態度の範疇に入るといふことは、恐らくは事實であらう。

人々の集團が有するこれ等の統一的態度は外部的環境に於ける物又は人によつて喚起される。かゝる物又は人が人々の上に及ぼす力は兒童に於て最も明瞭に看取される。例へば、カート・レヴィン教授は、玩具と菓子と云つたやうな二つの欲しい物の間に置かれた子供が、どちらかに決定する前に、文字通り一方に引きつけられたり他方に引張られたりし、現實に身體まで動かす、といふことを説いてゐる。物又は人のかやうな力に對してレヴィンは「原子價」"valence"といふ名稱を與へてゐる。併し、物又は人が原子價をそれ自身を持つてゐる譯ではない。物又は人が、原子價に對應する態度を有する兒童又は成人を牽引するのである。林檎を好まぬ兒童は林檎に牽きつけられることなく、従つて林檎は彼にとつては原子價を持たない。又、或る玩具の原子價は、兒童がこれを弄んだ後には、換言すれば、玩具に對する態度の緊張が行動によつて弛緩した後には、かなり減少するであらう。

不幸にして「原子價」"valence"といふ語は餘りに多くの附加の意味を持ち過ぎてゐる。この語は化學者のものであつた。それ故に、心理學者が又しても、自然科学の遺り口を模倣してゐるかの感じを與へる。レヴィンはこの語を専ら實驗室内の用語として用ひた。そして、この語は素人や社會學者の耳には熟してゐない。加之、本來は哲學者の用語ではあるが、原子價と同様に用ひられる他の用語がある。社會的價値 "social value" が是である。かくして、社會的價

値は、人々の集團に存する諸々の態度の客觀的並行體である。

「社會的價値」とは、吾々の理解するところに従へば、或る社會的集團の組成員の接近し得る經驗的内容と、それに對してはそれが行動の對象であり、若しくはあり得るが如き意味とを有する或る資料である。……態度とは、吾々の理解するところに従へば、社會に於て個人の現實の、若しくは可能なる行動を決定する個人的意識の過程である。……かくして、態度は社會的價値の個人的複本であり、行動は、その如何なる形に於てするを問はず、兩者の間の紐帶である」(註13)

人々の集團に於て統一的態度を生み出す物又は人は、これ等の人々に對しては社會的價値である。愛國的アメリカ人とつては、合衆國憲法は、一般的若しくは特殊的爱國的態度を皆て發生せしめ、そして現在喚起するところの社會的價値である。共產主義にとつては、この同じ憲法が別種の社會的價値であり、却つて反抗的態度を喚起する。西洋人とつては黒色は一の社會的價値であり、東洋人とつては別の社會的價値である。同時に、態度を發生せしめ若しくは喚起するところの物又は人が社會的價値を有するのは、それがこの態度を人々の集團の中に於て發生若しくは喚起せしめる場合に限るのである。諸君の友人は諸君の中に若干数の態度を喚起せしめる。それ故に彼は諸君にとつて個人的價値を有する。併し、彼が傑出した人物であつて多くの人々に於て同様の態度を喚起せぬ限り、彼は社會的價値を有するとは云ひ得ない。

加之、社會的價値はそれが喚起する態度の型に應じて二種類に區別され得る。或る態度は個人を物又は人に向つて牽きつけるやうに見へるに對し、他の態度はその反對の反作用を齎らす傾向がある。概して云へば、人々は映畫のスクリーンを見る爲めに群り集るが、武器を持つたギンダから逃避しようとする。これ等の態度に對應する社會的價値は積極的



及び消極的と叫び得る。前段の例に當て換めて云へば、憲法は愛國のアメリカ人には積極的社會的價值を有し、共產主義者には消極的社會的價值を有すると云ふことができる。更に又、社會的價值の徴候は時を異にするに従つて異なる。餘り度々繰り返しては不都合なことであるが、如何なる種類のものにせよ、反逆者といふものは生存中には消極的社會的價值を有するやうに見えるが、死後はより積極的な社會的價值を持つことが往々にして見られる。

社會科學者その他の者は、得て多くの社會的刺戟は單なる物理的刺戟として反應を呈することなく「象徴」^(註1)として反應を呈する、といふことを指摘して悦に入つてゐる。ニュージーランドの人達は、一皿の焼豆は彼等にとつては食物以上のものであると考へる。それは、地方的な料理の傳統を「象徴する」のである。法曹界の人が「法律」といふ語を耳にするときには、彼は必ずしも法廷、法律書、法律學校、訴訟手續、政治、普通法、實體法、衡平等と云つたやうな、彼の職業の特殊な組成部分を念頭に浮べはしない。「法律」はこれ等具體的な事象を超越し、單に偶々これ等の中に「表現」されることの漠然として神秘的な或るもの「象徴」である。これ等の事例に於ける「象徴」は、態度、社會的價值及びステロ版の結合の如きものである。個人の大半團が豆又は法律に關してステロ版を持ち、豆や法律は他の社會力と協力して、或る程度の統一の態度を誘導し、それが豆の場合には特殊的で、法律の場合には一般的なのである。この態度の統一性の結果として、二つの事態は積極的社會的價值を有する。象徴としての豆は少なくとも食物を稍々實質的な出發點とし、現實のニュージーランドの慣習を存在する實在とする。これに對し、神秘的象徴としての法律は、社會的條件により、實際上は重大な結果を齎すところの、漠然としてはゐるが豊富な含蓄を獲得した一つの言葉以上の何物でもないやうな觀を呈する。

註1. Hadley Cantril, "General and Specific Attitudes" Psychol. Monog., 1932, v. 42, no. 192, p. 107.
註2. Floyd H. Allport, "Psychology in Relation to Social and Political Problems" in Paul S. Achilles (ed.), Psychology at

Work, pp. 200 ff., New York, 1932.

註3. Floyd H. Allport, Institutional Behavior, pp. 65 ff., Chapel Hill, 1933.

註4. 二八頁參照。

註5. O. Lloyd Morgan, Emergent Evolution, pp. 2-3, New York, 1923.

註6. Robert Woodworth, Dynamic Psychology, pp. 195 ff., New York, 1924.

註7. 一一一—一二〇頁參照。

註8. F. C. Bartlett, Remembering, p. 307, Cambridge (England), 1932.

註9. 補助的、從屬的態度は宣傳に於ては重要な要素、一一七—一二九頁參照。

註10. 例へば L. L. Thurstone & E. J. Oare, The Measurement of Attitude, Chicago, 1929; Daniel Katz & Floyd H. Allport, Students' Attitudes, Syracuse, 1931.

註11. Floyd H. Allport, "The J-Curve Hypothesis of Conforming Behavior," J. Soc. Psychol., 1934, v. 5, pp. 141-153.

註12. Kurt Lewin, "Environmental Forces in Child Behavior and Development," in Carl Murchison (ed.), A Handbook of Child Psychology, pp. 538 ff., Worcester, 1933.

註13. William I. Thomas & Florian Znaniecki, The Polish Peasant in Europe and America, v. I, pp. 21-22, Chicago, 1918; quoted by permission of the University of Chicago Press.

註14. Harold D. Lasswell, World Politics and Personal Insecurity, Part II, New York, 1935.

第五章 暗示、勢威及び社會的變化

一、暗示の心理

前二章に於ては社會心理學の樞要概念を説述した。これによつて人間の行爲の構成、組織及び力學を觀察し、特にそ

學者はこれを「拒絶症的」(negativistic)といふ用語で片附ける。催眠術にかゝつた被術者でさへも、ナポレオンのやうに行動せよと請求されれば、その暗示を受けて、彼の心界には變化が起る。併し、それから生ずる行爲は彼のナポレオンに對する既存のステロ版と態度とに倫繋する。この場合に「制御」(control)は唯部分的にのみ成功したのであつて暗示を與へる者の命令の作用のみでなく、被術者の心界に於ける既存の組織の作用でもある。

或る學者は暗示が態度を「放出させる」(release)と主張する。ピールの好きな者が、仲間が「さあ、ビールを飲みに行かう」といふのを聞いて、その暗示を受ける。その場合に、彼のビールに對する態度が放出されたのだと説かれる。實は、この態度が支配的となつたのであり、人の言葉から得た知覺資料と統合されたのである。この統合は新たなものであり、一時的のものであるが故に即時に行爲に導かれる。

アルボート教授は態度が暗示によつて「形作られる」ことを信ずる。(註3)この論點を證明する爲めに彼は二つの例を引用する。イヤーゴの暗示に感應して自己の内に「デズデモーナに對する烈しい復讐の態度」を作り上げたオセロの例が一つであり、競賣場で「要りもせぬニッケル銀の盤を頗る高價に」買つた、原著者自身の素材の例が他の一つである。オセロにせよ、アルボート教授にせよ、暗示がなかつたとすればさうした行動に出なかつたらうことは事實であるが、彼等の内に起つたこの新たな統合が、極めて明確な、關係的、既存の態度に倫繋したことも亦明らかである。オセロは天性として妬嫉心が強かつた。そして彼の内には、妻は夫に對して忠實であらねばならぬといふヴェネチヤ及びムーアの社會の態度があつた。イヤーゴはオセロの眼には或る程度の勢威を持つてゐた。これに對して、アルボート教授の場合、彼の「經濟的、取引的興味」が競賣人によつて喚起されたのである。要するに、暗示による「態度形成」の過程も亦、心界に於ける既存の態度に倫繋するのである。態度の「新たなること」は、統合がその部分とは異なるといふ

ふ限りに於てのみ存在する。

かやうな批判を行つて見ると、暗示は、それによつて既存の關係的態度が喚起されることにより、心界内に、別の刺戟情勢の下に於ては起らなかつたであらうところの新たな統合が起る、といつたやうなやり方で行はれるところの、刺戟情勢の操作の結果である、といふことは明らかである。かゝる考へ方は明瞭に、心界内に於ける既存の態度に關係あるものであり、従つて、主體の準備されてある状態を豫定する。加之、この意味に於ける暗示は嚴密な心理學的名辭である。即ち、それは暗示を與へられた個人の反作用の分析である。そして、それは、暗示者が刺戟情勢を操作するとき心界の組織の中に起る變化を示す。最後に、この定義は通常の常識的標準、即ち個人は暗示によつて影響され、そして若し暗示が與へられなかつたとすれば彼自身想到しなかつたであらうやうなやり方で反作用を行ふやうに影響される。

暗示に關するかやうな定義が極めて廣いことは認める。殆んど總ての交通、大多數の社會的刺戟情勢は人々の上に影響を及ぼし、彼等の内に新たな態度を發生せしめる。従つて、それ等は總て暗示であると云はねばならぬことになる。では、非暗示は何であるか。非暗示の場合は、人々が唯刺戟情勢のみを知覺するとき、そして、知覺の結果として人々の内に起る變化が喚起された態度と無關係なときである。教室に於ける學生がユークリッドの幾何學の説明を聴く。彼の内には同時に種々な態度が喚起されるであらう。例へば、學究的訓練に對する彼の態度、教師に對する態度、仲間の學生に對する態度等。若し彼が定理を理解するに至れば彼は自分の知識を増したことになる、そして、この知識の内容、は彼をこの講義に出席するやうに動機づけた態度とは無關係である。この種の「合理的」交通の例は勿論稀であり、さればこそ、暗示の現象は極めて廣い範圍に擴がつてゐる。故て用語として用ひられてゐる暗示は、要するに、新たな統合を齎らすに當つて既存の態度が演ずるところの役割に他ならない。一人の人によつて暗示であることも他の者にとつ

ては刺戟情勢以上の何物でもないことがあり得る。後者が單に情勢を知覺するのみで、それ以上これによつて影響される場合にはさうである。

加之、暗示とステロ版との間には密接な關係がある。それを明らかにせねばならない。暗示者は被暗示者が刺戟情勢を特殊なやり方で知覺することを欲する。彼はこの知覺によつてステロ版が齎らされることを欲する。そして、新たな態度が出現するのはステロ版を基礎としてである。例へば、心理學實驗室に於て、一群の學生に對して次のやうな實驗が行はれる。短かい直線が引かれ、次にそれよりは可成り長い線が引かれる。學生は第二の直線が第一の直線より長いかと問はれ、然りと答へる。かうしたことを度々繰り返してゐる間に、第二に引かれる線の方が第一の線よりも長いといふことを豫期するやうになつて来る。即ち、これ等の學生はこの實驗室内の情勢に就いて一つのステロ版を持つに至つたのであり、その結果として、それに對して比較的特殊な態度を持つのである。實驗の或る時機に、第二の線の長さを第一の線と等しくする。學生の多くは矢張り第二の線の方が長いと主張する。ステロ版によつて發生せしめられたところの、情勢に對する既存の態度は、長さの等しい線の知覺と統合せられ、この新たな統合が彼等をして謬れる判斷を下すに至らしめたのである。ステロ版が態度を生み出し、態度が彼等をして暗示され得るやうにしたのである。^(註4)

二、暗示の種類

宣傳の分析は、直接暗示と間接暗示、積極的暗示と消極的暗示との間に明確な、恒常的區別を設けるべきことを要求する。著者の知る限りに於ては、かやうな區別は確立されてゐないし、一般的に認容されてゐない。それ故に、多少獨斷的の嫌ひはあつても、判り易い定義を行ふ必要がある。

直接暗示に於ては個人は刺戟情勢の一部として暗示者の直接の目標を知覺し、その上、彼の内には、補助的、關係的

態度が喚起される。若し暗示が效果的であれば、心界内に於ける新統合は目標及び關係的態度の理解を含み、そして、その結果としては、暗示者が欲した行爲が齎らされることもあらうし、さうでないこともあらう。これに對して、間接暗示の場合には、個人は、刺戟情勢に於ける暗示者の直接の目的を知覺し得ない。併し、情勢は補助的態度と關係的態度とを共に喚起する。そして心界内に於ける關係的態度の統合は、若し暗示が成功すれば、暗示者が求めた統合であることに變りはないのである。この定義に従へば、大多數の暗示が直接暗示であることは明瞭である。例へば、實際には、總ての商業廣告はその訴へ方が直接的である。^(註5)といふのは買はるべき品物又は行はるべき行爲が、廣告の何處かに明瞭に示されてゐるからである。間接暗示の適切な實例はイヤゴの策略である。イヤゴがオセロに、彼の美しい妻を殺して自滅に陥ることを慫慂してゐる條りは、この劇の何處を探しても見當らない。オセロはイヤゴの目的に就いて何の疑も持たず、従つてイヤゴは刺戟情勢をいとも巧妙に操り、オセロの既存の態度を喚起することができたのである。そして、これ等の既存の態度が統合されて中心的、支配的態度となり、終にはこの態度が好悪な副官の計畫した最後の悲劇に導いたのである。人間の動機づけに對するシェークスピアの驚くべき洞察力が、彼をしてこの情勢に於ては直接暗示は效果的でない、といふことを覺らしめたのである。

ボリス・サイデス Boris Sidis は、暗示に關する彼の古典的著書に於て、直接暗示と間接暗示との區別に就いて暗中模索を行つてゐる如くである。併し、結局、彼は「直接」"direct"暗示は聽覺から「間接」"indirect"暗示は視覺から齎らされると説く。彼の所謂「無中介的」"immediate"暗示は本著者の直接暗示に類似するものであり、これに對して、「中介的」"mediate"暗示に關する彼の説述は、間接暗示に於て、新たな結合が、暗示者が目的とした夫とは稍、異なる場合に起ることを、單に記述したのみに止まるやうに思はれる。^(註6)他方、ハル二三教授は、彼が選び出した

種々な實例によつて、區別を示す彼は「間接的外來暗示」"indirect heterosuggestion"の例として次のやうに述べる。
「被實驗者は、長さ一尺程の糸の先に短かい鐵の錘を附したものを手を延ばして持つ。この振子の直下には短かい鋼鐵の棒がある。被實驗者は、鋼鐵棒の磁氣により、振子は次第に、棒の一端から他の一端に走る磁力の方向に従つて、振動を起す旨を言ひ聞かされる。被實驗者が素朴な、感受性に富んだ人であるときは、振子は忽ちにして、暗示された方向に振動を起す。」(註7)

この場合に被實驗者は別段、振子を振動させると云はれた譯ではないが、器械に關する暗示的説明によつて彼の内に喚起された他の態度によつて、振動させるに至るのである。次でハル教授は「人的、直接的、外來暗示」"personal direct heterosuggestion"を次のやうに説明する。被實驗者は「種々なやり方で、繰り返して、繰り返して、彼が前方に身體を揺り動かしてゐる旨を云はれる。すると彼は我慢しきれなくなつて、その運動を始めてしまふ、等々」。この場合には被實驗者は如何にしたらよいかを知つてゐる。換言すれば、刺激情勢は、彼をして實驗者の目的を把握することを得しめるのである。

積極的暗示と消極的暗示とは、概して、相互に補充し合ふものであり、暗示によつて齎らされることの統合と、統合が指向される環境の様相との間の關係の性質を記述する方法でしかない。指向が刺激情勢への方向を探れば、暗示は積極的と呼ばれる。方向が刺激情勢を外れると、暗示は消極的と云はれる。併し、消極的暗示の多くは積極的(直接又は間接の)暗示を豫想する。「芝生に入ること禁ず」は公園の緑の芝生に靴を踏み入れてはならぬといふ直接の消極的暗示でもあり得るし、又、道路上を歩め、といふ間接の積極的暗示であるとも云ひ得る。又、古くから行はれてゐる實驗室内の實驗に於て、被實驗者が、電極を溝の中央に保つやう云ひつけられる場合に(實驗者は被實驗者が溝の中

外から外れて端に觸れた場合には、電流の接觸が起つてベルが鳴るから判るやうになつてゐる)、被實驗者は積極的暗示によつて影響されると考へられる。彼が電極を以て溝の側面に觸れるなど云ひつけられる場合には、彼は恐らくは消極的暗示によつて影響されるであらう。併し、間接には、消極的暗示も亦積極的暗示、即ち、溝の中心を保つ、といふことを含んでゐる。何故かと云へば、結局は、彼は器械の何處かに電極を置かなければならぬからである。(註8)

三、言 語

暗示は心界の組織の名辭に於てのみ理解せられ得る、といふ理論は言語を引合に出さねばならない。(註9) 何故かと云へば、語られた言葉又は書かれた言葉は、暗示者といふ役割に於ける宣傳者によつて用ひられる主たる刺激情勢だからである。或る個人が理解し得る總ての語は、暗示の用具となる可能性を有する。何故かと云へば、言葉は、象徴としてのその性質それ自體により、總ての暗示の基礎に存する既存の態度を喚起することに役立つからである。それ故に、言語は論理的工夫と見なくてはならない。有力な刺激情勢として見られることを要する。エルドマンが述べてゐるやうに「總ての言語的表現は曖昧である」。彼は多くの語が有する次の如き屬性を區別する。「1. 概念的な程度に相違がある……」。2. 第二の意味。3. 調子の感じ。」等が是である。後の二つの性質は、言語が何故に暗示に於てしかく重要であるか、を示す。語の第二の意味と「感じ」とは、象徴によつて喚起された既存の態度を記述する別の方法である。それが、言語學者の觀點から云へば、専ら「概念的な内容」に結びつけらるべきものとされるのである。

或る語の暗示力はその語の第一及び第二の意味と、その語が喚起する既存の態度とによつて左右される。その結果として、この力は時代により、文化によつて變化がある。アングロサクソン語の單綴助辭の或るものは、その語自體及びその語に含まれる觀念が別段有害でもないに拘はらず、今日、排除されて終つた。"radical"といふ語は、數學家、株

武仲買入、ユニオン・スク・ニア附近の住民等によつて夫々異なつた響きを持つ。「神」といふ言葉が黒書帯を着けた牧師によつて云はれるときと、ソヴ・エト・ロシアの多くの都會で云はれるときでは、全く異なる効果を持つことは明らかである。有能な法學者は彼等が用ひる抽象の内容が變化することを熟知してゐる。「不正の多産な親は概念の暴君である。」^(註11)

併し、總ての言語が不變に暗示に導くとは限らない。先づ第一に、言語が單に知覺されるのみで、それによつて既存の態度が喚起されぬ場合もある。「三角形とは三つの直線によつて圍まるゝ平面形である」といふことを聞いた場合に多くの人はこの耳に熟した文章を聞いてそれを理解し、その他に別段の事件は起らないであらう(その人が何か精神分析的治療でも受けてゐる場合を除き)。第二に、語又は文章が既存の態度を喚起する場合と雖も、感應は暗示の要素を含まないかも知れない。ウ・ンクスボーツを好む者に「スキーイング」と云つて見るがよい。さうすれば、人を恍惚たらしめるところのこの娯樂形式に對する愉快な態度が彼の内に喚起されるであらう。かやうな心理的過程は暗示の例と見らるべきではない。何故かと云へば、この言葉は「スキーイング」といふ現實の刺戟情勢の單なる象徴に止まり、それによつて例へば斷斷的態度が指向されてゐるのみだからである。この象徴の再表象により、態度とそのステロ版とが再び喚起される。併し、心界はそれによつて影響されずに止まつてゐるのである。通常の用語法に従ふ者は如上の考へ方に對して抗議を提出し、それはスキー戯を口に出すことによつて正しくスキーを「暗示した」のであると叫ぶであらうといふことは本著者のよく知るところである。併し、「暗示」といふ言葉は、それが心界に於ける現實の變化がある場合のみには制限されるときに、一層設に立つことは疑を容れない。より正確な言葉で云へば、音樂は聽者に銀色の小河を「暗示」するにあらずして、寧ろ、音樂の性質が甚だ小河に近いが爲めに、水を眺めるといふ現實の經驗が回想されるのである。

ある。

スポーツマンに向つて、「ホワイト・マウンテンにスキーをしに行かう」と云つたときには、彼はこの文章の意味を理解するのみならずスキーに對する彼の好意的態度の緊張を経験するであらう。従つて彼はこの直接暗示を實行に移さうといふ輕微な傾向を持つに至るかも知れない。この輕微な傾向は彼の内に起つた新たな要素である。これを撞著する態度、例へば、この旅行によつて中絶を餘儀なくされる仕事に對する態度、彼が持つてゐたかも知れない別の計畫に對する態度、經濟的失費に對する態度等が、この傾向の實現を妨げるかも知れない。併しこの統合が潜在的態度として止まり、それが後になつて喚起されて行爲を惹き起すこともあり得る。後年に至つて暗示を實現する機会が到來することもある。又は、手近のリンクでアイススケートをやることが補償的代替物を構成することもあるであらう。

四、勢

Prestige

以上に於ては暗示に對する個人の主觀的反動のみに就いて記述した。そして、この反動が知覺資料と既存態度との新統合であるといふことを示した。觀察と分析の場所を推移させねばならない。この統合を生み出す刺戟情勢の性質に重點を置かねばならない。

個人をして暗示を受けしめるところの社會的情勢は勢威である。勢威を持つと云はれる。ル・ボンはそれを稍々詩的に表現して次のやうに云ふ。

「思想であらうと人物であらうと、世界に於て支配力であつたものは總て主として勢威、prestige」といふ言葉によつて表現されるところの到底抵抗することのできない力によつて、その權威を強制し來つたのである。^(註12)

何人が、そして何物が勢威を有するか、が次の問題でなければならぬ。政治にせよ、藝術にせよ、宗教にせよ、科

學にせよ、自分の活動範圍に於て指導者たる地位を占めてゐる人達は、命令的 *imperative* に口をきく特權を行使するやうに見へる。或る文化體系に於ける重要な物體は、程度の相違こそあれ、尊敬される。種族のトーマ、國旗、聖書を信ずる人々に於ける聖書、或る制度の法制等が是である。勢威を有する人又は物をより徹底的に検討すれば、それ等の人は物が次の一つの特質を共通的に持つてゐることが知られる。即ち、それ等は人々の集團に對して殆んど同様の態度を喚起せしめ人々はこの態度が喚起されることによつて、特殊な刺戟情勢に牽き入れられるのである。要するに、それ等のものは、著者の意味に於ける積極的社會的價値を表象するのである。然らば、これ等の社會的價値は何故に勢威を有するか。この間に對する完全な答は、特殊な社會的價値が発見される社會を分析することによつてのみ得られる。併し、或る與へられたる文化に屬する個人に就いては、解答は比較的手近に在る。それは即ち、これ等の社會的價値に固著することが安全又は満足だから、といふことである。何故かと云へばその集團が統一性を確得すべきものとすれば、指導者には服従せねばならないからである。若し個人が、神聖な、若しくは、俗界の、權力によつて威力を振はれることかゝら助かる確實性を欲するならば、或は、多くの人が行つてゐるやうに、一群の慣習に従ふことを欲するならば、彼は社會的價値を有する人又は物を尊敬せねばならない。要するに、積極的社會的價値は、人々の支配的な、そして通常はそれと同時に中心的な、態度の緊張を、行動によつて解消せしめる心理的力を有する。そして、かゝる態度の起源が、これ等情勢自體の中に在ることが屢々ある。

かくして、積極的社會的價値を有する物又は人は、客觀的見地よりして、勢威を持つ。勢威に對する主觀的符合物は——この點に於て著者は D. H. アルボート、アクト、ガル兩教授の川語法に従ふのであるが——勢威を有する物又は人に對する服從的態度である。或る與へられたる情勢に對するかやうな服從的態度は、例へば恐怖といつたやうな散漫な

感情によつて強められ、かくして特定の人又は人々の從順さが一層増大されることもあり得る。その上、この態度は特殊の態度である。何故かと云へば、その緊張の強さは各勢威情勢に應じて變化し、その情勢が過去に於て行動によつて緊張を解消した程度によつて左右されるからである。この理由により、例へば、成功した指導者はより大なる勢威を獲得することになる。換言すれば、成功は他の種々な態度が行動によつて解消される可能性の證據であるから、彼の追隨者は彼に對して愈々服從的になる。

之を要するに、積極的社會的價値を有する人又は物は、刺戟情勢としての勢威を持ち、情勢に對する特殊的、服從的態度を喚起することによつて人々に作用する、と云ふことができやう。それ故に、消極的社會的態度が服従を生ぜしめぬことは當然である。加之、この服從的態度は被暗示性を増大する。何故かと云へば、それは通常、個人の中心的態度と統合せられ、従つて、それが喚起されるときは心界を支配する傾向があり、その結果として、他の中心的、斷斷的態度が排除される蓋然性があるからである。その結果として、心界は制限され、そして、知覺されたものと支配的な態度との間の統合が、服從的態度のない爲めに互に衝突する中心的及び斷斷的態度がその緊張を發揮しつゝある場合よりも、より容易に行はれ得るのである。それ故に、刺戟情勢に對する服從的態度は、統合に對して關係的な地位は持たぬが、排除の作用によつてこの統合に影響を與へるところの、一つの補助的態度である。前大統領クリッヂは、彼がホワイト・ハウスから話しかけたときの方が、後に一介の新聞紙寄稿家として物を書いたときよりも、より大なる勢威を有し、民衆はより大きな暗示を受けた。何故かと云へば、彼が大統領としての役割を現實に行ひつゝあるときには、民衆は、程度の相違こそあれ、大統領といふ公職に對する服從的態度を持つてゐたからである。

その他に、通常、勢威が認められ、従つてこれ亦、服從的態度を喚起するところの別種の刺戟情勢がある。D. H.

アルポート教授は、個人が「恰かも莫大な数の人々から来る刺戟であるかの如く考へて現實に受ける刺戟に對して反動する」とき、そして、「廣大な集會全部がこのやり方で彼を刺戟しつゝあると想像する」ときに、或る刺戟情勢は彼をして「普遍性の印象」を持たしめる、と説いてゐる。^(註14)或る見物人を直接取巻いてゐる人々が喝采をする。すると見物人は全聴衆が辯士に對して熱狂的喝采を送つてゐると結論する。この効果は更に「社會的投影」(social projection)の作用によつて一層高められる。それは「吾々自身は指導者の言を受け容れ、それを呼應する。それ故に、吾々は、他の者も亦、同様なことを行ひつゝあるといふ推定を信じ、それを基礎として實行する」といふ場合である。アルポート教授は、これ等二つの要因の、群集、宣傳、流行、國家意識、輿論、信用と恐慌、労働組合等に於て重要性を説いた。^(註15)事實比較的最近の著述に於ては、アルポート教授は、これ等の要因が少くとも社會悪の多數を部分的に説明し得る、と主張してゐる。^(註17)

これ等の社會的又は制度的情勢に於て個人がより多く暗示にかゝり易くなつたことは明らかである。群集に關して蒐集された總ての經驗的證據及び實驗室又は統制された條件に於て行はれた實驗的所與は、總て、この争點を強める。^(註18)何故かと云へば、かゝる情勢に於て個人が普遍性の印象を受けた場合には、彼等は服従的になる傾向を持ち、従つて、一層暗示にかゝり易くなるからである。普遍性の印象から惹き起されることへの服従的態度は、補助的態度として作用する。それは差當りは、他の撞著する態度が喚起されることを妨げる。更に、この態度は、實際には、群集をも含む一切の社會的情勢に於て、大多數の個人は、社會的集團に参加することによつて、既存の態度の緊張を解消せしめることができる、若しくは、彼等の經驗上できると考へてゐる、といふことを指摘することによつても説明され得る。この理由によつて、緊張が解消された社會情勢が勢威を有するのであり、又、この理由によつて、かゝる情勢が存在するといふ

印象に服従的態度が隨伴するのである。

普遍性の印象が被暗示性を増大せしめるといふことは、必ずしも總ての例に於て眞實ではない。暗示に關する如何なる心理學の實驗も、又、如何なる宣傳家も、決して常に百パーセントの結果を獲得し得るものではない。この事實は一般的傾向に對して例外の存することを示すものである。更に、印象と服従的態度の喚起との間の關聯は、西歐型文化に特有な諸條件の所産であるとも考へられる。人類學上の證明も亦この關聯を實證するやうである。

五、社會的變化

暗示により、人は別の人となる。多くの人々が變化し、又は變化されたときに、これ等の人々を組成員とする社會は新たな形態を帯びる。この社會的變化の一部分は意識的に指導されずして起ることもあり得る。多くの男女が互に作用し合ひ、調節の過程の中に、次第に一つの變化せる社會秩序を生み出すやうに強いられる。例へば、封建制度は、都市の發展による商人の地位の重要性の増大によつて、徐々に死滅した。近代の産業制度の出現を促進せしめようと企てつゝあつた宣傳家達は、彼等が爲しつゝあることの結果を豫見することは到底できさうもない小さいグループであつた。併し、大多數の人々の社會的價値は依然として中世的であつた。最後に、人々の政治的、經濟的及び社會的關係に齎された現實的變化が、ヨーロッパ人をして、一群の新たなステロ版を持たしめるやうに、強制し始めた。これ等のステロ版が新たな態度を發生せしめ、更に後に至つて、これに對應する一群の社會的價値が出現したのである。古い價値は、それに對して重要性を認める人が餘りに少なくなるに至るまでは、餘喘を保つて來たのである。

併し、重要な社會的變化は容易に達成し難い。何故かと云へば、人々が有する態度の多くは、彼等が生活してゐる社會の社會的價値によつて齎らされるからである。同時に、これ等の價値の存在は、それを認容する人々を一層暗示にか

かり易くする。社會——如何なる社會も——が或る程度の安定性を保持するのはこの理由に基づく。權力を有する者は、彼等の掌中に在る社會的價値を用いて彼等の地位を鞏固にしようとする。この遣り口は通常「教育」と呼ばれてゐるが、實は「宣傳」と呼ばるべきものである。

同時に、保守的な力である以外に、これ等の社會的價値は、暗示の方法により、意識的に指向された變化の爲めにも利用することができる。現在勢力に對する反對者がこれ等の社會的價値を操作して人々の集團をして彼等の提案する變化に一層暗示され易いやうにせしめることもあり得る。若しこの操作が成功すれば、態度は變化し、社會の内部に變革が齎されることになる。

オグバーン Ogburn 教授の「文化的遲滯」"cultural lag" の概念は、アメリカの社會學に於て一般に歡迎される「法則」であつた。人々は比較的速かに文化の「物質的方面」"material things" を受け容れるが、「非物質的」又は「應化的」"adaptive" 方面は容易に受け容れない。その結果として、後者は前者よりも「遲滯」"lag" する傾向があるといふのがこの法則の主旨である。例へば、アメリカ人は、新式の電球を用ひることを嫌がることは減少しない。併し、進歩的な人が市制を改訂せねばならぬと告げる場合には、彼等は概して嫌惡の情を覺へるのである。この現象の理由は二つあるやうである。先づ第一に、「物質的」發明は、「非物質的」發明よりも容易に證明し得ることである。電球の場合には、個人をして新奇さを觀察せしめることによつて、所要の關係的態度を喚起させることができる。これに對して、市制の變更は理論的に討論し得るのみであるから、關係的態度が潜在的の儘に止まつてゐることがあり得る。次に第二には、現實に然く頻繁に使用する物質的物體に對する大多數のアメリカ人の態度は中心的であり、これに對して彼等にとつてどちらかと云へば曖昧であり、神祕的であるところの社會制度に對する彼等の態度は斷節的である。かくして、暗示の過程は中心的態度が喚起されたときに成功し易く、斷節的態度が喚起された場合には成功し難い。併し、

一國の經濟的構成が變動の状態に在るときは——例へば、革命の直前——人民の一切の關係がその影響を被り、従つて、彼等の社會に對する態度が變化して、中心的態度となる。この際には彼等は社會改革に對する暗示を進んで受け容れるやうになり、「物質的」提案にはさ程意を拂はぬやうになる。要するに、より中心的な態度が「物質的」よりも「非物質的」の方向に指向されてゐる場合には、「文化的遲滯」の假定は逆になる。それ故に、オグバーン教授の一般原則は、社會の平和的狀態に於てのみ適用がある譯である。

註1. 五五—五九頁參照。

註2. 著者の意中には、直・アルポート教授の暗示の定義が描かれてゐる。といふのはこの定義が多くの學者の暗示に關する理論を體現し、指摘せられんとする誤謬を同してゐるからである。「暗示とは、社會的刺戟に對して感應する初歩的行爲機構を含む過程である。この過程の性質は、刺戟を與へる者が、直接なやり方で、刺戟を受ける者の行爲と意識とを統御するといふ點に在り、思惟によつて影響されること比較的少なく、機動的な態度を築き上げ、それを解放させ、又は、感應が行はれるときにその解放された感應を増加せしめる、といふやうな方法がとられるのである。」 Floyd H. Allport, Social Psychology, pp. 251—252, Boston, 1924.

註3. Allport, op. cit., pp. 245—246.

註4. Alfred Binet, La Suggestibilité, Paris, 1900. 參照。ビネはこの型の實驗に於て、教師が生徒に向つて次の線は長いぞと云ふことによつて、一層被暗示性が增加することを指摘した。この場合には、教師のフレスティッチも亦、重要な役割を演ずるのである。Binet, op. cit., p. 24. シルはこの實驗に於て、年齢の増加に應じて被暗示性が減少することを説いてゐる。Groul, "La Suggestibilité Chez Les Enfants D'École," Ann. Psychol., 1911, t. 18, pp. 362—388.

註5. 一四八頁を見よ。

註6. Boris Sidis, The Psychology of Suggestion, pp. 13—22, New York, 1898.

註7. Clark L. Hull, Hypnosis & Suggestibility, p. 52, New York, 1933.

註8. 被實驗者は、積極的暗示の場合よりも、消極的暗示の場合に於て一層海の側面に觸れたがるものである。

- 註9. 言語の問題は、知る者、知る者の立場からのみ取扱はれ、語る者又は書く者の人格内に於ける作用の方面は取扱はない。
- 註10. Karl O. Ekmann, *Die Bedeutung des Wortes*, p. 107, Leipzig, 1910.
- 註11. Benjamin N. Cardozo, *Paradoxes of Legal Science*, p. 61, New York, 1928.
- 註12. Gustav LeBon, *The Crowd*, p. 147, London, 1922 (14th impression).
- 註13. Floyd H. Allport, *Social Psychology*, p. 249, Boston, 1924; William McDougall, *Outline of Abnormal Psychology*, pp. 116—118, New York, 1926.

註14. Allport, op. cit., p. 305.

註15. *Ibid.*, p. 306.

註16. *Ibid.*, pp. 307—411.

註17. Floyd H. Allport, *Institutional Behavior*, Chapel Hill, 1933. 彼の學生の一人はニューヨーク州北部の一部落を研究し、「制度的態度の出現と、他の組成員が普遍的に同様の信念を保持するといふ信念の漸進してゐること」との間には「極めて顕著な關聯が存在する」とを觀察した。Robert L. Schanck, "A Study of Community and Its Groups and Institutions Conceptual of as Behavior of Individuals," *Psychol. Monog.*, 1932, v. 43, no. 195, p. 130.

註18. 單に他の人々例へば「集團が現在するところの心理的過程に影響する」を示す研究がある(例へば Floyd H. Allport, *Social Psychology*, pp. 265 ff.; G. S. Gates, "The Effect of an Audience upon Performance," *J. Abn. & Soc. Psychol.*, 1924, v. 18, pp. 334—342; S. B. Weston & Horace English, "Influence of the Group on Psychological Test Scores," *Amer. J. Psychol.*, 1926, v. 37, pp. 600—601). 又多數の者の輿論であると云ふことが、大學の學生その他の者の判断に影響を興くるところの亦證明された(Harry T. Moore, "The Comparative Influence of Majority and Expert Opinion," *Amer. J. Psychol.*, 1921, v. 32, pp. 16—20; David Wheeler & Harry Jordan, "Change of Individual Opinion to Accord with Group Opinion," *J. Abn. & Soc. Psychol.*, 1929, v. 24, pp. 203—206; H. Barry Jr., "A Test for Negativism and Compliance," *J. Abn. & Soc. Psychol.*, 1931, v. 25, pp. 373—383).

註19. 暗示を利用して社會的變革を促進する方法が、現在秩序に對する逆宣傳の問題を惹き起した。一三九—一四〇頁参照。

註20. William F. Ogburn, *Social Change*, pp. 199—266, New York, 1922.

第三部 宣傳の性質

第六章 意圖的宣傳と無意圖的宣傳

一、意圖的宣傳

言葉の定義を提案するといふ仕事は簡單でもあり、複雑でもある。簡單であるといふのは、定義をなす者が、彼の趣味又は彼の目的に適合する如何なる定義を形成することも、理論的には隨意であるからである。畢竟するに、嚴密な心理學的觀點よりすれば、語そのものは單に特殊な聲帯の振動であるか、又は、白地に黒いものゝ形が出ることでしかない。例へば "abacado" といふ語は、この四綴りの語は「グランドピアノ」を運搬しようと欲するアタバスカ印度人の押してゐる手押車」の意味であるといふことを附加へさへすれば、獨斷的に爾後はその意味を持つて差支へない筈である。

併し、定義を提案することは一面、複雑な仕事でもある。語に與へらるべき意味は、理論が許すやうに自由自在に選擇し得るものではない。何故かと云へば、社會は通常、この問題になつてゐる語に對して何等かの特殊な意味を與へてゐるからである。社會の習慣に挑戦することは無益の業である。何となれば、言語の最も重要な目的の一は思想傳達であり、そして、獨斷的な、非社會的定義は一切の傳達を阻害する。加之、ある言葉に就いて聯想される意味は、當該社會に於ける思想過程に關聯して理解されることを常とする。現代の多數の愛國者は、政治的理由に基づいて、古代の言語を復活せしめようと努めてゐるが、これ等の言葉は結局、近代の科學的術語の用をなさない。何故かと云へば、かやう

な言葉が盛んに行はれたのは、科學の興起する以前のことにかゝるからである。"abacatah"に關聯して述べたやうな定義は、單なるナンセンスでしかない。この語は言語的に英語には屬せざるものであり、従つて、普遍的な支持を受け得るべく餘りに人為的である。而も、この語が傳達しようとする觀念は、單に著者の空想の所産であつて、現實の生活に於ける或る情勢の反映ではない。

諸君の使用する語を定義するに當つて全く獨斷的にすることが面白いことは勿論である。意味の發明者として諸君は異常な効果を齎らすことができるし、洒落を飛ばすこともできるし、狂氣じみる程深遠な學者と思ひ込まれることもできる。或る哲學者が自分の好む定義を採用したことが原因となつて、哲學の或る分野が、昔の哲學者によつて提起された問題を繞り、未だに甲論乙駁の状態を續けてゐる例が見られるのである。(註1)けれども、若し或る著者が、自分自身を理

(註2)

解せしめようと欲するならば、彼は結局、言葉に定義を與へることを要するのである。
擬、宣傳といつたやうな抽象的な言葉で、而も全世界に共通する言葉になつたやうなものは、苟くも宣傳に定義を與へることを敢てするところの學者の數と同じ程の意味を持つに至つた。併し、單にそれ等の定義が相互に異なるとか、曖昧であるとかいふことを理由として、その總てを拋棄して終ふ必要はない。總てを拋棄して全く新奇な定義を提案することは餘りにも社會的習慣から逸脱することを意味し、又、屢々定義された言葉は、その故に明瞭であると推定することは、自殺に等しい。それ故に、種々な概念を選び分けて然る後にその餘計な部分を取り除き、理解し易く且有用なる定義を形成するところの中心と共通の要素とを手許に残すといふやり方がより賢明であるやうに思はれる。
加之、定義に就いては二つの要求が充たされねばならない。宣傳の社會的機能を強調することが一つ。そして、著者の關心は本來、宣傳といふ現象を心理學的に理解することに向けられてゐるのであるから、宣傳に含まれる心理學的過程

を解明するものでなければならぬ。

ラムレイ Lundy 教授によつて論ぜられた宣傳の定義及び同教授が取扱はなかつた諸々の定義を考察するとき、學者が宣傳の定義といふ問題に對して取付いたやり方に二様あることが知られるのである。即ち、或る者は宣傳の社會的様相に重きを置き、又或る者は宣傳といふ言葉の心理學的又は社會心理學的含蓄に重きを置くのである。

社會學的な取扱ひ方は、宣傳を、社會的制御の手段、輿論に影響する要因の一つ、として見る。宣傳の特質は或る個人又は個人の集團が、自己の利益の爲めに宣傳を操るといふ點に在る。(註4)又、宣傳といふ語は、或る特定の國家の宣傳といふ、一層特殊的な意味にも用ひられる。(註5)他の人々は、宣傳家がその宣傳資料を提示するやり方を描寫する。かゝる人々の定義は單なる非難に終る傾向がある。(註6)又、或る社會學的定義はこれ等二つの主張を結合し、宣傳は制御することを意味すると同時に、特殊の提示法をも意味するとする。(註7)

社會心理學者の一派は、「宣傳」といふ語を心理學的意味に用ひることを好む。彼等は、個人の心理學的傾向に關聯して、個人に對する宣傳の効果に重點を置く。或る學者は効果は態度の變化であるとなし、これに對して他の學者は、態度の概念を、より心理學的ならざる言葉で、暗にほめかす。(註9)少數の心理學的定義は、暗示又はこれと酷似する方法の使用といふ點を強調する。最後に、多くの著者は、社會學的進路と心理學的進路とを結合し、この型の社會的變化の偏倚的性質を、心理學的な言葉で描寫する。(註12)

これ等總ての定義を併合せしめたときに、次の如き結論が適切であるやうに思はれる。

1. 宣傳は社會學的には次のことを意味する。
 - a. 社會的制御の方法である。何故かと云へば「宣傳家は個人を「制御し」"control"「變改せしめ」"convert"」

及び「形作る」"shape"などを企てるからである。

b. 宣傳家の、爲めにするとある動機は、「靜穩なる請願」"friedliche Werbung"「關係團體」"interested groups"「特別申込」"particular proposal"「金錢的その他利益」及「廣告」"Reklame"等の稱呼によつて示される。

c. 加之、この活動は「合理的」"consistent"「持續的」"enduring"「組織的」"大規模" "grossen Stil"であり、「好し具合にある注意」"favorable attention"を引く。

d. 具體的には、この活動は「迷惑」"camouflaging"「色づき」"coloring"「創造」"creating"「歪曲」"distorting"「明記せざること」"failing to specify"「隠蔽」"suppressing"によつて行はれ、その結果として、宣傳の材料に用ひられたものは「偏倚的」"biased"「偽装的」"deceptive"「誇張的」"exaggerated"「不公正」"not fair"「不適當」"inadequate"「奸計的」"insidious"「眩惑的」"misleading"「一面的」"one-sided"「尤もなし」"plausible"として「微妙」"subtle"である。換言すれば、宣傳は「曲解」"interpretations"「誤報」"misinformation"「煙幕」"smoke-screening"「巧妙なる配列」"skillful marshaling"及び「眞實に對する無關心」"indifference to truth" (註13)に對する無關心は勿論のこと等によつて成立する。

2. 心理學的には、宣傳は次の如き意味を有する。

a. 「態度」"信念"「行爲」"批判的思惟"「感情」"輕信性" "gullibility"「觀念」"心意"「意見」"感應する繪畫" "the pictures to which men respond"「實踐」"偏見"「情緒」"心理狀態"、甚だしきに至つては、「意思」"Will"を變更せしめること。

b. 「暗示」"説得"、及び「他の者の心意を自由にする術」の使用。

上述、社會心理學的定義は、社會學的様相と心理學的様相を兩つながら統合して、程度の相違こそあれ、一つの統一された全體を作り上げることを企てる。併し、總ての定義から抽出されることの種々な構成要素が、明確な姿で現はれるやうな、比較的曖昧ならざる定義を形作ることは、比較的容易である。即ち、

宣傳とは、爲めにするところある一人の個人(若しくは多數の個人)が暗示の使用を通じて個人の集團の態度を制御する爲め、及び従つて、これ等の行動を制御する爲めに行ふところの組織的努力である。(註13)

この定義が、社會學的には、宣傳の制御的現象(1a)、宣傳家の關心(1b)、彼の努力の組織的であること(1c)を含み、心理學的には、個人に對する態度上の効果(2a)、用ひられる主なる方法即ち暗示(2b)、を含むことは明瞭である。宣傳家の策略の或るものに對する、比較的具體的な方式化(1d)は省略されてゐる。何故かと云へば、これ等の策略は餘りに種々雑多であり、そしてその各々は、それが暗示の過程に關係があるといふ限りに於てのみ意義を有するに過ぎないからである。宣傳家が人々のステロ版に影響を與へようと企てることも事實ではあるが、彼がこれ等のステロ版に影響しようとするときは、畢竟するに、態度の變更を齎らすことを欲すればこそである。加之、「彼等の行動を制御する」といふ句は、宣傳の展示の一部分であらねばならない。何故かと云へば、宣傳家は、彼が個人をして行はしめんと欲するが如き行動態度が齎らす限りに於てのみ、「態度を制御すること」に關心を持つからである。

併し、かかる定義が、少くとも一つの缺陷を有することを認めざるを得ない。即ち、この定義は「態度」とか「暗示」とかいふ言葉を含むが、これ等が共に極めて滑り易い概念であることは、既に前三章に於て説いたところである。併し、直ちに附加へねばならぬことは、この缺陷が、實は、現代心理學の狀態に對する批判である、といふことである。

即ち、如何なる心理學的概念を選び出したとしても、それには必らず曖昧さが伴ふ。それ故に、この著述に於ては、「態度」も「暗示」も、既に注意深く指示したやうなやり方で用ひられてゐるのであつて、これ等の語に屬する響きが、定義全體を非現實なもの、若しくは餘りに秘教じみたものにせぬことは、著者が希望措かざるところである。

この宣傳の定義の有する他の缺點は、宣傳家が常に宣傳の社會的效果を意識し、それ故に彼の努力は「組織的」であることを明確に推定してかゝつてゐる點である。加之、この推定は、宣傳が定義され、又は論議される場合に、一般に行はれてゐることである。幸にして、又は不幸にして、この推定は誤謬であり、又は、少なくとも、賢明ならざる推定である。宣傳を行ふ者が、常に、彼自身の行動の性質を意識してゐると考へることは、簡単に云へば、本當ではない。

二、無意圖的宣傳

個人は自ら意識せずして宣傳家となつてゐることもあり得ると主張することは、烈しい抗議の數々を招く。何故かと云へば、社會が宣傳家なりと一般に認めてゐる人々は、自分等が遂行しようとすることを完全に意識してゐるやうに見受けられるからである。例へば、ゲッペルス氏にせよ、公共關係顧問の何人にせよ、諸君が街角で拾ふ引札の筆者にせよ、單純すぎるとか、單なる自己満足喜びの爲めにさうしたことを行つてゐるとかいふ非難に當嵌るやうなものは一人もゐない。併し、純粹な論理の問題としては、人は無意識的に、「暗示の使用を通じて個人の集團の態度」を制御してはならぬ、といふ結論にはならない。或る人の行動の社會的效果も、心理學的效果も共に、決して、その人の意圖の所産ではない。

ラムレー教授が繰り返して述べてゐるやうに、宣傳は、社會内に衝突が存するときには、何時でも、何處でも、發生する。^(註14)そして、別段立入つた議論を行ふまでもなく、衝突がアメリカに於ける生活の到るところに見られることは痛い程

明白である。相抗争する集團は、中立及び敵の陣營から自分の味方を引き抜かうと努め、或は、宣傳を使用して自分等の立場を強めようと企てる。衝突が存するところ、相抗争する宣傳の二つの型は、不可避である。衝突は、社會構造に於ける不均衡によつて齎らされるところの、個人の心界内の不均衡を意味する。その結果として生ずる、これ等個人の經驗する緊張は、對立する宣傳家達によつて提供される萬能薬によつて解消され、若しくは、解消されようと試みる。それ故に、宣傳は、社會のこの不安定状態を現實に反映するのである。

多くの民衆が、漠然とアメリカ流と云はれてゐる或る制度を支持してゐるアメリカの如き國に於ては、少數黨、特に急進的な團體の努力を宣傳と稱すべきであるといふことが、一般に認められてゐる。

「ニューヨーク市公立學校の學童は、彼等の公民教科書(吾等の市ニューヨーク)の何處にも、クマニー・ホール又は彼等の市の超法律的政府に關する何等の記述をも發見し得ない。彼等の教育を完成する爲め、非黨派的改革組織たる市務委員會は、先週、不注意な教務局に對して、新たな教科書を提供した。それはクマニーに關する記述を以て充たされたものであつた。そしてニューヨークとシーベリー調査と呼ばれるものであつた」^(註15)

概して云へば、従前通りの公民教科書は「教育」と呼ばれ、「新たな教科書」は「宣傳」と呼ばれる。併し、當時、市政と學校制度とを共に支配してゐたクマニー・ホールに對する、政治的反對者は、かやうにして、クマニー・ホール一派の宣傳的性質をも摘發することができたのである。この教科書を用ひてゐた市の教師達の大多數が、兒童に對して市政の理論的構成を説明してゐるに際して、恐らくは、學生を「教育」してゐると考へてゐたには相違ない。併し、實は、彼等は、クマニーの力を云々することなくして、結局はクマニー・ホールの爲めに宣傳を行つてゐたのである。彼等は兒童に對して非現實的なステロ版を與へつゝあつたのである。そして、このステロ版が地方政府に對する彼等の態

度を決定することになるのである。同様にして、資本主義的組織を信する者は、共産主義者は悪意を以て共産主義を宣傳すると主張し、これに對して共産主義者は、資本主義者が、屢々無意識裡に、宣傳によつて自己の制度を擁護してゐると主張する。

繰り返して云はねばならぬことは、宣傳を研究する者が、宣傳は正なりや邪なりや、善なりや悪なりや、を決定することを強いられておはしない、といふことである。彼が決定せねばならぬことは、宣傳とは何であるか、といふことのみである。この仕事を遂行する爲めに、彼は彼を圍繞する社會力から彼自身を隔離せしめねばならない。彼は或る程度の距離 distance をとらねばならない。何故かと云へば、距離は、公平な、客觀的社會的思惟にとつて第一の、そして恐らくは最も重要な要件だからである。若し彼が暫時の間、距離をとつて觀察するならば、暗示によつて態度を制御する「教育家」が社會遺傳の或る様相を傳達する場合も、一般に宣傳家としての定評のある人達が特殊の事業の爲めに協力するやう、又は特定の商品を購入するやうに民衆を導く場合も、民衆に對する効果といふ點では同じであるといふことを知り得るであらう。「社會的制御」のこれ等二つの型の中に存する唯一の差別的特徴は、それ等の目指す目標の相違を措いては、制御を實行しようとしてゐる人の意圖あるのみである。「教育家」は札附きの「宣傳家」程、彼の行つてゐることの意義を意識しない。それ故に、意圖的 intentional と無意圖的 unintentional とは二つの型の宣傳を區別することが必要である。これ等二つの型は、兩者が共に個人の集團に影響するといふ限りに於ては等しいが、宣傳家自身の意圖に關しては兩者の間には區別が存する。(註16)

三、宣傳と教育

この區別は、多くの思想家が教育と宣傳とを區別しようとして試みる場合にその前に横はる陥穽を回避することを得しめ

る効果がある。多くの學者は、その説述の或る點に於て、これ等兩者の間を劃する「鋭い線」がないことを認めることを強ひられるやうに感ずることがある。これ等の學者は、後に述べるやうに、無意圖的宣傳を認識し損ふのである。何故かと云へば彼等は此の型の宣傳の目標を、「真理」に向つての努力と見るからである。換言すれば、彼等は彼等の習慣、傳統から蟬脱することができなかつたのである。(註17)若し個人の態度が、前に定義したやうな意味に於て暗示を使用することによつて、制御されたとすれば、この過程は、宣傳家が制御を行使することを意圖したか否かを問題とすることなく、一律に宣傳と呼ばねばならない。これに對して、若し個人が、同じ結果が暗示の力を借りても借りなくとも得られるといふやうなやり方で影響を被つたとすれば、この過程は教育と稱せらるべきものであり、教育者の意圖如何を問はなす。

それ故に、科學的段階又は科學的手續の域に達した知識又は技巧の告知は、教育であつて宣傳ではない、といふことになる。例へば、化學の研究は科學的のものとなつた。といふ意味は、化學を研究する者は、その教師が何人であらうとも、その教育方法が如何なるものであらうとも、大體に於て同様な「事實」の一群を習得する、といふことである。かくの如きものとしての「純粹」化學は、教師又は學生を動機づける態度とは無關係に把握され、知覺される。學生が教師から受取つた暗示の結果として特定の化學問題を解決することは勿論であるが、問題の解答は暗示によつて單に容易になつたのみであり、暗示に倚靠しはしない。これに對して、若し學生が、化學は宇宙の凡ゆる問題を容易に解決せしめ得るといふことを信するやうに教へられたとすれば、彼は宣傳を被つてゐることになる。何故かならば、かやうな考へ方は科學的に認容されたものではなく、従つて、それは何等の客觀性を持たないからである。著者は、化學が一切のステロ版を缺いてゐると主張する者ではない。否、寧ろ問題とされてゐる主體はこれ等ステロ版によつて充たされて

をり、そしてこれ等のステロ版は「假定」と呼ばれる。併し、かゝる假定は、有能な化学者達によつて殆んど普遍的に容認されてをり、研究に於て成果を収めることが試験済である。にも拘はらず、これ等の假定の存在と維持とは特殊な化学者の個人的態度に倚靠せずして、特定時代に於ける問題自體の態度に倚靠するのである。

學生に對して社會現象に對する科學的接近を教へる社會科學の教師は教育家である。かゝる接近は、既存の、關係的態度を喚起すべき暗示を使用することなくして理解することができる。併し、學生達をして、彼の時代の思想が總ての社會に於て普遍的に妥當するといふことを信ぜしめようと企てることゝの教師は、宣傳家である。資本主義の擁護者も、共產主義の主張者も共に宣傳家である。何故かと云へば、資本主義も共產主義も、決して、一切の社會惡に對する絶對的秘薬を提供し得ないからである。要するに、教育の眞體は、その時代に於て行はれてゐる科學的眞理に照合せる客觀性であり、これに對して宣傳は、意圖的たると無意圖的たるとを問はず、民衆の態度を制御しようとする企圖である。それ故に、この意味に於ける宣傳は、皆て或る調劑者が云つたやうに、「他の者が行つてゐること」ではない。非科學的なやり方をし、人々に影響する爲めに暗示を用ひてゐる場合には、双方とも宣傳を行つてゐることになるのである。

ラムレー教授の宣傳の脅威は、社會に於て無意圖的宣傳の存在を認め損つたときに思想家が陥るべき混亂を、極めて簡潔に描寫してゐる。著書の標題が示す如く、著者は、宣傳といふ怪物を殺戮しようとする努力してゐるのである。それを遂行する爲めに彼は教育と宣傳とを對比せしめる。教育に關する彼の考へ方は模範としてゐる。

「吾々は彼等(若い人々)を取り圍むに、有用な生來の能力の最大の擴張と完成とを確保するに足るべき環境を以てするには、如何にすべきかといふことを知らうと努めてゐる。吾々は次第に……生得の能力と潛勢力とが充實した結實に到ることを助けることを習得しつゝある。實に吾々は教育といふ言葉の始原的意義——抽出しつゝに復歸しつゝある」(註18)。

第二章に於てラムレーは宣傳に關して世間に行はれてゐる定義を検討し、その總てを排斥する。その理由は、それ等の定義が教育と宣傳とを區別することを得ず、若しくは餘りに漠然としてゐるからである。それ等に替へて彼は次のやうな綜括的定義を提言する。即ち、

「宣傳は(1)その起源又は淵源、(2)その中に含まれる利害關係、(3)用ひられる方法、(4)云ひふらされる内容、(5)犠牲者の被る結果の孰れの一、二、三、四、若しくは全部に就いて、何等かのやり方で覆面されてゐるところの勸奨である」(註19)。

そして、この定義に従ひ、宣傳の歴史の概要を述べた後に(第三章)、彼は彼の著書の半ば以上を「宣傳の内容」(第六章—第十三章)に費やし、又、別の部分に於て、宣傳がその起源を隠蔽することに對して猛烈な反對を唱へ(第四章)、更に、その個人及び社會に及ぼす効果を述べてゐる(第十四章)。一例を挙げれば、この最後の章に於ては、彼は W. H. ハドソン Hudson 教授の家畜群に關する記述を引用、肯定し、「汚れた風」がこれ等の家畜を「その同類が死亡した場所」に突き寄せたときに、彼等は驚走状態に陥つた例を擧げる。更にラムレーは附加へて、

「これは、吾々が社會的擾亂を云々するとき吾々の意中に描かれる光景の極めて忠實な描寫である。その主なる容貌を抜き出して見よう。先づ第一に、平穩に日常の生活を續けつゝある動物、次には異常な刺戟——汚れた風。第三には、不安の状態。第四には方向轉換。そして、最後には動物の驚くべき憤激と野獸性——而もそれは何の役にも立たない……「吾々が指摘しようとするのは、動物に於ける「汚れた風」に相當する、文明人の刺戟は宣傳である、といふことである。そして、この「汚れた風」といふ名稱は、宣傳に就いて従來考へ出されて來た稱呼の中で、最も適切なものではあるまいか」(註20)。

この種の論戰的筆法は、宣傳の戰火の洗禮に對する反動として、二十年代の初期に現はれた種々な著述の特徴である。三十年代となつては、かゝる筆法の價値はない。最後に、ラムレー教授は、宣傳の脅威を抑制する手段を論じ（第十五章、第十六章）をして、宣傳の問題に對する解決の方法は、教育（獨斷的）な教育ではなく「解放的」な教育と「堪ゆるべからざる社會的條件の改善」とであらねばならぬと結論する。^(註21)

ラムレー教授が丹念に描寫してゐる現代の宣傳の實例は總て、無意圖的宣傳の範疇に屬するものである。加之、彼の背景は二十世紀の世相であるから、彼は世界史に於て宣傳が演じた役割を充分に認識することができる。にも拘はらず、彼が或る書物に關して、如何にアメリカの公學校に於ける教育が一部分的には他の國民を省察することによつて自國の偉大さを適度に強調してゐる^(註22)かを説いてゐる場合でさへも、彼は無意圖的宣傳の何たるかに氣がつかぬやうに見受けられるのである。而も、この種の宣傳も亦、現實に社會に存在するのである。彼は、宣傳が衝突の所産であることを認める。にも拘はらず、衝突には二つの方面がある以上、現狀に對する意圖的擁護者も無意圖的擁護者も共に宣傳を行はねばならぬ、といふ點を忘れてゐるが如くである。ロイ・ポリー・ポリー氏は、不親切にも、ラムレー教授は彼自身の秩序の強制的影響を「意識せぬ」に相違ないと斷定する^(註23)。併し、問題に對する片面的取扱の根據は、ラムレー教授自身の哲學の中に求められねばならない。即ち、

1. 彼は民主主義を信ずる。そして民主主義なるものは「社會組織の總ての形態の中で最も平靜を要求し、和らげられる感情を要求し、均衡を要求し、頭腦明敏を要求するものである」^(註24)
2. 彼を動機づけるものは「これを検討する總ての者が結局は一致して認めるべく運命づけられてゐるところの意見」としての眞理の概念である。^(註25)

3. それが如何なる形であるにせよ、革命を避ける爲めに、彼は改革せられたる現狀を案^(註26)として見れば、ラムレー教授が、民主主義の平和を擾亂せんとする人々に對して輕侮の眼を向け、宣傳家が彼の眞理の概念から逸脱するときに憤慨の念慮を抱くことは、別に驚ろくに當らない。その結果として、彼等はこれ等の犯人を包括すべき定義を打ち建て、彼の側に於ける宣傳家達、無意圖的宣傳家達を忘れて了つたのである。

ラムレー教授が無意圖的宣傳を閉却した他の理由は、彼の所謂「自由主義的教育」の望ましきことを強調したことに存する。「解放される」のは自由教育を通じてである。同様の、しかもより明確な主張は、大多數の自由主義者が行つてゐる。エヴレット・デイン・マーティン Everett Dean Martin は、公共關係顧問エドワード・バーネ

ース Edward Bernays との論争に於て、次のやうに叫んでゐる。
「教育は判斷の獨立性を目的とする。宣傳は無反省の群衆の爲めに出來合の意見を提供する。教育と宣傳とは、目的に於ても、方法に於ても、全然反對である。」

「教育家は緩徐な發展過程を目指す。宣傳家は短時間の結果を求める。教育家は人々に、如何に考へるべきかを教へようとする。宣傳家は、何を考へるべきかを教へようとする。教育家は個人を發展させようとし、宣傳家は群衆効果を狙ふ。教育家は思惟を欲し、宣傳家は行動を欲する。教育家は、解放された心を齎らさねば失敗である。宣傳家は閉鎖された心を齎らさねば失敗である」^(註27)

初期の著述に於て、マーティンは「總ての宣傳は虚偽である……」^(註28)と爆發的な絶叫を擧げ、自由主義教育に關する著述に於ては「教育家が宣傳家になつたときには、彼は彼の固有の職能を抛棄する」と説いてゐる。^(註29)

同時にラムレー教授は、文化的財産の相続は、假令、この道程に於て行はれる「覆面」が大部分は無意圖的である

にせよ、宣傳であることを認める。^(註30)これを認めることによつて、宣傳と教育との間の絶對的區別は瓦解する。何故かと云へば、ラムレー教授の言ふところに従へば、人間の自然性は、社會的環境と接觸することによつてのみ「發展する」ことができるものであり、従つて個人は、宣傳によつて、彼等の環境に於ける有力な習慣に、無意識裡に服従するものである、とされてゐるからである。若し、自主主義的教育なるものが、個人を「引き出す」ことを本質とするものであるとするならば、引き出されるものは、學生が幼年期に於て、宣傳の結果として獲得したところの、態度及びビステロ版の體系に他ならない。若し、自主主義的教育が、マーティンが主張するやうに、學生に「如何に思惟すべきか」を教へるものでなければならぬとすれば、思惟すべき或る分量の知識を持たねばならないから、その教育の基礎は、宣傳を通じて傳達されたところの文化的相續財産である、といふことにならう。それ故に、ラムレーにせよ、マーティンにせよ、共に、教育と宣傳との間の區別を模索してゐるのではなく、一切の宣傳を回避し得べき教育の方法に向つて手探りをしてゐるのである。約言すれば、總ての社會秩序は、間斷なき宣傳の過程によつて維持されてゐるのであるから、彼等は、彼等の理論によつて、彼等自身及び彼等の學生を、總ての社會的環境から超越せしめようといふ不可能事を企てつゝあるのである。

勿論、ラムレー及びマーティン兩教授の憤激は、最も有害な宣傳に對して向けられてゐるのであるが、宣傳の總てが、必ずしも、ラムレー教授の定義に見られる五つの點によつて、完全に「覆面」される、とは限らないのである。^(註32)加之、ラムレー教授の「覆面された」といふ語の用法は、誤解を招き易い。彼の著書に見られる廣告は、虚偽の廣告のみである。^(註33)このやうな宣傳が眞實を「覆面する」といふことは當つてゐる。併し、この著者が言及せぬ廣告で、かやうな云ひ方の當嵌らぬものもある。全く眞實に合致する廣告でも、虚偽の廣告と同様に個人に影響を與へるものがあり得る。

若し、ラムレー教授が、この種の廣告も亦被害者の蒙る結果に………關しては………「覆面されてゐる」とするならば、彼は個人の心界に言及してゐるのであつて、讀者は、著者が個人の心界を如何に分析するかを知る権利を有する。

然るに、不幸にして、彼の心理學的分析は極めて偶然的である。彼がこの問題を組織的に取扱つてゐるのは、第五章「宣傳家の方法」に於てのみであり、その他の箇所にも、反動する個人を説いてゐることはあるが、總て偶然的に言及してゐるに過ぎない。この章に於て、ラムレー教授は、宣傳家が「周知の傳達の方法を使用すべく餘儀なくされる」ことを説き、これ等の方法の總てを列挙してゐる。又、宣傳家は文學的又は藝術的表現の凡ゆる形式を利用することを説き、これ等の形式を注意深く列挙する。そして最後に、彼等が或る種の「論理的」工夫、例へば抑壓、歪曲、轉換、虚構等を凝すことを説明する。^(註35)宣傳家がこれ等の傳達方法、表現形式を利用することは事實であるが、ラムレーは決して、これ等のやり口が如何に個人に影響するかを説明しない。彼の所謂四つの論理的工夫を記述するに當つても、同様な敘述法を採つてゐる。即ち、

「………宣傳家は………所要の感應を惹起すと彼が判断することのみを………傳達の方法に委ねるやうに、力強く動機づけられてゐる。そして、彼は、その他の一切のことを差控へ、抑壓し、若しくは抹殺する。」^(註36)

併し、かゝる敘述は單に刺戟情勢に關する記述であつて、宣傳家は何故にこれ等の工夫によつて個人の心界を左右しようとするかといふ問題は無視されてゐる。^(註37)宣傳に關するより重要な心理學的原理は、この著者によつて、如何なる箇所にも論じられてゐない。畢竟するに、抑壓、歪曲、轉換、虚構等は、一切の心理學的物語を話してくれはしない。恐らくは、若しラムレー教授がより心理學的であつたとすれば、彼は、宣傳を彼の所謂教育から分離せしめようと企てるに當つて、かほどに思切つた態度を採り得なかつたであらう。

一般に教育と呼ばれてゐるもの、大部分を包容するが如き宣傳の定義は甚だ縮りのない概念となり、餘りに多くのものを包括する風呂敷的用語になるといふ非難があるかも知れない。併し、かうした非難は眞向から否定せねばならない。本著者が正に目的としてゐることは、宣傳と所謂「教育」との間には何等絶對的な社會的又は心理學的區別は存し得ず、一つの名稱の意味が明確に決定されさへすれば、二つの異なる現象と考へられて來たものを共に包容するに足りる、といふことを示すに在る。大多數の學者はこれ等の用語を區別するに當つて、社會的諸條件といふ非に陥り、兩者の間に存する密接な親近關係を看過してゐる。併し、「宣傳」といふ用語をしてそれが當然包容すべき總ての現象を包含せしめ、「教育」といふ語をして、科學的材料若しくは接近が依つて以て傳達せらるべき特殊の過程を指稱せしめる方が、より合理的のやうに思はれる。この意味に於ては「宣傳」は、その社會的效果が烙印を押捺されるに適した場合に限つて烙印を與へらるべきである。^(註38)

宣傳に關する乏しい實驗的材料の中から、この理論は一つの興味ある證明を提供される。チェン博士 Dr. Chia は、滿洲問題に關し、或る學生に對しては親日的な講義を行ひ、又、他の學生に對しては支那最良の講義を行つた。^(註39) として、彼は、この二つの講義の影響を測定する爲めに、學生に對して、講義前と講義後とに各項五點宛の廿の項目を與へた。彼が発見したことは、「教室に於て耳を通じて行はれる短時間の激しい宣傳は、この研究に於て述べてゐるやうな條件に於ては、廣汎な、且測定し得べき結果を齎らす」といふことである。^(註40) この結論は別段、驚ろくに當らない。それは、意圖的宣傳が學生の態度に影響を與へ得るといふことを示すのみである。更に、チェン博士は、他の二つの學生群に對して、彼が「中立的材料」と考へたもの、即ち、多分は滿洲問題に關する「事實」のみを敘述した外交協會出版の論文の一部を與へた。彼自身が驚ろいたことには、これ等の集團も亦影響を蒙つたのである。即ち、

「CN組及びVN組(二つの學生群)に現はれた明白なる親日的轉向は、「中立的」宣傳が實は「中立的」でなかつたと推定するか、或は、これ等集團が初めには支那側の觀點に傾いてをり……従つて、「中立的」立場への轉向は親日的轉向を含まねばならぬ、といふ事實を引合に出すことによつて、説明することができる。^(註41)

この例に於て、實驗者は宣傳家たらざらんとする意識的な努力をしてゐる。にも拘はらず、彼にとつて「中立的」と思はれた材料は、中立的な心理學的效果を齎らさなかつた。即ち、チェン博士は不知不識の裡に、無意圖的宣傳家となりつてゐたのである。

四、宣傳の定義

宣傳家の意圖に關する如上の比較的詳細な論述の結果として、今や、宣傳の完全な定義を形成することができる。即ち、意圖的宣傳とは、爲めにするところある一人の個人(若しくは多數の個人)が暗示の使用を通じて個人の集團の態度を制御する爲め、及び従つて、これ等の者の行動を制御する爲め、に行ふところの組織的努力であり、無意圖的宣傳とは、暗示の使用を以てする個人の集團の態度、及び従つて、行動の制御である。

心理學的には、意圖的宣傳家には次の如き利益があるやうに思はれる。即ち、彼は自分の目的を意識してゐるから、能ふ限り巧妙に慎重に、適切な藝術を備へ出すことができる。それ故に、意圖的宣傳を「組織的努力」としたのである。これに對し、無意圖的宣傳家は、意識的目標に適合するやうに計畫して仕事を行はないが、通常、社會内の一切の傳達の仲介物を殆んど完全に支配することができる。即ち、無意圖的宣傳家の意圖的宣傳家に對する優越は社會的性質のものである。一定の期間、多數黨又は少數黨によつて支配される國家に於ては、無意圖的宣傳が支配する傾向がある。この

支配の當初、即ち、國家が力によつて支配される時、及び、この支配の終末期、即ち、支配的權力が他の集團によつて、取つて代られようとするときには、他の一切の宣傳を排除する努力によつて、意圖的宣傳が壓倒的に支配する。

1. 宣傳家の意圖の原理

意圖的宣傳に於て、宣傳家は彼の爲めにすることをあらんとする目標を承知してゐる。無意圖的宣傳に於て、宣傳家は彼自身の行動の社會的効果を自覺しない。(註せ)

- 註 1. James Mackaye, *The Logic of Conduct*, New York, 1924. 及び同著者 Reason (上梓中) 参照。
註 2. この語は實際的には(例へば、フランス語に於て最後の a が、)となるが如し)メソッド語を含み總ての主要歐洲語に於て同一である。但し、その正確な含義は文化を異にするに従つて幾分の相違がある。
註 3. Frederick E. Lunley, *The Propaganda Menace*, pp. 21—44, New York, 1933.
註 4. 兄弟に互る恨れがあるから著者の蒐集した幾百の定義を列挙することは省略し、茲では代表的な重要なものをのみを拾ひ出すに止める。宣傳家の利己的性質を強調するものとして Leon Flint, *The Conscience of the Newspaper*, p. 148, New York, 1925. 及び引用せしめる Arthur Brisbane の著者 C. F. Higham, *Looking Forward*, p. 186, New York, 1920; Everett D. Martin, "Our Invisible Masters," *Forum*, 1929, v. 81, p. 142; Gerhard Schulze-Pfeizer, *Propaganda, Agitation und Reklame*, p. 56, Berlin, 1923; Lunley, op. cit., p. 39 及び引用せしめる Beatie L. Pierce の著者 Edgar Stern-Rubarth, *Die Propaganda's Politisches Instrument*, p. 7, Berlin, 1921.
註 5. Albert Moussef, *La France Vue de l'Étranger*, p. 127, Paris, 1926.
註 6. Lunley, op. cit., p. 34. 及び引用せしめる Calvin Coolidge, Leon N. Flint, op. cit., p. 143; Friedrich Schenemann, *Die Kunst der Massenbeeinflussung in den Vereinigten Staaten von Amerika*, p. 30, Stuttgart, 1924; Editorial, *World Tomorrow*, 1927, v. 10, p. 148; R. J. R. G. Wetford, "Propaganda, Evil and Good," *Nineteenth Century*, 1923, v. 39, p. 514.

- 註 7. Edward L. Bernays, *Propaganda*, p. 25, New York, 1928; Edward L. Clark, *The Art of Straight Thinking*, p. 307, New York, 1932; Selva Eldridge, "The Organization of Society," in Jerome Davis & Harry E. Barnes (ed.), *An Introduction to Sociology*, p. 616, Boston, 1927; W. Brooke Graves, *Lunley*, op. cit., p. 38; Lunley; Charles Menz, "The Propaganda Against Mexico," *World Tomorrow*, 1927, v. 10, p. 152; Raymond Pearl, "The Biology of Superiority," *American Mercury*, 1927, v. 12, p. 260; Ferdinand Tönnies, *Kritik der Öffentlichen Meinung*, p. 79, Berlin, 1922; George S. Viereck, *Spreading Germs of Hate*, p. 11, New York, 1930.
註 8. Peter H. Odegard, *The American Public Mind*, p. 178, New York, 1930; J. L. Woodward (Lunley, op. cit., p. 39 及び引用)。
註 9. L. L. Bernard, "The Psychological Foundations of Society," in Davis & Barnes, op. cit., p. 486; John Carter, "Propaganda—As Seen in Recent Books," *Outlook and Independent*, 1930, v. 155, p. 471; Knight Dunlap, *Social Psychology*, p. 247, Baltimore, 1925; Horace B. English, *A Student's Dictionary of Psychological Terms*; T. L. Gilmour, "The Government and Propaganda," *Nineteenth Century*, 1919, v. 35, p. 148; J. R. Kantor, *An Outline of Social Psychology*, p. 285, Chicago, 1923; E. T. Krueger & Walter C. Reekless, *Social Psychology*, p. 129, New York, 1931; Walter Lippmann, *Public Opinion*, p. 26, New York, 1922; A. Lawrence Lowell, *Public Opinion in War and Peace*, p. 105, Cambridge, 1923; J. E. Morgan, "Propaganda," *Education*, 1925, v. 46, p. 52; Edward A. Ross, *Lunley 及び女性雑誌* Lunley, op. cit., p. 28. 及び引用 Campbell Stuart, *Secrets of Crewe House*, pp. 1—2, New York, 1920; Rudolf Wiehler, *Deutsche Wirtschaftpropaganda im Weltkrieg*, p. 1, Berlin, 1922.
註 10. H. F. Gosnell, quoted by Lunley, op. cit., pp. 38—39; Quincy Wright, quoted in *ibid.*, pp. 39—40.
註 11. William W. Biddle, *Propaganda and Education*, p. 1, New York, 1932; Raymond Dodge, "The Psychology of Propaganda," *Relig. Education*, 1920, v. 15, p. 242; Cecil C. North, *Social Problems and Social Planning*, p. 117, New York, 1932.
註 12. Harwood L. Childs (Lunley, op. cit., p. 37 及び引用) E. P. Herring (註せ) Harold D. Lasswell, *Propaganda Technique in the World War*, p. 9, New York, 1927; Jack Levin, *Power Ethics*, p. 13, New York, 1931; Lunley, op.



tion, 1928) は無意識的宣傳の概念を用ひはしなかつたけれども、これに關する敘述を行つてゐる。最後に、Edward L. Bernays は、社會の凡ゆる部門に於て宣傳が不可避的であることを説いて、彼の「職業」を擁護してゐる(彼の哲學に關する論述は一八六頁以下参照)。

註39. William Kehr-Ching Chen, "The Influence of Oral Propaganda Material on Students' Attitudes," Arch. Psychol., 1933, v. 23, no. 150.

註40. Ibid., p. 23.

註41. Loc. cit.

註42. 「宣傳の諸原理」は爾後、各章の終りに二つ二つ提示せられる。總ての原理の完全な説述を求めるならば、讀者は卷末附録四〇四頁を参照され度い。

第七章 知覺と宣傳

一、知覺の問題

哲學者によつては、如何にして人間の精神が外界のものを把握するかといふ問題は、常に、最も困惑的な謎であつたし、又、恐らくは、將來に於ても同様であらう。個人としては、汝の人格の現實の「汝」は、組織と骨との骨組の中に入れ込まれてゐるといふことが、大真面目で云はれてゐる。この骨組の外部には汝の物的及び社會的環境が横たはつてゐるのである。併し、「汝」と環境との間には、何等かの形に於けるかなり恆常的な連絡が存せねばならぬことは明白である。そこで、次で起る問題は、連絡によつて傳達されるもの「現實性」に關する問題である。即ち、環境は獨立的存在を有し、従つて、それは人間の神経系統の機構を通じて人間に傳達されるのみであるか、或は、環境は人間に倚靠

し、人間がそれに存在を與へるのであるか？この場合に於ける哲學上の二者擇一は、大部分は、「現實在」とか「存在」とかいふ語の定義の問題であり、そして、思惟する個人によつて選定された特殊の定義は、通常、この個人が偶然持ち合せてゐた氣質的偏倚性に倚靠する。哲學者は又、人間が外界から獲得する知識の「妥當性」に就いても困惑し、従つて、この問題に關して數百年に亘つて重苦しい思索が行はれ來つたにも拘はらず、問題は依然として未解決の儘殘されてゐる。

一般人も心理學者も共に、これ等の形而上學的、認識論的問題を、意識的に、或は無意識的に回避して來た。人間が、何等かの方法で、外界を把握し得るといふことは、經驗の教へるところであり、デカルトの「知る、故に吾在り」"Cogito ergo sum"の主張、又は、自分の非因果的意識の流れを認めることを懷疑的に厭がつたヒュームの態度、と同様に、獨斷的に認容せねばならぬことである。諸君及び私が感ずる人生は、正にかくの如きものゝやうに思はれる。然るに、心理學者は——彼の特殊な説明の平面に於て——はあが、そして、その平面は、必ずしも常に、より悪摺られた哲學者によつて全面的に受け容れられるものではないが——外界の把握が現實に行はれる「何等かの方法」を説明しようとして來た。人が、人の外部に在る環境の變化によつて刺戟されるときに、人がこの變化を經驗する、といふことは、少し許り自己省察を行ふことによつて忽ちにして立證される。人は、光の波に含まれたエネルギーにより、音波の動きにより、鼻腔の粘膜に接觸する蒸氣により、口の中の化學的物質の反應により、皮膚の變形を來す物により、刺戟される。これ等の刺戟情勢が「何故に」人間を刺戟するかを分析することは到底不可能である。何故かと云へば、「何故に」の問題は、例へば、「何故に」水は水平を求めぬか、の問題と同様に、人間によつては無意味だからである。かやうな分析は洗練に洗練を重ね得ることは疑を容れぬところであり、研究者と大衆とは満足を感じずるかも知れない。

いが、決してこれによつて救はれない。

最初の刺激があつたか、又は、推定されたかした後、心理學者は、生理學的資料を頼りにして、その刺激が神経系統を經過する道筋を敘述し、最後には、神経系統内の一つの過程として呈示する。それが意識と同一の場合もあらうし、同一ならざる場合もあらう。この刺激が意識にまで到達した場合に、「かくの如きものとしての」この刺激の主觀的報告は、感覺 sensation と云はれる。心理學者は、彼等及び彼等を觀察する者の意識裡に生じたものを描くに最も適當した言語と思はれるものを發見することによつて、感覺を分類し、分化し、檢認する爲めに、多くの、恐らくは餘りに多くの雜誌、著書の頁を埋めて來た。宣傳の研究者は感覺の問題とは無關係である。

加之、意識に於て報告されるものと、外界の刺激情勢が常に生ぜしむべき感覺との間に、或る種の「齟齬」を發見することは、人間共通の經驗である。現實に報告されるものは知覺であり、常に報告せらるべきもの（そして刺激情勢の或る部分に對してのみ感應するやうに訓練された主體によつて報告されるもの）は感覺である。鐵道線路が水平線の近くで交叉するやうに感ずるのは何人も經驗することであり、而も、線路が常に並行してゐることは數學的事實である。當然、並行状態が感覺せらるべきに拘はらず、交叉が知覺せられたのであるから、この現象は「幻覺」"illusion" と呼ばれる。けれども、刺激情勢が、歪曲せられたる効果を發せしめる條件とは異なる條件の下に出現する姿に於て觀察されるときは、それは單に「幻覺」に止まる。勿論、特殊な瞻立から得られた知覺は、主觀的には妥當であり、意識内に他の要因が存せぬ限りは、決して異なることはないであらう。遠方の線路は接近せぬ限りは決して並行には見えぬ。そして、接近した場合には線路は最早遠方にはないのである。同様に、映畫の映像は「表見的に」のみ動くこと云はれる。現實には、吾々が判斷し得る限りに於ては、映像が動いてゐるのである。同じ効果を發せぬやうな別の諸條件

と比較した場合のみ、それは「幻覺」と云はれるのである。又、知覺は、刺激情勢の內面的排列に倚靠するものであり、他の事情に於けるこの排列によつて發生せしめられた知覺と異なることがある。

更に、知覺は、感覺する個人の態度といふものによつて影響される。敵手を殺害することに氣を奪はれてゐる惡漢は、彼の目指してゐる相手に或る程度似通つた無辜の者を誤つて殺すことがある。この場合にも亦、外部的世界の印象が、この附加的精神的要素によつて「歪曲され」たのである。要するに、個人が知覺するものと、知覺を生み出す刺激情勢との間には、何等必然的な唯一無二の關係は存在しないのである。この理由により、知覺といふこの心理學的問題、即ち、現實に存在する正確な關係を決定しようといふ問題が生じたのである。^(註2)

心理學者達は知覺の問題を極めて組織的に研究した。彼等は種々な「幻覺」を説明する爲めに數多の理論を打建て、何故に二次元の網膜上の感應が三次元の知覺を惹き起すかといふことを説明したり、精神状態又は態度の現實に知覺される刺激情勢の上に及ぼす影響を證明したりする爲めに幾多の努力を費やして來た。この問題を腦裏に描きつゝ、良心的なドイツの哲學者グスターフ・フ・ヒナー Gustav Fechner は、「精神物理學」"psychophysics" として知らるゝ一派の心理學を創始し、次のやうな周知の事實を數學的公式に還元しようと企てた。即ち、味の薄いコクテールの中に加へられた一滴のピクターの効果は、既に充分香料を混ぜたコクテールに更に一滴のピクターを入れた場合よりも容易に知覺される。而も、これ等二つの場合に於て一滴のピクターの強さには變りはないのである。

一九一〇年代に、ドイツに於て教育を受けたデンマークの心理學者でルービン教授といふ人が、デンマーク語で心理學の小著を刊行したが、その中では、簡便な、純科學的にあらざる言葉によつて、知覺の過程が描き出されてゐる。それは、一般人にとつても、心理學者、就中、社會心理學者にとつても極めて有益である。「純粹」感覺を求めた心理學

者とは異なり、彼は一人が感應する環境の總ての要因の影響を素直に求めてゐる。刺戟情勢に於てルービンは「圖形」"Figure"と「地」"Ground"（實際に背景）とを區別する。前者は意識の内に明確な輪廓を以て現はれ、後者は幾分模糊としてはゐるが、圖形の生み出す効果には貢獻してゐる。

「同一の範圍に屬する經驗對象の間には、概して次のやうな區別がある。即ち、經驗對象が圖形である場合には、大體に於て、それが地である場合よりも一層透徹力が強く「より透徹的」"enhanced"であつて、それが意識を支配する。それ故に、一般には、地のことよりも先に圖形が云々されるのである」(註3)

オーストラリア及びこれを圍繞する島嶼群の地圖を眺めるときに、これ等陸地の部分は直ちに注意を來くであらう。これ等の陸地は地圖の知覺に於ける圖形であり、大洋は圖形を浮き上らせる地である。これに對して、海洋學の研究生は別種の地圖を使用する。この地圖に於ては大洋が彩色されてゐて陸地は彩色されてゐない。かやうな海圖に於ては水が圖形であつて陸地が地である。勿論、通常的地圖に於て海洋の状態を見ようとする場合には、見る者の態度が恐らくは知覺の上に影響を與へ、陸地を見ずして海洋のみを見ることができ得るであらう。殆んど總ての知覺行爲に於て、刺戟情勢の或る部分は圖形であり、その外廓に地が現はれる。

二 宣傳の知覺

述べ來つて茲に到れば、宣傳家が知覺に就いて有する關心は可成り明瞭になつた筈である。暗示によつて人々の集團の態度を制御し、延いては彼等の行動を制御することは、それが意圖的に行はれると無意圖的に行はれるとを問はず、宣傳家の眼目とするところである。彼が精神感應術の信者にあらざる限り——假令、彼がこれを信ずるとしても、問題は彼が通信を送つたといふことに確信が持てるまでは、解決されない——彼は人々の集團をして、彼が依つて以て彼の影

響を與へようと努力してゐるところの刺戟情勢を、知覺せしめなければならぬ。何故かと云へば、知覺行爲は、次の過程の一又は兩者を含むからである。即ち、先づ第一に、或る種の宣傳に於ては、人々をして宣傳家の目標を把握し得しめるやうにする。第二には、宣傳の根柢に在る暗示の過程が倚靠するところの關係的態度と補助的態度の大部分を喚起せしめ得るやうにする。宣傳家が彼の刺戟情勢を把握せしめることに全然失敗したとすれば、彼は宣傳家ではなく寧ろ、宣傳の方面に野心を持つ者といひ得るに過ぎない。

贅言を費やすまでもないことではあるが、總て社會的環境といふものは、そして特に現時の夫は、極めて複雑多岐であるといふ事實を明確にして置く必要がある。個人は文字通り、四面から刺戟情勢の擲撃を被つてゐる。小規模な孤立した社會に於ても、個人は有り合せの總ての刺戟に感應することはできない。人間として、及び、不可避免的に或る特殊の訓練を受けた人間として、彼は彼が反應を呈する情勢の數に關して制限せられてゐるし、又、彼自身この數を制限するのである。多くの情勢は彼にとつては單なる地としか思はれない。そして大多數の情勢は彼に何等の影響も與へない。

個人を圍繞する凡ゆる環境が總て地であると考へれば、宣傳家が彼の刺戟情勢を能ふ限り頻繁にこれ等個人の圖形として現出せよとすることは、彼の心理學的野心となる。彼は環境及び彼の敵手たる他の宣傳家によつて提供されるところの「注意散逸」"distractions"と闘はねばならない。宣傳家が、彼の意圖を表明しようとする場合には最も理解される蓋然性の多いと考へる通信を、然らざる場合には人々の集團に於ける既存の態度を喚起する蓋然性の最も多い通信を、先づ決定するのであるが、然る後に、宣傳家が、如何なる通信の用具が最も機宜に適してゐるか、視覺に訴ふべきか、聽覺に訴ふべきか、を決定する爲めに沈思黙考これを久しうする場合が屢々あるのである。

例をトマトジュースの製造業者にとつて見るならば、彼の製品が栄養價值が高く、而も安價であることを人々に知らしめたときに、彼の製品がよく賣れるやうになる、といふものが彼の最初の結論であるとする。そして、その栄養價值を證明する爲めには白衣を纏ふた「醫者」を用ひ、價格の點は定價を發表することにしたとする。この場合にも、彼は何れの掲示板又は定期刊行物が最もよく讀まれるかを發見せねばならないし、面白いラヂオのプログラムでも放送した方が宣傳効果が上がるのではないか、等と迷はねばならない。

復、人々は宣傳家の通信を見たり聞いたりせぬかも知れないし、恐らくは進んでこれを見聞する爲めに乗り出す者とは稀であらう。何故かと云へば、人々は通常、夫々彼等を動かす他の關心を持ち、そして、これ等の關心は、宣傳家が飲口をつけようとする關心とは凡そ縁の遠いものであるかも知れないからである。それ故に、宣傳家の通信が知覺される以前に、即ち、宣傳が宣傳としての機能を發揮するに先立つて、何等かの誘ひの好餌を具へることが必要な場合が屢々あるのである。宣傳家はこの種の餌を豊富に持ち合せてゐる。といふのは、彼は、既存の補助的態度を喚起し得るからである。これ等の補助的態度は、それ自體、心界内に生ずる新たな組織の一部分となることは決してないが、人々をして宣傳家の刺戟情勢の方に方向を向けしめるには役立つ。これ等補助的態度は、補助的態度として、人々を、宣傳家が知覺せしめることを欲するものを知覺するやうに誘導する。かうなつた後には、宣傳家の狙ひ處を理解させる仕事、若しくは、暗示の過程に於て關係的態度を喚起する仕事は大いに容易になるのである。トマトジュース製造業者の廣告には非常に美しい婦人の繪が出てゐるが、それは人々をこの廣告の方に牽きつけることを目的とするものである。然る後に人々は、この婦人の指先の下に、トマトジュースの品質と安い價格を物語るお話を讀むのである。

不幸にして、大多數の心理學者は、補助的態度の目的に關して誤解を抱いてゐる。彼等は、補助的態度は人々をして宣傳家の通信を受認せしめるやうに導くものであると信する傾向を持つてゐるが、實は、補助的態度は單に通信の存在に注意を牽くだけかも知れないのである。^(註1) 繰り返して云ふが、勿論、宣傳家は補助的態度を以上兩様に利用することを試みるのではあるが、宣傳家が補助的態度の知覺的價值によつても利益を被ると考へることは依然として合理的である。

宣傳家が通信を選択し、それを傳達すべき手段を決定し、潜在的改宗者を牽きつけるべき補助的態度の見當をつけた後にも、彼は更に、能ふ限り多數の人が彼の情勢を知覺することを確かめ度いと感ずる。その爲めに、彼は出來得る限り頻繁に彼の情勢を繰り返す。知覺の工夫としての反覆は情勢が知覺される蓋然性を増加する。かくして、宣傳家の發行する書物には、同一の冊子に度々、同一の記述が繰り返される。最初にこの記述が載せられてゐる箇所を氣が附かずに通り過したか又は理解せずに通り過した讀者も、第二、第三、第四の箇所では遂にはこれを知覺するに到るであらう。この意味に於ては反覆は單に最初の知覺を意味するのみである。併し、反覆は、既に宣傳家の刺戟情勢を知覺した者に影響を與へる爲めにも利用されることがある。この場合には、反覆といふ過程は知覺的機能を有せずして補強的機能を有する。^(註5)

最後に、宣傳家は一つの知覺的工夫を持つてゐる。單純化が是である。宣傳家は、多くの現象が、素人に把握せらるべく餘りに複雑、微妙であることを知つてゐる。人々をして宣傳家の目標を理解せしめ、必要な關係的態度を彼等の内に喚起せしめる爲めには、情勢を單純化して、それまでは神秘のやうに思はれてゐたことが理解できたといふ感じを人々に抱かせる方法もある。例へば、近代科學は莫大な威信を持つてをり、その爲めに、一般民衆は、かくも彼等の日常生活の上に力強い影響を與へつゝあるこの複雑な力を理解しようとすることに熱心である。若しかうした人達が、自

分はかうしたことを理解してをり、それ故に科學的研究の或る様相の利益をも享受しつゝあるのだ、といふ印象を受けたとしたら、彼等は誇らしくも思ふし、喜びもするであらう。さればこそ、廣告業者は、彼の得意先の爲めに、ウツタミンの困難極まる問題に手を附けることになるのである。そして、延いては、多くの人々が、普段は買はない品物を買ふことによつて、食料問題の大部分を解決し得たといふ妄想を抱くやうな結果になるのである。意圖的又は無意圖的歪曲が、宣傳家の目的に合致せぬやうな詳細の點を省略することにより、單純化をも意味する場合があり得る。併し、歪曲は、反覆の第二の場合と同様に、別の心理過程の爲めに用ひられる。^(註6)又、その形式の如何に拘はらず、單純化が効果を發揮し得るのは、宣傳の對象になる人々が當該問題に關して適當な知識を持たないといふことに因るのである。

2. 知覺の原理

宣傳家は彼の刺戟情勢を、これと効果を争ふ背景から極立たせるやうにする。

a. 補助的態度の知覺的原理。

宣傳家は補助的態度を喚起することによつて彼の刺戟情勢を極立たせる。

b. 反覆の知覺的原理。

宣傳家は彼の刺戟情勢が知覺される蓋然性を増加する爲めに、刺戟情勢を反覆する。

c. 單純化の知覺的原理。

宣傳家は刺戟情勢を知覺の手の届くところに齎らす爲めにそれを單純化する。

註1. 二四頁以下態度に關する論述參照。

- 註2. 著者は、トロランド教授の提唱するところの、どちらかと云へばあまり正統的でない知覺の定義に従ひつゝある。L. H. Troland, *The Principles of Psychophysiology*, v. I, esp. pp. 215-218, New York, 1929.
- 註3. Edgar Rubin, *Visuell Wahrnehmung Figuren*, p. 67, Copenhagen, 1921.
- 註4. この誤謬は一四頁以下に於て詳細に論ぜられる。
- 註5. 一三〇—一三一頁參照。
- 註6. 一三二—一三三頁參照。

第八章 宣傳の型

心理學に於て「型」, *type* を云々することは危険な仕事である。何故かと云へば、型は、種々な種類の行爲の間、又は、或る個人と他の個人との間の絶對的區別を意味するからである。かゝる區別は、相當の數の「型」が考察の對象とされた場合には、支持すべからざるものであることが明らかになる。熱心な統計學者は、區別は最早絶對的にあらずして、相對的であるといふことを指摘し得るに至るのである。曾ては二つの型と考へられて來たものが、今や、正常の分布を有する曲線の兩極端であることが明らかにせられ、その兩極端の間には、二つの最初に選定された規範を種々に混合したものが介在することが判るのである。人は瘠せてゐるか肥つてゐるかではない。人間の重量は極めて廣い幅を有するのである。

同時に、「型」を假定することが極めて便利な場合が屢々ある。例へば、誰でもが卓越した航空士たり得る譯ではなく、それ故に、航空士になり得る人を、航空士になり得ぬ人から區別することは、經濟的である。この能力を決定する

特殊の性質には、恐らくは量的に差等があるのであらう。型に區別することは、單に、曲線上の二つの社會的に意義ある部分を示すに過ぎない。同様にして、區別し得べき凡ゆる種類の宣傳の傾向を指示する爲めに「宣傳の型」を定めることは正常なことであらう。

然るに、宣傳の型は、通常、學者の社會學的又は道德的關心に應じて、恣意的に決定されて來たのである。宣傳の或る實例は、その目的が「善い」とか「悪い」とか、「直接的」であるとか「間接的」であるとか、「單純」であるとか「複雑」であるとかいふやうに、目的に關聯して分類される。目的を標準として宣傳を論ずることは、人間の行爲の大多數の社會目的を列挙しようとするに等しい。筆者の見解に従へば、宣傳は考へ得る一切の目的に向けられ得る宣傳の目的に關して制限された見解を抱く學者のみが、これ等の目的を單純化して表に示さうと企てるのである。

又、他の學者は宣傳家の手段に對して道德的判斷を下し、「正直」又は「不正直」、「無害」又は「有害」、「單純」又は「複雑」といふやうな型に區別した。併し、手段を非難したり賞讃したりしたところで、現實に作用しつゝある心理學的過程に對する洞察が得られはしない。かうしたやり方で説教することは、實は、宣傳家の刺戟情勢を一つの倫理的體系の中に投げ込まうと企てることに他ならない。

それ故に、宣傳の型が據つて以て決定せらるべき他の二つの標識が残る。即ち、宣傳家の意圖と、彼の刺戟情勢によつて人々の上に發生せしめられた效果とである。宣傳家の意圖に就いては、その求むる目的に關しては、彼自身の支配的態度に關聯して、既に論じた。^(註1)意圖的宣傳家と無意圖的宣傳家とがあること、及びこの區別の理由に就いて説明を行った。筆者はこの區別が二つの絶對的に區別された型を意味することに何等の疑念を持たない。宣傳家は屢々、彼が發生せしめようと意圖したとは異なる效果を、無意圖的に發生せしめるものである。かやうな二分的區別は少なく

とも鮮明的價值を有する。

第二の標識、即ち、用ひられたる心理學的方法はこれよりも遙かに重要である。窮極の分析に於ては、宣傳家と宣傳の對象たる個人とを問はず、その關心を牽くこと最も著しいのは、個人が如何にして宣傳家によつて影響されるかといふ點である。宣傳家は彼に成功を齎らすべき技巧を探索する。又、宣傳家の影響から部分的にでも解放されようとする個人は、彼等が如何にして宣傳に乗るかといふことを知ることを要する。

知覺の心理學的原理を基礎として宣傳の型を表象することは殆んど不可能であらう。何故かと云へば、前章に於て述べた三つの知覺的工夫の何れか、又は總てが、常に、凡ゆる宣傳戦に於て用ひられるからである。總ての宣傳家は、自分の刺戟情勢を、他の競争關係に立つ社會情勢の地に對して、固形の地位に置かうと努力する。^(註2)又、大多數の宣傳家は、彼等の情勢を極立たせる爲めに、補助的態度を喚起する(2. a、補助的態度の知覺的原理)。この豫備的欲求の性質に従つて宣傳の型を決定することは(性慾宣傳「健康宣傳」、「安全宣傳」等)、宣傳の目的を基礎とする區別にも比すべきやり方である。何故かと云へば、これ等の態度は、宣傳家の熱望と同様に、多種多様だからである。或る種の宣傳を「單純化」と呼び、他のものを「非單純化」と呼ぶことは(2. c、單純化の知覺的原理)、延いては、常に「眞理」に關する或る問題を提起しつゝあることを意味する。即ち、何時何人に對して「眞理」又はその一部分が單純化されてゐるのであるか、又、何時それは單純化されてゐないのか、といふ問題が始終起るのである。最後に、或る宣傳を「反覆的」と云ひ、他の宣傳を「非反覆的」といふことは(2. b、反覆の知覺的原理)宣傳の過程に含まれる心理學的問題を餘りに等閑に附する嫌がある。大多數の宣傳は「反覆的」であり、従つて、かゝる標準は餘りに包括的で、ごつた煮の度を過ごしてゐる感を免かれない。

次に考察せらるべきは、この區別の標準としての「暗示」である。この標識は最も有用なものであるべき筈である。何故かと云へば、知覺の問題を措いては、暗示は、宣傳の問題の心理學的焦點だからである。宣傳の定義上も、暗示自體の定義上も、宣傳家が彼の支配を實行しようとするものは暗示を通じてある。この理由により、そしてこれを唯一の理由としても、暗示は、宣傳の型を決定する爲めの手段として選ばれた。

型の探究は上述の域に止まらない。何故かと云へば、如何なる種類の暗示が區別の基礎として役立つか、といふ問題が残つてゐるからである。前に述べたやうに、暗示には積極的と消極的とがあり、直接的と間接的とがある。然らば、宣傳は「積極的」「消極的」「直接的」「間接的」等の名稱に分たるべきか。

扱、積極的暗示に於ては個人は或る刺戟情勢の方に方向を向けられ、消極的暗示に於ては或る情勢から方向を外らさせられる。多くの宣傳戰に於てはこれ等二つの型が共に用ひられる。例へば、祖國を愛することが唱導される一方では絶えず何者かを憎むことが要求される。又、或る商品を買ふことを叮重にか、さうでなくか、要求されると、この商品の競争品を愛用することは止めなければならぬやうになる。購讀してゐる新聞紙によつて或る事件に對する報導を知れば、同時に、他の新聞紙上のこれと撞著する記事に對する偏見が抱懷されることは疑を容れない。而も、宣傳の有用な型に對する探究がこの點で終らぬことは明瞭である。

直接的暗示に於ては個人は暗示者の目標を刺戟情勢の一部として知覺する。間接的暗示に於てはこれを知覺しない。この點で遂に吾々の現下の問題に對する解答が得られたかの如くである。何故かと云へば、例へば、「悪」宣傳、「不正直な」宣傳、「有害な」宣傳等と云はれたものは、宣傳家が自分自身を顯示せぬか、又は刺戟情勢に於て彼の目的を顯示せざるが故に非難を蒙るのだからである。かゝる宣傳は「間接的宣傳」と呼ばれて然るべきものである。

にも拘はらず、直接的暗示を用ひる宣傳を「直接的宣傳」と同一視し、間接的暗示を利用する宣傳を「間接的宣傳」と同一視することは賢明ではない。何故かと云へば、かやうな見方は、例へば宣傳家が自分自身を顯示することを欲しない場合、即ち、或る公共事業會社がその立場に適合するやうな教科書を公學校に頒布することを主唱するやうな場合(註3)に、宣傳家は必ずやその隠蔽に成功するといふことを推定してかゝるからである。事實の問題としてはこの公共事業會社は恐らくは成功したであらうが、この例に於ても、或る生徒が宣傳を宣傳として認識するに足る程の明察を有するか、早熟性を有するといふ僅少の可能性は残されてゐるのである。これ等の稀な、例外的な者にとつては、宣傳は「間接的」ではなく寧ろ「直接的」だつたことになる。諸君は、この事態に於て事後的立場に由來する距離により、かゝる宣傳は、それが間接的であるべく意圖せられ、僅少の例外を除いてはその點で成功してゐるのであるから、「間接的」と稱して毫も差支ないと結論するであらう。

宣傳家が用ひようと試みる型の暗示と、彼が影響を與へようとしてゐる總ての個人に對して用ひて成功する暗示の型との間に、相違が存することは明瞭である。吾々が定義した暗示の定義中に含まれる明確に主觀的な意味が保持せらるべきものとすれば、如上の相違を認めざるを得ない。何故かと云へば、暗示は全く、被暗示者の心境に於ける變化といふ意味で暗示者の被暗示者に對する効果を指稱するに止まるからである。それ故に、暗示が「直接的」とか「間接的」とか云はれ得るのは、特定の個人に對する効果が決定されて後に於てである。加之、宣傳家の對象となるものは一個の個人にあらずして、人々の集團である。だから、宣傳家がこれ等の總ての者に對して、同じやり方で、影響を與へるとは凡そ考へられない。集團に對する宣傳家の努力の心理學的效果に就いては、高々、彼が直接的又は間接的暗示を用ひようと企てゝあると云ひ得る程度に止まる。

直接的及び間接的暗示といふ語をかやうに限定して使用することは稍々學究的過ぎる嫌がある。何故かと云へば、客観的な立場から云へば、殆んど總ての情勢の人々の集團に對する効果を豫め測定することが可能な場合の方が多いからである。同一の情勢に於て、或る個人が宣傳家の目標を知覺し、他の個人がこれを知覺せぬといふことはあり得るが、適當な距離を隔つる外部の觀察者又は宣傳家自身は、個人の大多數がこの目標を理解するか否かを事前に豫言し、又は事後に描寫することができるのである。それ故に、用ひられる暗示の種類に従つて宣傳の型を區別することは困難な業ではない筈である。

かくして、この意味を敷衍して、大多數の人々が直接的暗示を通じて宣傳家の刺戟情勢の影響を蒙ると見做される場合には、この型の宣傳を顯示的宣傳 *Heard propaganda* と呼ばれる。「顯示的」と稱する理由は、恐らくは大多數の人々が、宣傳家の目標を把握する機会を與へられてゐるからである。これに對して、大多數の人々が間接的暗示を通じて影響を蒙ると見做される場合には、この宣傳は隱蔽的宣傳 *concealed propaganda* と呼ばれる。「隱蔽的」と呼ばれる理由は、恐らくは大多數の人々が、宣傳家の目標を把握する機会を與へられてゐないからである。この兩者が宣傳の二つの主要な型である。

顯示的と隱蔽的とが宣傳の二つの相異なる型であつて、兩者は決して結合し得るものでないと論じてゐる譯ではない。宣傳家がこれ等の型の孰れか一つのみを用ひることも屢々あらうが、より頻繁には、廣泛な宣傳戦に於て、宣傳家は兩者を同時に用ひるのである。加之、中間の場合がある。即ち、宣傳家は直ちに彼の目標を顯示せずして、先づ補助的態度と關係的態度とを喚起し、然る後に突如として彼の意圖を顯示することもあり得るのである。かゝる宣傳は實に顯示的宣傳と隱蔽的宣傳との結合であり、宣傳家の目標が、關係的及び補助的態度が喚起され得るに充分な程の時間を經

過した後に初めて刺戟情勢の中に顯示されると見做されるときは、この宣傳は、遅延的顯示的宣傳 *Delayed revealed* と呼ばれる。僞善的傾向の強い廣告の或るものはこの型の宣傳を用ひる。即ち、長々しい序説によつて關係的態度を喚起し、最後の文章に至つて廣告者は、彼が買つて貰ひ度い品物を餘り目立たぬやうに指示することによつて、終にその目的を顯示するのである。

それ故に、これ等三つの分類は、宣傳の絶對的な型別ではない。遅延的顯示的宣傳は顯示型から隱蔽型への過渡的形式であることは明らかである。加之、この種の分類は心理學的である。即ち、宣傳の型の決定は、宣傳家が影響を與へんと欲する集團に於ける大多數の個人に及ぼすべき効果を評價しようとする客觀的觀察者によつて行はれるのである。

これは又、現に機能を發揮しつゝある暗示の型を確かめる便法としても役立つべきではない。

三種類の宣傳と、前章に述べた知覺の諸原理との間の關係が、今や、簡単に呈示され得る。一切の宣傳に於て、暗示の基礎に在る關係的態度を喚起するものは刺戟情勢の知覺である。隱蔽的宣傳に於ては、これは一に知覺の機能に繋つてゐる。何故かならば、宣傳家は自己の目標を陳述することなく、間接的暗示によつて、喚起された關係的態度が新たな態度に統合され、その新態度によつて個人がこの目標に向つて牽きつけられる素地が作られることを希望するからである。これに對して、顯示的宣傳に於ては、これ等の態度が喚起せられねばならぬのみならず、宣傳家の目標自体も刺戟情勢を知覺することによつて把握せられることを要する。そして最後に、遅延的顯示的宣傳に於ては、最初の刺戟情勢が知覺され、關係的及び補助的態度を喚起した後、宣傳家は情勢を變じ、人々が彼の直接な目標を知覺し得るやうにする。而もこの變化は、少なくとも目標の理解が既に支配的になつてゐる關係的態度と統合せられ得るといふ可能性がある大切な瞬間に於て行はれることを要するのである。時機は心理學的に「熟して」をらねばならない。例へば、

戦時に、宣傳家は關係的愛國的態度を喚起する。そして、人々が熱狂し、而もその熱狂が頂點に達したときに、若人は軍隊に應募することを要求され、娘達は腕覆を編まされ、店員は公債を買はされる。

或る與へられたる條件に於て、如何なる型の宣傳が最も効果的であるかといふ問題が起る。三つの型の何れの一つと雖も、無差別的に用ひて常に成功するといふ譯にゆかぬことは明らかである。宣傳家又は彼の宣傳するもの、評判が悪いときには、多くの場合に於て、顯示的宣傳を行ふことは得策でない。先づ最初に補助的及び關係的態度を喚起することによつて有利な雰囲気醸成し、然る後に人又は事柄の正體を顯示するか(遅延的顯示的宣傳)、又は決してその正體を現はさぬ(隱蔽的宣傳)方が賢明である。反對の場合、即ち、宣傳家又は宣傳されるものが世の好評を博してゐる場合に顯示的宣傳を用ひることは、多くの場合に於て得策のやうである。この點に關しても、勢威は重要な役割を演ずる。それ故に、この問題に含まれる特殊の原理の完全な表明を、勢威自體が宣傳に關聯して論述される時機まで、延期することが必要である。(註5)

3. 宣傳の型の原理。

宣傳家は次の如き宣傳の型の何れの一つか或は總てを用ひる。顯示的宣傳、遅延的顯示的宣傳、及び隱蔽的宣傳が是である。

a. 顯示的宣傳の原理。

顯示的宣傳に於て宣傳家は直接の暗示によつて人々をして彼の目的を知覺せしめる。

b. 遅延的顯示的宣傳の原理。

遅延的顯示的宣傳に於ては、宣傳家は關係的態度を喚起した後に初めて彼の目的を顯示する。

b 1. 遅延的顯示的宣傳の時間的的原理。遅延的顯示的宣傳に於ては、宣傳家は彼の目的を、その目的が豫め喚起せられた關係的態度に統合され得る瞬間に於て、人々によつて知覺せられ得るやうに仕組む。

c. 隱蔽的宣傳の原理。

隱蔽的宣傳に於ては、宣傳家は彼の目的を開陳することを差控へ、間接的暗示によつて、喚起せられたる關係的態度を統合し、人々をして彼の目的の方に向はしめるやうに豫め傾向づけるところの一つの新たな態度を作り上げる。

註1. 第六章。

註2. 以下の論述に於ても宣傳の原理は時宜に従つて番號と標題とによつて引用される。讀者がこれ等の標題を讀過してその儘議論の趣旨を理解し得るやうであることは筆者が衷心から希望するところである。併し、若しこれ等の簡單な標題が原理の内容を正確、容易に想記せしめぬときは、讀者は卷末附録に輯録された、總ての原理の表を参照せられ度い。

註3. 一六一—一六四頁参照。

註4. 一二二—一二六頁、「豫測し得べからざることの範圍」の論述参照。

註5. 一二八—一二九頁参照。

第九章 人格の再構成

如何にして宣傳が機能を發揮するかの問題に關する説明は次の點まで到達したのである。即ち、宣傳の全範圍は社會心理學的定義によつて限定された。宣傳家の意圖及び社會的地位は輪廓を與へられた。現實の心理學的過程は、知覺と

暗示といふ二つの段階に區別され、そしてこれ等の段階を要約する爲めに適宜な原理を形成した。最後の章は、單に、宣傳家が暗示の或る形態を用ひるといふことを包括的に説いたに過ぎない。それ故に、以上の長々しい序曲の後に、今や、暗示の過程に於て如何なることが起るかを詳細に分析する潮時が來たと云つてよいであらう。

暗示者又は、この場合には宣傳家の刺戟情勢が、知覺の行爲及びその後、又は、それによつて惹き起される既存態度の喚起を通じて、心界の平衡を擾亂するといふことは既に概説したところである。そこで相互作用又は再整理の過程が起り、若し暗示が成功するときは、新たな態度が形成される。便宜の爲め、宣傳家が個人の集團の心界内に惹き起さうと努める新たな組織を、爾後、所期の統合 *desired integration* と稱することにする。「所期の」といふ形容詞が宣傳家の觀點にかゝるものであつて、宣傳家によつて形勢せらるべき人々の觀點を修飾するものでないことは勿論である。宣傳家は彼の目的を達成する爲めに統合を欲求し、要求する。心界の側から云へば、所期の統合は「新たな」態度である。何故かと云へば、統合はこの心界内に於ける交互作用から「出現する」からである。宣傳家に就いて云へば、所期の統合は彼の心理學的決勝點である。

宣傳家が如何にしてこの所期の統合を確保するかは分析は二つの部門に分たれる。先づ第一に、統合の基礎に在る關係的態度の性質を説述することを要する。第二には、所期の統合をそれ自體の心理學的説明を行ふ。

一、關係的態度の喚起

暗示の一般的過程を知ることの當然の歸結として、宣傳家は、所期の統合基礎となるべき既存態度を喚起しようとする。これ等の態度は「關係的態度」と呼ばれた。何故かと云へば、何故かの心理學的理山により、これ等の態度は所期の統合に對して現實に關係があるからである。換言すれば、これ等の態度はこの統合の一部となり得べき性質を有

するからである。宣傳家の仕事の成否に就いて最も著しい影響を及ぼすものは、態度のこの關係的様相である。かくして、例へば、或る宗教團體が寄附金を募集しようとする場合には、通常、先づ、その歸依者の間に或る種の宗教的態度を喚起してかゝるのである。かゝる態度が喚起されて後、これに關聯して、個人の中に「新たな」態度が出現し、團體の會計係りの許に小切手が郵送されることにもなるのである。

この刺戟情勢が機械的に所期の統合を齎らすことを合理的に確かめる爲めに、宣傳家は或る期間支配的であるが如き關係的態度を喚起しようとする。何故かと云へば、關係的態度が支配的でなければ、所期の統合が齎らすべき蓋然性は全然ないか、若しくは極めて少ないからである。この統合は關係的態度間の相互作用に倚靠するものであり、そして單に潜在的な態度の間には相互作用は存し得ないのである。輩下をして自分の個人的仇敵を殺害せしめようとする暴徒の親分は、單に短期間に乾分のこの敵手に對する憎悪を喚起するのみでは、目的を果し得ない。支配的であり続ける他の態度を喚起することを努めるか、或は、別の心理的工夫に訴へるかせねばならない。

それ故に、宣傳家はこの困難に超克する爲めに、既に支配的となつてゐる態度に關係的態度としての役割を演じさせようとする。若し暴徒の指導者が眞にその聽衆を知るならば、何故に彼等が彼の言に耳を傾けてゐるか、又、或る特定の瞬間に於て、如何なる問題が彼等を動搖せしめてゐるかをも、知つてゐる筈である。そこで、彼はこれ等の支配的態度の一つを選び、勿論遅延的顯示的宣傳の方法によつて、それを彼自身の目的と統合せしめようと試みる。政治家として愚鈍でない政治家は、この間の消息を知つてゐる。樂隊馬車が通過しつゝあるときにその悪口を浴せかける上品なやり方と云はれる方法がこれである。

宣傳家が困難を征服する第二の方法は、宣傳家が問題となつてゐる人々の集團の性情を知つてゐることにより、比較

的長い間支配的であり続けることを豫想し得るが如き態度を喚起することである。この原理は前段に述べた原理の一つの變形であるが、唯、後者は時間的に長く繼續する宣傳には一層適切に當嵌るといふ相違がある。政黨の領袖は選挙に勝利を獲得する爲めに馬車の上に飛び上る。併し、彼自身、彼を使用する人の爲めに政治的結束を確保せんが爲めには、人々の關心を牽きつけ続けるべき型の宣傳を利用せねばならない。嘗ては、共和黨は、南北戦争及び保護關稅に就いて眞直に述べ立てさへすれば、到るところに本部を獲得することができた。何故かと云へば、これ等二つの事態は、南北戦争及び如何なる形にせよ租稅が選挙民にとつて重要性を持つやうに見えた約半世紀間を通じて、人々の間に有利な態度を喚起せしめ得たからである。

更に、斷片的態度ではなく、中心的態度を喚起することは宣傳家にとつては有利である。前に述べた如く、中心的態度は個人の人格と密接な關係を持つてゐる。その爲め、中心的態度は屢々支配的であり勝ちであり、又、従つて、この態度が喚起されば心界内に力の緊張が起り、そしてこの緊張感の解消こそ宣傳家が待望する作用なのである。都市の辯護士の一群に向つて、大真面目で、彼等の「職業」が文化に貢獻するものであり、特に、實業界の圓滑な運行に對する寄與が大きいと云つてみるがよい。さうすれば諸君は、諸君が證明しようと欲する如何なる事柄をも素直に受け容れるやうな心境を、彼等の心の中に作り出し得るであらう。法律に對するかやうな態度はアメリカの辯護士の通有性であり、そして、この態度は彼等の中に在つて支配的でない場合の方が多から、これを容易に喚起し得べき效算は極めて大である。意圖的宣傳は、社會的又は經濟的不滿の時代には盛んに行はれる。何故かと云へば、不安の基礎に在る態度は、特殊な問題の主眼者に對しては歴然と現はれるからである。それ故に、かゝる不安時代には、宣傳家の一群が、少なくとも瞬間的に、社會内の不安な要素を満足させるやうに見えるところの似而非的解決法を發見することに成功する

までは、宣傳が跋扈する。

宣傳家が藥籠中のものにならうと努力する關係的態度の種類に關する如上の簡單な論述からして、次の如き考察が自明のものとなつて来る。即ち、宣傳家にとつては、彼の將來の顧客を知ること、而もよく知ることが極めて大切であるといふことが是である。例へば、ムソリーニは、その用ひる技巧は粗野であり、何かにつけて劍をがちやつかせはするが、疑も無く巧みな宣傳家である。社會主義者としてスミスに名譽ある追放を終へて歸國した後、彼はイタリア及びイタリア人に自身を沈潜せしめた。彼自身、戦争及びこの瓦礫の事件に引續いて生じた新社會主義的制度的數年間を體驗したのである。そして、適當な瞬間を見極めて、彼の追隨者とは、支配的と思量されたイタリア人の態度を、賢明にも、利用することに成功したのである。かやうな利用、及び然るべき場合に強力を行使することは、凡ゆる「運命の人」の用ひる公式である。同時に「民衆の人」でもあることは決して心理學的に嘲笑に附すべきことではない。何故かと云へば、かゝる人物は、彼が影響を與へようとする人々のステロ版に關する奥深い知識を無意識裡に持つてゐるからである。より偉大な、より成功する宣傳家は、自分に近い人とのステロ版や態度を測ることを知つてゐるのみならず、異なる文化に屬する人々の夫をも心得てゐる。ナポレオンにせよヒトラーにせよ、自分の國內では良き宣傳家ではあつたが、一步國境を離れば單純な子供の域を出ない。

宣傳家の仕事は關係的態度を操縦するのみで終りはしない。彼は、それが爲し得る場合には何時でも、第二次的に、彼の刺戟情勢を極立たせる爲めに最初^(註)に働いたところの補助的態度を、關係的態度として利用することを努める。この遣り口には經濟が含まれてゐる。心理學的にはこの遣り方は賢明である。何故かと云へば、宣傳家の圖形をその地から極立たせるべき補助的態度として支配的であつたこれ等の態度は、その活動を存続する效算が大きいからである。かく

して宣傳家は、又別の方法で、支配的關係の態度を確保するといふ問題を解決し得るのである。諸君は繪畫の美しさに釣られて自動車に眼を止める。そして筆者は假定の爲めに暫らくの間空想を恣にする——美に對するこの態度の結果として、及び諸君の中に在る他の、より複雑な態度の結果として、その自動車を買取る。同時に補助的及び關係的態度として同一の態度を働かせる遣り方は、商業的の見地からも經濟的である場合が屢々ある。即ち、宣傳家は、同一の刺戟情勢によつて、二つの異なる活動を作用せしめ得ることになるのである。かやうな二連發は、無駄な印刷費を節約し別の繪を描かせないでも済み、パンフレットの續篇を省き、叫喚の使用を節約し得るのである。

最後に、宣傳家は彼の刺戟情勢の内容に變化を與へることもある。何故かと云へば、彼の對象とする個人の集團に含まれてゐる人とは、相互に似通つてゐる點があると同時に、異なる點も持つてゐるから、これ等の人と總てに於ける同一の態度が必然的に關係的態度であるといふ絶對の確實性は決してあり得ないからである。それ故に、宣傳家は彼の訴へる方面を變更することにより、異なる人々に於ける異なる關係的態度を喚起し、而もこれ等總ての態度を、同一の所期の統合に關係せしめることができるのである。外から或る都市に來る者は、ホテルを選択するに、便利がよいから、各室にラヂオと浴室を備へてゐるから、附屬ガレージがあるから等の點を標準とする。そこで、ホテルの廣告係りはこれ等總ての長所を列挙することによつて、諸君なり、アイオワから來た旅行者なりがホテルの宿泊人名簿に署名するのを待つのである。加之、この變化を與へる方法は同時に、他の一つの潜在的利益を伴ふのである。といふのは、宣傳家は積極的暗示によつて人々の内に新たな態度を構成せしめる爲めに彼等のステロ版を變化させようとすることもあるからである。これ等の新たな態度は、所期の統合に關係ある態度として利用し得る。自動車の「膝關節作用」に關する最近の廣告が現はれる以前には、自動車乗りはこの點に關する自動車の快適さに就いて考慮を拂ふことは殆んどなかつたと

六つて差支へなからう。今や、製造業者は、一般大衆が自動車に對して持つステロ版を變更したのである。彼等はこの改良設備を有する自動車を要求する。換言すれば、彼等は此の設備を有する自動車に對する新たな態度を有することになつたのである。それ故に、製造業者は今や、その製造にかゝる自動車が「膝關節作用」を有すること、又はこれに代るべきより適宜な機構を有することを廣告するやうになる。要するに、この新機軸は、商業的取引を完成する爲めに用ひらるべき、追加的強調點となつたのである。(註3)

二、所期の統合

隱蔽的宣傳の場合を除き、宣傳家の直接目標たる知覺的質料と關係的態度との間の心界内に於ける交互作用から現出するものが所期の統合である。かゝる統合は、總ての態度と同様に、中心的態度であることもあるし、斷節的態度であることもある。宣傳家の目標の性質と、影響せられつゝある人々の心界の性質とが、全人格内の新たな態度の地位を決定する。人々の集團を或る商標のクリーム・チーズに改宗させようとする廣告者はこれ等の人々のチーズに對する態度を纏つて一つの團結を構成せしめることを期待することはできない。チーズに對する態度は恐らくは嚴密に斷節的な性質を有する。これに對して、外國に於て宗教上の宣傳を行ふ傳道者は彼の弟子達を完全に變化させようと努力する。彼は、彼等が彼等の種々な行動の總て、若しくは、大多數に於て、彼の宗教觀の影響の下に立つことを欲する。彼は所期の統合が中心的な性質を持つことを欲する。メキシコに於ける加特力教會と同様に、彼の努力は失敗に終るかも知れない。外面的には、彼の力によつて改宗した者は、從順であり、敬虔であるかの如く見えるかも知れないが、心理的には、彼等は依然として舊來の生活態度を持ち続けるであらう。それ故に、加特力教會に對する本來のメキシコ人の態度は、信頼すべき觀察者の決定し得る限りに於ては、斷節的な性質を有してゐたか、或は、總てを包容する中心的、メキ

シヨ的生活態度に統合されたのである。

加之、宣傳家は、所期の統合を自ら體には、實は關心を持たないのである。彼が通常欲するものは行爲であり、彼の目的達成を助けて呉れる行爲である。併し、この目的を果す爲めに必要なる最初の第一歩が統合である。個人の態度の組織を變化させることでは充分ではない。變化せられたる組織は附加的抑壓を齎らすか若しくは内面的に解決される。それ故に、宣傳家にとつては、専ら行爲として現はれるところの所期の統合を齎らすことが必要である。^(註5)

三、感動的條件づけの理論^(註6)

この點に就いては、ウィリアム・W・ビッドル博士^(註7) Dr. William W. Biddle の著書に關する稍々詳細な記述を行ふことが必要である。何故かと云へば、ビッドル博士は、筆者の哲學並びに宣傳理論を共に立證するに役立つべき精巧な實験すべき實験を行つたからである。他の多くの學者と同様に彼も亦「感動的條件づけ」"emotional conditioning"の理論を唱へた。これは慎重な批判を要する。補助的及び關係的態度の演ずる役割を誤解し、所期の統合の重要性を無視する恐れがあるからである。彼の勞作は宣傳の心理學に對する眞の貢獻であつた。^(註8)

實験作業を記述する單行論文の冒頭に於て、ビッドルは、批判的思惟と獨善的(若しくは自足的)思惟とを、用心深く區別してゐる。「比較的廣い社會的接觸の水準に於て、吾々の教育は、批判的思惟に必須なる各種の觀點との適當な接觸を與へることを怠つてゐる」といふ點を彼が指摘してゐることは正しい。彼は曰ふ。宣傳家は獨善的思惟を利用して榮える。それ故に、獨善的思惟を滅却させることが教育家の一つの仕事である。と。かうした教育は、(1)「論争的となつてゐる問題に關する數多の觀點に兒童を親しく接觸せしめること、但し、それは社會問題研究に於ける徹智的論争によらずして、最も幼稚な時代からして各種の見解と因果關係的に接觸せしめることによる」^(註10)の(1)及び(2)「種々な

團體が民主主義的社會を制御する爲めに用ひる組織的宣傳に對して特別な注意を拂はしめ、この組織的な無批判的思惟に對する抵抗力を涵養しよう」と努めること、によつて行はれる。次で彼は、この第二の方法を用ひることによつて、如何なることが達成されるかを發見しようとする。

全國に於ける種類を異にする九つの學校の生徒に對し、ビッドルは、正規の教員の手を通じて、宣傳に關する九つの課程を授けた。これは公衆の操縱^(註12) Manipulating the Public と稱せられる。これ等の課程は、宣傳家の仕事を詳細に、面白く記述せるパンフレットから成つてゐる。材料の多くは、例へばラッスワル Lasswell、ボンソビー Ponoby 等の著述から引用され、戰時に於ける宣傳家の活動を説明したものである。かやうにして宣傳に就いて學んだ學級は實驗群を成す。實驗群に對して宣傳に關する教程が與へられつゝある間に普通の課程を授けられた他の學級は對照標準群を成す。教程が終了した後これ等二つの群に對して「欺瞞検査」"test of fallibility"が行はれる。これは合衆國の太平洋關係と題せられ、「アメリカの對支那、對フィリッピン諸島、對日本の關係」^(註13)を取扱ふ「雜誌、著書、演説、又は宣傳局から發せられた材料の抜萃」より成る。兒童はこれ等の抜萃の各々に就いて特殊な質問を受け、その若干に對する解答から、二十四人の審査員の採點を基礎とする欺瞞記録が得られる。

擬、實驗群の欺瞞失點を對照標準群と比較すると、「國家主義者」記録に於ても、「國際主義者」記録に於ても、統計的に意義深いものがあつた。それ故に、ビッドルは次のやうに結論する。即ち、

「かくして、この試験が欺瞞可能性の測定である限りに於ては、教育は、感動的宣傳に對する感能を滅殺することに決定的な成功を見たこと云ふことができるのである」^(註14)

加之、實驗群に於ける或る兒童は進歩の跡を示したし、他の或る者は示さなかつた。かくしてビッドルは變化を説明す

べき種々な假定を提起することができたのである。即ち、進歩した者はより智的であり、より意見の變化があり、彼等は教はつたことを考査に「轉送」し、そして恐らくは課程をよりよく理解した者である。』それ故に、理解力を増加する教育、轉送の練習を積ませる教育は總て有效なものである。』^(註15)

かやうな研究は、自由主義的教育の心理學的理解に寄與することの方が、この問題に對する理論化に資するよりも多い。何故かと云へば、ビッドルが近代的宣傳に見られる或る種の極めて有害な形式を分析して學生達に示してやる爲めに、宣傳に對する科學的接近を教へることによつて教育しようと思つたことは明瞭だからである。例へば彼が、彼の第七課に於て行つてゐるやうに、殘虐な物語を呈示してゐる場合には、彼は學生達に、宣傳家が自家の目的を達成する爲めに撒き散らしてゐる大量生産的虚偽を知らせようとしてゐるのである。かくして彼は、彼の學生達の中に殘虐な物語及び一般の宣傳に對する批判的態度を築き上げることによつて彼等をして、より欺瞞し難いものにしよつたのである。そして彼は、學生達が官憲とか印刷物とかいふやうな勢威ある刺戟情勢に對して持つてゐた補助的服從的^(註16)態度を破壊しつゝあつたのである。被暗示性を減少する爲めには彼の教へることが「理解され」ねばならず、即ち知覺されねばならず、この理解は新たな情勢に「轉送され」ねばならず、換言すれば、少なくとも部分的には新たな批判的態度が再喚起され、それが他の宣傳家達の目的に對しても敵意を持つ統合にまで關係せしめることを要するといふことを知つてゐるのである。ビッドルの教育が百パーセントに效力を發揮しなかつたといふことは、彼の學生達の心界に個々の特性が存したといふことを立證するものである。そして「睿智」が或る程度まで、この種の教育によつて心界が影響せられ得る限度を決定するといふ可能性が多分に存するのである。著者は又、宣傳に對するこの批判的態度が單一的な統合であるかも知れぬといふことも知つてゐるのである。曰く、

「筆者は、これ等の課程が提供する教育の、國家存亡の際に於ける、蓋然的運命に就いて何等の錯覺を有する者ではない……この研究に關係した學者の屬する國家によつて不正常的戦争がたつた今宣告されるとしても、學生達が「歩調を合せて」戦争を支持することは疑を容れない。これ等學生の或る者が、戦争が依つて以て支持される感動的工夫を受取ることを幾分長い間拒み続けるといふのみである。』^(註17)

ビッドルが行つたことは、ラムレー Luntley 及びマーティン Martin が「自由主義的教育」に對して現實に要求してゐることである。即ち、彼等は、學生達に各種の宣傳を示すことにより、學生達の内に、社會的環境の總ての刺戟情勢に對するこの批判的態度を喚起せしめようと思つたのである。それ故に、ビッドルの努力の結果として、或る一人の宣傳家が學生達を一方的に影響せしめようとしても、多數の宣傳家に對する科學的分析は學生達の内に豫め如何なる宣傳によつても影響されないやうな性質を植ゑつけてゐるのである、と云ふことができる。如何なる宣傳によつても影響せられざる性質を植ゑつけられてゐるといふことは、學生は彼が教へられたことを評價する能力を有し、勢威ある刺戟情勢に對する服從的態度から解放されて、これ等の情勢を考へ抜くことによつて自分自身をこれ等の情勢から引き離すことができる、といふことを意味する。

ビッドル博士の宣傳の理論の本質は、「感動的條件づけ」の概念であり、實驗に於て彼が學生に對して行つたのも正にこの點である。宣傳家の手段の一つ即ち、例へば、「間接に感動に訴へること」“indirect emotional appeal”を論ずるに當つて彼は次のやうに説いてゐる。即ち「宣傳は或る優勢な感動を驅つて所期の行爲を齎らすことを成否の分岐點とする。理論的には、如何なる感動も、巧妙な操縦法によつて、思ふが儘の行動にまで「導き入れる」ことができる。』^(註18)

この行爲主義的理論に基づき、ビッドルはその單行論文に於て、廣告を次のやうに説明してゐる。即ち、

「最大の保險會社の一つの外交宣傳はこの「感動に訴へる」方法を示してゐる。雜誌に現はれる全頁廣告は、讀者に國會議員の選舉に投票すべきことを奨め、疾病回避の方法を教へ、公衆保健法を唱導し、養老年金制度を提唱する等のことを行つてゐる。そしてこれ等の問題に就いて、請求があれば小冊子を送附することを申出てゐる。保險加入の懇請もなければ、他の會社に對するこの會社の長所も指摘してゐない。唯、この會社が「世界最大のもの」であり、「資産、加入者、毎年の新加入者」等に於て最も優れてゐるといふことを簡単に記述してゐるのみである。會社本店の寫眞が挿入されてをり、その建物の塔は「消ゆることなき光」(感動的な色彩を有する標語)によつて冠されてゐる。辯論はあつた。廣告の提示する目的に對する有利な辯論はある。併し、健康、愛國心に向つての感動的傾向及びその他の優勢な傾向は、會社に對する有利な感應に向つて條件づけられてゐると考へられる。讀者の意識的、批判的思惟が健康、愛國心等に牽きつけられてゐる間に、條件づけが行はれるのである。」^(註19)

同様の論旨をビッドルは講義の中でも述べてゐる。即ち、

「家庭雜誌中に現はれた他の全頁廣告の例が茲に在る。それには、停車場で列車の出入口のところに立つてゐる「戸口番」の大きな箱が掲げられてゐる。彼は塗方に暮れてゐる母子に、乗るべき列車を教へてやつてゐるところである。廣告は彼の役割を説明する。彼が戸口に立つてゐるのは公衆を助ける爲めであつて妨げる爲めではない。人々にその乗るべき正しい列車を教へることによつて彼は毎年「數百萬哩の無駄な旅行を省きつゝある」。廣告の下部には、「アメリカに於て最多数の旅客、最大量の貨物を輸送する」大鐵道會社の名が現はれる。この會社の代表的六列車の時間表が掲げられる。この鐵道を利用することを勧める文句もなければ、この會社の株式を買ふことを勧める文章もない。この廣告の目的は何であらうか、それは顧客をつくる爲めである。公衆の爲めにかやうな役員を設けてゐる鐵道はよき鐵道である。」

るに相違ない。奔嶺の感情は最多数の旅客と最大量の貨物とを輸送する會社であるといふ考へと結びつく。そこで、これは旅行するに具合のよい鐵道に相違ないといふ考へが出て来る。最大のもの、最善のものを欲する吾々が、旅行すべき鐵道に相違ないといふことになる。「吾々の」といふ感じがこの鐵道を包容するやうになる。この特定鐵道會社が逆行的労働政策を行ふものであるといふ風評に刺戟されてこの廣告が出されたか否かは吾々の知るところではない。^(註20)

事實、ビッドルは、「感動的條件づけ」が彼がパーネース *Pearnes* に従つて「新たな宣傳」と稱するところのもの、基礎に在ると考へてゐるやうに見える。即ち、

「人々を操縦するに當り、宣傳家は、これ等の人々が既に抱いてゐるところの感動的意見を發見しようと企てる。次で彼は彼の欲する感動をこれ等既存の信念に結びつけ、又は、信念によつて條件づける。宣傳家が花の賣行を増加させようとする。彼は母の日を設ける。母の日は花を買はふといふ考へを、母に對する既存の感動に條件づけるのである。」^(註21)

ビッドル博士が宣傳の最も重要な原理を把握してゐることは最初から明瞭である。何故かと云へば、博士が宣傳家はその「條件づけ」を「人々が既に認容する感動的意見」又は「優勢なる感動」の上に基礎づけると説明するときに、彼は所期の統合は既存の關係的態度の相互作用のみによつて齎らされ得ると説いてゐるに他ならないからである。併し、「理論的には、如何なる感動も、巧妙な操縦法によつて、思ふが儘の行動にまで「導き入れる」ことができる」と主張してゐる點には誤謬がある。といふのは、彼は導き入れることが不可避的に單なる接續によつて齎らされると主張してゐるからである。筆者の論旨はこれとは異なり、次の如きものである。即ち、所期の統合に含まれる態度は、心界の構成の結果としてこの統合に「關係ある」ものであらねばならぬ、とするのである。所謂「感動的意見」が所期の統合に

關係づけられてある限りに於ては、「感動的條件づけ」の理論は恐らくは妥當であらう。例へば、ビッドルが指摘したやうに、母親に對する中心的態度を喚起することによつて花屋が賣上げを増加したことは疑を容れない。而も、宣傳家によつて喚起せられた感動的意見又は既存の態度の總てが「關係的」であるといふことにはならないのである。

凡ゆる條件づけの理論の先覺者として一般に認められてゐるパツロフ Pavlov は、條件づけられたる刺激が條件づけられざる刺激と充分接近してゐさへすれば、殆んど如何なる條件づけられたる刺激を用ひても彼の犬の感應を變化させて見せた。加之、條件づけられたる刺激の總ては條件づけられざる刺激に關係づけられてゐた。何故かと云へば、前者は後者に引續いて起り、殆んど例外がないからである。これ等二つの刺激が最早關係的でなくなつたとき、即ち、「内面的抑制」"internal inhibition" の場合のやうに條件づけられたる刺激が最早「實驗的消滅」"experimental extinction" によつて支撥されなかつた場合には、時間を置いて感應は起らなかつたのである。^(註22) それ故に、ビッドルが既存の態度は悉く關係的態度とすることができると主張してゐるのはパツロフの理論を侵犯することになる。彼は、條件づけられたる刺激又は新たな態度の發生に當つて有機體は關係づけを行はねばならず、そして接続は關係の基礎となることもあるし、ならぬこともある、といふことを忘れてゐるのである。彼は保險廣告は愛國的態度を個人をして保險に加入せしめるやう仕向ける態度にまで統合するものであり、この後の態度は前の態度の感動的調子によつて齎らされる、と主張してゐる。又彼は、「戸口番」に關する好感によつてその鐵道が愛顧を被ると考へてゐる。併し、別の解釋の仕方もあり得るのである。投票の勧誘や親切な案内係りの圖は既存の態度を再喚起するに役立つことは勿論であるが、これ等の態度が單に補助的態度であり、従つて人々をこれ等の廣告の方に指向しはしても必ずしも所期の統合と關係はないといふ場合があり得る(2 a、補助的態度の知覺的原理)。

若しこの説明の方がより妥當であるとすれば、宣傳家が或る既存の態度を喚起することに關心を持つのは、これ等の態度の感情的調子が所期の統合にまで「轉換される」"transferred" が故ではなく、これ等の態度が多くの人々をして宣傳家の刺激情勢を知覺せしめるやうに誘導するが故である、といふことになる。一言にして云へば、この見解に従へば、感動的條件づけの理論は唯それが既存の態度の感情的調子の重要性を強調したといふ限りに於てのみ正しいのであつて、これ等の態度の機能は誤解したかも知れぬ、といふことになる。それ故に、保險に加入する者は彼の愛國的態度から機械的に特定の保險會社に轉換されたところの感動の煽の故にこの會社を選ぶのではなく、この態度の喚起があつてこの會社の存在に氣が付いたからであると云ふことができる。ビッドルは恐らくは、ビールの廣告に描かれた美人の畫は人々をしてこの美人に對すると同じ感情をビールに對して抱かせると主張するかも知れないが、美人の姿がビール廣告を極立たせたのだといふ點を指摘する方がより穩當であらう。

筆者は感動的條件づけの理論が全然誤謬であると云はふとする者ではない。何故かと云へば宣傳家は恐らくはこれ等の補助的態度をして關係的態度としての機能を發揮せしめようとするからである。併し、態度と所期の統合との間には何等かの關聯がなければならぬ。上に述べた保險の例に就いて見れば、或る個人が、彼の愛國的態度の感動的調子が愉快であつたが故に、又は彼はこの會社の廣告が國家の爲めに役立つてゐると感じたが故に、この會社を最良にすることは、あり得ることではあるが、甚だありさうなこととは云へない。これに對して、美人を見ることによつて買手が無批判になつたが爲めにビールが買はれるといふことは殆んど考へ得べからざることである。客の前に彼の知らぬ商標の數多のビールを並べれば、彼は廣告の出でゐるビールを買ふかも知れない。けれどもそれは彼が美人の畫がビールの味を甘美にすると感じたからではなく、ポスターの上に美人が描かれてゐることによつて彼がそのビールと皮相的な

近づきになつてゐたからである。而も、若しも、ビールの種類の相違を知らないこの同じ客が、廣告をしてゐない或る商標のビールが安いといふことを發見したとすれば、美人の有無には構ふことなく、このビールを買ひ度くなるであらう。又、旅行者が廣告を出してゐる鐵道を利用する場合にしても、「戸口番」によつて喚起された愉快な態度の爲めではなく、この無料奉仕を利用してやらうといふ氣持ちの爲めかも知れない。又は鐵道會社が、ビッドルが指摘してゐるやうに逆行的勞働政策を採つてゐるとすれば、積極的暗示によつて新たな態度を形成することにより、逆宣傳を行つてゐるのかも知れないのである。更に一層ありさうなことは、「戸口番」はその雜誌の讀者をしてこの鐵道が提供する奉仕を知覺せしめる爲に一つの補助的態度を喚起するといふことである。

かくして、感動的條件づけの理論と關係的及び補助的態度の理論との間には、何等完全な、超克すべからざる對立が存する譯ではないのである。前者が單なる近接が打建てることあるべき非合理的關係の數多の實例に注意を向けるに對して、後者は人格の組織的能力を強調する。上に論じた實例の大多數は何れの理論によつても論ぜられ得る。唯、筆者の提議する理論の方が多くの場合に於て一層合理的のやうに思はれるといふのみである。窮極の分析に於ては、何れの理論がより大なる妥當性を有するかは、一列の決定實驗を俟つて定めねばならぬ。

チン博士の實驗に就いては既に述べたが、彼の證明の一端には、如何にビッドル博士の理論が抗議の餘地があるかを指摘するに足るやうなことが含まれてゐる。チンが二つの學生群に對して滿洲問題に就いて親目的及び親支的政治的宣傳を行ひ、それ等學生の態度を變化せしめたことは前にも述べた。チン博士は、別の二つの學生群に向つて、親目的及び親支的政治的宣傳を試みた。不幸にして、著者が曖昧に「實際上の理由」と云つてゐる理由により、この二群の學生の同じ滿洲問題に對する態度は、藝術的宣傳が行はれた後に唯一回檢せられたのみであつた。而も、兩群に對して

與へられた藝術的宣傳は異なつてはゐたが、審査に關する採點表は實際的には同じものであり、これ等の群の採點表の傾向は政治的宣傳を與へられた群に就いて見られる採點表の傾向とは似てゐないといふことを理由としてチン博士は次のやうな結論を立てゝゐる。即ち、

(註24)

「親目的藝術宣傳も親支的政治的藝術宣傳も、滿洲問題に對する態度には何等の轉換をも惹き起さない」と。
チン博士が理想的條件づけを行ひ、藝術的宣傳によつて解き放たれた態度によつて政治的問題に對する態度の「條件づけ」が促進されることを期待した、といふことは明瞭であらねばならない。即ち、彼は或る國の藝術に對する好意的態度を喚起し、それと同時にその國名を示したのである。その結果として、條件づけの理論は、藝術に關聯する好意的な感情的要素が國にまで「轉換せられ」(何となれば前者は殆んど一時的に後に接續するから)、従つて、國名を與へられなかつた國に對する偏見は、國名を與へられたる國に對する夫に比して増大される、といふことを要求する。かやうなことが實際には起らなかつたことは明瞭である。何故かと云へば、ビッドルが云つたやうに、喚起せられたる態度は如何なる態度でもよいといふ譯ではなく、所期の統合に關係ある態度でなければならぬからである。チンの學生達は單純に、一國の藝術の質と滿洲問題とを關聯せしめなかつたのである。(註25)

加之、ビッドル博士は前に引用した宣傳の實例に就いて次のやうに述べてゐる。即ち、「それ故に、大戦中及び大戦後に發達した宣傳の特殊の性質は、その間接的感動的條件づけである」。(註26)

その勞働政策の故に顧客を率き寄せようとするやうな努力も知れぬところの鐵道會社の廣告を除き、これ等總ての實例は顯示的宣傳の諸形態である。何故かと云へば、刺戟情勢は宣傳家の直接の目標の理解を可能ならしめてゐるからである。換言すれば、人々は廣告の何れかの場所で、廣告者が如何なる品物を買はせようとしてゐるか、如何なる奉仕を利

用させようとしてゐるかを示されてゐるからである(3a、暗示的宣傳の原理)。ビッドルはこれ等の宣傳を「間接的」と稱するが、それは彼にとつては一切の「條件づけ」は間接的のやうに思はれるからである。併し、「感動的意見」を關係的、補助的及び關係的、補助的態度に區別する現在の分析法に於ては、有效な「條件づけ」は、現實には、他の如何なる心理過程とも同様に「直接的」であることを示す。

ビッドルが別の實例に於て示してゐるやうに、「新宣傳」の或るものが間接的であることは勿論である。即ち、

「映畫は他の如何なる方法よりも立勝つて、近代の宣傳家の微妙な操作に適當してゐる。歐洲を背景とする映畫があるとする。現はれて來る悪漢はロシア革命家の一団である。彼等は美しい女主人公と彼女の王室出の、これ亦魅力ある戀人とを殺さうとして追ひ驅け廻る。結局二人の戀人は脱出するが、觀客の氣持の中には、これ等の薄汚ない、粗暴な、不逞な人達が現在のロシア政府を構成してゐるのだといふ感じが残される。と同時に、清々しい、紳士的な貴族に對する好印象も後に残る。ソヴィエト・ロシアを非難する片言隻句もスクリーンには出ない。唯、かなり間接的な感動的印象が残るのみである。かやうな映畫は無意識の裡に、吾々の感情をして忽ちにして現在のロシア政府が悪いものであるといふ判斷を受け容れしめるやうに條件づけるのである」(註27)

右の如きは映畫監督者のロシアに對する態度を反映せず、より一般的なアメリカ人の態度を反映するところの無意識的宣傳の一例と云へるであらう(1. 宣傳家の意圖の原理)。又、この映畫を「條件づけ」の方面から考へることもできる。ロシアの革命主義者に關する不愉快な感情は條件づけられたる刺戟、ソヴィエト・ロシアにまで「導き込ま」れる。何故かと云へば、感動の喚起と、これ等悪漢の國籍の知覺とが同時に起つたからである。併し、悪漢に對する憎惡的態度が、映畫を見ることによつて得られたロシア革命主義者のステロ版と統合された、と見る方がより合理的のやうに思

はれる。然る後にこの特殊な態度が、映畫の何處にもさうした態度を動喚してゐる點が見られないにも拘はらず、全ロシア國に對する一般的憎惡的態度の基礎となるのである(3c、隱蔽的宣傳の原理)。

4. 關係的態度の原理。

暗示の過程に於て宣傳家は、所期の統合を齎らす助けとなるべき關係的態度を喚起する。

a. 關係的、支配的態度の原理。

宣傳家は既に支配的になつてゐる態度を關係的態度として用ひるが、又は、或る期間を通じて支配的であり続ける關係的態度を喚起する。

b. 關係的、中心的態度の原理。

宣傳家は中心的態度たる關係的態度を喚起する。

c. 關係的、補助的態度の原理。

宣傳家は關係的態度としての機能をも有する補助的態度を喚起する。

d. 變化の原理。

宣傳家は、異なる人々に於ける關係的態度を喚起し、彼等のステロ版を變更することによつて他の人々の中に、積極的暗示を通じて、新たな態度を打建てる爲めに、彼の刺戟情勢の内容を變化せしめる。

5. 所期の統合の原理。

宣傳家は人々を彼の目的の方に差向けしむべき所期の統合を確保する。

a. 統合の型の原理。

所期の統合は中心的態度であるか斷片的態度であるかである。

b. 行動の原理。

宣傳家は行動を齎らすべき所期の統合を確保する。

- 註1. 第五章。
註2. 九〇—九二頁参照。
註3. 異なる人々に於て異なる態度を喚起し、且、積極的暗示を通じて他の人々の中に新たな態度を打建てる爲めに刺戟情勢を變化せしめることは、尚別の心理的機能をも果すのである。即ち、統合が形成された場合にそれを補強するといふ作業が是である。一三二頁参照。
註4. 例へば Ernest Gruening, *Mexico and Its Heritage*, pp. 229—274, New York, 1928. 参照。
註5. 宣傳家は統合が彼の欲するやうなやり方で解放されることを一層合理的に確かめる爲めに種々な工夫を凝らす。一三〇頁参照。
註6. この項は心理學に於て「行爲主義」「behaviorism」として一般に知られてゐる運動に對する批判であり、従つて、學究的な讀者に對してのみ興味がある。
註7. William W. Biddle, "A Psychological Definition of Propaganda," *J. Abn. & Soc. Psychol.*, 1931, v. 26, pp. 283—295; *Propaganda & Education*, New York, 1932.
註8. ハイチ Dodge 教授は大戦後開も無く發表した先覺的論文に於て、精神分析の夥しい分量の論述に附加して「感動的條件づけ」の行爲主義的理論を用ひた。Raymond Dodge, "The Psychology of Propaganda," *Religious Education*, 1920, v. 15, pp. 241—252. ハイチの理論と同様なるもの Edward K. Strong, Jr. の理論がある。"Control of Propaganda as a Psychological Problem," *Scientific Monthly*, 1922, v. 14, pp. 234—252. 宣傳に關する種々な原理は次のやうな人々によつて提唱された。Dunlap (*Civilized Life*, pp. 352—362, Baltimore, 1924), Schultze-Padeler (*Propaganda, Agitation und Reklame*, pp. 146—156, Berlin, 1923), Stern-Rubarth (*Die Propaganda als Politisches Instrument*, pp. 11—20, Berlin, 1921). 併しこれ等の原理は完全でないか、又は單に宣傳家の刺戟情勢のみを説いて、その人々の集團に對する效果に言及せざる偏つたものであるか。

である。チン博士は、彼が要約する五人の學者の研究及び彼自身の研究により、「學生達に對する宣傳の効果が廣汎且相當なものである」ことを認つて居る。William Kih-Ching Chen, "The Influence of Oral Propaganda Material upon Students' Attitudes," *Arch. Psychol.*, 1933, v. 23, no. 150, p. 10. Henry J. Weirocki ("The Effect of Prestige Suggestibility on Emotional Attitudes," *J. Soc. Psychol.*, 1934, v. 5, pp. 383—394) は五十名のアメリカ人、ポーランド人の兒童に對して簡單な宣傳の見本に就いて試験を行つたところから、これ等の兒童は全體としてはその影響を蒙つたが、比較的智能の優れた者は影響され方が少なかった。

- 註9. *Propaganda and Education*, p. 13.
註10. *Ibid.*, p. 16.
註11. *Ibid.*, p. 18.
註12. 筆者はこれ等教程の複寫及びその引用の許可に就き、ピートル博士に感謝の感を表明し度い。
註13. *Propaganda & Education*, p. 45.
註14. *Ibid.*, p. 57.
註15. *Ibid.*, p. 65.
註16. 成功せる宣傳に於けるその態度の機能に就いては二七—二九頁に論述した。
註17. *Propaganda & Education*, p. 68.
註18. "A Psychological Definition of Propaganda," *op. cit.*, p. 283.
註19. *Propaganda & Education*, pp. 30—31.
註20. *Maintaining the Public*, Chapt. II, p. 15.
註21. *Ibid.*, Chapt. I, p. 8.
註22. I. Pavlov, *Conditional Reflexes*, pp. 48 ff., Oxford, 1927.
註23. 七八頁参照。
註24. Cheng, *op. cit.*, p. 24.
註25. 他の研究者 Solomon P. Rosenthal, "Changes of Socio-Economic Attitudes Under Radical Motion Picture Propaganda,"

Arch. Psychol., 1934, v. 25, no. 166) は最近この點に關する證明を附加した。彼は百人の學生より成る二つの群に對して、經濟的及び社會的問題に關し、四十七ヶ條に就いて探聽してみた。次でその中の一群(「實驗群」)に「資本主義世界」と題する共產主義的ニュース映畫を見せた。後に同じ項目に就いて再度試驗を行ったところが、「實驗群」が「對照標準群」よりも幾分か急進的になつてゐることを發見した。ローゼンタールは四十七項目の中八項目は明瞭に映畫に「關係ある」ものであり、十項目は明瞭に映畫の内容とは「かけ離れた」ものであることを指摘してゐる。そして彼は統計的に、「最も密接に映畫の主題と關係ある項目が、概して、最もその影響を蒙ること大であつた」(p. 89)といふ事實を、基礎づけることができたのである。

註 26. Manipulating the Public, Chapter I, p. 8.

註 27. Ibid., Chapter I, p. 6.

註 28. ビッドル博士の宣傳に關する四つの原理は茲では考察の要はない。何故かと云へばその一つは「感動的條件づけ」の理論であり、他の三つは筆者が提唱する原理の或るもの組合せだからである。「Psychological Definition of Propaganda」op. cit., pp. 285-292; Propaganda & Education, pp. 21-31. 参照。

第十章 豫測し得べからざることの範圍

心理學が決して科學たり得ぬといふことは餘りに屢々主張されてゐる。何故かと云へば、如何なる二人の人も決して正確に同様ではないから、従つて如何なる學問も彼等の行動に關する法則を樹立し得ないと云ふのである。或る人が、汝はかやう／＼なやり方で反應する筈だと云へば、唯その言葉に背いてやらうといふ根性の曲つた氣持のみで、態々全く違つた行動に出で、その人の原理の誤謬であることを證明することもあるのである。

而も、若し近時の物理學者の科學的及び哲學的著述を信ずるとすれば、體系的思惟の全部と云はぬまでも、少なくとも大部分は、この不確實な推測を根幹としてゐるのである。實驗室に於ける物理學者は、總ての科學者と同樣に一つの獨立の變數を除いて他の總ての考へ得る變數を定數としてゐる。けれども原子論以下の範圍に於ては、總ての反應の結果を豫測することはできても、個々の電子又は陽子の行動を敘述し又は完全に説明することはできぬといふことを白狀せざるを得ない。それ故に極めて畏敬されてゐる物理學者に於ても豫測し得べからざることの範圍が殘されてゐる譯である。

若しその物理學者が宗教的の傾向をも持つてゐるとすれば、彼は更に論を進めて、この範圍は決して完全に無くすることはできぬと主張するであらう。かゝる考へ方は絶対的決定論を抹殺することを目的とするものであつて、差當りは觸れずに置くの他はない。將來の實驗、研究はこの考へ方の妥當性なり愚劣性なりを證明して呉れるであらう。

不幸にして心理學者及びその他の社會科學者は、夫々の問題に就いて豫測可能性を論ずるに當つて、自ら掘つた陷阱に陥つたのである。彼等は、人間の複雑性にも拘はらず、行動の或る様相、延いては凡ゆる様相を包容するに足るやうな絶対的原理を打建て得ると考へたのである。彼等は一方に於て個別的相違の問題を肯定しながら、他方に於ては特定の刺激に對する「感應」を云々する。勿論彼等は多くの場合に「若し」を頻りに利用する。例へば、鼠か猿か兒童か成人か、若し問題が極めて明確なものであり、若し主體の過去の經驗が是又は彼を含み、若し主體のその瞬間の状態がかくあつてかくあらざるとすれば、この曲線によつて表はされる數學的函數に従つて覺へるであらう、と云つた類である。これ等の「若し」は實は、心理學者が制御しよう并希望してゐるところの豫測し得べからざることの範圍の構成分子である。これ等は彼等の同僚たる自然科學者が定數として持つことのできる變數に相當する。

筆者はかゝるやり方に反對しようとする者では決してない。この方法は實驗室にとつては良き方法である。その齎らした結果が豊富であつたことも疑を容れない。それは最も徹底なる「アーメン」に値するものであり、この瞬間に

の祈りを受けるべきものである。

併し、社会現象の範囲に於ては、心理学者は現実の環境によつて圍繞されてゐる一人以上の人間を取扱ふのであるから、豫測し得べからざる範囲に對してもより現実的な態度を探ることが必要である。個別的相違の存在が認容せられねばならぬとすれば、少なくとも社会心理学に於ては、個人が相互に相違點を持つ以上は、豫測し得べからざるこの範囲は問題として残らねばならぬといふことは完全に明瞭である。人類全體又は人類の一群が考へ得る一切の點に於て絶對的にステロ版化せられぬ以上は、實驗室外の特定の刺戟が各人に對して、これに相應する一つの効果を發生せしめると云ふことは、決して出來ないであらう。心理学者が如何なる動機づけの原理を用ひようとも、或る人々が或ることを或る理由で行ひ、他の人々が同じことを他の理由で行ふといふことは依然として動かされないのである。フロイドの一派の人々と雖も、リビドは無数のやり方で決定され得ることを認めるであらう。例へば、知覺の過程は單に共通の刺戟情勢の作用に因るのみならず、人々の意中に支配的なる、又はこの情勢によつて喚起せられたる種々の態度の作用にも因るのである。といふことは既に述べた。^(註1)これ等の異なる態度の結果として、個人の各々が、同一の情勢を夫々獨自のやり方で知覺するといふことは理論的に可能である。

概、實踐的な、千軍萬馬の心理学者として、この豫測し得べからざるこの範囲を制御しようとする者は宣傳家その人である。人間の仕業であるから彼の刺戟情勢又は種々な刺戟情勢の組合せが總ての人に同様なやり方で影響することはあり得ぬといふことを彼は熟知してゐる。この理由により、彼は百パーセントの成功率を豫期し得ない、けれども彼は能ふ限りこの目標に接近しようと努力する。

心理学者又は宣傳家の當面する豫測し得べからざるこの範囲の大きさは、心理学者の被術者、宣傳家の「犠牲者」

の没つてゐる社会組織の特殊性に應じて變化する。同じ瞬間的社会情勢に置かれた人達は、この情勢が彼等に均等に影響すれば、可成り均等なやり方で反應を呈する。例へば、著しい極性を與へられた暴徒に於ては、指導者の言葉と癡狂した加害者の反應との間に存する豫測し得べからざるこの範囲は極めて小である。一定の社会層に屬する男女は互に類似するものであり、従つて、同じ刺戟情勢に對しては類似した反應を示す。よく結合された原始的種族に於ては、同一の情勢に對する反應の相違は、合衆國の如く複雑な國に於ける夫よりも遙かに小である。ファシストの政策の目標は豫測し得べからざる範囲に能ふ限り縮小する爲めに民衆を「聯隊化」するに在るやうに思はれる。かゝる政策が少數の支配階級の爲めに採られたことは勿論である。

或る社会なり情勢なりに於て宣傳家は出來る限り豫測し得べからざるこの範囲を縮小するやう努力せねばならぬ。吾々が今迄に見て來た宣傳の過程を具體的に觀察すると、そこには二つの主要な心理的な「漏口」があり、個別的の複雑性と相違とに因り、宣傳家の努力はこれ等二つの漏口を通じて脱漏して終ふ、といふことが明らかにされる。第一には喚起せられたる關係的態度が所期の統合を齎らさないで終ふことがあり得る。第二には、假令、所期の統合が出現しても、宣傳家が求めてゐる行動にまで導かれぬことがあり得るのである。

要するに、宣傳家は所期の統合が直ちに現出するといふ保障も、それが即座に行動にまで導かれるといふ保障も持たないのである。その結果として豫測し得べからざるこの範囲の大きさは宣傳の一次的性質に従つて變化する。他の點が同一であるとすれば——かういふ場合は稀であらうが——直接の作用を目的とする宣傳家は、宣傳の目的がより距離を隔てたところに在る場合よりも、成功の率が多い。計算器のボタンを押してハンドルを廻し、求むる答を得るといふやうに簡単な譯には行かない。持久的な宣傳戦によつて所期の統合が生ずるのを待たねばならぬ場合が屢々あるのであ

る。勿論、或る場合には、統合を獲得した後、宣傳家は能く限り速かに、これに對應する行動にまで導かしめようとする。これは即時的統合である。又他の場合には、宣傳家は、將來にまで持續して繰り返し行動にまで導くやうな統合を確保しようとする。これは持続的統合である。即時的と持続的とを問はず、所期の統合が出現して行動にまで導かれる以前に、更に、他のこれと競争する態度が、彼と競争する他の宣傳家によつて喚起若しくは構成せられて、この統合を分裂せしめるといふ可能性が、常に存するのである。宣傳家が影響を與へようと欲する個人は心理學の實驗室の中に住んでおはしない。これ等個人の態度は、均等に刺戟情勢を知覚せしめるように人為的に指導することはできない。否寧ろ彼等は複雑なる社會的環境の一部分を成すものであり、この環境の内に在つて彼等は他の宣傳家達及び社會それ自體の、これと競争する刺戟情勢の影響下に置かれるのである。

そこで、宣傳家はこの豫測し得べからざるこの範圍を縮小するといふ仕事に當面するのである。彼は彼の求める反應を不變に喚起し、而もそれ以外の反應を喚起せざるが如き刺戟情勢を夢想する。この殆んど不可能とも云ふべき目標に到達する爲めに、彼は次の五つの方法の何れか、若しくは總てを用ひる。

1. 補助的、服従的態度を喚起することによつて人々をより暗示にかゝり易くしようとする。
2. 所期の統合によつて導き込ませたく思つてゐる行動の経路を指示する。
3. 統合が潜在的なものとして止まり、若しくは分解して終ふことを防止する爲めに、所期の統合を補強することを努める。
4. 抵觸する態度が支配的になることを防止する爲めに、刺戟情勢の内容を限定する。
5. 最初の、比較的安定的な統合を行なふことを努める。

一、補助的、服従的態度

宣傳家は刺戟情勢に對する補助的、服従的態度を喚起することによつて、個人の心界を制限しようとする。この態度の効果は、第五章に於て述べたやうに、^(註2)他のこれと抵觸する態度を排除することによつて、個人をして一層暗示にかかり易くすることに在る。若し宣傳家が群衆催眠術の力を持つとすれば、それは最も彼の目的に適合する。さすれば彼と彼の被術者との間の不一致は極めて稀となり、彼の目的が忽ちにして彼等の支配的希望となるであらう。實際に於て一九二〇年代の初期に於ては、多くの人々は、戦争宣傳家が彼等を催眠術に陥れ、彼等がこの無意味な闘争の間に行ひ、信じたやうな愚かなことを實際に行はしめ、信ぜしめたのだ、と考へ始めるやうになつた。

催眠術に於て催眠者が催眠に成功するのは、部分的には彼が個人として有する勢威に因るのである。そこで、宣傳家はこの催眠状態に接近する爲めに、彼の刺戟情勢が催眠術に於けると同様な勢威を確保するやうにしようと試みる。積極的社會的價値を有する物又は人にして、殆んど同じ積極的態度を多數の人に喚起せしめるものは、人々の尊敬を受ける。それ故に宣傳家はこれ等のものを彼の刺戟情勢の一部分に含ませようとする。素朴な、併し、簡単な例としては、アメリカの國旗は大多數のアメリカ人にとつて社會的價値を有すると云ひ得る。それ故に、廣告者は屢々この象徴を利用し、これに應じて喚起される態度が人々をして偏つた通信をより受け容れ易くせしめようと欲する。又一つの言葉でも同様の目的を果す場合がある。例へば、無遠慮な政治家は彼の應援する候補者が「百パーセントのアメリカ人」であると云ふ（彼は佛國戰場で戦ひ、日曜日には教會に行く）。百パーセントのアメリカ人といふことは人々に好印象を與へ、この種の紳士に對する投票を増加せしめると推定されるからである。政治的價値は概して流動する。例へば、一九二八年にはフーヴァー大統領は大實業家の支援によつて利益を得たが、四年後にはルーズヴェルト氏は各種の階級の政治

的支持を強調したのである。

普遍性の印象を興へる情勢も亦勢威を有するものであり、従つて服従的態度を喚起する。それ故に宣傳家は容易にかかる印象を興へるやうな機会を見逃さない。群衆又は暴徒の指導者として彼の仕事は比較的容易である。何故かと云へば、多くの人々が現實に行つてゐることを他の者に行はせるやうにしさへすればよいからである。「諸君の仲間である數十萬の市民」が彼の支持する候補者に投票しようとしてゐるとか、彼の會社の自動車を買はふとしてゐるとか、神に對する彼の思想を信じようとしてゐるとか、簡単に云ひ切るといふ方法は、宣傳家としては賢明なやり方である。何故かと云へば、かくするときは彼の言分は正しいに相違ないといふ感じを興へ、彼自身の言葉が一層熱心に従はれるからである。概して云へば、大衆は他の人々が宣傳家の欲する通りに現實に行つてゐるといふことを信するやうに仕向けられると、暗示にかゝり易くなるのである。

最後に、宣傳家及び彼の刺戟情勢の勢威は、一定の宣傳戦に於て使用せらるべき宣傳の型を決定する。隠蔽宣傳に於ては宣傳家は自分自身を顯示しないし、又、その目的を人に知らしめようともしない。何故かと云へば、宣傳主體なり目的なりの顯示は刺戟情勢の勢威を減殺し、従つて服従的態度を喚起せぬことになるからである。否寧ろ人々はそれによつて一層批判的になり、一層暗示にかゝり難くなる。ガソリン配給者はこの燃料に對する高率な州税に抗議する爲めに日刊新聞に廣告を出すといふ手段を探ることもあり得る。併しかやうな型の宣傳は、地方新聞の論説欄に於て堂々の主張を行ふよりは勢威が少くないであらう。廣告は顯示的宣傳といふことが直ちに認められ、税率軽減に關する配給者の明瞭な利己的動機は配給者の主張の効果を弱める。これに對して論説は、假令、新聞社がその地方の石油會社から「鐵飯」の形でさうした思想を注入されたとしても、「意見の率直な表明」又はより「眞實性」に近きものと考へられるのである。

るのである。

他面、顯示的宣傳に於ては、宣傳家の正體又は目的が人に知られることは宣傳の効果を書ししない。何故かと云へばこの場合には、この顯示は宣傳家の勢威を減殺しないからである。事實、人々はこれ等のことを知つて一層服従的になることもあり得るのである。大衆的なビールの製造家が新たに製造しようとするビールを鳴物入りで宣傳し始める場合にも、彼はこのビールに對する後援を公然と表明する。何故かと云へば、彼は彼のビールが彼に勢威を齎らしたと考へ、そしてこの勢威が今や所期の統合をビールに就いて形成する爲めに効果があると信するからである。そして同時に、彼のビールもビールも共に知覚されるといふ効果を増加しつゝあることは勿論である。ゲッペルス氏は宣傳家としての彼の役割に誇りを持ち、彼がヒットラー王國に於て行ひつゝあることを隠蔽しようとすることは殆んどない。獨裁權の賜物として人々は、彼の多忙な事務所から頻繁に發せられる命令に——逐字的にも心理的にも服従することを強いられる。併し他面、ゲッペルスは、ナチスの制度が行はふとしてゐることから離れることがより賢明であるやうに思はれる場合には隠蔽的宣傳の手段を持つてゐる。例へば國會議事堂の焼打の如きは、隠蔽的宣傳の拙劣な、併し悲劇的な企圖であつたと云ひ得よう。

次に、遅延的顯示的宣傳に於ては、宣傳家又は彼の目標の顯示は最初には悪結果を齎らす。併し後になつては、この顯示は有害な影響を持たぬが、或はその宣傳事業の性質が、所期の統合に先立つてその顯示が行はれることを要求する場合もある。例へば、外交官は或る政治上の目的を達成する爲めに匿名の風評を立てる。そして或る大切な瞬間に、彼の敵手に目的を明らかにし、豫め風評によつて獲得せられた効果の利益を收める。

二、行動の経路の指示

所期の統合が起つても、それが抑壓され、又は他の既存の態度に統合せられ、又は、宣傳家の求むるとは異なつた型の行動を齎らずやうな場合も考へ得る。(註4)これ等の齟齬が起ることを豫防する爲めに、宣傳家は人々をして彼の目的の一部分として、所期の統合と彼がこの統合が解放されることを欲するやうな行動の経路との間の關係を理解せしめるやうに努力する。多級制學校の教師は、祖國を愛することが如何に善きことであるかを知らしめることによつて、その學級に屬する生徒に愛國の熱情を鼓吹するのを常とする。併し、この教師が、意圖的又は無意圖的に求めてゐることは、アメリカに向けられた愛國心といふもつと特殊的なものを鼓吹することである。そこで、教師は一步を進めて他の國々に對する祖國の美點を宣揚し、頑是ない生徒達に、良き市民となつてアメリカニズムを實踐するやうに奨める。彼等の實生活に就いて云へば、それは國旗に敬禮することであり、チェイニングガムの包紙を屑箱に投入れることによつて街路の清潔に資することであり、社會主義者の息子を排斥することであり、凡ゆる方法で米國憲法を擁護することである。行動の経路を指示するといふやうな戰術は隱蔽的宣傳に於ては用ひられ得ない。何故かと云へば、この場合には宣傳家は彼の求めてゐる目標を假裝してゐるからである。それ故に、この種の宣傳に於ては、豫測し得べからざることの廣範圍は、他の兩種の宣傳の場合に比してより廣いといふことが屢々ある。加之、行動の経路が指示される場合には、宣傳が成功したときにこの行動の経路が實際に行ひ得ることではなければならぬ。月世界を訪問することを唱導する宣傳家は人々が月世界に登りたくなくなるやうな所期の統合を獲得することがあるかも知れない。併し、この所期の統合の緊眼が現實の昇天によつて解かれるといふことは恐らくは決してあり得ないであらう。

三、所期の統合の補強

一旦所期の統合が獲得されれば宣傳家はこれが潜在的なものとして止まり、若しくは分裂することを防止するやうに

努める。何故かと云へば、潜在的態度が行動にまで導かれる以前に、それは支配的態度とならねばならぬし、分裂した態度は決して行動にまで導かれぬからである。宣傳家の宣傳情勢を最初に知覺させる蓋然性を増加する爲めに反覆が如何なる役割を演ずるかは既に述べた。(註5)加之、同一の又は同様の宣傳情勢の反覆は尙他の機能をも遂行する。即ちこれによつて宣傳家は所期の統合を再喚起することができる。例へば標語は特別に効果がある。何故かと云へばそれは容易に反覆され得るし、所期の統合であるところの態度を喚起するやうにできてゐる。(註6)このやうにして態度を再喚起できなければ態度の分裂が招來されるか、又はそれを惹起したステロ版の消滅を來すことになる。行爲機構の方から云へば、この分裂の過程は一般に「忘却」として知られてゐることに相當するのである。

併し、巧妙な宣傳家は刺戟情勢をその始原的な形で反覆するやうな單純なやり方で満足しない。彼は關係的態度を喚起し、そしてステロ版を變化せしめて新たな態度を構成する爲に、情勢の内容を變化せしめる。これ等の方法によつて彼は所期の統合が齎されることを期待する。(註7)そして更に、所期の統合が出現した後にも、彼は彼の刺戟情勢に變化を與へ続けようとする。何故かならば、このやり方により、他の關係的態度をもそれに統合せしめることによつて、本來の統合を補強しようとするからである。これ等の追加的、關係的態度は豫め心界の中に存在してゐたかも知れない。例へば、製品が天下一品であると云つて宣傳に乗り出したとする。そして新たに獲得した顧客を確保する爲めにその製品の效用を強調したとする。或は、これ等の附加的關係的態度は先づ最初に宣傳家が積極的暗示によつて底に横たはつてゐるステロ版を變更することによつて構成されることもある。かくして、その製品の宣傳戰の第三部として、商品が最も流行の先端に在るやうに見せかけ始めるといふ方法もあり得る。何故かと云へば、この新たな態度によつて所期の統合が強められるからである。かくしてその品物に對する人々の評價に「流行」といふことを含ませ、宣傳家を助

ける種々な心理的の力に流行的態度を附加しようとするのである。

四、刺戟情勢の局限

宣傳家は彼の主張の爲めに有利な印象を創り出さうとする。彼は人々が能ふ限り敷し易いことを欲する。人々が反抗的にならぬことを願ふことは勿論である。この目的を果す爲め、彼の刺戟情勢によつて、人々の裡に何等の抵觸的態度が喚起されぬやうに努めねばならない。然るに、情勢の性質上それを本來の形に於て提示することが、宣傳家が避けようとしてゐること自體を招來するやうな場合が屢々ある。その結果として、宣傳家は、有利な關係的態度のみが喚起されるやうに、彼の材料を整理することを餘儀なくされる。それ故に、抵觸する態度が潜在的なものとして止まるやう、又は構成されぬやうにせねばならない。そこで彼は歪曲、抑壓又は捏造等の手段に訴へるのである。

「歪曲」により宣傳家は客觀的には「眞實なる」情勢の配置を變更して彼が喚起せんと欲する有利な態度のみを喚起するやうにして彼の情勢を提示することができる。「抑壓」により、宣傳家は「眞實なる」情勢の或る要素を蔽ふことによつて同様の結果を獲得する。又、「捏造」により宣傳家は彼の目的に役立つやうな要素を情勢に附加へる。これ等三つの方法により、宣傳家は情勢によつて作られる印象を制御する爲めに彼の刺戟情勢を種々に加工する。彼は情勢に對する人々のステロ版が彼自身の註文通りになることを欲する。何故かと云へば、若しさうなれば、所期の統合に反對すると云はぬまでも少なくともこれを阻害するやうな態度が喚起される可能性が少なくなるからである。

人々のステロ版及び態度を規正する爲めに刺戟情勢を限定するといふ遣り口は實は檢閲の本質なのである。米國の保守主義者達は聯邦憲法を安定的な制度としようと欲する。彼等はアメリカ人に對して急激に、又は熱心に、別の政治組織を教へようとする試みを恐れ、従つてこれを檢閲する。戦時に在つては、戦勝の連続に關する國民的觀念が崩されぬ

爲めに、戦敗の知らせが抑壓されることは屢々ある。子供に所謂「生活の事實」を知らせると子供のお伽噺的世界が破られて子供の人格が害はれ、子供達の行爲、道徳一般に悪影響を及ぼすからと云つて、自分や他人の子供達に所謂「生活の實相」を隠蔽したがる人は餘りに多い。それ故に檢閲は宣傳の忠實なる下僕フライデーである。即ち、宣傳のみでは與へられた仕事を遂行することができぬ場合に檢閲はその仕事を完成する爲めに呼び出される。

加之、宣傳に關する多くの著述家及び思想家に嫌惡の情を喚起せしめたのは、宣傳に伴ふ歪曲、抑壓、捏造に他ならない。彼等は彼等が「眞理」からの離脱と考へることを檢閲したり抑壓したりすることは進んでやるに拘はらず、彼等が好んで「眞理」なりとすることを妨げることとを批難する。然るに宣傳家は屢々この神秘的な「眞理」を妨げるやうな處置を採らねばならず、そしてその爲めに、宣傳家に對する理想主義的な批評家は全く困惑させられて終ふのである。而も、現代の世界に於ける「惡」宣傳の最も顯著な例であるところの戦争がこの限定の原理を使用して繁昌してゐることとは明白である。これ等善良な人達が認識し得ないことは、絶對的「眞理」を提示すべき確實な方法はあり得ないといふことである。科學として認められてゐるものを含むものを除き——而もこの範圍にも著しい例外が存する——如何なる種類の傳達の方法と雖も、これ等三つの工夫の或るもの、又は總てを避けることはできない。自分の説いてゐることが利己的なものでなく、聽衆を裨益するといふことを正直に、眞底から信じてゐる敬虔な公開演説者と、客觀的標準から云へば人々の幸福を害するやうなことを行はせる爲めに故らに虚偽を播布する宣傳家との間の相違は、程度の相違に過ぎないのである。この程度の相違を云々することが決して聲高い非難に當らぬことは勿論である。といふのは、これは良き社會的行爲と惡き社會的行爲とを距つる距離を表象するからである。併し、それが單に量的な相違であり、決して質的相違ではないといふ事實は依然として殘されるのである。

五、始 原 性

宣傳家が豫測し得べからざることの範囲を縮小せしめる爲めに用ひ得る方法が一つある。即ち、宣傳家は彼の敵手
がその刺戟情勢を目立たせ、所期の統合を完成する機会を持つ前に、自分の所期の統合を確保するやうに努力するとい
ふ方法があるのである。これを行ふ爲めには、彼の特殊の目的を助成するステロ版によつて第一着に人々を捉へて了ふ
やうにせねばならない。この宣傳の原理は「始原性」の要因を利用するものである。心界に於ける最初のステロ版と統合
が或る程度の情勢を持ち、従つて、反對側の宣傳家の企てる再統合に容易に支配されない、といふことを證明する心理
學上の證據は豊富にある。更に、近時の宣傳成功者が如何に活動するかを經驗的に觀察することによつて、別の資料が
得られる。例へば、カトリック教會はその子弟が通常の學校又は公學校の教育を授けられることを甚だ好まない。ヒット
ラーはドイツの少年を編成してヒットラー・ユングントを組織し、ムッソリーニは同様な方法をイタリアで行つてパリ
ヲ、フヴァンダールディステイを編組した。これ等二人の獨裁者がファシズムに對する國家の「自發的熱情」を確保する
方法は、少年が自分で思索する心理學的機会を持つ以前に訓練を施すに在るといふことを明瞭に覺るが故である。よ
りミリタリストならざる國に於ては無意圖的宣傳が勢力を占める。何故かと云へば、通常をれば殆んど子供が生れると
直ちに子供の上に吹きかけられ始めるからである。

6. 豫測し得べからざることの範囲の原理。

關係的態度の間に所期の統合が行はれる以前、及び隠蔽的宣傳の場合を除き、宣傳家の目的が理解され、それが
行動にまで導かれる以前に、宣傳の一次的性質、對抗する他の宣傳家達の存在、宣傳家が取扱はねばならぬところ
の集團内に於ける人格の複雑性等に基づき、豫測し得べからざることの範囲が存在する。

(134)

a. 補助的、服從的態度の原理。

宣傳家は勢威を有する刺戟情勢に對する服從的態度の喚起を通じて心界を制限することにより、豫測し得べから
ざることの範囲を縮小する。服從的態度の喚起の結果としては被暗示性が増加する傾向が現はれる。

a. 1 積極的社會價値の原理。

宣傳家はその刺戟情勢の中に、積極的社會價値を有する物又は人を含ませようとする。

a. 2 普遍性の印象の原理。

宣傳家は普遍性の印象を惹き起す。

a. 3 宣傳の選擇の原理。

宣傳家又は刺戟情勢の勢威が彼の目的の顯示によつて減殺されぬ場合には顯示的宣傳が用ひられる。顯示によつ
て勢威が減殺される場合には隠蔽的宣傳が用ひられる。即時的な顯示では減殺されるが、後に顯示しても殺滅さ
れぬ場合には遅延的顯示的宣傳が用ひられる。

b. 行動経路を指示する原理。

顯示的及び遅延的顯示的宣傳に於ては、宣傳家は所期の統合が導かるべき行動の経路を指示することによつて豫
測し得べからざることの範囲を縮小する。

c. 補強の原理。

宣傳家は所期の統合が潜在的に止まり、又は分解することを防止する爲めに豫測し得べからざることの範囲を縮
小する。

(135)

- c. 1 反覆の補強的原理。
宣傳家は同一の若しくは同様の刺戟情勢を反覆する。
- c. 2 附加的關係的既存態度の原理。
宣傳家は他の既存の關係的態度を喚起する。
- c. 3 附加的關係的新態度の原理。
宣傳家は人々のステロ版を變更して積極的暗示を與へ新たな態度を形成する。
- d. 局限の原理。
宣傳家は歪曲、抑壓、捏造によつて刺戟情勢を限定して豫測し得べからざることの範圍を縮小する。
- e. 始原性の原理。
宣傳家は最初の、比較的安定的な統合を生み出す爲めに豫測し得べからざることの範圍を縮小する。

註1. 八六頁參照。
 註2. 五六—五九頁參照。
 註3. Ralph D. Casey, "Party Campaign Propaganda," Ann. Amer. Acad. Pol. & Soc. Sci., 1935, v. 170, p. 104.
 註4. これは實は、心界の平衡が擾れたときに生ずる「この再敘述である」。
 註5. 九一頁參照。
 註6. 標語の論述は三四九頁參照。
 註7. この變化の機能は既に概説した。
 註8. 例は F. H. Lund, "The Psychology of Belief," J. Abn. & Soc. Psychol., 1925, v. 20, pp. 63—81 & 174—196. 參照。

第十一條 逆宣傳と説得

前諸章に於て述べた六つの宣傳の原理には二つの假定が含まれてゐる。それを基礎として二つの附加的原理が打ち立てられねばならない。先づ第一に今迄は宣傳は恰かも唯一の宣傳家が人々を影響しようとするか、或るかの如くに説述して來た。かやうな状態が現實の生活に合致せぬといふことは既に豫測し得べからざることの範圍を論述した際に示唆を與へておいた。唯一の型の宣傳が人々の上に作用しつゝあるが如き社會は殆んど存在しない。普通には競争の立場に立つ他の宣傳家があり、競争的宣傳體系を以て對抗して來るのである。換言すれば、各宣傳家は皆に人々に影響を與へねばならぬのみならず、彼等が他の宣傳家によつて影響されることを防止せねばならない。彼がこれ等の人々を服従的にすることができぬやうになつたとき、行動の經路を指示することでは不十分になつたとき、所期の統合が分裂することを防ぐことに成功しないとき、刺戟情勢を制限することが彼の目的を達成せしめぬとき、又は、彼が最初の統合を行ひ得ぬときには、逆宣傳を行ふべく已むなくされる。

も一つの暗黙裡の假定は、宣傳家が常に人々の集團を對象としてゐることであつた。然るに現實には宣傳家が集團に對して影響を及ぼさずして單一の人又は單に若干數の人々に影響することが要求されるやうな事態が起るのである。かやうな事情に於ては、宣傳家は説得といふ手段に訴へる。この方法は宣傳とは區別せねばならない。

一、逆 宣 傳

宣傳家は彼の言分を直ちに又は進んで受容れるやうな人々の集團を相手としてゐる者ではない。これ等の人々の内に

は所期の統合と抵觸する態度が支配的であることがある。かやうな態度の緊張が強ければ、宣傳家はそれを無視することはできない。彼は逆宣傳によつてかうした態度に對抗することを試みねばならない。

意圖的宣傳家が臆病の非難を蒙ることは稀である。それ故に彼等は直接に抵觸的態度を攻撃してかゝる。彼等は消極的暗示の方法によつてこの態度を絶滅し又は變更しようとする。このことは、人々に各種の刺戟情勢を提示してやり、それが知覺されて別なステロ版が生ずるといふことによつて成功する場合がある。例へば、或る人が或る商標の巻煙草を好むとする。ところが突然、彼が暇つぶしに読んでゐる下らない物語の側に、一つの廣告を發見する。その廣告には彼の好む巻煙草の獨特と云はれてゐる製造工程に對して、一面微妙であると同時に他面粗野に述べられた誹謗が掲げられてゐる。この廣告を出した製造家はこの煙草に對する考へ方を修正させる爲めに、これに對する態度の方向を變化させようとしてゐるのである。彼がこの煙草を愛顧する代りに、彼の咽喉又は神經の爲めに、及び勿論、彼の最良を自分の方に移してこの廣告自體の費用を拂ふ一助ともする爲めに、この煙草を避けさせるやうにしたいといふのが、この廣告主の本心なのである。

この種の逆宣傳は危険である。大衆は情勢によつて彼等のステロ版及び態度に執著することを好むものであり、従つて、彼等のステロ版なり態度なりを誹謗することは、彼等の省察を刺戟することにもなるのである。それ故に宣傳家は、何か別の方法で抵觸的態度の抵抗を超克し得る限りは、この型の宣傳を用ひることを避けようとする。

逆宣傳に對する補充的方法是積極的暗示に訴へることである。この場合に彼は抵觸的態度の存在を無視し、抵觸的態度を超克するに充分な程支配的であり、緊張を持つところの新ステロ版及び新關係的態度を築き上げようとする。煙草製造家がこの型の宣傳の方を好むことは明瞭である。彼等は彼等の競争者の主張を町重に無視し、彼等が不斷に自家

製品に就いて強調し続けるところの獨特の長所を信せしめようとする。併し、この方法にも危険が伴ふ。何故かと云へば人は彼等の主張を開き流して従前通りの煙草を喫ふかも知れないから。

かやうにして逆宣傳には心理學的危険が充滿してゐる。にもかゝらず、社會が平和的に變化する場合には逆宣傳に依ることが多いのである。コントの如き明敏なる社會學者さへ苦しんだ問題も、逆宣傳を引合に出すことによつて解決せられるに相違ない。即ち、如何にして人間は社會の反映であると同時に社會を變化せしめる因子でもあり得るかの、問題が是である。人が社會の反映であるといふのは彼のステロ版と態度とが社會の所産であるからである。然るに或る人々は、彼等自身及び彼等の時代に特有の理由に基づき、或る程度の距離を持つことができる。彼等の心界内に行はれる交互作用の結果として、彼等の態度が一つの統合の基底を構成することができ、その統合の結果が行動に現はれては、本來の態度を生み出した社會とは「異なる」「新たな」ものであることがあり得る。距離と新たな前途を具へた人たる彼等が他の人々を變化させようとするのである。彼等は反對に衝き當る舊態依然たる群集のステロ版や態度によつて提供される一種の心理學的な反對に際會する。若し彼等が勇敢であるか熱情的であるか、或は兩方を兼ね備へてゐる場合には、逆宣傳によつてかうした反對を打破つてかゝるといふ方法に出る。消極的暗示によつて舊態度を破壊するか又は積極的暗示によつて新たなより強い態度を築き上げるかする手續は早急には行はれ得ない。それを促進する爲めには人と自體の相互關係により事態が變化し延いては態度が變化するのを待つといふ方法もあらうが、それは寧ろ、逆宣傳家自身が有する精力と心理的洞察力に全然頼るに若かないであらう。されば、大多數の人々は彼等の環境を反映するの域を殆んど出ないといふことが眞實であるやうに考へられる。併し、大多數が満足して住つてゐるところの谷間よりは比較的に高度の高い高臺に何とかして攀ぢ登ることに成功する者もない譯ではない。環境に對して働きかけ、それに表

面的な、時には根本的な修正さへも施すところの、時代の聖人、急激主義者等が是である。

加之、意圖的宣傳家は、何時逆宣傳戦を開始すべきかを知り得る程俊敏でなければならぬ。彼の基礎が安全であると思ひ込んである最中に、彼の敵手達が彼の追隨者の中に抵觸的態度を築き上げつゝあるかも知れないのである。この反對を認識し、これに對して逆襲を行はぬ限りは、自分が自ら築き上げた空想の世界に晏如としてゐたといふことを突然、而も痛い程切實に發見するやうな立場に立到るかも知れないのである。近代世界に於けるファッショム反對者は、舊時の歐洲君主達と同様に、イントレランス運動に於て餘りに主だつた指導者連に注意を集中し過ぎて、大衆がファッショムに就いて獲得しつゝある新たな態度を閑却するといふ缺點がある。かくして、ヒットラーが總統に就任したときにドイツの社會民主黨が經驗した驚駭の情は、臆ろながら、嘗てルキ十六世、ニコラス二世が殺戮されたときに、その一族が感じた困惑の情と似通ふものがある。ドイツ社會主義者は餘りに久しくナチスの存在を無視するといふ過失を冒し、上述諸王家は革命といふものは若干の革命家を投獄又は死刑に處することによつて抑壓し得ると想像してゐたのである。

二、説 得

宣傳が「個人の集團」に作用するといふことは反覆強調した。宣傳は集團現象なるが故に宣傳家は、個々の人に關心を持たずして多數の人々に關心を持つ。彼はこれ等の人々の總て又は態ふ限り多數に對して影響しようとして企てる。宣傳に對して、説得は一人の人又は小集團の人に集中される。説得の場合には接觸は一次的であり、通常鼻と鼻とを突き合せたやうな事態を含むものである。宣傳に於て用ひられる戰術が或る一個人を對象として行はれることなきに對し、説得に於て用ひられる戰術は宣傳家が影響しようとして企てつゝある個人に對して決定的に向けられるのである。宣傳家は近

い間の議論に於て行ひ得るやうなやり取りを行ふことはできない。説得者は時と場合に應じて種々な處置を採ることができる。同時に説得者は宣傳家の用ひ得る總ての心理的方法、特に暗示を用ひることができ。而も、これ等の方法の効果は一層正確に測定することができる。

より詳かに検討すれば、宣傳と説得とは、密接な關聯を有する二つの社會現象に於て通常見られる通り、大衆に對する心理的效果といふ點から見れば、合併されることがあることは明瞭である。とは云へ、概して云へば、文書による宣傳は新聞紙又は回章の如く多數の人々によつて讀まれる傳達方法に限られ、文書による説得は一人の人から彼の知る他の人への手紙の如く或る一人に向けられた方法によつて行はれる、といふことができる。又、政治家の選舉演説は宣傳の一例であり、秩序立つた議會の演説は説得の一例であるといふことができる。併し、兩方に跨るやうな事例もある。例へば、過激な労働組合の代表者が一群の労働者をして地方的團體を形成せしめようと企てる場合には、彼は一時に多くの人々に對して彼の主張を叫びかける。この場合に彼は宣傳家である。併し更に、彼はこれ等の人々を個人的にも團體としても極めてよく知つてゐるが故に、所期の結果を獲得する爲めには如何に説くべきかといふことを正確に知つてゐる。この理由により、彼は説得者とも呼ばれ得る。加之、説得の方が宣傳よりもより多くの社會的相互作用を含む傾向があり、その結果として、説得者は通常、宣傳家よりも一層具體的な資料を操縦し、一層迅速にその方法に變化を與へる。

説得者は、宣傳家が人々の集團に對して行ふよりも一層巧妙に個人に對してその戰術を適合せしめて行くといふ事實は、宣傳の補充的方法として説得を使用する可能性を排除するものではない。例へば、宣傳家が、勢威を有する人々を味方に引入れる爲めに説得するといふ場合は極めて頻繁に起るのである。後には宣傳家はこれ等聲望ある人々を自分の

宣傳情勢の一部分としてその中に含ましめようとする。何故かと云へば、彼はこれ等の人々が他の人々に於ける彼等に對する服従的態度を喚起することを知つてゐるからである。この技術は通常、大規模な宣傳戰に於て採用される。公職の候補者は自分の政黨の役員達、及び能ふべくれば政黨外の信望ある人々の支援を確保することに熱中する。アメリカの公衆は囂氣を催す程の推薦狀に悩まされてゐる。これ等の實例の多くに於ける宣傳家の説得者としての役割は甚だ原始的である。即ち、政治的な儲け仕事又は直接の支拂の形による賄賂は所期の統合を齎らすに足りる。この統合はその人物が現實に感じ若しくは考へることゝは切り離されてゐるが、彼が現實の、又は擬制的の支持を與へることを要求する。然る後に候補者は自己の好評を誇示し、廣告者は公衆が愚かしい程欺され易きことを祈りつゝ、彼の獲得した支持者の署名入りの推薦狀や寫眞を印刷する。

説得は宣傳の補充的方法として尙一層重要な役割を演ずることが出来る。こゝぞといふ機會に宣傳家は、既に宣傳の一般的要盟によつて或る程度まで影響を與へた人々と顔突き合せた接觸を行ふ。この一層近接した接觸により彼は所期の統合を齎らすこともあらうし、彼等をして彼の思ふ通りの行動を採らしめるやうにすることもあるであらう。例へば、社會問題に關する多くの宣傳家は、廣汎な要求を含む宣傳が或る問題に對して市民の大集團を改宗せしめ得ることを知つてゐる。然るに、議會主義の政體に於ては、この改宗は政府の立法部門に於ける人民の代表者に必ずしも影響を與へない。そこで宣傳家は彼の攻撃の目標を狭める。彼は首都に上京して議會出入を始める。會議體の周りを彷徨する無数の「利權漁り」の一人として議員を窮地に押し込め、これぞと思ふ人を説得することもできるのである。

7. 逆宣傳の原理。

抵觸的態度が所期の統合の出現を妨げる傾向あるときは宣傳家は逆宣傳を用ひる。

a. 逆宣傳に於ける消極的暗示の原理。

逆宣傳に於て宣傳家は抵觸的態度を無効ならしめる爲めに消極的暗示を用ひる。

b. 逆宣傳に於ける積極的暗示の原理。

逆宣傳に於て宣傳家は抵觸的態度に對抗する新たな關係的態度を形成する爲めに積極的暗示を用ひる。

8. 説得の原理。

宣傳家は補充的手段として説得を用ひる。

a. 説得の勢威原理。

宣傳家は後に他の人々の服従的態度を喚起するが如き勢威ある人々に對して説得を用ひる。

b. 説得の時間的原理。

説得は或る人々の間に所期の統合と行動とを齎らす爲め緊要なる瞬間に於て宣傳を補充する。

三、摘 要

宣傳の八つの原理及びその二十八の系は以上述べた如くである。これ等の原理は凡ゆる種類の宣傳を補ふべきものであり、各種の宣傳中に含まれる心理的過程の分類をも含む。宣傳家の意圖に關する第一の原理を除き、これ等の原理は態度及び暗示の概念を基礎とするが故に、宣傳の心理學的説明であるとも云へる。第四部及び第五部に於ては、これ等の原理を宣傳の代表的實例及び宣傳の手段に適用することにより、その明白な妥當性を立證する。

これ等の原理の順序は恣意的なものであり、必ずしもその效力の程度を示すものにあらざること忘れてはならぬ。或る宣傳戰に於て宣傳家がこれ等原理の總てと云はぬまでも多數を同時に用ひることはある。何故かと云へば、こ

れ等の原理は相間的であり、相互依存的だからである。宣傳に含まる心理學的過程を分析して原理を打建て、見たのであるが、これはこの現象の心理を赤裸々に展開する爲めにであり、比較的容易に把握し得るやう極立たせる爲めにある。それ故に、例へば宣傳家が同一の形に於て彼の宣傳情勢を反覆する場合には、彼は次の三者の何れか、又は全部を企てつゝあるのである。

- (1) 能ふ限り多數の人々をしてこの情勢を知覺せしめる爲め(2 b. 反覆の知覺的原理)。
- (2) 所期の統合を再喚起することによつてこれを補強する爲め(6 c. 1. 反覆の補強的原理)。
- (3) 逆宣傳を行ふ爲め(7. 逆宣傳の原理)。

それ故に、單なる反覆も、或る人々に對しては情勢を知覺するやうに、他の人々に對しては所期の統合を補強するやうに、更に他の人に對しては軋觸的態度の方向を變更し又はより強い關係的態度を構成することによつて軋觸的態度を無効ならしめるやうに働くのである。又、宣傳家が彼の刺戟情勢の内容を變化させる場合には、

- (1) 所期の統合を廢らす爲めに、異なる人々に於て異なる關係的態度を喚起し、新たな關係的態度を構成する爲め(4 b. 變化の原理)。
 - (2) 緊要な瞬間に彼の目的を顯示する爲め(3 b. 1. 遅延的顯示的逆宣傳の時間的原理)。
 - (3) 附加的關係的態度を喚起することによつて所期の統合を補強する爲め(6 c. 2. 附加的關係的既存態度の原理)。
 - (4) 新たな態度を構成することによつて所期の統合を補強する爲め(6 c. 3. 附加的關係的新態度の原理)。
 - (5) 逆宣傳を行ふ爲め(7. 逆宣傳の原理)。
- 要するに一つの刺戟情勢は種々な心理的機能を持つことがあり得る。宣傳家は自分の銃に鹿弾を填めて多くの人々を

別々に打留める確信を持つてゐると云つたやうなものである。(註1)

註1. 習得、記憶、注意等の傳統的心理問題は暗黙裡にこの宣傳の分析に於て取扱はれた。何故かと云へば、筆者の定義による宣傳は心界内の組織の變化即ち暗示をも包含するからである。この觀點に従へば、暗示は新たな動機を習得する形式の一つであり、そして暗示は知覺に倚靠する。この問題に就いては既に若干の論述を試みた。加之、宣傳家は習得に關心を持つものではない。彼は所期の統合を求むる者であり、而してそれに含まるゝ習得なり知識なりは、喚起せられた態度からその動機づけの源泉を獲得するのである。宣傳家は人々の態度に影響を與へる目的を以て彼等のステロ版を變化せしめる。習得又はステロ版の獲得は知覺に於ける別個の問題である。記憶に關する限りに於ては、認識と想起の問題は、宣傳家が所期の統合を補強する爲めに用ひる手段を説述した箇所に於て觸れた。最後に、注意の概念は用ひられなかつたが、その理由は、この概念が動的な心界に照して分析するには餘りに曖昧だからである。その代りに、新奇、突然、激しき等の如くに、「注意を一捉へる」ものと想像されて來た傳統的諸要因は、人々に對して宣傳家の刺戟情勢を極立たせるやうにさせる手段、異なる人々に異なる關係的態度を喚起せしめる手段及び所期の統合が潜在的に止まり又は分裂することを防止する手段として考へられる。かくして一つの問題としての注意は意識的に省略したのである。

第四部 宣傳の風靡

第十二章 商業宣傳（其の一）

宣傳といふ現象には必然的に闘争が附いて廻るから、無制限の、又は制限せられたる競争を基礎として繁榮する商業界に影しい宣傳家の簇出を見たことは云はゞ當然である。何人と雖もこの事實を否定できない。茲でこの事實を述べる所以は商業宣傳をそれに特有の見透しの中に置く爲めである。

大規模な廣告及び外交の歴史は近代的經濟戰の發達と廣汎なる傳達手段の發展とに併行するやうに思はれる。廣告代理業者と公共關係顧問はより最近の發達にかゝるものであるが、その萌芽は既に大戰前に見られた。併し、これ等特殊の宣傳家がその仕事のやり口に於て一層巧妙になつたのは一九二〇年代からのことである。彼等は段々と自覺的になつて來て屢々彼等の「職業」の「倫理」を云々するやうになつた。

商業上の宣傳家の窮極の、併し必ずしも常に明白にあらざる目的は、意圖的に彼等の依頼人の利益を増進するに在る（1. 宣傳家の意圖の原理）。例へば、雜誌廣告又はラヂオ廣告の場合の如く、會社とその得意先との間の「より良好なる關係」を増進するやうな、又はこれ等得意先の希望を確かめるやうな美辭麗句を羅列してゐるとしても、この良好なる關係又は公衆に對する洞察は單に窮極の目的、即ち會社の爲めにもつと多くの金を稼ぐことの爲めの手段に過ぎないのである。公共關係顧問が彼等自身及び彼等の事業に就いて著書を著し又は論文を物するときに、彼等は屢々この機能を最少限に止めようと企てる。即ち、

(146)

「即時に利益を擧げる爲めに效用があるものといふ希望が或る方針を命令する場合があることは勿論である。持続的な顧客に對する希望が他の方針を、資本増加の必要が第三の方針を、破滅的競争を避ける必要が第四の方針を、等々のことがある。實際には、種々の目的が存在し、夫々の相對的重要性に應じて夫々手當をするといふやり方が普通採られるのである。」^(註2)

かくして、或る特定の顧問は數多の「方針」を示唆することによつて素人を混亂に陥らせようと試みた。現實には、より大なる利益を確保するといふ希望が窮極の決定とする。『持続的顧客』、「より大なる資本」、「破滅的競争」の回避等は利益を擧げる爲めの工夫であり、その利益が「即時的」であるか否かは問題ではない。

一、説 得

廣告に於ける第一歩が廣告代理業によつて始められることがある。この場合に、代理業は實業家が特定の方法によつて廣告するやうに誘はふと企てる。例へば、代理業者は、特定の廣告板によつて得られる具體的利益を詳細に記述した小冊子を送附する。この小冊子及びそれに添へて送られた手紙が製造業者の製品によく適合するやうに物されてゐることは勿論である。取引が完全に纏まる以前に、廣告代理業の代理人と製造業者との間に相談が行はれ、その相談の過程に於て關係兩當事者は計畫及びその費用に關する差向ひの論議を行ふ。換言すれば、前者は彼の相手を納得させるべきより特殊な論法を用ひようと努力して個人的説得法を用ひる。

同様な差向ひの接觸が可能である場合には、説得は宣傳の補充的方法として役立つ（8b. 宣傳の時間的原理）。このことは外交販賣の場合に特に著しい。この場合に外交員の仕事は、彼の會社の製品の特質を彼が對坐しつゝある買手又は消費者の特殊性に適合せしめようとすることに在る。それ故に、外交員は「心理學的」原理に關する經驗的知識を持

(147)

たねばならない。例へば、彼は買手又は消費者の態度の何れが彼の賣込みの助けとなるかを知らねばならず、外觀上の陽気さと事務とを混和させる能力を持たねばならない。そしてこれ等の實驗的心理學的、原理を彼の賣込話の速射砲的進行の最中に、適用せねばならない。

二、廣告

大多數の企業は進んで新聞雜誌、廣告板、又はラヂオの廣告の爲めの費用を支拂ふものである。それ故に、上に述べた説得の段階は何等したる困難を伴なはぬことが普通である。その定義から云つても、法律上の要件から云つても、大多數の廣告は顯示的又は遅延的、顯示的宣傳の部に含まれねばならない。何故かと云へば、疑はしい宣傳は、廣告者の目標が讀者に看取せられ得る爲めに「廣告」といふ目標を附することを要求されるからである。

廣告戦は通常、偶然的に行はれるものではない。それを能ふ限り有效ならしむる爲めに計畫的な計算を行つて行はれることを常とする。廣告の心理學的問題は總べての宣傳の三重の問題である。即ち、第一に、人々は廣告されつゝある製品若しくは奉仕を知るやうにならねばならぬ。第二に、この知ることが彼等をしてそれを買ひ若しくは利用するやうにせしめるところの所期の統合を齎らさねばならない。第三に、この統合は現實の取引にまで導かれねばならない。

そこで、廣告者は先づ第一に人々をして彼の製品を知覚せしめねばならない——そして大多數の廣告はこの目的に向けられてゐるのである(2)。知覚の原理)廣告をして平均人の社會的環境を構成する複雑多岐な背景から極立たしむる爲めには凡ゆる近代的傳達方法が用ひられる。手段が選定せられたる後には廣告者はこの手段の範圍内で彼の云ひ條を極立てさせねばならない。電燈看板はそれが街路上の唯一の看板である場合には人々の注意を牽き得る。併し如何なる都市に於ても電氣看板は他の夥しい數の看板と眼合はねばならない。かくして電球の數、ネオン燈の大きさ、看板の位置

等が總て、夫々の競争に於て一つの役割を演ずるといふことになる。廣告を取扱つてゐる在來の普通は廣告者が定期刊行物に於ける場所を選定する場合に選定の標準を指示すべき實驗材料を示してゐる。例へば、二人の著者は「雜誌廣告掲載」を論じて、考察せらるゝことを要する八つの要因に注意を牽いてゐる。即ち、雜誌内の位置、大いさ、頁上の位置、繪畫、文章、構成、區別線、及び釣合が是である(註4)。注意すべきことはこれ等總てが「文章」のみを除いて、悉く知覺的要因であることである。ポツフェンバーガー(Poffenberger)に至つては一層細かい。彼は左上隅、頁の「上半」が最も價値ある位置であり、右側の頁が恐らくは左側の頁よりも價値があるといふことを證明する證據を提示してゐる。但し彼自身としてはこれ等の結論に對して幾分懷疑的である。ルーカス(Lucas)及びベソン(Benson)も亦他の技術的材料、例へば色彩の使用、正しい型等に就いて説き、それが廣告の構成に重大な要素を成すとしてゐる。

尙又、廣告者は、補助的態度を喚起することによつて彼の廣告を眼立たせようとする(2)。補助的態度の知覺的原理)廣告に關する著者達はこれ等の態度を「アップビル」又は「欲求」の項の下に羅列する。例へば、ポツフェンバーガーは、次の如き「生來の欲望」は或る廣告に對する關心を喚起する爲めに利用し得ると説いてゐる。即ち、飲、食、性、休息及び安樂、危險の脱出、自己主張と柔順、一致すること及び異なることに對する反抗の欲望、親の欲望、社交性と内氣、新たなことを開拓すること及び慣れたものを保持することに對する反抗の欲望が是である。「後天的欲望」として彼が擧げてゐるものに、清潔、美、經濟、厚遇等がある(註6)。これ等「欲望」の大部分は實に態度である。そして、これ等に就いて具體的、永久的分類を施すことは危險ではあるが、又、ポツフェンバーガー教授の行つてゐるやうに、これ等の態度の或るものが「生來的」であることを主張することは誤謬を招き易いが、アメリカ型の文化に育つた人々の内にかやうなものが存在することも亦疑を容れない。これ等の態度の喚起が個人の内界内の特殊な組織に倚靠す

ることを忘れてはならない。例へば、或る特殊のビールの旗持ちをしてゐる肉感的な女の姿は男の性的態度を喚起し、そのビールを瞬間的に極立たせるに役立つことは事實であるが、^(註7) 根からの女嫌ひ前は或る女と深い戀愛に陥つてゐる者は、廣告者が豫期するやうな具合に反應を呈しはしない。要するに、豫測し得べからざることの範圍が存するといふことは必然的に、ポツンバーガーの分類をして、影響を蒙りつゝある個人に倚靠せしめるのである(6. 豫測し得べからざることの範圍)。

廣告戦に於ては通常、反覆といふ重要な心理學的要素が強調される。戶外看板は日々人々の眼を牽くし、廣告者は種々な定期刊行物の欄を利用するし、ラジオの廣告人は數夜又は數週に亘つて放送を続けるし、廣告の眼先を變へて種々な方法で行はれる。これは總て、廣告が最初に眼立たないとしても、繰り返される間に後には眼立つやうになるのであるらうといふ希望の下に行はれるのである(2b. 反覆の知覺的原理)。又、かやうにして廣告者は、所期の統合が競争的立場に在る他の廣告者によつて變更されることを恐れて、この統合を強めようとする(6c1. 反覆の補強的原理)。ポツンバーガーは各反覆が同一であつてはならぬといふことを指摘してゐる。畢竟するに、良き廣告は「通常のこと」と「新奇なこと」との間の損益計算をつけるといふことである。^(註8) この新奇の要素は次の理由によつて重要である。即ち、普通でない刺激情勢は心界に影響する固有性を有するが如く見ゆるが故に、新奇であることは廣告を極立たせ続ける(2. 知覺の原理)。又、附加的、關係的、既存態度を喚起し(6c2. 附加的、關係的、既存態度の原理)、新たな關係的態度を構成する機會を與へる(4d. 變化の原理、6c3. 附加的、關係的、新態度の原理)。廣告者は快よい響を持つた又は「魅惑的な」商品名を附けようと努力する。かやうな工風が直ちに知覺されることを知つてゐるからである(2c. 單純化の知覺的原理)。數箇年に亘る久しい間の廣告の連続により、商品の名稱がその商

品自體と密接な關係を持つやうになり、ある商品の固有名稱がその種の商品全般を指稱する普通名詞となるやうな傾向がある。それ故に、或る人とは特殊な商品名(例へば「フリヂデー」又は「ヴィクトローラ」)をその種商品(電氣冷蔵庫)又は蓄音器全體の名稱と混同する。又或る者は或る種の藥品を買ふにその藥品名を指定することを要すると思ひ込んでゐる。ところが事實は、同じ效能を有する藥品がより廉價で手に入れ得るのである。ぎごちない化學的名稱は前者も後者も變らないのである。

稀な場合ではあるが廣告名が遅延的、顯示的宣傳を行ふこともある。自動車製造業者が某々の日時に、或る特殊な長所を有する新車が出現する旨を廣告する爲めに或る空間を買収する。商店主がその店で別の商品が販賣されることを廣告するポスターを飾窓に貼り付ける。それが映畫の夫であるか否かを觀衆が判断し得ないうちに映畫の題が廣告される。或は新聞紙の第三面に神祕的な、潑刺たる「謎」が掲げられ、讀者を第十六頁の現實の廣告に牽きつける。これ等總ては、廣告者が廣告せらるべきものゝ名稱を云ふ前に關係的態度を喚起しようとするのである。それは好奇心の態度を作り上げる爲めであり、好奇的態度の緊張感はその品物の本當の名稱が知れて初めて解かれるからである。又、或る商業雜誌は、廣告がアメリカの婦人に喫煙の習慣を植ゑつけるに與つて力があつたことを説いてゐる。一九一九年に或る煙草製造業者は喫煙しつゝある東洋婦人の畫を廣告に用ひた。翌年「靴下の廣告で、婦人が煙草を喫ひながら靴下を見せてゐる畫を掲げたもの」が出た。次で「チェスターフィールドの廣告で「私のやうな喫ひ方をなさい」といふのが現はれた。これは若い婦人が手慣れた手附きで喫煙してゐるところを描いたものである」が同じ雜誌は、パイプ製造會社が有名な婦人のパイプ喫煙家に關する話を新聞社に配布すること、美しい婦人が見守つてゐる傍でパイプを喫つてゐる男を描いた廣告を出すことを計畫したといふことを述べてゐる。かゝる廣告は、將來の宣傳に利用せらるべき態度

を築き上げる爲めの隠れたる努力を意味する(4d. 變化の原理)。

廣告者が一旦、彼の刺戟情勢を複雑な環境の背景から分離せしめることに成功したとなると、第二のそして同様に困難な仕事として、所期の統合に導くべき關係的態度を喚起するといふことが開始される(4. 關係的態度の原理)。ポツフェンバガー及びその他の人々はこの方法の根柢に存すると想像されるところの「欲望」及び「アッピール」に注意を向ける如何なる態度が最も有効であるかといふことに就いては妥當な概括論は行ひ得ない。態度の有效性が廣告せられつある品物の性質並びにこの品物を買ふと期待される人々に倚繋することは明瞭である。併しこの點に就いても、關係的態度の喚起は刺戟情勢の知覺に倚繋するといふ意味で、既に宣傳家の目的に關聯して述べたと、同じ知覺的要因が含まれてゐる、といふことに注意せねばならない。廣告者は特に反覆と變化とに頼ることが大である。何故かと云へば、彼は人々が變化するものであり、従つて、殆んど同じ刺戟情勢も後になつては別な態度を喚起することがあるといふことを知つてゐるからである(4d. 變化の原理)。他の工夫で特別に利用されるものに單純化がある。従つて、多くの製品はその長所の簡單な要約として夫々のスローガンを持つてゐる。このスローガンは繰り返し反覆され、遂には多くの人々に對してその製品を代表するやうになる(6o. 1. 反覆の補強的原理)。^(註10)

アメリカの廣告に於ては、勢威の要素が特に重視される。積極的社會價値を有する人々に謝禮を支持つて後援をして貰ふことが今日に於ては殆んど總ての廣告者の常套手段となつてゐることは這般の消息を物語るものである(8a. 説得の勢威原理)。又、普遍性の印象を創り出す爲めにも努力が行はれる。例へば、製品が數千の人々に買はれ、それ故に彼等も亦その仲間入りをすべきであるといふことが説かれるが如きである(6a. 2. 普遍性の印象の原理)。既存の中心的態度を喚起するために努力が行はれるが、多くの場合に於て、廣告される品物に對する態度が中心

的でないといふべきなるまい。そこで廣告者は斷斷的統合を求るのである(5a. 統合の型の原理)。この理由により、多くの補助的態度が現實には關係的態度として作用することはあり得ぬことではない(4c. 關係的、補助的態度の原理)。恐らくは、或る人々は感動的條件づけの理論が要求する通りに行動するであらう。例へば、彼等は製造業者が權威ある、若しくは穩和な廣告で彼等を刺戟したが故に特定の煙草を買ふのである。^(註11)若し補助的態度が關係的態度としても用ひられ得るならば、廣告者が少なくとも個人内の或る態度を一時的に支配的ならしめ得ることは確實である。

然るに、廣告者は抜目のない人である。彼は或る態度が支配的になることを一層確實にしようと欲する。恐らくは公共關係顧問から手懸りを得て、彼は「公衆が何を求めるか」を研究しようと企てる。かやうな技術は正しく「實驗室内の方法の無益なことを」指摘するであらう。

「或る一つの要素の効果を測定しよう」といふ企てが、他の總ての要因を定數に保ち得るといふ可能性を基礎とすることは明らかである……大いさ、隔離、色彩その他の何等かの要素が最初幾分の利益を持つとしても、最初の數秒間が経過して注意が廣告全體を構成する他の多くの要因に吸収されると、その効果は次第に薄れる傾向がある。^(註12)

廣告代理業者にとつて最も重要な問題は、リンク・エレメントが述べてゐるやうに、「消費者は何を買ふか」といふことである。この間の中に含まれる意義は所期の統合といふことを考慮して初めて明瞭になる。何故かと云へば將來の顧客たる可能性ある者の中に喚起せられた補助的態度の故に廣告に目を止めるといふことは眞であるとしても、その結果として必ず彼がこの商品を買ふとは限らないからである。それ故に、廣告者は消費者が何を買ふかといふことを發見する爲め、又は少なくとも當てる爲めに俊敏な頭を用ひるのである。この目的の爲めに廣告者は「消費元の態度検査」^(註13)を行ふこともあるし、女賣子に消費者の特別な要求を「要求」傳票に記入させることもあるのである。このやうに、尋ねた

り、聴いたりして、人々が或る特殊の商品に就いて要求するところが奈邊に在るかを知らうとするのである。そしてこの知識を基礎として製品を規正し、若しくは、これ等の關係的態度が喚起せられ、行爲にまで導かれるやうに廣告を接排するのである(5b、行動の原理)。又、製品も變化させるし、廣告の型も變更するといふこともある。加之、廣告の先生達のより一般的な「訴へ」や「希望」はアメリカ人の間に態度を喚起すべき潜在的刺戟情勢としては絶大の重要性を持つてゐる。例へば、ポツペンバーガー教授の「危険脱却」は、不快な息、ひどく汚れた齒、保險證書なき寡婦等に關する消極的暗示^(註14)によつて利用された。併し、總ての者が變色した齒に對してかうした態度を持つ譯ではない。野蠻人はかやうな状態の齒に對してそれは齒の生長の自然の結果、又は美の象徴であると思はぬとも限らないのである。

廣告を一つの廣汎な社會現象として觀察すれば、廣告者が商品に對する人々のステロ版を變更し、新たな態度を築き上げることに成功したといふことは認めざるを得ない。ポツペンバーガーが主張するやうに、人間が清潔に對する「後天的欲望」、即ち身體、衣服、家庭に對する一般的态度を有するといふことは眞理かも知れない。併し今日の多くの女性、例へば洗濯器械に對してより特殊な態度を持つてゐる。この新たな態度は、より一般的な態度と洗濯器械會社の目標との統合に他ならぬものであるが、これは大部分は廣告に歸せしむべきものである。一度新たな態度が打建てられたとなると、この態度は特殊の商標の洗濯器械の廣告者により、彼の所期の統合を齎らず爲めに用ひられることになる。勿論、經濟、能率等を含む他の態度も喚起されるに相違ないが、この新たな態度こそ、所期の統合を可能ならしめる態度である。女性のアメリカ社會に於ける地位に基づき、女性の方が男性よりも廣告の犠牲となり易い。彼女等は争つて廣告された流行を逐ひ、新しい而も屢々有害でさへあるコスメチックを用ひて外見をよくしようと無駄な努力を試みる婦人は餘りに多すぎるし、又、主婦としては珍らしい商標や魅力のある外交員に購はれることが屢々ある。併

し、他面アメリカの男性も亦健全性の龜鑑であるとは云へないのである。彼等は廣告者の出來心に従つて山高帽から中折帽に移つたかと思ふと又再び山高帽に復り、必要もないのに舊車を賣つて新型の車を買ひ、味よりも眼の感で愛用のリキールを定めたりするのである。

所期の統合を妨害する抵觸的態度と闘ふ爲めには逆宣傳も亦必要なことがある。概して云へば、廣告者はこの方面では積極的暗示を用ひようとするやうである(7d、逆宣傳に於ける積極的暗示)。若し品物が一般に高價であると思はれてゐるときには廣告者はその安價である所以を強調する。或る飲料が不眠の原因になるといふ評判があれば、製造家はその製品からこの有害な性質を有する成分を驅逐し、この特殊の商標の飲物を攝ると一層よく睡れると主張する。煙草が「神經」に悪い作用を及ぼすといふことが云はれると、煙草會社は「鞏固な神經」を必要とする職業に従事してゐる人々を證人に引き出して來て、その然らざる所以を印刷播布する。かやうにして、抵觸的態度を排除して、所期の統合に寄與すべき關係的態度を以て置き換へようとの努力が行はれる。

概、次には廣告の心理的目標であるところの第三の仕事に就いて述べねばならない。即ち、關係的態度は廣告者の目的を表明する知覺材料と相互作用を行はねばならず、そしてこの交互作用からして、廣告者が個人をして彼の商品を買ふやうな傾向を持たしめるのだといふ希望を持ち得るやうな、統合が齎らされねばならない(5、所期の統合の原理)。リンクは他の學者よりも特に強この統合の重要性を認識してゐる。それは彼が次のやうに論じてゐることによつて裏はれるのである。即ち、彼の主張するところによれば、或る廣告の効果を決定するものは唯一の決定的な問題であり、それは「これ等の提言(廣告ではない)の何れが人をして最もその品物を買ひ度くさせるか」といふことである。^(註15)リンクは廣告がその背景から極立つてゐるか否かを問題としない。彼は、提言の喚起する特殊な態度の快、不快も問題にし

ない。彼は主體が現實にその品物を買はふといふ傾向を感じたか否かを知らうと欲する。要するに、所期の統合が存するか否かを決定しやうとするのである。リンクは既に述べた知覺的要因がこの統合を形成する爲めの準備的段階であることを否定しようとする者ではない。けれども、どちらかと云へば一個の頑固な行爲主義者として、彼は決して買ふ傾向、性情を忘れ得ないのである。そして、これが恐らくは成功した廣告の到達し得る限界であらう。性情が感じられれば、所期の統合は恐らく獲得されたと云つて差支へないであらう。如何なる廣告が「人をしてその品物を買ひ度くさせるか」に關する幾分なりとも信頼するに足りる標準を得る爲めに、リンクは相當熱心に、廣告代理業者が廣告の見本を「消費者審査員會」に示し、これを構成する素人にこの問題を訊すといふ方法を示唆してゐる。又、如何なる種類の廣告が最も効果的であつたかを發見する爲めには、彼は、過去の廣告戦及びそれによつて生じた賣上の分析を提言してゐる。又、廣告の將來の効果を測定する爲めには、資力の豊かな製造家は或る人々の見本に對しては或る方法によつて試して見、これに比較すべき他の集團に對しては別の方法を施して見、その賣上高又は問合せによつて彼等の潜在的力を評價することができる。

併し、リンクが考へてゐるやうなものにせよ、所期の統合は決して實行を保證するものではない。顧客になる見込がある者が或る特殊の商標の自動車、洗濯器械、煙草、珈琲が最も彼に満足を與へるものであるといふ確信を持つに至ることがある——そこまでは廣告が遂行し得る。而も實際的には如何なる廣告者も超克し得ないところの豫測し得べからざるこの範圍が残されるのである（6、豫測し得べからざるこの範圍の原理）。何故かと云へば、良いと確信を持たれた物が即刻買はれる譯のものではなく、その間に人は殆んど無數とも云ふべき程の環境の影嚮に曝露されてゐるからである。即ち、買ふべき金銭がないこともあらうし、敵手たる廣告者が他の所期の統合を創り出すこともあらうし、同

と性質の若しくは全然異なる性質の他の品物に對する別の態度の形成によつて所期の統合が打破られ、又は弱められることもあらう。そこで、廣告者は販賣を指導し、品物の數に制限があると唱へ、又は販賣が行はれさうな店にその廣告を設ける。要するに、能ふ限り速かに所期の統合が行爲に導かれるやうに努力する（6、行動の經路指示の原理）。ラデオ廣告者はラデオで廣告する品物のレットルを持参すれば無料で景品を呈すると聴取者に宣傳する。若し廣告に偽りがあれば「値段を倍」にして返すといふことを大膽に表明する。或は「競争」を行ひ、その競争に於ては當然廣告商品が勝つやうに仕組んで置き、又、屢々競争者がその商品のレットル又はその「模寫」を呈示することを要するやうにして置く。これ等は消費者をして現實に、彼の費用に於て見本を試みしめるやうに説得するところの卑劣な陥穽である。併し、人々は廣告者が選擇した瞬間に於て常に買ひ得るものとは限らない。それ故に、所期の統合は潛伏的のものとなることもあり得る。この理由により、既に述べたやうに、商業上の宣傳家は、彼の目的を反覆し、アッピールへの性質を變化せしめ、又は附加的關係的態度を構成しようとする等々を行つて、斷斷的統合が分解するのを防止しようと努力する。その結果として、

「潜在的購買者は數百、數千と居る。例へば、若い青年は、結婚といふことを考へるやうな時期に到達するまでは、家事上の道具や器械の種々な型に對して殆んど考へることも、注意を拂ふこともないであらう。併し、この時期に達するとフーズ・テーブル又は電氣掃除器、メー・タング洗濯器、シモンズ寢臺、フリヂデーア、アームストロング・リノリュームその他の多數の標準的な高級品が、今迄は名のみを知つてゐたのに、彼の買物表に現はれるやうになつて來る。何故にか。

「恐らくは彼が意識せぬ心理過程により、彼は不知不識の裡にこれ等の品物及びそれを製作する會社に對して好意を

抱くに至つてゐるからである。何人かゞ微妙なやり方で彼の心の中にこれ等の物に對する好意を植ゑつけたのである。そして今や彼はこの好意に従つて買物をするのである。^(註16)

心理學上の言葉で云へば、グレイツス (Gray) 教授の争點は、所期の統合が、近代的廣告の力により、潜在的且斷節的なものとして保たれて來たのだ、といふことになる。その青年が結婚するや否や、この態度は、他の支配的態度、即ち、彼及び彼の花嫁が住むべき家庭に對する態度、と統合される結果として、支配的となるのである。この第二の態度を喚起することによつて初めて、廣告戰は實を結ぶことができるのである。併し、この場合にも亦、豫測し得べからざることの範圍が介入して來る。何故かと云へば、妻も亦自分の潜在的態度を持ち、それが今や支配的となるといふこともあり得るし、又、これ等の家事用の道具を買ふのは夫にあらすして妻であるかも知れないからである。

最後に、一つの最後的方法によつて廣告者はこの豫測し得べからざることの範圍を減小しようと企てる。即ち、彼は製品の長所のみが強制されるやうなやり方で廣告文を案配する。彼の製品は公開市場に於て得られるもの、中では最善のものとして現はれるやうに常に工夫を凝される。この主張は必ずしも常に眞實ではない。即ち、それは眞實性を完全に偽つたものであることもあらうし、眞實性の部分的表示、即ち、品物の長所のみを述べて短所に言及せざるもの、に過ぎぬこともあらう (6d、制限の原理)。この原理が更に部分的にしか守られぬこともある。即ち、例へば、廣告者は彼の商品が他の商品より高價であることを認めても、その直後にその品物が他の物の追隨を許さぬ旨を附加へる。或るニューヨークの百貨店は皆その取扱ふ品物の長所、短所を共に表に作成した。それが公平を目的として行はれたものにあらざることは勿論であつて、それを讀む者の氣持の中に信頼の態度を惹き起さうとしたものに他ならない。

加之、商品の消費者に關する限りは、彼等の大多數がその購買する品物の成分を知らないといつて差支へない。彼等

は自分達が消費しつゝあるものを分析し得べき技術的知識を殆んど持たない。

「吾々の大多數は、吾々の食事に於て屢々その中心を成す皿に用ひられるハムには藥品が混入してあることを知らない。假にそのことに想到したとしても——それは甚だありさうもないことであるが——吾々は恐らくは、燻すことによつてハムを保存するといふ方法を、その效果に於ては調理又は冷蔵と同様なものと考へるであらう」^(註17)

而も、燻製ハムは身體に危険な作用を及ぼすことがあり得るのである。加之、人々は次のやうな考へ方を止めようとしなさい。即ち、

「ソーダ・フワッテンは、腐敗を防ぎ、色彩と組織とをよりよくする爲めに、防腐劑、人工的色彩と香料、及び變質劑を多分に加へたシロップや果物から作つた飲物やサンデーを供する……」^(註18)

廣告者はこの無智を資本化し、従つて概して斷節的態度に對して作用する。消費者の全人格に影響する爲めに知的な議論を行ふことは時間の空費である。人々をして品物を知覺せしめ、且、反覆知覺せしめることのみが重要なのである。廣告に於て用ひられるこの比較的簡單にして素材な技術は、行爲主義者によつて、他のより複雑な形の宣傳に應用された。即ち、所期の統合に導く態度の性質が、刺戟情勢が知覺された事情よりも重要な場合がある。これに對して、若し消費者がそれ程無智でないとき、又は消費者の中で消費者研究會の如き團體の優秀な刊行物を讀む者が比較的多數である場合には、廣告者は彼等のアップールへの内容を變更することを餘儀なくされることになる。何故かと云へば、この場合には知覺のみでは却つて軋觸的態度が喚起される惧れが多いからである。

廣告は顯示的宣傳の一つの形態であるから、それには一つの著しい心理學的制限がある。即ち、廣告に當面した個人はその廣告に含まれる爲めにするところある目的を知り、彼が指向された刺戟情勢に關して幾分批判的であることがあ

り得るのである(6a3、宣傳の選擇の原理)。批判の程度は勿論彼の人格の、即ち、睿智、社會的經驗及び彼自身の特殊の利害關係の作用によつて異なる。顯示的宣傳に於けるかやうな勢威の損失を避ける爲めに、商業上の宣傳の別の形態が發達を見たのである。

三、兒童間の宣傳

宣傳家が兒童に向つて注意を向けるとき、彼は特に一つの心理學的原理を強調してゐるのである。即ち、心界の諸部分の最初の組織は概して比較的安定である、といふことが是である(6e、始原性の原理)。何故かと云へば、兒童は成人よりも少ない態度しか持たず、その結果として、一般には、成人よりも欺き易いと考へることが出来るからである。宣傳家は兒童に於ける既存の態度を所期の統合の基礎として利用する。その後、彼の敵手がこの統合を破壊する爲めには逆宣傳を用ひねばならぬといふことになるであらう。而もこのことは、その心理學的性質の故に極めて困難なことである。加之、兒童の間に宣傳を行ふ者は尙ほ一つの附加的な利益を持つ。即ち、兒童の人格はよく統合されてゐないから、喚起された態度が支配的なものとして止まる傾向があり、従つて、所期の統合が起れば、それは中心的な性質を持つ場合が多いのである。中心的統合は宣傳家が欲する行動の方に兒童を著しく傾かしめるであらう。

兒童は宣傳家の爲めにするところある目的を知ること稀であると推定して然るべきである。彼等は或る品物の名稱を知り、製造者が彼等がこの品物を用ひることを要求してゐるといふことは知つてゐるかも知れない。併し、彼等はその間に含まれた商業上の取引の意義を完全に把握することはできぬであらう。それ故に、心理學的には、兒童の間に於ける宣傳は、成人に對する意味では廣告であるとしても、隱蔽的又は遅延的、顯示的である傾向を持つ。

或る會社は兒童に景品を興へる。オートミール會社は「滑稽な密林物語」を、ビスケット製造會社は「風船入形」と

「ビスケット組合せ何四種の何れか」を、南京豆製造會社は「合衆國大統領の生涯に於ける歴史的出來事繪物語」と題する水彩畫入三十六頁の本を、といつた工合である。^(註19)

かやうにして、これ等の景品を通じて關係的態度を喚起しようとするのである。そしてこの態度は支配的であり続ける傾向がある(4a、關係的支配的態度の原理)。その結果として、兒童がその特殊の玩具を手に入れるまでは、即ち、所期の統合が行動にまで導かれるまでは、兒童が會社の製品をそれ自體に對して關心を持つ持たぬは問題外として、兒童は泣き喚くか、又は「良い子」になつてゐるのである。而も、若し兒童自身がその製品を用ひるとすれば、その品物に對して好意的な態度を抱くやうになるであらう。又、成人の後にも常にそれを買ふ傾向を持ち続けるであらう。豫測し得べからざることの範圍は廣いから、廣告者は概して、これに附加して、成年に對する訴へを用ひるといふ賢明な方法を探るであらう(6c、補強の原理)。最後に、親は、彼自身が單に斷斷的態度によつて動かされさへすれば、彼の子を宥める爲めにこの品物を買ひ続けるであらう。そして長い間の後には結局彼も亦この品物の熱心な顧客となるであらう。^(註20)

併し、景品を呈することは、極めて徹底的な宣傳家を擁した公益會社の活動に比較すれば、比較的に原始的である。最初には教育家達がこの宣傳を行ふやうに引き込まれ、彼等の關心は有效な説得によつて喚起せられた(8a、説得の勢威原理)。即ち、

「公益會社が教育の尊嚴を維持する方法が七つある。彼等は學生をして公益會社に興味を持たしめる。彼等は教育家に小仕事を興へる。彼等は教授達に講演に對する關心を持たせる。彼等は教授達を「大」事業に用ひる。彼等は大學に投資する。時には、彼等は教育家の爲めに働く。そして最後に、彼等は財政上の援助又は寄附によつて専門學校を補助

(註21)
する。

これに附加して次のやうな手段が用ひられた。即ち、

「……彼等は専門學校及び大學の教授連を雇ふ。専門學校に於ける公益講座を設けしめ、又はこれに補助金を與へる。學校に於ける講義を批判し、變更する。研究事業に補助金を與へる。教科書を批判し、改訂し、出版し、廢止する。學部に公益會社の代表者を置く。學校に彼等自身の文獻を持ち込み、大學の公開講演の牛耳を採る。」(註22)

その結果として、全アメリカ國內の學生は彼等が學校に於て教へられた觀點を受容れるに至つた。何故かと云へば、教師にせよ、教科書にせよ、それは積極的な社會的價値を表象するものであり、大量の勢威を有することを常とするからである(G a 1、積極的、社會的價値の原理)。これ等の教師の多くは行はれつゝある宣傳に氣がつかず、従つてこの墮落した教科書を基礎として教育を行ふことによつて、無意圖的宣傳家の役割を演じてゐることになる。

これ等の宣傳家が意識的に彼等の努力と目的とを隠蔽したといふことにも注意せねばならない。何故かと云へば、彼等の本性を曝露することは彼等の勢威を減ずることになるからである(G a 3、宣傳の選擇の原理)。かくして、或る公益事業家は彼の公共關係顧問に對して次のやうな注意を與へた。即ち、

「學校當局者に反對されず、そして眞に効果的であるが爲めには、學校で讀まれるものは直接的宣傳を含まぬやうにすることを要する……或る會社は澤山の繪畫を學校に利用してゐる。他の會社はその出入する州内數十の學校の壁に、その州に關する事件を記載した報告を掲げた。併し、決してその會社に關する宣傳は決して掲げなかつた。この會社は、生徒が州の偉大さに關する事實に關聯して不斷に會社の名を見ることにより、會社自體と州の進歩とを關聯させて考へるやうになると、信じてゐるのである。」(註23)

(162)

この型の宣傳が、假面として傳統的の「教育」を用ひた場合に、最も効果的であつたことは明らかである。

眞に大規模な宣傳の大多數の例に於て見られることであるが、公益運動の根柢に横はり、その利益を圖る一つの主要な原理がある。即ち、刺戟情勢は歪曲、抑壓若しくは捏造されてこの宣傳を知覺することによつて獲得されるステロ版は唯、有利な關係的態度のみを喚起するやうに仕組まれてゐるといふことである(G d、限定の原理)。公所有權といふ方面が非好意的の姿に於て提示されるか又はこの觀點が全然無視されるのである。典型的のパンフレット、「電氣——如何にして發電せられ、如何にして配給されるか」は次のやうに要約される。(註24)

「第一、……發電事業は公衆、電力需要者及び小投資家によつて所有される……」

「一時代前に狂的な鐵道熱の渦中に巻き込まれた「寡婦、孤兒」までも所有者として再び現はれる……」

「第二、……工場、設備は大規模でなければならぬ。そして……施設は不斷に擴大される傾向を持たねばならない。このことは表見的には市町村の設備に於ても目標とされてゐるのだが、これ等の設備は一定の局限された範圍に電力を供給するものであるから、より廣範圍に供給する私營の設備よりも規模が小である場合が屢々あることは明らかである。」

「第三、市町村所有に伴ふ種々な困難及びその不利益を誇張して述べる……」

「第四には、公益事業は何等の利潤を擧げ得るものでなく、この點で事業としては獨自の特徴を有する……」(註25)

公益會社は一切の細かい點に互つて實に細心の注意を拂つてゐる。例へば公益事業に關する或る教授の講義を修正して或る公益會社の技師は次のやうに述べた。

「講義の中に頻りに「利益」といふ字句が用ひられてゐるがそれは感心すべきことではないと思ふ。何故かと云へば、公益事業には、或る意味では、利益は殆も存しないからである。」(註26)

(163)

児童との接觸は單に教室に於てのみに限られず、それは擴張されて少年團、少女團、夏期運動場、幼稚園にさへも及んだのである。かやうにして宣傳は幾分なりとも極立たせられ、その内容に變化を與へられることになるのである。加之、所期の統合は公益事業その物に對して斷斷的のものとなる。何故かと云へば、それは長期の計畫だからである。児童は成年に至つて初めて影響的となり、従つて會社に對して有利な存在となり得るものであつて、児童としては公益の問題に關して中心的态度を持つことを期待し得ない。加之、この斷斷的態度は、児童が成長するまでは潜在的のものとして止まつてゐる以外に、彼等の氣持の中に、全體としての資本主義機構に對するより中心的な總括的態度の發生することを容易ならしめる、といふことも期待されたのである。この種の宣傳に於ては豫測し得べからざることの範圍はさして廣くない。といふのは、公益事業は成人の間にもその宣傳事業を行つたからである(6c、補強の原理)。

最後に、児童の間に於ける宣傳の實例として、コロムビア映畫會社が行つた宣傳に就いて述べて見やう。この會社も亦前同様に間接なやり方で少年、少女に影響を與へようとして、児童の氣持を有利に指向することに成功した。會社は約四千の學校に圖畫の教科書を配布した。他の種々な練習畫の中に混つて會社の頭字が繪模様又は漫畫として挿入された。かくして児童はこの文字と親しみを持つやうになり、この知覺の工夫の齎らした親しみが會社の映畫に對する愛顧の念を増す結果を招いたのである(2、知覺の原理)。

併し、この非現實的な文字に對する關心は單に児童の一部分、即ち映畫に關する部分のみを影響するに過ぎない。児童を組織して「バック・ジョーンズ俱樂部」(著名なカウボーイ型のスター)を結成せしめることによつてコロムビア會社は児童の活動を一層會社の目的に結びつけようと企てた。會社が地方の映畫支配人に配布した冊子はこの種の高壓的賣込みの典型を示すと同時に、これ等俱樂部の目的を明示してゐる。それは冒頭からして、宣傳家として凡そはつきりした態度を表示してかゝつてゐる。即ち、

「何事も機會を當にしてはならない。どんな細かきことも、馬鹿にでも判るやうに、この冊子の中に掲げられてゐる。

その中には、俱樂部を如何に組織、運用すべきかを書いてある。如何にして若い人達をして地方的組織結成の運動に乗り出させるか、そして、その映畫館のことを總ての人の語り草とするやうに仕向けるか、が述べられてゐる。その冊子は興行者側の活動を排除してゐる——一旦俱樂部が結成された以上は俱樂部が自ら注文通りの活動をするやうにするのである。必要な附帶事業は金に糸目をつけずに行ふ。懸賞、協同廣告、タイアップ、その他幾多のやり方が冊子の中に挙げられてゐる。」

支配人の立場からすれば、俱樂部の目的は五つある。

- 「a. 少年、少女の眷顧を獲得、保持する爲めの容易にして費用のかゝらぬ方法を提供すること。」
- 「b. 性格並びに市民としての素養を築き上げる。」
- 「c. 親遠及び教師團體の間に好意を植ゑつける。」
- 「d. 活動的な商人の社會に於ける事業上の活潑さを生み出し、地方新聞に宣傳廣告を増加する手段となる。」
- 「e. 映畫館にとつての力強い口傳廣告の要具となり、若き映畫好きの人達の心中に、この地方的映畫館を支持しようといふ確定的な意欲を確實に植ゑつける。」

支配人は(b)に就いてはさしたる關心を持たないかも知れないが、その他の諸點は正に、企業家としての彼の態度に訴へようと計畫されたものであつた。これは明瞭なる説得の事例である。

この冊子には又、俱樂部を組織する爲めの特殊な方法が記述してあつた。例へば、

「召集——遊撃員をして會員にあらざる少年達を「驅り出し」、入會を勧誘させる——土曜日の朝映畫館に来て加入申込書を買ふやうに勧める。遊撃員は土曜日に實際に映畫館に来た者の數で手腕を認められる。又、會員の名前を記入した申込書を非會員に配布して参加を勧誘し、勧誘成績を検する。」

「召集と行進——「驅り出し」の他の形式は映畫館から相當距つた場所に在る何らかの中心點に總ての會員を集合させ、そこから館まで俱樂部行進を行ふことである。少年樂隊又は鼓隊を参加せしめることができれば、行進の値打を一層大ならしめ得ること請合である。行進の中には、行進が何處へ行くのか、何を見ようとしてゐるのかを示す旗を立てることを忘れてはならない。」

會社の本店からは又、兒童をして俱樂部の結成に興味を持たしめる補助をなすやうな種々なパンフレットや雜誌、書籍をも發行する。要するに俱樂部は少年團に酷似するものであり、唯、バック・ジョーンズの活動が常に強調され、従つて一般の事柄に對する關心よりも、カウボーイに對する關心の方がより多いといふ相違があるのみである。

俱樂部戰術が大多數のアメリカの兒童に豫め存在した特有の態度を喚起するやうに仕組まれたものであることは明瞭である。野趣に充ちた西部、冒險、社會的倭安關係等が是である(4 a. 關係的支配的態度の原理)。これ等既存の態度の緊張は俱樂部に加入することによつて開放される。かくして多くの兒童が俱樂部の會員となるのである(註28)。會員たることは兒童が常に組織の存在を意識し、その行爲を俱樂部の基準に従つて規正しようと努めてゐるといふことを意味する。かくして、會社の云ふことには、或る母親は會社の地方支配人に次のやうな手紙を書いた。

「宅の娘は土曜日の朝バック・ジョーンズ俱樂部に出席する特權を得る爲めに毎日寢臺や臺所の手傳ひを致します。」これは俱樂部に對する態度を兒童の中心的態度の中で最も重要なものにしよとする試みが成功した場合である(5)

a. 統合の型の原理。かやうに統合された兒童は組織の種々を目的を實行することに興味を持つやうになる。そしてその目的の一つに、その地方の映畫館で、特にバック・ジョーンズ主演の映畫を見るといふことがあるのである。要するに、一つの中心的統合が築き上げられ、これに對する緊張は宣傳家が注文した通りのことを行ふことによつてのみ解除され得るのである(5 b. 行動の原理)。かくして、コロムビア會社は人氣を増すことになり、バック・ジョーンズ出演にあらざる映畫までも勢威を獲得することになつたのである(註29)。この宣傳は直接的な性質を有する宣傳に屬するものであり、その豫測し得べからざることの範圍は比較的狭い。何故かと云へば、俱樂部員は、兒童である間中は熱心にこの會社の映畫を見ようと欲するからである(6. 豫測し得べからざることの範圍の原理)。而も、これ等兒童の熱心が兩親にまで波及する可能性があつたのである。何故かと云へば、成人の映畫行きの態度は概して極めて斷節的なものであることを常とするからである(註30)。

四、新聞紙上の煽情主義

新聞紙はその發行部數を増加し、従つて廣告者の數を増加させる目的を以て、他の都市の新聞の欄に廣告を挿入することがある。又、廣告板を利用することも屢々行はれる。最近では斷片的ニュースを放送して廣告を行ふこともある。又、自分の新聞の欄に、顧客の分類廣告によつて得た結果を讀へて自己宣傳を行ふこともある。かゝる宣傳は、新聞紙の目標とするところが讀者に顯示されてゐるといふ意味で他の商業上の廣告の形式に類似してゐる。併し、新聞紙の最大の牽引力はそれ自體から齎らされる。その發行部數の多寡は主としてその新聞が提供するニュース及び呼物記事の品質と型に倚靠する。

特に大戦後はアメリカの新聞紙は今日一般に「吹聴」"bull-yaw"と呼ばれてゐる傾向を顯著に現はしたものである。

或る人物又は事件が新聞紙によつて物々しく誇大化されて報導され、公衆の関心が喚起される。この関心はその新聞紙を讀まねば満足せしめることができず、かやうにして讀者數を増加する(5b. 行動の原理)。或る人物又は或る事件を押し上げるといふ遣口は隱微的宣傳の一つの形式と見ねばならない。トルストイはこの技巧を知つてゐた。

「新聞紙に就いても同様である。戦争が勃發するとその収入は倍増する。彼等がスラフ族その他の他國民の運命に對して同情を抱かざらんとしても得ぬ所以は茲に在る。」^(註31)

一九一〇年代には新聞紙はこのやうな抱つち上げたセンセーションによつて満たされてゐた。^(註32)新聞紙の合併が盛んに行はれるやうになり、同時にジャーナリズムの新理論が起つて——同時に唯一つの物語りのみを強調する方がより實際的であると考へられるやうになつて——大衆の感動を喚起することができるやうになつた。スナイダー・グレー及びホー・ミルの殺人事件「ビーチス」ブラウニング事件、デイトン訴訟事件、レッド・グレンヂヤリンバークのやうな新聞紙の英雄は總て新聞紙によつて築き上げられたものであり、新聞の力なくしては恐らくは人に知られることなくして埋もれたつたものである。

「新聞所有者や編輯人は、デイトン訴訟事件やヴェトリス椿事のやうな事件が起る毎に、その持駒の總てを擧げてこれに傾注しても——花形記者も、第一面の大見出しも、紙面の廣い面積も——賣れ行が増加するといふ事實を知つたのである。」^(註33)

現實に賣行が増加したといふことは總ての人が擧つて認めるところである。^(註34)アメリカ人は元來、犯罪人、淫賣婦、果敢な行爲、普通でない出来事に對して好奇的態度を抱き易い國民である。新聞の記事によつてこれ等の態度が喚起され(4a. 關係的、支配的態度の原理)、そして或る特殊の事件に向けられる(6b. 行動の経路指示の原理)。この新たな

態度は屢々一日に二度も報道板に歩を運ぶことによつて解放される。

不景氣時代には、新聞編輯者は、悲惨な日常の環境を逃れて奇怪と異常に充ちた空想の世界に浸らうとする人々の欲望を資本化したかのやうに見える。誘拐者の追害、富める子の後見人になる爲めに行はれた母親とその義妹との間の闘争、宣傳たつぶりの北極探險隊の壯舉等は恰かもそれが歴史的事件であるかの如くに取扱はれた。保守的なニール・ク・タイムスさへもこの風に染み、藥の利目は更に深處に滲透したかの觀を呈する。歐洲不安の状態は更に「脅威」標題の流行、誤魔化し「號外」の跋扈を齎らしたのである。勿論、政治家自身も、普通の外交上の駈引を補ふに、自國の新聞紙に試験的風船を上げさせる手段を以てし、新聞紙の賣行を増加させることは一役買つて出る風がある。

註1. 例へば Marlan E. Pew, "Propaganda," Teachers College Record, 1929, v. 31, pp. 38-39. 參照。
註2. Edward L. Bernays, "The Public Utility That Is Misunderstood," Public Utilities Fortnightly, Nov. 27, 1930.
註3. この點に就いて二人の公共關係顧問は、聯邦間の最大の州の一つはその私益の完全な描寫を國民の前に指示することに汲々としてゐる」旨を述べ、その爲めに採られた「職務」の全部を詳細に記述してゐる。H. A. Bemis & R. R. Byrhe, The Modern Torchbearers, Chapter III, New York, 1928.
註4. D. B. Lukas & C. E. Benson, Psychology for Advertisers, Chapter II, New York, 1930.
註5. Albert T. Poffenberger, Psychology in Advertising, pp. 237-245, Chicago & New York, 1925.
註6. Poffenberger, op. cit., pp. 53-58. 著者はこれ等の「欲望」を他の點に關して述べられてゐるがそれらに就いては一五三頁に述べる。
註7. 一五一一一六頁參照。
註8. Poffenberger, op. cit., pp. 201 ff.
註9. Printers' Ink, 1932, v. 159, p. 20.

註10 Printers' Ink. によれば、一九一七年から一九三三年までの間に七千の異なるマーガンを記録されたといふ。Printers' Ink., 1932, v. 159, p. 98.

註11 一一一頁以下参照。

註12 Henry C. Link, *New Psychology of Selling and Advertising*, pp. 101, 103, New York, 1932.

註13 或る一群の人々の態度は行を驚りばつたり若干名若しくは提出された代表的人物若干名と會見すること、又は質問を出してみることによつて確かめられさう。

註14 歴史的觀察によつてルーカスとマンソンとは「消極的廣告」の増加を發見してゐる。"The Historical Trend of Negative Appeals in Advertising," *J. Appl. Psychol.*, 1929, v. 19, pp. 346—356.

註15 Link, op. cit., p. 126.

註16 W. Brooke Graves, *Readings in Public Opinion*, p. 576, New York, 1928.

註17 Arthur Kallet & F. J. Salink, *100,000,000 Guinea Pigs*, p. 39, New York.

註18 *Ibid.*, p. 285.

註19 Printers' Ink, 1933, v. 160, pp. 68—71.

註20 例へばガソリンスタンドは子供を目的とする景品の他に大人にも、自動車地圖とか、蹴球の探訪用紙等の特別サービスをやる。

註21 Jack Levin, *Power Ethics*, p. 83, New York, 1931. 以下詳細のことは Carl D. Thompson, *Confessions of the Power Trust*, Chapter XXXVIII, New York, 1932. 参照。

註22 Thompson, op. cit., pp. 330—331.

註23 Ernest Gruening, *The Public Pays*, p. 118, New York, 1931. によつて引用。

註24 同じ思想は幼稚園兒童に對し *The Ohm Queen* と題する卅二頁の小冊子の中により簡単に表現されてゐる。

註25 Gruening, op. cit., pp. 110—111; Thompson, op. cit., p. 384. を参照。

註26 Gruening, op. cit., p. 53. に引用。

註27 この點に關する記述はコロンビア映畫會社の承諾を経て行つたものである。

註28 コロンビア會社の役員は少くとも三百萬人の兒童が二箇年間にこれに加入したとする。

註29 結局コロンビアは俱樂部を解散した。その理由は、第一には俱樂部の費用がバック・ジョーンズの映畫の賣らす利書を超過しやうであることが判つたこと、第二には俱樂部を直接に會社に結びつけないで一個人に結びつけたことが誤謬であることを發見したことになる。

註30 學童が意圖的に又は無意圖的に如何にして、烈しいアメリカ植民の宣傳を被つたかに關する詳細の記述は *Basile Louise Piere, Public Opinion and the Teaching of History in the United States*, New York, 1926. 學校に於けるアメリカの大膽參加者の宣傳活動は *Marcus Duffield, King Legion, Chapter XX*, New York, 1931. に描かれてゐる。教區附屬學校の事業に就いては *Atlantic Monthly*, 1928, v. 141, pp. 158 ff. に無名の記事がある。獨逸に對して敵意を抱かせるやうな意見を如何にして兒童に教へ込んだかに就つては *Hermann Pinnow, Deutschland im Lichte ausländischer Schulbücher der Nachkriegszeit*, Berlin, 1927.

註31 Leon Tolstor, *Anna Karenina*, p. 252, New York, 1912.

註32 例へば *Frederick L. Allen, Only Yesterday*, Chapter VIII, New York, 1931. 参照。

註33 Allen, op. cit., p. 189.

註34 例へば *リンミングのハリー飛行による購讀者増加の數字に就いて* *Silas Bent, Ballyhoo*, p. 38, New York, 1927.

第十三章 商業宣傳（其の二）

「紙面奪取」"space-grabbing"

人々に密かに影響を及ぼす方法は廣告代理業者を利用することである。何故かと云へば、廣告代理業者は新聞人が憤

慨して「紙面奪取」と罵る方法を用ひるからである。「紙面奪取」は次のやうに定義されてゐる。

「最近盛んに行はれるやうになつた新聞利用の方法で最も著しい不安を齎したものは、新聞の欄に、恰かも新聞社自身がやつたかのやうに見せかけて、他の者に備はれてゐる者の手に成るニュースや論説を掲載することを許すといふことである。」^(註1)

この種のニュースや「論説」は又「お布施」"handouts"とも呼ばれる。加之、この手口は専ら商業界のみに於て行はれるものではなく、種々な學會、國際聯盟、赤十字社、アメリカの大學や専門學校と云つたやうな相當な團體さへもこの遣口を利用するのである。聯邦政府内の種々な部局も決して新聞紙に種を供給することを厭はなかつたし、^(註2)野心的なルーズベルト施設の複雑な機構は更に、この種の遣口を數倍に増加せしめた。

「各省及びその他の官公署に今まで見られなかつたやうな宣傳部を設けたり、既に存在せる報道部を擴張したり、政府の爲めにニュースを書かせる爲めに新聞社や新聞紙聯合に使用されるよりも多數の新聞人を傭つたり、ニュースの源泉を統制して公式な方法以外でニュースを提供する役人を直ちに罷免したり、廣告文を取扱ふことの巧妙な廣告業者を雇つて政府の方針の賣込みに助言をさせたり——その他種々な方法を用ひて、ニュー・デイルはその方針を人々に知らしめようと努力した。」^(註3)

かやうな點に關聯し、廣告代理業者が正常なる奉仕とも見らるべきことを行ふことが屢々ある。例へば、十人並の新聞記者は専門的な學會の記事を書かされるとなると可成りの困難を感じるに相違ない。この場合、學會の代理者が提供する便利な、且、正確な要旨を利用すれば、讀者に對して誤れる記事を提供する危険が少なくなる譯である。かやうにして、演説者も亦新聞記者とインタビューする煩はしさを避けることもできようし、彼等の見解が責任ある權威者に

よつて配布されることにもなる。映畫及び演劇のスクリーンも亦專屬の廣告代理人を傭ひ入れる。これ等代理人は彼等の顧客の寫眞、彼等の私生活に於ける出來事、柄口に飾りかけたインタビューの記事等を以て新聞、雜誌を氾濫させる。最後に、政治團體の領袖達よりも僅か許り賢い政治的の新聞代理業者がある。併し茲では唯、嚴密なる意味に於ける商業上の「紙面奪取」即ち、産業の應用されたものゝみに就いて述べる。

紙面を奪取する爲めに第一の、そして最も重要な問題は、廣告代理業者が新聞編輯者をして彼の載せることを欲することを印刷せしめるやうに取計らふことである。又もや茲に最も純粹な形に於ける説得が現はれる譯である。廣告を承諾せしめる爲めに代理業者が用ひる方法には次の如きものがある。

(1) 彼は彼と編輯人との間に存する個人的友誼關係を利用する。若しかゝる「友誼」がなければそれを築き上げようと努める。公益事業の宣傳家はこの技巧の名人であつた。

「第一版の方法は、交友の範圍廣く、各地方に於ける編輯人と個人的な友好關係を有するところの經驗を積んだ新聞人を公益事業情報委員會の支配人に選任することである。」^(註4)

かやうな支配人は、特に地方の編輯人に對して好もしき存在であることは確實である。例へば、次に掲げるのは會社の代理人からの手紙の一節である。

「……地方の新聞が正直な人、新聞を正直に用ひる人達にとつて如何なる價值を有するかは想像の外である。私は編輯人を御馳走したり等して三年間に三百弗を費つた。彼等の或る者は一寸一杯やることを好む。彼等の總ては「神の愚者」であり、極めて僅かな取るに足りぬやうな奉仕又は禮儀に對して感謝する。私は新聞道に携はること二十五年に及んでゐるから、新聞人の何たるかは充分辨へてゐる筈である。」

「彼等は正に私の友人である。ミズーリ州に私の仕事をとつて下さい。」^(註5)
(2) 広告代理業者は廣告をニュース欄に掲載することを条件として有償廣告を編輯人に提供することもある。著名なニューヨークの衣裳店は南部の編輯人に次のやうな手紙を出した。

「拜啓、同封の全頁廣告及び廣告頁は吾々の店の開店に際して用ひるものゝ實例に御座候。この特別廣告は〇〇店のものに有之候。同様のタイアップは〇〇の開店に當つても行ひ、廣告をこれ等二つの紙上に掲載致し候。勿論、後者の代金は免除せられ候。」

御手數乍ら貴方にも同様の取引なさるべきや否や折返し御返事下され度候。同時に料金表御送附被下度候。」
(3) 代理業者は編輯人に新聞紙の外見と内容を改善する手段を提供することにより、「新聞奉仕」を用ひるやうに誘ふこともある。漫画、寫眞版、その他の特別景品が附けられ、通常次のやうな文章を添へる。

「この情報は吾社が慎重に吟味した上で提供するものであり、眞價あるが故に、提供されるのである。當市に於てこの情報を受ける日刊新聞社は吾社のみである。紙型ヨロは要求次第に送附する。」^(註6)

この手口では、一、二の「紙面奪取」の他に一般的情報をも載せる。例へば、寫眞版には大きなランプの光を浴びてゐる二人の婦人の畫が出てゐる。表題には、

「水泳用のプールに接続する醫療的浴室の設備は大西洋の速力の女王〇〇の豪華太平洋旅行への寄與の一つである。これは二人の美しい旅客が〇〇燈の華色の光線の下で光浴に浸つてゐる圖である。」^(註8)

(4) 廣告代理業者は煽情的なことによつて編輯人の關心を喚起せしめようとすることもある。例へば、或る種の布地の販賣を宣傳する「國家委員會」はその生産に關する平凡な説明書を配布したが、それを入れた封筒は五仙の航空郵便

切手二十五枚によつて文字通り一杯にされてゐる。一非二十五仙を費やすことによつて編輯人がその郵便を開封するといふ効果を狙つたのである。

(5) 代理業者は彼の持込む材料がニュースであり、従つてニュース欄に場所を占める價値があるといふことを編輯人に信じさせようとするものもある。

「拜啓サウエルクラウトをサラグとして夏期使用することに關心を持たるべきことを信じ、サウエルクラウト・サラグ調理の方法若干を示すパンフレットを同封貴覽に呈する次第に御座候。……」

サウエルクラウトは従來サラグとして用ひらるゝこと殆んどなく、されば、この美味なる健康食品よりサラグを作り得ることを主婦に知らしむることはニュースなりと思料仕り候。」^(註9)

この場合にクラウト會社の廣告代理人はサウエルクラウトの需要を増加させようと企てゝゐるのであり、その爲め、サウエルクラウト・サラグの新奇さに重断を置いてゐるのである。彼の願ふところは、この新築料理が新聞の家庭欄を讀む主婦達にとつてニュースとしての價値あるものであるといふ點で食料品部の編輯人を動かすであらうといふことである。

(6) 最後に、新聞代理業者はニュースを「創り出し」、新聞が自發的に彼の「お布施」を受け取るやうにしよと努める。有名な名前とのタイアップは好んで用ひられる方法である。例へば、アル・スミスが有名な人々をエム・バイア・ステート・ビルデンに案内する習慣、そして彼自身がこの建物會社と關係があることは新聞が比較的頻繁にこの摩天樓の名を掲げねばならぬやうに仕向けることになる。嘗てニューヨークの廣告人達は洗顏の外套を着たスミスの姿を掲げて夏の街中を練つて歩いた。かくしてスミスは毛皮店の開店の廣告を行つたのである。新聞代理業者は又、編輯人を



して無料広告を行はしめる爲めに、彼等の廣告しようとするものをニュース的事件に結びつける。一九二九年の佛人コ
ストのバリ・ニューヨーク間の飛行は第一面のニュース記事として豫想し得るものであつた。そこでニューヨークの或る
百貨店はこの飛行家に衣裳をバリから持つて來させたし、佛國政府はアメリカ人を佛國に招く廣告を持たせし、ド
ヴィル及びカンヌのホテル、カジノ協會はこれ等の遊樂地の廣告を寄越した。地道な方針を以て知られてゐるニューヨ
ク・タイムス紙さへもこれ等の廣告をそのニュース欄に掲載せねばならぬことになつた。^(註10)

所謂「曲乗飛行士」^(註11)。特にハリー・ライヘンバハ、Harry Reichardtに屬する連中も亦この種の者に屬
する。ハリーは舊式の曲馬團の手先から近時の公共關係顧問への過渡的な形態を呈する。彼は多く初期の映畫を廣告
し、彼の會見記事をとつた記者デヴィッド・フリードマン、J. Freedmanが彼の自敘傳に附した傍題「宣傳の分析」は正に
彼の生涯の事蹟を描出する適當な表現である。ライヘンバハは曲馬團の客引として夙に暗示の力の如何に大であるか
を知つてゐた。

「お客に對して「拘摸御用心」と嗚鳴することは言はず客引の義務である。するとお客は本能的に財布のところを手を
やる。かくして懇眼な拘摸は金の隠し場所を知ることになる。^(註12)

この調子でライヘンバハは新奇なやり方で人々を牽き附けることを試みた。彼のスタンツの多くは決して新聞紙上
に噴傳されなかつたが、彼等の目的は達成されたのである。^(註13)併し次のやうな野心的な計畫は新聞人の氣が附くところと
なつた。ライヘンバハはイースト・サイドから土耳古人を八人雇つて來て、彼等に東洋風の衣裳を着せた。贅澤なホ
テルに部屋をとつた。彼等は「土耳古使節」と呼ばれた。新聞記者が彼等とインタビューをして「スタンプールの處
女」に就いての不思議な話を聞かれた。結局欺瞞は曝露されたが、その時には既に新聞は「スタンプールの處女」と題

する映畫を廣く讀者に廣告して終つてゐたのである。^(註14)

これ等は廣告代理業者が編輯人をして彼の廣告せんと欲する事柄を印刷させるやうに導く努力として用ひる種々な方
法である。友誼、贈賄、新聞紙の質の向上、所謂「ニュース」の提供等は總て新聞人間に力強い態度を喚起する可能性
がある。これに對して、一弗二十五仙の切手の貼布の如きは、編輯人の机上に山積する他の餘多のもの、背景からし
て、自分の廣告を一極眼立たしめる爲めの手段である。ハリー・ライヘンバハの詐術が多くの場合、廣告に成功した
所以は、編輯人がそれが詐術であることに氣が附かず、それをニュースであると信じたことに在る。或る「創られたる
ニュース」が編輯人によつて採用されるか否かは、編輯人に特有の要因と、彼の主宰する新聞紙の政策との兩者に倚繫
するが故に、概括的に兎や角と結論めいたことを云々すべきではない。併し重要な人物や異常な事件が編輯人に對しては
著しい勢威を持つことは明瞭である。何故かと云へば、彼はかやうな人物や事件に關聯のある「紙面奪取」に對しては
比較的寛容だからである。又、かういふことも指摘できる。即ち、嚴密なる意味に於ける「商業的」製品の廣告を行ふ
廣告代理業者は何等かの「協會」、「委員會」、或は代理店等の名を借りて間接に編輯人に接近しようとする。これに
對して、より知的な事柄に關する廣告代理業者(例へば保險、學校、書籍雜誌等の)は自分の正體を曝露することを躊
躇しない。後者が編輯人にとつてより大なる價值を有し、従つて別段引込思案になることを要しないことは明らかであ
る(633、宣傳の選擇の原理)。

擬、廣告組合に所屬すると否とを問はず、廣告代理業者の數は正確な計算不可能であるやうに見える。その筋の事項
に精通した二人の觀察に従へば五千名といふ數字が出て來るのであるが、その中の一人は^(註15)ニューヨークのみで五千名で
あると云ひ、他の一人はワシントンをも合せて五千名であるとする。兎もあれ、新聞紙の編輯人は文字通り廣告申込み



の氾濫に悩まされてゐるのである。或る編輯人の言によれば彼は一週間に一七九の中込みを受け、「数字的には、毎週事務所に到着する二百通内外の宣傳の中で、新聞社が採用するものは精々五乃至十でしかない」と云つて差支へない。^(註17)又、或る編輯人は「全部で六十三欄、換言すれば、その新聞紙の平均の編輯方法に於て公にされるよりも八欄も多く讀物が」提供された、と述べてゐる。^(註18)「紙面奪取」に對するやうな挑戦的態度は特に商業新聞、編輯者と出版人の頁に於て著しく明瞭に現はれてゐる。新聞代理業者の供給過剰と彼等の廣告の莫大な數とは編輯人に警戒心を起さしめ、その結果として説得の問題は一層困難となつた。^(註19)公共關係顧問が勢力を持つやうになつた理由の一は實に茲に存する。何故かと云へば、公共關係顧問は幾分「紙面奪取」を洗練させたからである。

以上に於ては「紙面奪取」の例をそれが編輯人に對して及ぼす、若しくは及ぼさうとする効果といふ觀點から考察して來たのである。それと同時に、一旦「お布施」が印刷されたとなると、それは新聞紙の讀者に影響を與へることになる。「ニュース」として關門を通過したものは、或る特殊の會社の販賣にかゝる品物を廣告するか、又は全産業に對する好意的雰圍氣を醸し出す。

ウェスタン・ユニオン會社は一九三〇年の一月に「英雄的闘争によつて修復せられたる地震による電線切斷」と題する呼び物々語りを出した。この物語りの中で、會社の名は次のやうにして出されてゐる。

「これ等の船は如何にして廣大な海の中で切れた電線を發見し得るか、幾多の困難と戦ひつゝ如何にして電線を持ち上げ、これを修理し得るか、今やウェスタン・ユニオン電信會社の電線技師達によつて語られようとしてゐるのである。彼等の物語りは、事實は屢々小説よりも奇なり、といふことを立證する。」
より簡単な手口は、特に地方新聞に於て、屢々用ひられる。例へば「某ニュース特種會社」が「時計の中には何があ

るか」といふ特信を出した。ビッグ・ベンと電氣時計の畫が載せられてゐる。砂時計と日時計の圖が掲げられてゐる「物語」の中には次のやうな意味深い文章が挿まれてゐる。

「時計は文明の進運と密接に並行して數世紀の歴史を闊して來た。極めて簡単な、而も絶対に正確なテレクロン電氣時計は、毎秒が價値を有し、世界が迅速に動いてゐる時代と正に歩調を一にするものである。」^(註20)

「テレクロン電氣時計」の「テレクロン」は大文字で書かれねばならぬところである。何故かと云へばこれは普通名詞ではなく、特殊な商品に對する名稱だからである。

全産業の爲めに行はれた廣告の例は「鍛鐵研究協會」から出された特別通信に見られる。表題は「ベン・フランクリンの避雷針百五十年を経て尙ほ有效」とある。この物語りの中に次の文章が現はれる。即ち「避雷針を分析した結果それが良質の鍛鐵の典型的なものであることが判明した。」

然らば、何故に「紙面奪取」が存在するのか、アメリカ新聞紙發行者協會及び編輯者と出版人は、廣告收入に對する新聞社の正當な權利を奪取する爲めに、即ち、無料で何物かを得ることを目的として、存在するのだと考へてゐることは疑を容れない。この經濟的な議論の中には重要な眞理が含まれてゐるが、而も尙ほ別の理由がある。それは「紙面奪取」が地道の廣告に對して或る心理學的な優越性を有してゐるといふことである。

大多數の人々が廣告よりもニュース欄の記事を無批判的に受け容れ易いといふことは、大體確實と云つて差支へないであらう。先づ第一に、多くの人は今日の新聞に對して働きかけてゐる種々な力を知らぬことを常とする。彼等は廣告代理業者が何であるか、如何にして活動する者であるかを知つてゐるとしても、廣告業者の各般の活動の眞の意義を把握することはできない。次に、一般大衆は後に述べるやうな理由に基づき、自分が購讀してゐる新聞に對する素朴な信賴

の念慮を抱いてゐる。その結果としてニュース欄は積極的社會的價值を持つやうになり、讀者は少なくともその内容を事實として、換言すれば、正確な且相當公平な事態の記述として、受取る傾向がある(6a1、積極的社會的價值の原理)。かやうな普遍的な服従的態度は、讀者が廣告に對して抱懐してゐる態度とは著しい對照を成すものである。

概、次の二つの心理過程を比較して見よう。一つの情況。讀者は二つの廣告を見てゐる。一つは汽船會社の出した廣告であり、他の一つは特殊の電球製造業者の出した廣告である。彼はこれ等二つの廣告の目標を知つてゐる(3a、顯示的宣傳の原理)。そして彼は他の汽船會社の運賃の方が安くはないか、電球は廣告に出てゐる通りの效能があるかどうかなど考へてゐる。これ等は彼の心界の中で活動しつゝある力である。又、彼が決して新聞廣告に眼を觸れぬことを主義とする人間である場合もあり得る。一つの情況。讀者は幾葉かの寫真版に牽きつけられてゐる。何故かと云へば、過去に於て彼は常にかやうな寫真に興味あることを發見したし、少なくとも面白いものであると思つたからである(2a、補助的態度の知覺的原理)。これ等の寫真版の二葉には大洋通ひの汽船の水泳プールがあり、婦人浴客が特殊な電球の光線浴を楽しんでゐる。この寫真の標題は船の名前と電球の名稱とを掲げてゐる。そこで、宣傳家に課せられた問題が解決されたといふことは直ちに明瞭になる。即ち、寫真版の挿入によつて宣傳家の要求が新聞紙の他の部分から一極目立つやうになつたのである(2、知覺の原理)。このことは、前にも述べた如く、廣告に於ける主要な心理學的問題であることが屢々あるのである。第一の情況に於て讀者が廣告者の關心を考察することに捉へられて了ふことがあり得るに對し、第二の情況に於ては讀者は、宣傳家の目的が彼に顯示される以前に喚起された大洋航海又は電球に對する何等かの態度を持つところまで行つたのである(3b1、遅延的、顯示的宣傳の時間的原理)。而も、宣傳家の目的が明らかに標題に示されてゐても彼はそれが爲めにするところある宣傳であることに氣が附かぬこともあり得る。何故

かと云へば、それは同じ頁に載せられてゐる他の寫真と同様にニュースの一つであると思ひ込んでゐることもあり得るからである。この最後の例に於て、宣傳が隱蔽的であり、この告知の源泉によつて喚起された勢威が所期の統合を容易ならしめるやうに仕組まれることもあり得る(6a3、宣傳の選擇の原理)。勿論、宣傳が宣傳として認識されると否とに拘らず、豫測し得べからざることの範圍は相當廣いものとして止まる。何故かと云へば、この「紙面奪取」によつて創り出された態度が特に安定的なものであるとは限らないからである。とは云へ、少くとも潜在的態度が形成せられるであらうこと、第二には、直接の廣告の場合よりも豫測し得べからざることの範圍がより狭いであらうといふ可能性はある。

加之、別の情況に於ては隱蔽的又は遅延的、顯示的宣傳を用いた方がより有效であるかも知れない。ライヘンバッハの曲乘飛行士は、彼自身が大膽に放言してゐるやうに、非常な成功であつた。この場合に、映畫の選擇は、商品の場合よりも一層、何等かの極めて皮相な、又は斷片的な理由を基礎として行はれる。それ故に、ライヘンバッハの興行に就いての新聞記事の齟らし得た好奇心といふ附加的、關係的態度は、或る特定の映畫に人々を牽きつけること極めて容易である。所謂、協會(例へばクラウト又は鍛鐵)や公益事業會社は當該産業一般に關して宣傳を行ふものであり、従つて彼等の提供する記事が、編輯人からも讀者からもニュースとして取扱はれるチャンスが多い。例へば、或る編輯人がサウエルクラウトに關する調理法の記事を掲げるとすれば、讀者は、それが特定商標のサウエルクラウトではなく一般のサウエルクラウトに關するものであるが故に「紙面奪取」の一例ではないと思ひ込んで、その記事を読むであらう(3c、隱蔽的宣傳の原理)。又、ウェスタン・ユニオン會社の如きは恐らくはその提供する「當てがひ」記事らう(3c、隱蔽的宣傳の原理)によつて大なる利益を収めるであらう。何故かと云へば、人々をして電信を打たせる重要な原因の一

つは、電信といふ通信機関があるといふことを回想することだからである。或は又、他の競争會社を排してウェスターン・ユニオンが選擇されるのは、この會社の名前に一層親しみが持たれるからに他ならないとも云へやう——この場合にも亦、豫測し得べからざることを範圍を縮小する上に、知覺的要因が決定的な作用を持つ（2、知覺の原理。6c、補強の原理）。

要するに「紙面奪取」は廣告に比して次の如き心理的優越性を有する。即ち、この方法による廣告は知覺せらるべきチャンスがより大であり、より大なる敬意を以て迎へられる可能性がある。併しこれ等の長所は相對的でしかない。例へば、大文字の全紙廣告は婦人頁の小さな挿込み記事よりは眼を牽き易いであらう。唯、一般的に云へば、「紙面奪取」“space-grabbing”の方がより有力のやうに思はれるのである。

II、公共關係顧問 Public Relations Counsel

公共關係顧問は、假令彼の用ひる手段が既に列擧した商業宣傳の各種の形態の域を出ないとしても、獨自の存在の意義を有する。彼は宣傳の問題に就いて透徹せる理解を持ち、従つて彼の用ひる技巧は一層繊細である。彼は間接的に作用することの方が多い。彼は宣傳家に對して一つの新たな信條を弘めた。即ち、公衆は販賣せられたる商品によつて影響されるのみならず、その商業製造家の世評によつても影響されるといふことが是である。

多くの廣告者達とは異なり、公共關係顧問は宣傳戰を計畫するに當り、彼が賣らうとする品物の性質をその長所は何々と云つたやうにして考へることから許り始めないで、彼が對手とする人々の性質をも同時に考察する。彼の目的を陳述して或る關係的態度を喚起し、その結果が所期の統合であることを心密かに願ふといふやうな方法を採らずして、先づ所期の統合が何であるかを考へ、然る後に、この統合を確實に齎らさしめる爲めには如何なる關係的態度に働きかけ

るべきかといふことを考察する。廣告者も公共關係顧問も共に所期の統合を欲するのであるが、唯、後者の方が所期の統合の重要性を意識することが強い。例へば、兩者の遺り口に就いて見られるこの相違點の一つの結果は、廣告代理業者は彼の目的を達成する爲めに常に廣告を用ひる。これに對して公共關係顧問は廣告が有用であると考へる場合にのみ廣告を用ひ、且、屢々他の種々な附加的方法を利用する。この新「職業」の代表的な人物たるアイヴィー・リー I. W. Lee 及びエドワード・エル・バーネース Edward J. Bernays の戰術を紹介する。

「記者達は待ち構へて鉛筆を握りしめてゐる。「諸君、ロッキンフェラー氏は私を介して諸君に次の如きことを云はふとす
る……」

「場面が變る。自動車記事の編輯人がタイプで打つた紙面を熱心に讀んでゐる。その冒頭には「クライスラー會社は今日發表して……」

「再び場面が移る。記者は自分の机に向ひ、手早くタイプを打つてゐる。「ペンシルヴァニア鐵道總裁 W. D. アッカー
ペリー將軍は今日確言して……」

「これ等の話、及び同様な幾多の話題は、内容が如何に詳細であつても、これ等の陳述が新聞紙に對して與へられる以前に通常相談を受ける人の名を載せてゐない。……彼の名がアイヴィー・リーである。」^(註28)

何故かと云へば、アイヴィー・リーこそはアメリカの廣告代理業者中の鏘々なる者だからである。彼は所謂「直接的」廣告の擁護者であつた。何故かと云へば、彼の見解に従へば、

「宣傳の本質的害悪は情報の源泉を明らかにし得ぬことであり、そしてこの害悪はこの宣傳を行ふ者が進んでこの宣傳の擁護者として立つことを欲しないときに起る。」^(註29)

或る著者に従へば、新聞人としての實際的訓練を受けたリーは、大きな事業が醜状を白日下に曝露されたとき、特に、チャールズ・エヴァンス・ヒューズが保險會社の内情を摘抉したときに、彼の感銘を受けたのだと云はれてゐる。

「大衆が如何に考へてゐるかといふことが結局は、假に商業界の絶頂に到達する爲めの要因ではないとしても、少なくとも一旦そこに到達した以上、そこに安樂に、相當な體面を以て止まつてゐる爲めの一つの要因であるやうに見える……」

「根本的な問題は、大衆の心をして絶頂に在る人の補助になるが如き——そして妨害にならぬやうな——心像を反映せしめるやうに仕向けるに在るといふことは簡単な分析によつて知ることができる。」^(註25)

リーはニューヨーク市長としてセス・ローの^(註26)選挙に於ける市民聯合の廣告主任として活動した後、ペンシルヴァニア鐵道に迎へられ、鐵道會社が「大衆の信頼を得る」方針を探ることを決意したに對し、その方針の實現の術に當ることになつた。そして、その地方の新聞紙自身の「心像」を反映せしめることが彼の仕事になつた。

一九一四年、コロラドの「ラッドロー」殺人事件^(註27)はロックフェラーの名に極めて悪評を絡ませる原因となつた。一列の事件の頂點を成した。大ジョン・Dは鐵石の心を以て彼の舊來の方針を貫ぬかうと決意した。然るに彼の息子は「數多の源泉から来る非難の合唱」に「脅かされ」た。そこで彼は彼の立場を公衆に知らせようと決心するに至つた。このことを實行する爲めに彼はリー氏を備ふことを勧められた。そこでリーは一時ペンシルヴァニア鐵道を退くことになつた。

「ロックフェラーは言つた。リーの彼に勧めた意見は、彼が嘗て受けた忠言の中、何等の迂遠さを持たぬ唯一のものであつた。リーの提言は實際にロックフェラーの機構に於ては全く斬新なものであつた。輿論の研究が是である。それは會社

の事業の最も都合の良い方面のみを公衆に知らせるのみならず、「會社の事業を網成し直して、それが公衆の眼前に展開されたときに必ず好感を以て迎へられるやうにする」ことを意味した。」^(註28)

その結果として、リーの監督の下に、會社は新聞紙に報告書を提供したのみならず、所謂「ロックフェラー計畫」を採用して、營業條件の改善を計つた。その時以來「新聞紙は不斷にスタンダード石油會社の善行に關する詳細な情報を供給されることになつたのである。」ロックフェラー一家の凡ゆる行動、特に彼等の科擧及び教育に對する著しい寄與は、リー氏によつてロックフェラーに對する公衆の見解を改善する爲めに利用された。ロックフェラーに對するリーの助言の純益は次の如きものであつた。

「高帽を戴き、長い上衣を纏ひ、杖を握りしめて横行闊歩する血も涙もない獨占事業家が裁判所に入つて行く圖は、隣人とゴルフを楽しむ、子供に小錢を與へ、寓感詩を頒ち花畑の中を穩かな様子で歩いてゐる物優しい老人の姿によつて置き換へられた。」^(註30)

リー氏がこの新たな心像又はステロ版を築き得たのは、スタンダード石油會社を廣告することによつてではなく、國の新聞を擧げてこの會社及びロックフェラー自身に關する好もしき様相を知らしめたことによることは明らかである。この技巧の精髓は大衆がこれ等兩者のステロ版を獲得すべき刺戟情勢の限定である(6d、限定の原理)。ロックフェラー氏が、リーが顧問になつてから以後變化を見たといふことを否定することは困難であるが、併しロックフェラーの行動の中公衆の好意を迎へ得ることがリーの新聞に提供した種に於ては強調されたのだといふ方が寧ろ當つてゐよう。

とは云へ、抑服又は捏造以上のことが行はれたことは事實である。即ち、會社は現實にその方針を變更したし、ロックフェラー氏は慈善事業や學術への寄附に乗り出した——これ等の新たな行動によつてステロ版が變化し、別の關係的態

度の喚起又は構成を見たのである。

アイヴァー・リーの主張するところによれば、彼の宣傳は常に顯示的である。といふ意味は彼の新聞に供給する材料は常に事實に合致してゐるといふことである。新聞社は通常、彼の依頼人が有力者であるからその勢威によつて彼の提供する「當てがひ」記事に關心を持つ。そこで決して「新聞に發表すること」を編輯人に依頼したことはないといふ彼の誇りが成立つのである。その代り彼は新聞紙に與へる情報を注意深く編纂し、必要があれば廣告さへも行った。併しリー氏は、自身そのことに抗議してゐるに拘はらず、彼の努力の總結果を考察するときは、實際上は隱蔽的宣傳を行つてゐたことになるのである。何故かと云へば、彼の公開するニュースの意圖を嘗て現實に把握したことのないアメリカ人達が、實際には、これ等の公開ニュースの結果として、リー氏の依頼人に對して以前とは異なる感情を抱くやうになつたからである(30)。隱蔽的宣傳の原理(註32)。ロックフラー氏に對する人々の見解は變化したし、スタンダード石油會社はそれによつて利益を得てゐるのである。(註33)

フロイド・ヘンドの義理の物に當るエドワード・L・バーネース Bernays はリーの遣り口を更に一步前進させる。即ち、彼は彼の依頼人の方針を指導して公衆に好感を植ゑつけるやうにさせるのみならず、公衆を依頼人に適合するやうに變化させようと計畫する。今迄吾々が研究して來た商業宣傳の總てが同様のことを試みてゐることは勿論ではあるが、バーネース氏は概して、彼の行動及び彼自身を一層細心の注意を以て隱蔽しようとする。バーネース氏の手法に入門する爲めには、平時、吾國に於て行はれた宣傳の最も驚嘆すべきものに就いての簡単な敘述を試みることに適當であらう。即ち、一九二九年十月二十一日に、エディソンの白熱燈發明を記念する爲めの盛大な祝典がそのクライマックスに達した。エディソンは自ら、デトロイトに於て、貴顯の會衆を前にして白熱燈に關する一場の講演を行った。席に列する者にはヘ

ンリー・フォードもあつたし、合衆國大統領も見られた。この盛事の前後にエディソンの遺言は全世界に謳歌された。合衆國政府は電球の圖を載せた特別の紀念切手を發行さへもした。ヘンリー・フォードはエディソンが生れた村を再び構築し、發明が行はれた當時の研究室は能ふ限り原形の儘に建てられた。表面的には眞に偉大な人物が有名な工業家によつて表彰されてゐるとしか思はれなかつた。實際は、この劇的な物語を仕組み、指導したのはバーネース氏であつたのである。彼は「エディソンの爲めにも、ヘンリー・フォードの爲めにも働いてゐたのではなく、この歴史的記念祭を電燈の使用を伸長せしめ、宣傳する爲めの絶好の機會を與へたところの極めて有力な事業家團の爲めに」働きつゝあつたのである。(註33)例へばニューヨーク・タイムズにこの祝典の翌朝掲載された記事には次の如き條りがある。

「今夜、彼の自然力に對する征服の輝やかしい五十年祭に當り、合衆國大統領、彼の最も古い友人ヘンリー・フォード、二十歳の青年の當時彼を助けたフランシス・ジェールは、全世界がメンロー・パークの鬼才に喝采を送りつゝある席に列なつた……電燈の神祕は國立放送所から短波に載せて全世界に放送せられ、南極圏にまで及び、バード少佐の探検隊までが聴取することができた」(註34)

放送はこの電燈事業家團の得た廣範圍の無料廣告を暗示する。この祝典に參列した數千の人と、エディソンの名譽を記念する爲めに數秒間電燈が消された經驗を持つた數百萬の人達は一層如實にこの新公益事業の重要性を認識したに相違ない。

この盛事の智識たりしバーネース氏は、著述に、演説に、彼の立場を説明しようと努めた。彼の哲學を検査することによつて、バーネース一流の宣傳の型をその社會的筋絡に嵌め込むことができる。先づ第一に、彼は世界が複雑なものであることを説く。世界には夫々自分の特殊な主張を行はふと努力してゐるところの無数の集團がある。「群衆の組織せ

られたる習慣、意見を意識的に、智的に操縦することは、民主主義的社會に於ける重要な要素である」と彼はその著書の冒頭に述べてゐる。^(註35)この「意識的且智的な操縦」は公共關係顧問といふ専門家によつて行はれることを要する。彼等は「數百萬の人々の運命を左右する見えざる支配者」である。そして、「公生活に於て真理の戦ひが公正に戦はるべき試合場を公開して置く傾がある」^(註37)のは彼等の宣傳である。

かく見來るとパーネースの見解は、經濟學上の自由放任思想を、それに伴ふ競争と個人主義とを含めて、輿論の範圍に當て嵌めたものゝ如くである。さればこそ彼がブルース・ブライツン Bruce Blyden から引用して「宣傳の對策はより以上の宣傳である」としてゐることも首肯されるのである。彼は競争が特に實業界に於て盛んに行はれることを繰り返して述べてゐる。かゝる言説は大膽且陳腐である。それは、宣傳が經濟戰の武器であり、そしてそれ故に、さうあらねばならぬ、といふことを意味する。併し、パーネースは直ちに自己の言説に倫理的要素を附加へねばならなかつた。何故かと云へば、彼は經濟戰がその社會的に有害な副産物として宣傳を齎らすことが屢々あることを認めたからである。

「私は「宣傳」といふ言葉が多くのの人にとつて不愉快な響きを持つてゐることを知つてゐる。而も、或る場合に於て、宣傳が善いか悪いかは、宣傳される事柄の功罪、及び公にされる情報の正確なりや否や、に倚靠するのである」^(註38)次に善と惡とが説明されねばならない。即ち、

「公共關係顧問といふ職業は自身の爲めに一つの倫理的法則を作り上げつゝある。この法則は、よく云へば、辯護士又は醫師の職業を支配する法則と對抗すべきものである……」

「彼は他の依頼人の利害關係と衝突するやうな利害關係を有する依頼人の依頼に應じない。又、彼が到底望みなしと信するやうな事件又は到底市場に出すことはできないと考へるやうな商品の爲めにも依頼に應じない。」

「彼の取引は公正であらねばならぬ。彼の仕事は公衆を欺き又は愚にするに在るのでないといふことは繰り返して云はねばならない。若し彼がさうした世評を得たならば、この職業に於ける彼の有用さは終つたと云はねばならない。彼が宣傳的な言辭を成すときには、その源泉を明瞭にせねばならない。編輯人はそれが何人から造られたか、その目的は何であるか、を知ることができ、そのニュースとしての價值如何によつて取捨し得るやうでなければならぬ」^(註39)

若し然りとすれば、宣傳家は善き目的の爲めに、而も清潔なやり方で活動せねばならず、公衆を裨益するやうに、そしてそれに伴つて宣傳家としての彼の名聲を立てるやうに仕事をせねばならぬやうに見える。然らば、パーネースが、彼の「職業」は「混沌を整理する」ことを目的とする、と言つた意味は何であらうか。

「真空掃除製造家は大衆に彼の製品を買はせる爲めに猛烈な宣傳を行ふ。彼自身の利益の爲めには毎戸に一つの掃除器を備付けさせたいのである。併し若し主婦達が真空掃除器の彼等にとつての價值を知つたに拘はらず、これを必要とせず、その使用を欲しないときには、製造家の如何なる努力も水泡に歸することになるであらう。併し事實はさうでなかつた。といふことは製造家の私の利益が公衆の利益と合致し、双方がこれによつて利益を得たのである。この取引に於て當事者の何れか一方の犠牲者となつたのだと斷ずることは全くナンセンスである……そして、宣傳の背後に個人的な、利己的な動機があつたかも知れぬといふ單なる事實は、結局に於て達成された目的が何等かの大きな公共的利

益と合致するかも知れぬといふ可能性を排除するものではない」^(註40)

これ等の言葉はジョン・スチュワート・ミルの功利主義論にでもありさうな響きを持つてゐる。併し、實際には如何なることを意味するか。パーネース自身の實行に關聯しては如何なる意味になるか。この特別な實例に於てパーネースは、

婦人達が真空掃除器を欲したといふことを肯定することによつて彼の全地位を擁護しようとしてゐる。或は、彼女達は単に家を掃除する能率を上げようと欲したのみで、掃除には真空掃除器を要するといふことはパーネースが彼等に教へ込んだのかも知れぬ——彼は「一旦彼等がその彼等にとつての價值を知つた……」と云つてゐるが、それを知らしめたのは彼自身である。とすれば、このことが、彼が彼の相手とする大衆の中に齎らさねばならぬところの第一の變化である。即ち、彼は清潔な家にしようといふ欲望と真空掃除器とを結びつけさせねばならぬのである。パーネース自身が、真空掃除器を以て家を掃除することは社會的に望ましいことだと云ふかも知れぬし、而もこのことは眞偽不明である。宣傳の過程に於ける次の段階は真空器に對するこの新たな欲望を特定の真空器に結びつけることである。これ等二つの手續は截然と區別され、兩者共に人々の態度の決定的變更を含む。パーネースが、彼は彼自身の偏頗な目的を追求することによつて單に公衆の欲望を満足せしめつゝあるに過ぎぬと主張してゐることは、餘りに口前を繕ひ過ぎてゐる嫌ひがある。實際には、彼は或る既存の態度を基礎として、その上に新たな態度を築き上げつゝあるのである。一言にして云へば、彼は一つの人間性を、他の異なる人間性を形作る爲めの手段として利用しつゝあるのである。」

如上の非難に對してパーネースの答へ得ることは一つしかない。即ち、

「私の考へるところによれば、諸君は、若しかやうな輿論の操縦がなかつたとすれば、群集の心は尙ほ幾多の影響の動かすが儘に止まつてゐるであらう、といふ事實を見逃してゐるのである。群集の心は幾多の力——生活と機會との偶然的な氣紛れな力によつて引き摺られるであらう……」

「數年前、當時人氣一世を風靡した踊り子アイリーン・キムスル夫人は、氣紛れに髪を短かく斷つた。彼女は甚だ愛らし氣に見えた。宣傳家が彼女にさうさせた譯では決してなかつた。而もその結果は如何。婦人達は理髮店に殺到した。

ヘアネット製造業者は恐慌に際會した。ヘアピン製造業者は職人を解雇した。帽子は型を變へねばならなかつた。飾の製造業は混亂に陥つた。ジレットの出現によつて絶滅の悲況に瀕した理髮業は突如としてキムスル夫人によつて蘇生させられた。到る處に美容院が簇出した。このことは婦人の行狀にも變革を齎らした。一種の解放運動が彼等を刺戟し、スカートも極く短かく切りつめるやうになつた。衣裳店が恐慌に巻き込まれた。數十萬の人々が失業に陥つた。他の數千人は新たな仕事にありつた。若し宣傳家がキムスル夫人をして斷髮せしめたとしたら事態はこれより善かつたらうか、悪かつたらうか」

併し、かうした云ひ方は、争點を殆んど總ての社會變化の方向に向けて、論點變換を行つたことになるのである。「群集の心」が氣紛れであつて偶然の事情に引き摺られるといふことは、人々は容易に變化するといふことの別の言ひ廻しに他ならない。パーネースが殆んど總ての社會的言説は宣傳を含むことが正しいことは勿論であるが、それは單に彼が、他の少數の著述家と同様に、社會に於ける無意識的宣傳の存在を認め、といふことを意味するに過ぎない。^(註42)兎もあれ、彼の主張するところは、宣傳家、特に彼の如き商業宣傳家は、その爲めにするところある目的を達成する爲めに、人々の移り氣を利用せねばならぬといふことに歸着するのである。かくして、彼は彼自身及び彼の全職業を社會變化の裁決者たらしめつゝあるのである。

加之、現實の實行々爲に於ては、パーネースは彼が人間を變化せしめつゝあることを完全に意識してゐる。前に述べた白熱燈祝典に於ては、彼はアメリカ人が既に持つてゐた或る態度、即ち、大規模なスペクタクルを愛好すること、英雄崇拜の心理、最初の發明を再生せしめるといふ劇的效果を好むこと等、を満足せしめつゝあつたのだと主張する。エディソン氏、フォード氏、新聞社、觀客等が喜んだことは勿論だし、況んやデトロイト市の商人、ホテル業者等が思はぬ

取得にありついて有頂天になつたことは當然である。併し、この審美的又は感動的の喜悅の情緒は一つの方向即ち公益事業の方向に向つて誘導せられつゝあつたのである。かやうな歡喜がこれ等公益事業に對する持續的な支持、愛顧といふ代償を支拂つて買ひ取るに値するものであるか否かは、パーネースが解答を與へる以前に再思三考を費やすべきことである。

理論的觀察といふ點に於ては亦、パーネースは決して凡庸ではない。彼は、彼が心理學的な技巧を用ひて人々を踊らせてゐるのだといふことをよく承知してゐる。彼は近代世界に於ける尨大な數量に上る廣告の結果として、隠蔽的又は少なくとも遅延的、顯示的宣傳の方が効果もあり、經濟的でもある、といふことを覺つた。彼は公共關係顧問の仕事は三つあるとする。即ち、彼は「依頼人の問題を分析する」に熟練するやうにせねばならない。彼は「彼の相手とする公衆を分析せねばならない」。そして彼は、依頼人が公衆と接觸する凡ゆる様相に於ける依頼人の一般的實行、手続き及び習慣を支配する方針の形成に熟練せねばならない。^(註43) 石鹼に就いて云へば、

「或る特定の石鹼の切端しは單にアルカリに灰汁を混和して生じた三次元的物資に過ぎないが、石鹼を買ふ者にとつては、それはその他の餘多の氣持ちで眺められる。今迄に開いたこともないからと云つてその石鹼を斷ることもあらうし、人に開いたからと云つて買ひ取ることもあらう。雜貨店の店員が新米だからと云つて買はぬこともあるし、包紙の色が氣に入つて買ふこともある。又、その名稱が氣に入ることもあるし、製造家の信仰が蟲の好かぬこともある。石鹼の材料の純良であるか否か以外の數多の事情が買手の氣持ちを支配する。そして公共關係顧問の仕事は、石鹼が公衆が眞に要求するものであるやうに取計るのみならず、この化學的製品が工場から主婦の手に入るまでに連る迂餘曲折に於て、石鹼の公道が平用、安樂であるやうに取り計らふに在る」。^(註44)

パーネース自身の云ふところによれば、彼は最初、彼が宣傳を創り出さうとしてゐる品物を知ることを中心ける。人々に影響を與へる爲めには、彼が依つて以て關係的態度を喚起せしめんとする刺戟情勢に關する知識を持たねばならぬ(4、關係的態度の原理)。パーネースは、幻滅に陥ることを恐れて自分の廣告する映畫を嘗て見たことがないといふ語するライヘンバッハを嘲罵りつけるかも知れない。^(註45) 而も、ライヘンバッハは、彼の行爲によつて示されるやうに、各映畫に就いてその大衆の興味を牽きさうな點を強調して過らなかつた。パーネースはコーセットが今では廣く使用されてゐないから(或は少なくともパーネースが書いてゐる當時はメーウェストの流行が尙ほ衰へないでコーセットを用ひる婦人が少なかつたから)、コーセット製造業者の爲めの宣傳は行ひ得なかつたと云つてゐる。併し帶の宣傳には乗り出すことができたのである。^(註46) 痛撲滅の運動を開始するときには痛に關する知識を持つてかゝらねばならない。^(註47) アイヴヰリー石鹼製造業者の事業を後援した際には、彼は、この石鹼が香に洗濯や洗身に役立つのみならず、美しい物を彫刻するにも適當であるといふ結論を持ち出した。そこで彼はアイヴヰリー石鹼彫刻の競争を始め、學校の生徒は年齢に従つて數部に分けて競争に参加させし、専門の彫刻家にも参加させた。その結果としてアイヴヰリー石鹼は非常に廣い範圍に廣告されたのである。^(註48)

次にパーネースは彼の宣傳せんとする品物を買ひさうな公衆を理解することを努め、この知識に基づいて使用する宣傳の種類を決定する。

「近代的宣傳家は、研究室内の氣組みで彼の仕事の對象を組織的に、客觀的に研究する。全國を範圍とする賣込みが問題である場合には彼は特別奉仕、又は斥候隊、又は大切な場所に於ける自身の研究によつて、素地を研究する。例へば、製品の如何なる點が公衆の人氣を失ひつゝあるか、大衆の趣味は如何なる方向に轉向しつゝあるか、といふことを明ら

かにする。又夫の自動車、衣服、襦衣等の選擇に妻は如何なる程度の決定權を有するかなどの點を調査することも忘れなす。^(註49)

パーネースが云はんと欲するところが、彼をして人々の内に既に存在する關係的態度が何であるかを知ることを得る程に人々を知ることを得しめる程度の心理的洞察力に在ることは勿論である。^(註50) それ故に彼は「當時吾國の専門學校に於て流行を見つゝあつた器械的反應の心理學」を用ひた舊式の宣傳家に對しては、輕蔑の氣持を抱いてゐる。この型に屬する宣傳家は、例へば、人々はピアノを買ふべきであるといふ暗示を繰り返すことによつてピアノの賣行きを増加せしめ得ると信ずるのである。パーネースのやり方はもつと間接的である。彼は「恐らくは、根本的な家庭本能に」訴へようとするであらう。彼は新家庭の形成に關聯してこの「本能」(又は態度)を喚起せよとする。これ等の家庭の中に音楽室を設ける。その爲めには音楽室の展覽會を催し、そこに「鍵人種」を招待し、一方、「有力な建築家に委嘱して……音楽室を彼等の設計の不可缺の要素として取り入れさせ、特にピアノの爲めに一隅に魅惑的な凹處を設けさせる。」かやうにして、

(194)

「音楽室は當然の附物として認められることになるであらう。そして、音楽室を持ち、又は客間の一隅に音楽の場所を設けた者は、當然ピアノを買ふことを考へるであらう。それは彼自身の考へとして生れて來るであらう……新たな販賣員が……將來の買手をして製造家に「ピアノを賣つて呉れ給へ」と云はしめ得たのである。」^(註51)

パーネースの技巧の典型的な點を示してゐるこの實例に於て、彼は能ふ限り多數の關係的態度を喚起せしめようと努め、然る後に彼は中心的態度を選択したのである(4b、關係的、中心的態度の原理)。彼は又、これ等の態度は人が宣傳が行はれつゝあることを知らぬ場合には比較的長い間支配的地位を保持するといふことをも知つてゐた。そこでパーネースは、識見ある宣傳家の矜持を以て、自分は黒幕の背後に止まつてゐるのである(6a3、宣傳の選擇の原理)。最後に、彼は「群集の氣持中に喰ひ入る爲めの最も直接な方法はその指導者——群集の指導者を通じてである」ことを指摘する。^(註52) 何故かと云へば、「群集指導者が吾々の考へてゐることを受容するならば、彼等の支配下に屬する群集はそれに順應するからである。^(註53) それ故に彼は一流の建築家をして彼の考へを推奨せしめる」(6a1、積極的社會的價値の原理)。

併し、時には劇作家パーネースもニュースを創り出さうと企てぬこともある。リー氏と同様に彼も亦、彼の會社がその公衆によつてよりよく「理解される」ことを欲する。例へば、彼は彼の依頼者たる銀行に、フィス・アヴェニューに支店を開設することを勧める。「フィス・アヴェニューで行はるべき現實の取引がその經費を償ひ得るからではなく、壯麗なフィス・アヴェニューの支店が、その銀行がその將來の預金者に對して訴へようとする目的を、正確に表現するからである。」^(註54) 又、商品に就いて云へば、品物自身が改善されねばならぬ、とされる場合もある。例へば「タイプライター製造業者はその製品を感じの良い色で塗らねばならない。」^(註55) パーネースは直接廣告の如き在來の手段を用ひることを決意することさへもある。併し、かやうな方法を探る場合にそれは決して萬一を僥倖して行はれはしない。例へば、或る時彼はドッジブラザース會社に、その新車をラヂオで廣告することを勧めた。定評ある一流のスター連をして方々の都市から放送せしめようといふプログラム——當時に在つてはセンセーショナルな考へであつた——は六萬弗の費用を必要とした。パーネースは、この四分間の放送は「三千萬人のアメリカ人といふ、或る與へられたる瞬間に於て或る商業宣傳用の放送番組に注意を集中した最大多數であること疑ひなき聽集」によつて聴取されたのであるから、會社としては費用を償つて餘りあつた譯であると云つてゐる。^(註56)

(195)

バーネースの技巧に見られる途方もない點は、彼の所期の統合が概して斷節的であるに拘はらず、この統合を齎らす爲めに彼が中心的态度を使用するといふことである。電力會社又は石鹼に對する態度を繞つて統合される人は極めて少ない。にも拘はらずバーネースは人々の中に他の中心的态度を喚起せしめる。この戰術の目指すところは二點ある。先づ第一に、エディソン祝典又は彫刻競争に牽きつけられた人々は、その時には、どうやら完全に喚起されたと云つて差支へないのである。かやうな有利な情況に於て所期の統合が形成されたのである。従つて、この統合は、斷節的ではあつたが比較的安定性を有するといふことが推定されてよい。第二に、充分多數の人々の中心的态度が喚起されたときには、この喚起を齎した諸條件は新聞紙にとつてはニュースとなる。その結果として、バーネースの企圖は廣く報導され、かくして彼は知覺上の利益を確保することになつたのである(2、知覺の原理)。

リー氏は「毒葛」リーと呼ばれた。彼の遣り口が周ねく知られてゐたからである。然るにバーネース氏は自分の「職業」を「新宣傳」と稱してゐるが、筆者の知る限りには、何人も彼に渾名を與へてゐない。彼の職業上の活動に於て巧みに自己を匿し終せてゐるのである。彼は彼の職業を「新たなもの」と考へ、彼が開拓者であるとしてゐるが、それは彼が然く自意識的だからである。彼は自分が中心的态度を喰物にしてゐることを知つてゐるし、社會の指導者達が無意識的に彼の求むる結果の達成に補助を與へることがあり得ることを知つてゐるし、又、彼が精神分析と親戚の關係に在るといふことが、彼の先驅者達よりも一層深く人間の行爲の研究に浸つてゐるのだといふ感じを彼に抱かせてゐるかも知れない。併し、加特力教會とか戰時に於ける政府と云つたやうな大組織は、バーネースが企てたより以上のことを既に遂行したのである。宗教の爲めに生命を捧げ又は戰場に一身を曝露するやうに人々を誘導することは、彼等をして眞空掃除器又は電球を買はしめるよりはより感動的である。併し、一つの點に於てバーネースは頭角を露はしてゐる。即ち、彼が彼自身又は彼の依頼人が欲することを、人々をして行はしめるやうに影響を與へる爲めに用ひてゐる手段は、同じ宣傳の根本的手段に他ならぬ、といふことである。彼も敢へて否定せぬやうに、彼は個人として社會制度と闘争を行ひつゝあるのである。加之、彼が然も成功を収めてゐる所以は、彼が近代的の傳達方法を自由に驅使することを得る立場に在り、それによつて驚くべき多數の人々に意思を傳達せしめ得るといふことに在る。要するに、バーネースが自分の力で指向の一因を與へつゝある社會が、隨つて彼の事業を可能ならしめたのである。

る。即ち、彼が彼自身又は彼の依頼人が欲することを、人々をして行はしめるやうに影響を與へる爲めに用ひてゐる手段は、同じ宣傳の根本的手段に他ならぬ、といふことである。彼も敢へて否定せぬやうに、彼は個人として社會制度と闘争を行ひつゝあるのである。加之、彼が然も成功を収めてゐる所以は、彼が近代的の傳達方法を自由に驅使することを得る立場に在り、それによつて驚くべき多數の人々に意思を傳達せしめ得るといふことに在る。要するに、バーネースが自分の力で指向の一因を與へつゝある社會が、隨つて彼の事業を可能ならしめたのである。

註1. Leon N. Flint, *The Conscience of the Newspaper*, p. 305, New York, 1925.
註2. Gilson Gardner, "How the Government Misforms," *World Tomorrow*, 1923, v. 6, pp. 169 ff. J. Frederick Essay, "Trade Suits' Rallyho Men," *American Mercury*, 1931, v. 23, pp. 419 ff.

註3. Elisha Hanson, "Official Propaganda and the New Deal," *Ann. Amer. Acad. Pol. & Soc. Sci.*, 1935, v. 179, p. 178. 著者は大統領ヒュッソン將軍とが新聞と接觸する爲めに用ひた似而非的友誼的戰術をも解剖してゐる。その他参照すべきものとして E. Penleton Herring, "Official Publicity Under the New Deal," *Ann. Amer. Acad. Pol. & Soc. Sci.*, 1935, v. 179, pp. 167-175; George Michael, *Hanout*, New York, 1935.

註4. Ernest Geringer, *The Public Pays*, p. 161, New York, 1931.

註5. Carl D. Thompson, *Confessions of the Power Trust*, p. 319, New York, 1932. 11 引用。

註6. 「紙型」。金屬の鑄型を作つて原畫を複製せしむる寫眞版の紙型。George C. Boston, *Editing the Day's News*, p. 229, New York, 1923.

註7. 特定の太平洋航路船の名を挿入。

註8. 特殊の電球の名を挿入。

註9. National Kraut Packers Association から食料編輯人への手紙、一九三〇年六月三日附。

- 註10 New York Times, Sept. 3, 1930, 16:1.
- 註11 Harry Reichsbach, *Phantom Fame*, New York, 1930, 卷四。
- 註12 *Ibid.*, p. 46.
- 註13 ロイ・ヘンマンは廣告を讀ませる爲めに樽に「危険—蛇」と記した(同著四頁)。彼は銀行用の封筒に鉛の切端しを詰め(札のやうに見せかけ、それに廣告を記しておく)それを街路上に撒布した(同著八八頁)。盛裝した人にセーヌ河の堤で魚釣りをする者、群集が集つた頭合を見計ひ、「釣師」が糸を上げるとその端には油布に映畫の名が書き入れてある(一九六頁)。
- 註14 *Ibid.*, pp. 106—113.
- 註15 Marlen E. Pew, "Propaganda," *Teachers College Record*, 1929, v. 31, p. 39.
- 註16 Stanley Walker, "Playing the Deep Bassoons," *Harpers*, 1932, v. 164, p. 370.
- 註17 F. Forrest Allen, *Speeches of The Wisconsin State Journal*, April 5, 1931.
- 註18 The Riverside Press, Riverside, California, June 5, 1930. 社説。十餘年前にブルース・ブライデンは同様の傾向を認めた。彼は "patent insiders" (一面に廣告や社説を印刷し、他の一面は地方のニュースを印刷する爲めに空けてある頁)及び "boiler plate" (聯合社説)の増加に對して批評を述べた。Bruce Blyden, "Our Changing Journalism," *Atlantic Monthly*, 1923, v. 132, p. 745.
- 註19 この種の宣傳及び廣告の夥しい分量は紙屑箱に投込まれる運命を荷つてゐる。理由は、一部は、公表されるに足る程の一般的興味を缺くからであるが、他の一部は、新聞社が「無料廣告」強要を有料廣告収入に對する脅威と認めるからである。
- 註20 O. W. Miegel, "Propaganda & the Press," *Ann. Amer. Acad. Pol. & Soc. Sci.*, 1935, v. 179, p. 203.
- 註21 同書附録。
- 註22 三三三—三三三頁參照。
- 註23 *Ibid.*, p. 460.
- 註24 Ad-Vents, *Mid-winter Number*, 1931, p. 1.
- 註25 Ivy Lee, *Publicity*, p. 23, New York, 1925; *Time*, Aug. 7, 1933, p. 21.
- 註26 H. I. Brock, *Modernity*, p. 79, New York, 1930.

- 註27 *Time*, loc. cit.
- 註28 John T. Flynn, *God's Gold*, p. 459, New York, 1932.
- 註29 *Ibid.*, p. 460.
- 註30 *Ibid.*, p. 483.
- 註31 *Ibid.*, p. 484.
- 註32 Lee, op. cit., p. 9.
- 註33 リー氏の宣傳が時に隠蔽されてゐたところを證明する他の事實は「ナチ宣傳」の章に擧げてある。二九二—二九三頁參照。
- 註34 John T. Flynn, "Edward L. Bernays," *Atlantic Monthly*, 1932, v. 149, p. 564.
- 註35 New York Times, Oct. 22, 1929, 1:8.
- 註36 Edward L. Bernays, *Propaganda*, p. 9, New York, 1928.
- 註37 *Ibid.*, p. 35.
- 註38 Edward L. Bernays, "Our Debt to Propaganda," *Forum*, 1929, v. 81, p. 146.
- 註39 Bernays, *Propaganda*, p. 20.
- 註40 *Ibid.*, pp. 45—46.
- 註41 フォーボットの婦人俱樂部に於けるスピーチの講演(日時不明)。
- 註42 Flynn, op. cit., pp. 57—58. に引用。
- 註43 「總ての人は何等かの主張の爲めの宣傳家であり、そして、一つの民主主義國家に於ける安全性と安定性を確保する途は、總ての人が宣傳の方法を用ひるの自由にある」 Edward L. Bernays, "Moulding Public Opinion," *Ann. Amer. Acad. Pol. & Soc. Sci.*, 1925, v. 179, p. 85.
- 註44 Bernays, *Propaganda*, pp. 39—41.
- 註45 Edward L. Bernays, "Public Relations and Business," *The Financial Diary*, 1930, v. 2, p. 4.
- 註46 Reichsbach, op. cit., p. 57.
- 註47 Bernays, *Propaganda*, p. 40.

- 註47 Bernays, "Our Debt to Propaganda," op. cit., p. 148.
 註48 Bernays, Propaganda, pp. 57 ff.
 註49 Ibid., p. 48.
 註50 「自己保存、野心、矜持、飢餓、家庭及び子女に對する愛情、愛國心、模倣、指導者たらんとする欲望、娛樂を好むこと」これ等は各指導者が公衆を彼の立脚點に引きつける爲めに努力するに當つて意識せねばならぬ素材である。Bernays, "Moulding Public Opinion," op. cit., p. 83.
 註51 Bernays, Propaganda, p. 56.
 註52 Flynn, op. cit., p. 566.
 註53 Bernays, "Moulding Public Opinion," op. cit., p. 83.
 註54 Bernays, Propaganda, p. 68.
 註55 Ibid., p. 86.
 註56 Ibid., pp. 84-85.
 註57 パーネースが彼の著書、論文、演説、インタビュー等にて彼自身述べてゐる活動の殆んど總ては過去の事實から引用されてゐる。

第十四章 宣傳團體

「合衆國に於ける協會及び團體」の標題下に世界年鑑が列擧してゐるものは七百頁以上に上る。僅少の例外を除き、これ等の團體の總ては、何等かの方法で、社會を裨益し、それと同時にその團體員を増加する爲めの宣傳を行つてゐるのである。この集團に屬する團體にして科學に直接の關聯を持たぬものゝ用ひてゐる方法は大同小異である。それ故に、

稍、詳細な論述を行ふ爲めには、社會的な分野を異にする比較的代表的な或るものを取り出して觀察し、述べれば足りる。ニューヨーク矯風會は「道德的」目的に向けられた宣傳を代表するものであり、主の日(日曜日)同盟は宗教的目的の宣傳を、アメリカ社會安全協會は社會的目的の宣傳を、有色人種進歩全國協會は人種問題の宣傳を代表する。次の數節に於ては各團體の背景を簡略に記述し、その目的を説明し、その戰術を分析する。

1. ニューヨーク矯風會 The New York Society for the

Suppression of Vice.

ニューヨーク矯風會は一八七三年にアンソニー・カムストーン Anthony Comstock によつて創設された。彼は基督教青年會館に William E. Dodge, Jr., Morris K. Jessup, J. Pierpont Morgan, Robert R. McBurney などの有力市民を招き、團體を結成した。カムストーンは指導の下にこの團體は、特に世紀の轉換期頃には著しい隆盛を見た。一九一五年にカムストーンに代つてジョン・エス・サムナー John S. Sumner が立つた。現時の生活に於ける一つの力として、この團體の勢力が衰頹の道を通りつゝあることは疑を容れな。

この團體の目的はその「設立趣意書」第三條によれば、次の如くである。

「……猥褻なる文學、繪畫、廣告の取引及び配布を取締る法規の實施及び、ニューヨーク州又は合衆國の法規が禁止し、又は禁止することあるべき猥褻又は不道德なる用途に供せらるゝ物品の絶滅」(註1)

加之、カムストーンは實際には賭博をも彼の團體の事業の範圍内に含ませた。そして、違反者を警察に告知することによつて法の強行を計つたのみならず、より嚴格な法規を制定せしめる目的を以て、議員に對する運動をも行つた。

今やサムナー氏は彼の指導する會が會員を増加する爲めに戰闘的な運動を行ひ得ぬことを認めざるを得ぬことを遺憾

としてゐるが如くである。彼は筆者との會見に於て、彼及び彼の協力者達が絶滅しようとしてゐる物の性質を自己體が、人々をして「悪風」に對する闘争に協力せしめるやうに勧誘することに適當なものである點を指摘してゐる。而も、かやうな物を公示することは會の目的に反する。何故ならば、偶々それが却つて「悪風」を助成することなきを保し難いからである。サムナー氏の惱は彼が彼の活動を劇化せしめ得ぬことに在る。然るに、カムストックの時代には、會は別段公示の方法を採らないでも多くの會員を吸収し、人々をして悪風を意識せしめることができた。例へば、カムストックの「レステル宮殿」(The Palace of Restal) (流産又は避妊の相談を求める人々の有名な會合所)に對する攻撃は、新聞紙からは可成りの非難を蒙つたが無料で彼の聲名を高める効果はあつたのである。又彼は、公衆の憤りを喚起した「悪風」の凡ゆる形態を痛めつけることによつて彼の事業に色彩をつけることが必要であることをも知つたのである。

今日、この會は尙ほ依然として同様な方法によつて世人に訴へてゐる。會長が計畫、指導した特殊の襲撃を公示し、それによつて起つた逮捕、有罪判決の數を明瞭な喜びの情と共に表示する。例へば、一九三二年には、「極めて卑俗にして時には猥褻でさへある」クリスマスカードを公示、販賣せんと企てた七人の商人を訴進したことを誇示してゐる。この會の唯一の傳達方法はその年報と會員に對する印刷書翰とである。

實際に會の目的を達成する爲めに會は法廷に於て人を訴進する。加之、カムストックは瀨信省の「特務機關」であつた。會の提起する告訴が勝訴となる効果は道徳的、政治的又は法律的の考慮によつて動かされる裁判長の氣持如何に繫つてゐるのである。カムストックは議員達に驚くべき「見本」を示すことによつて、又は大切な時機を見て抱込運動を行ふことによつて、極めて重要な法案を通過せしめた。一言にして云へば、宣傳は會員を獲得する爲めのみ限られ、會の目的は一定の法律制度によつて行はれたのである。

サムナー氏が彼の預つた會を複雑な環境的背景から特に孤立させようとして努力しても、それは殆んど不可能なことであつた。前にも指摘したやうに、新會員を呼集する爲めに市の猥褻な方面の見本を公にすることはできないのである。彼の年報及び勧誘状は少數の人々の手に渡るのみである。これに對して、アンソニー・カムストックは彼の人格の然らしめたところか、或は意識的な興業師的手腕に因るかは措いて、「ニュース」を創り出し、それが當時の新聞によつて喜んで宣傳されたのである。その結果として、彼の公表する事項の多くは醜名に屬するものであつたにも拘はらず、少くとも會の存在はニューヨーク市に於ては素より、その他の地方に於ても人に知られてゐたのである。

人々は、如何はしい「フランスの」繪端書といつたやうな、會が「猥褻」なりと烙印を捺してゐる社會的情勢に對して既存の態度を有する場合には、進んで會員として加入することを欲するものである(4a、關係的、支配的態度の原理)。勿論、かやうな繪端書はそれを撲滅するなどいふことを夢想だにもせぬ人々からも、「猥褻」と呼ばれることはあり得る。だから、會に加入しようといふ人は、かゝる繪端書の製造者なり販賣者なりを糾弾しようとする者でなければならぬ。次のやうな型の人々が恐らくはこの種の人であらう。

1. かやうな「猥褻さ」を「罪惡」と看做すところの一種の宗教的ステロ版を有する人々、このステロ版は禱つて、猥褻なことに對する嫌惡の態度を惹起さしめる。^(註2)理事會が多數の僧侶及び宗教的信仰の敬虔なる支持者を包容してゐることは勿論である。かゝる宗教的態度はアメリカの特殊の一派の特色を成すものであり、漠然と「清教徒主義」と呼ばれてゐる。この哲學の主張するところに従へば、自ら罪に陥ることを控へるのみでは不十分であり、他の者が誘惑に陥ることを防止することが必要である。會の規約に「猥褻又は不道徳の用途に供せられる物品」とあることは特殊な意味を持つ。何故かと云へば、本質的に個人的な、若しくは善惡の問題にあらずして合宜の問題に屬す

ることを、倫理の體系に結びつけようとする全ステロ版が窺はれるからである。メックリン Meekin 教授が説いたやうに、^(註3)かゝる立脚點は、宗教が制度化せられ、それ故にその宗教に屬する者の比較的世俗的な行爲をも規律することによつて宗教を自體の力を鞏固ならしめようとするときに現はれるところの、宗教の特質である。

2. 性的抑制を行つてゐる或る人々。會が撲滅しようとしてゐる總ての物が性的行爲に關するものであることは明らかである。雜誌に挿入された異常なエロチックな姿體であることもあらうし、避妊の目的で用ひられる道具のこともあらうし、近代的な書物、演劇であることもあらう。性的抑制を行ふ人々は彼等が撲滅しようとする物品を避けようとする。何故かと云へば、宗教上の信念に基づき又は自分の特殊な發達を願ふ爲めに抑制を行ふのであるから、彼等は無意識的にそれ等の物が描き又は暗示する通りのことを行ふことを欲してゐるか、或は少なくとも代位的にさうした實行を見ようとしてゐるのである。彼等の内に在るこの無意識的部分が支配的になることを防ぐ爲め、換言すれば、これ等の強力な態度を比較的潜在的又は斷斷的に止めて置く爲めに、彼等は、彼等が無意識的に熱望してゐる物體に對する猛烈な憎惡を爆發させるのである。この憎惡が外に表はれて社會を「改善する」努力となり、社會を化して、彼等と雖も最早誘惑されることのないやうな清潔な、健全な、敬神的な場所にしようといふ熱情となるのである。この會に關係してゐる總ての人がそれであるといふ譯ではないが、少くとも彼等の或る者に就いては當ることであり、或る者の傾向を説明するには足りる。

3. 兒童をこれ等の物體から保護しようとする、主として親達。或る年報は次のやうに述べてゐる。

「この事業は未成年者の爲めといふことゝ密接な關係を持ち、若い人達を保護する他の事業と直接な關係に立つことは、吾會の理事會員中に他の兒童福利事業に關係してゐる知名の士を多く包容してゐることを以ても知られる。」

サムナー氏は筆者に、會に加入する人達の子女の多くが何等かの「猥褻な」物と直接な、そして屢々不愉快なる接觸を持つたといふことを指摘してゐる。

これ等三種類に屬する人々は、通常「保守的」と呼ばれてゐる社會層に屬する。従つてそれは必然的に市民の大多數を包容するものでないといふことになる。その結果として、サムナー氏の主張は、その性質自體に因り、受容られる範圍が極めて制限されてゐるといふことになる。

併し、何故にこれ等の人々が、實際上は「悪風」の彈壓に獨占的地位を有するこの會に加入しようとするかを解することは容易である。この種の組織に一旦接觸し始めると、その事業を是認する人々の既存の態度はその緊張を解かれるのである(5)り、行動の原理)。けれども、豫測し得べからざるこの範圍は相當に廣い。何故かと云へば、如上の宗教的信念を有する人々、性的抑制を行ふ人々、兒童を愛好する人々が直ちに加入するか否かは疑問だからである。例へば、十字軍的な精神を有する人が寄附すべき金を持たぬこともあらうし、性を抑制する獨身者が彼の罪が決心なき懸念の形で表示されるのを眺めてゐる場合もあらうし、困惑した父親が別の形の協力を求めることもあらう。従つて、この會の會員數が巨大な數字に上つたことは嘗てないのである。

これ等の既存の態度を持たぬ人々を誘つて會員にすることは一層困難である。この場合に、會は先づ第一に、所期の統合の基礎たるべき新たな態度を築き上げることから取りかゝらねばならない。加入を招請される男女は「猥褻」が不道德であり、若しくは罪惡に導くといふ確信を持つやうにならねばならない。これは決して生やさしい仕事ではない。その極端な例としては、裸體主義者は、裸體の寫眞が裸體主義にあらざる態度を有する人々を墮落させることを認めるかも知れないが、裸體主義者を根本的に改宗せしめることは殆んど不可能と云はねばならない。サムナー氏の典型的の

演説に於て、假に彼が彈劾する事柄の實例を次から次へと列挙するとしても、それは聴衆の或る者に、社會には實際に墮落した人間があるといふことを證明することはできても、この人間が持つやうになつた態度は、必ずしも演説者が求めてゐる統合に對して關係的であるとは限らないのである。

されば結局はサムナー氏の成功不成功は一般的社會状態に倚靠するのである。この會がパリに支部を設けることは全然無益であらうし、世紀の轉換期に於ける西部の先驅的都市も一としてカムストック氏を認容するものはなかつたであらう。この會がニューヨーク市の「徳性」と稱してゐるものが毫も改善の跡を示してゐないといふことは殆んど疑の餘地がない。實際に於て、この會の努力等の到底及び得ぬ程の一般的な性的、道徳的風俗の根本的變化が見られ、どんな形の批判を以て對抗しても恐らくは何の効果もなかつたらうと思はれる。假令、サムナー氏が彼の捕へ得た種々な材料を公開することができ、且、彼が放送を他近代的宣傳手段の一切を驅使することができたとしても、矯風會は近代生活に於ては決して繁榮を見ることはできないであらう。「悪風」と闘ふやうに導く態度を持ち合せてゐる人間の頭数が充分でないのである。實際、アインスト *First* と *Single* の *Seeds* が示唆したやうに、風俗の變化は「悪風」の需要を減せしめる原因となつたと同時に、その供給をも減せしめたのである。

II. 合衆國主の日同盟 The Lord's Day Alliance of the United States.

合衆國主の日同盟は前にはアメリカ休日聯盟と稱せられたものであるが、最初一八八八年に結成せられ、一八九〇年に法人となつた。現在の形に於ける同盟は、一九〇八年、ペンシルヴァニア州ピッツバーグに於ける各種宗教團體、産業團體及び社會團體の代表者の會議によつて設立された。この團體は今日、若干の教會及び個人の後援を受け、或る法規の制定に對して影響を及ぼしたのである(特に、一九一二年には、日曜日に一、二等郵便局を閉ざること、一九二五年以

後はクリスマス當日これ等の郵便局を閉ざること)。

「同盟の目的は週の第一日の休養、宗教々育及び神への奉仕の爲めに用ひらるべき時間として保存し、擴張することに在る。」^(註7)

この「目的」は實際としては、日曜日に働くことを禁ずる法令を實行すること、並びにこの趣旨の新法令を制定せしめることに在る。矯風會と同様に、同盟はその過去の業績を強調することによつて會員を吸収しようと努める。又、著名の人達の行爲にして同盟の趣旨に合致するものを公に知らせる方法を探る。

同盟が單に限定されたる人の集團に對してのみ働きかける力を持つといふことは、同盟が日曜日を合衆國の宗教上の休日となすべきことを主張してゐる論理によつて窺ふことができる。土曜日はなく日曜日が守られねばならぬと主張される。その理由は聖書から引合に出された或る神學的證據に依るのであつて、それに従へば「イエスは週の最初の日に蘇り給へり。ヨハネ、二〇—一。」^(註8)とある。合衆國は「基督教國」である。その根據は「ホーリー・トリニティー對合衆國の訴訟に於て現はれた驚嘆すべき見解に在る(143 U.S. 457, 12 Sup. Ct. Rep. 511)。」この訴訟に於て法廷は、外國の契約労働法は福音の使徒を拘束し若しくはこれに適用せらるゝことなし、と判示した。^(註9) 敬神の日としての日曜日は聯邦憲法の一部でもある。何故かと云へば、第一條第七項、第二號は、日曜日が「大統領の休日であり、従つて暗黙の裡に人民にとつての休日であることを」認めてゐるからである。最後に、日曜日の事務を取締る地方令がある。

同盟の役員達は常に、力強い神學的な言葉によつて意見を開陳する。彼等は聖書及び彼等の教會の神聖なることを主張し、禁酒の廢止(特に「日曜サロン及び酒屋」)又は合法的賭博の如き彼等の道徳律を脅かすやうな運動に對しては輕蔑、嘲笑を以て對抗する。この團體は全國に地方的補助機關を持ち、團體の秘書及び總裁は休日擁護の演説の申込み

に對しては常に進んで應諾する。同盟の目的及び活動に關する數多の小冊子、折込印刷物、ポスターの他に、主の指導者と呼ばれる機關誌が發行されてゐる。

同盟は休日令違反者の取締に就いて市町村に協力する。又、新たな法令の制定を示唆し、その立法化の爲めに議員に運動する。同盟は教會團體の代表者としての勢威を利用し、その唱導する立法に注意を向けさせる。宗教的理由に據らずして純然たる個人的又は社會的動機によつて日曜日を休息日しようとしてゐる他の團體の協力をも確保する。例へば、勞働省は同盟の事業に賛成したし、俳優組合長フランク・ジルモア Frank Gilmore 氏もニューヨーク立法院に提出された少くとも一つの法案を打破る爲めに同盟に支持を與へた。^(註12)これ等二つの團體は孰れも日曜日に人々を働かせることを欲しないのである。

次に主の日同盟が當面する問題は、その目的を全國に知らしめることである。同盟主催の講演、その刊行物、ポスター等は、例へば公共關係顧問の左右し得る傳達の手段に比較すれば、問題にならぬ程貧弱である。同盟の役員が高位高官の者を訪問する場合にも、新聞がその記事を掲載する見込みは殆んどない。何故かと云へば、第一には、高官者は極めて多數の訪問者と會見するのが常であるし、第二には、同盟は日曜日の新聞發行に反對することによつて新聞社の反感を買つてゐるに相違ないからである。加之、同盟の目的に反對する意見が優勢を占めてゐる國に於て、源を隠蔽せぬ記事を入々に讀ませぬ事とするのは困難である(6a3、宣傳の選擇の原理)。主の日指導者といふ雜誌の標題自體が大多數の人に警戒の念を起さしめる。ポスターに大型の文字を用ひて揭示すれば瞬間的にはこの種の宣傳も人の眼を捉へ得る程極立つことができるかも知れないが、教會の牧師のやうに、既にこの問題に對しての賛成の立場を採つてゐる者でなければ、かうした廣告を喜んで戸口に出すものはない。

同盟の宣傳は總て顯示的の部類に屬する。事實、同盟の目的は廣告の上に商品の名が掲げられると同様の公然たる態度で記載される。同盟の發行する文獻には何故か日曜日が神を崇拜する爲めに費やされねばならぬかといふ論題を論理的に基礎づける何等の試みも行はれてゐない。否、寧ろこの主張は當然正しいものであり、惡の力のみが敢てその正當性を否定するのだと頭から決定してかゝつてゐるのである。他の觀點は一切、完全に抑壓されてゐる、アメリカ人は他の種々な影響によつて八方から刺戟されてゐるのだといふことを想へば、この抑壓は決して策を得たるものではない。

同盟は基督教に對し、聖書に對し、及び憲法に對して或る種の態度を有する人々に訴へてゐるのである(4、關係的態度の原理)。併し、豫測し得べからざるこの範圍は廣い。極めて敬虔な基督教徒は基督教徒にあらざる者が安息日を守ることを強制せらるべきであるといふことを信じないかも知れない。嚴密なる法の遵奉者は同盟が行つてゐるやうな憲法の解釋を肯定せぬだらうし、或は同じ憲法に於ける「權利宣言」を引合ひに出すことにより、アメリカが基督教國であることを證明する爲めに同盟によつて引用された判斷から引き出された結論を否定するかも知れない。要するに、極めて嚴密な、そして可成り局限されたところの、宗教的教義並びに憲法の解釋を基礎として打建てられた、或る型の態度が要求されるのである。かゝる人々に對しては同盟が所期の統合を齎らし得るであらうことは想像に難くない。即ち、同盟はその過去に於ける成功を列べ立て、自己の爲めの勢威を創り出さうと企てるのである(6a1、積極的、社會的價値の原理)。又、同盟は甚だ神學的な言葉を用ひる(4a、關係的、支配的態度の原理)。そして、他の國家的争點に就いても一貫した態度を以て臨む(6e2、附加的、關係的、既存的態度の原理)。これ等の人は少くとも精神的には同盟を支持するであらう。併し、彼等が現實に同盟に加盟するか否かは彼等に固有の種々な要因によつて左右される。同盟が將來に於て成功する見込みが薄いと信ずべき理由は充分に存在する。何故かと云へば、同盟に加入する爲めに

必要な態度を持ち合せてゐるアメリカ人の数は少なく、將來に於ては一層減少すると思はれるからである。も一度繰り返して云へば、日曜日に對するかやうな態度は特にアメリカの或る新教の宗派に獨特な現象である。例へば、ヨーロッパに於ては、特に加特力教のラテン諸國に於ては、日曜日は常に敬神の日であるのみならず、快樂及び氣晴らしの日でもある。同盟はこの事實を認め、常に「大陸風の日曜日」に言及して苦々し氣に頭を振るのである。かゝる態度は強力的に制度化せられた宗教形態と歩調を一にするものである。何故かと云へば、この點に就いて教會は一日中の人間の行爲を規律しようと努めてゐるからである。近代世界に於てはかゝる制度化せられたる宗教の形態は衰微しつつあり、従つて、安息日に對する態度も亦崩壞すべき運命を荷つてゐる。勿論、自己の利害關係により、同盟の議員に對する運動に協力する特殊の團體はあるが、これ等の團體の求めてゐるものは休息日であつて、主の崇拜日ではない——求むる窮極目的は同じでも、この目的を達成する態度は全く異なる。將來に於ては、日曜日に仕事をする人の数は少なくなるであらうが、日曜日に遊ぶ人の数は一層増加するであらう。同盟が日曜遊山列車や日曜新聞に對して反對してゐることは大多数の人々の態度に逆行することを意味し、従つてその努力は失敗に終るべき運命を負ふてゐるといふことは、先驗的に豫言できる譯なのである。恐らくはバーネース氏さへも、假令如何なる高額の謝禮を拂ふとしても、この種の團體の公共關係顧問を引受けようとは思はれない。何故かと云へば、彼は先づ第一に大衆の「欲望」を考慮するであらうし、この場合に於ける「欲望」が決して彼に勇氣を與へるものではなからうからである。

三、アメリカ社會保險協會 The American Association for Social Security.

アメリカ社會保險協會は一九二七年にエブラハム・エプスタイン Abraham Epstein により、アメリカ養老保險協會

The American Association for Old Age Security といふ名稱で創立された。この協會は現に養老年金制度制定の爲めに活躍しつゝある重要な團體である。その努力の目的は、

「合衆國を貧老の閑却より覺醒せしめ、吾國の老人が——家に於て幸福に——彼等の愛する人達と共に餘生を過し得るやうにする……」ことに在る。

協會は養老年金制度に對するその絶叫が多数の人々を動かし得ぬであらうといふことを知つてゐる。何故かと云へば、取りつき場になり得るやうな既存の態度が殆んどないからである。會員を増加させる爲めに協會が働きかけるものはエプスタイン氏が（筆者との會談に於て）人々の「人道主義」と稱したものである。そこで、人道主義的反應を獲得する爲めに、協會は、エプスタイン氏の種々な著書、その機關誌「社會保險」、パンフレットやちらし、講演等に於て例示される種々な實例を能ふ限り追眞力を持たせて提示しようと努める。用ひられる論法は要約すれば次の如きものである。

1. 大多数の人々は老後を養ふに足る程の貯蓄を行ひ得ない。
 2. 養老院は能率上らず、入院者にとつて殘酷である。
 3. この問題を解決すべき最も合理的な、人道主義的な、經濟的な方法は養老年金の制度である。
 4. 「積極的」方法で老年者保護を行つてゐない國は印度、支那及び米國（最近までは）のみである。
 5. 既に養老制度を持つてゐる州は少なくない。
- 協會は市民有力者の贊助の書翰又は聲明書を引用し、又は協會自體の遂行した事業成績を強調することによつて、その勢威を高めようとする。

新會員の獲得も亦、期望の立法を齎らす上に効果があるであらう。何故かと云へば、大衆が養老年金制度に關心を持つ

やうになれば、勢ひその影響が立法部にも及ぶからである。併しエプステイン氏の考へるところに従へば、協会の著しい進出は直接の議会運動に負ふところが多い。養老年金制度が法案として上程されると、運動員が首都に派遣され、これ等の運動員が議員を動かす爲めに運動を行ふ。議会運動團體として協会は養老年金運動の進歩に注意を向けさせるやうな新聞記事を掲げさせてその勢威を保持する。エプステイン氏によれば、或はニュース解説として、又或は社説的批判の形で新聞紙自身が自發的に行つて呉れる發表が最も効果がある。といふのは、その結果として議員その他の者は、エプステイン氏及びその協力者達が、少くとも耳を藉すに價する程有名であることを知るやうになる。主の同盟と同様に協会は協会の目標に關心を持つ他の團體と協力する。例へば、労働組合を誘つて養老年金制度の爲めに騒起させる。

宣傳と議会運動とによる熱烈な努力にも拘はらず、協会の主張が人々に徹底するには異常な困難が伴ふ。その財政的能力は多寡が知れてゐるし、従つて大規模な公知の手段に訴へることはできない。協会の發行するパンフレット、報告書、著書の類は、全國を風靡する宣傳文獻の洪水に較べれば九牛の一毛である。又、養老年金制度に關心を持つ人が少ないから、協会の要望を讀む人は尙更少ない。何故かと云へば、最初の認識を生ずべき有利な補助的態度が喚起されないからである。

假に協会がその存在及び目的を知らしめることができたとしても、その會員が著るしく多數になるといふことはありさうもないことである。貧窮に憫む老人のみが眞に關係的態度を有する者であり、この態度が、假に彼等が金を持つてゐるとしたら（併しさうなれば彼等は貧窮である筈はない）、所期の統合を齎らすかも知れぬ、といふ心細い有様である（4a、關係的、支配的態度の原理）。若い者は自分が老後に如何なる状態になるかは想像することはできないと考へる。社会に存在する不幸な人達に對して同情の念を抱く者、及び養老年金制度を文明にとつて本質的な制度であると

考へる自由主義者又は社会主義者は協会の會員となる傾向を有するかも知れぬが、これ等の者に就いても、豫測し得ざる範圍が存在するのである。遠見を備へた博愛主義者は喜んで協会に加入し、寄附を行ふであらう。

エプステイン氏の語る「人道主義」なるものは、社会の他の人々の間に所期の統合を齎らす爲めには餘りに漠然とし過ぎた態度である。それ故に協会は、より分化した、より強力な態度を、養老年金に就いて惹き起さしめようとする（4d、變化の原理）。この努力は、筆者が判断し得る限りに於ては宣傳を混入してゐる教育の一例に他ならない。何故かと云へば、それは養老年金制度に關する歴史及び資料の比較的公正な敘述だからである。勿論一つの立脚點はある。さればこそ一切の材料は年金制度にとつて有利な結論が齎らされるやうに整理されてゐるのである（6d、限定の原理）併し、この教育が開始される前に、教育せらるべき人間がこの問題に關心を持つことが必要である。換言すれば、この人間の内に何等かの既存の態度が喚起せられねばならない。例へば、社会的の教室に於ては、學生は近代社会の缺陷の體系的研究の一部として老癯の問題を取扱ふ。動機づけの源泉を成すものは一般的な教室内の態度である。併し、普通の社会に於ては次のやうな具合の悪い事態が支配してゐる。即ち、人々は協会の事業に關心を持たされるやうな既存の態度を有せざるが故に協会に支援を與へず、而も、人々が關心を持つやうにならねばさうした態度を築き上げることは困難である。

協会は新會員を獲得することよりも養老年金立法を促進する方により多く力を入れてゐることも事實である。けれども、會員の増加は協会の勢威を増大し、その討議會の運動の効果を一層強めるに相違ない。同時に、この種の立法が社会に於けるより一般的な態度によつて左右されるのだとも云ひ得る。不況時代の最後の數年の間に養老年金に關する法令の數は急激な増加を見た。そして終にはルーズベルト大統領も議會も共に、この問題及びその他の社会問題を直接に

取上げようと決意するに至つた。^(註16) 國家の態度がかうした根本的な轉換を見たことを悉く協會の努力の然らしむるところであると斷ずる譯にはゆかない。何故かと云へば、エプステイン氏及びその一黨は好況時代にも同じやうな活動を續けてゐたからである。不況がかうした年金制度の社會的必要性を如實に證明し、その結果として適當な立法が行はれたのだと見る方が當つてゐやう。^(註17) この場合には、宣傳や議會運動は或る社會過程を促進することはあり得るが、その一般的な経路を著しく變更し得るものではないと云ひ得るやうに見える。

四、有色人種の福利増進の爲めの全國協會。The National Association for the Advancement of Colored People (N. A. A. C. P.)

N. A. A. C. P. は一九〇八年に伊利ノイス州スプリングフィールドに勃發した黒人暴動を機として、一九〇九年に、ジョン・アダムス・Jane Adams、ジョン・デューイー・John Dewey、W. E. B. デ・ボア・Du Bois、ジョン・ヘインズ・ホームス・John Haynes Holmes、リンカーン・ステーション・Lincoln Steffens、ウィートマス・Thomas、オスワルド・ガリソン・ウィリアード・Oswald Garrison Villard、メアリー・E・ヘンリー・Mary E. Woolley等の自由主義によつて創設されたものである。この協會はこの種の團體の中で最も有力なものであり、創設以來二十五年間常にその勢力を増加しつゝ活動を續け來つたものである。その目的は、

「……(1)私刑の絶滅、(2)南部農耕地に於ける借金補償の爲めの奴隸制度の根絶、(3)權利剝奪の廢止、(4)全く色又は人種のみを基礎とする、訴訟手續上、特に刑事訴訟上の不公平の廢止、(5)公教育の爲めの基金の分配の公正、(6)色又は人種に基づく隔離、差別、侮辱、虐待の廢止、(7)凡ゆる分野に於ける機會均等、等しき仕事には等しき賃銀を。」^(註18) これ等の目的には人種關係の一切の問題が含まれてゐることは勿論である。表面的にはこれ等の目的は共產主義團體

の夫と甚だしい距離があるやうには見えない。併しこの協會は、その目的を達成する爲めに革命が必至であるとは考へてゐない。協會の主張は、黒人は聯邦憲法が他の市民に對して與へてゐると同じ權利を要求することによつて、協會が彼等の爲めに求めてゐる地位に到達し得るといふに在る。されば、この協會は革命的と云ふよりは寧ろ「自由主義的」である。

同時にこれ等の目的は、協會にとつては、或る意味で生の哲學、人種意識の一種となつたのである。この哲學は黒人間に於て互に争ふ二つの政策の内的衝突の結果として生れたものである。概して云へば、先づ第一に「アメリカ市民としての完全權を要求するに先立つて、より大なる經濟力と一般的能率を」^(註19) 實現すべしとするブーカー・T・ワシントン Booker T. Washington の受働的忠言が、前に掲げた如き闘争的な、直接の目的によつて置き換へられたのである。

黒人の生活條件を改善し、黒人を覺醒せしめる爲めに協會は全國に亘る組織を構成した。中央事務所はニューヨークに設けられ、諸方の都市に約四百の支部がある。有志の支部役員のみでも少くとも四千名はゐると見られてゐる。各會員の支拂ふ會費年額は最少限一弗であり、その半ばは全國事務局に送られる。N. A. A. C. P. の機關誌は「危機」The Crisis であり、「黒人種の記録」A Record of the Darker Races」と傍題されてゐる月刊雜誌である。その他、協會は自己の主宰に成る數多のパンフレット、年報、他の雜誌に寄稿、掲載された論説の再版等を發行する。黒人及び白人の編輯者達に毎週一回規則的に寄稿が行はれる。協會の役員は廣く旅行し、頻繁に講演を行ふ。白人經營の新聞雜誌に寄附を行つて協會の事業を公示せしめる。最後に、協會は、特殊の立法を促進する爲めに「陳情團」を組織して活動する。そして、黒人として差別待遇を受けた者に對して保護を與へる爲めに、協會所屬の種々な機關を通じて法律上の援助を行ふ。

最初に協会は事業と全国との関係を明らかにする。即ち、黒人の憐れむべき状態は、白人にも関係のある社会全般の機構を跛行的なものにする、と説く。この論點に附加して、黒人が今やその数の力を認識し始めつゝある、といふことを警戒的に注意する。黒人はその人種上の同胞に對する暴力に對して對抗する意志を持つてゐるし、非友誼的な立法者に對する投票を拒否する、とする。次いで協会は、その凡ゆるる刊行物に於て、又、白人の定期刊行物に於て、アメリカ黒人の現實の狀態を敘述する。最後に、協会は、協会の事業を贊助する白人有力者の姓名を公表することにより、名士に依頼して協会の目的を解説して貰ふことにより、反私刑運動に就て達成し得た進歩、その他同種の立法を立案する際に於て協회가演じた役割等、その活動の狀態を不斷に公表することにより、協會自體の勢威を築き上げようと努力する。アメリカの生活に於ける黒人の重要性を強調することによつて人種意識が刺戟される。黒人に對して加へられた迫害、政治上に於ける黒人の地位、世界の大思想家と黒人との關係、黒人の成し遂げた業績といつたやうな問題が繰り返して強調される。この意識は更に、協會の發行するパンフレット、協會の講演、支部の會合の特徴を成す公式、非公式の討論等によつて補強される。この結果として、黒人が自己の人種を意識し、その地位に對して熱意を持つやうになることが期待される。

協會はこれ等人種意識を有する黒人の或る者を會員中に加へようと努める。協會所屬の新聞紙は黒人が能働的な協力によつてその成長しつゝある解放運動を援助し得る旨を不斷に指摘する。協會が有色新聞に對して提供する電報通信により、パンフレットにより、講演者により、協會はその具體的な業績を知らしめることができる。かうした業績は、法廷に、將又、立法により、黒人の權利を擁護しようといふ熱烈な努力の結果として達成されたのである。かうしたことを黒人の間に宣傳することにより、協會は黒人に對するその勢威を高める。

白人及び黒人の會員を獲得すること、黒人をして人種意識を持たしめること、黒人の利益を擁護すること等の協會の目的は、必然的に相互に關聯がある。會員數が増加すれば議會運動の效果も増大するし、黒人間に於けるその勢威も大になる。そして、白人會員の増加は、黒人をして、協會に加入することによつて白人のアメリカとの協働を醸成し得るであらう、といふ考を抱かしめ、延いては多數の黒人會員を吸引することになる。人種意識を有する黒人が増加すれば、その或る者が協會に加入するといふ見込みが愈々大となり(彼等がその代りに共產主義になりさへしなければ)、そして黒人のアメリカの政治に對する支配力が強まる。そして、黒人を擁護する爲めの努力が成功する事例が多ければ、協會の勢威は愈々振ひ、黒人の間に人種意識を植ゑつける可能性が増大する。

N. A. A. C. P. の宣傳を観察すれば、この團體が凡ゆるる傳達の手段を利用して宣傳を行つてゐることが知られる。宣傳の知覺的原理を心得てゐた證據である。併し、その他の問題は仲々容易に解決し得るものではない。先づ第一に、アメリカの黒人間に人種意識を植ゑつけようといふ計畫を考察して見よう。人種意識とは、人格を統合して、主要なる中心の態度と殆んど總ての行爲の斷片が、その個人が自分の人種なりと考へるところの集團に對する彼の態度の派生となる如くすることを意味する。かうした個人は概して自分自身及び自身とその人種との關係を意識してゐるものである。一言にして云へば、普遍性に關する幾分なりとも永續的な印象がありさへすれば、彼の心界は支配されるのである。かゝる性質を有する所期の統合は、必然的に中心的統合であらねばならない(54, 統合の型の原理)。群集意識に於ては、アルボート教授が説いたやうに、^(註20)他の人々が現實に側近に存在するといふことがこの印象を容易にするのであるが、人種意識は肉體的感覺の範圍外に在る人々をも含むものであり、多くの場合に、一層實現困難である。協會は、苟くもアメリカの黒人がその憲法的地位を獲得しようとするならば、この人種意識が必要であると考へる。

ナチスが彼等の強硬外交主義的な國家主義思想に人種意識を附加しようとする場合には、彼等は先づ一つの困難に際會する。アフリカ主義に關する彼等の標識は多くの人々に對して容易に當て嵌める譯にはゆかない。然るに、N. A. A. C. P. の標準は然く曖昧ではない。それはアメリカに於ては社會一般に行渡つてゐる標準である。色が是である。何故ならば、色は常に外部的な區別の特殊な標準として役立つのみならず、經濟的、心理的に黒人である人々を指稱する爲めにも役立つのである。又、黒人といふ言葉自體が、一般には特殊な響きを持つてゐる。かくして總ての要請に於て、黒人達は恰かも彼等が一個の同種集團を構成するかの如くに取扱はれ、或る一人の黒人に就いて云はれてゐることは黒人全部に當て嵌るかの如くに考へられる。その結果として、或る一人の黒人に對する不正は總ての黒人に對する侮辱であると見られるし、一人の卓越せる黒人の行爲は全黒人種の名譽とされ、或る白人元老院議員の敗北は専ら黒人の責任に歸せしめられる、等のことが云はれる。これ等の云ひ方は總て隱蔽的宣傳の種々な形に他ならない。何故かと云へば、既存の態度を喚起することによつて、一般の黒人に對する普遍性の印象を生み出すべきステロ版を齎らすことを目的としてゐるからである。かゝる戰術は、暗示によつて新たな態度を築き上げ、更にこの態度を基礎としてこの團體に向けられるべき他の態度を喚起する爲めの、計画的な企てである(4d、變化の原理)。要請は種々な形、種々な手段によつて繰り返して行はれる(2b、反覆の知覺原理、6c、補強の原理)。黒人をしてこれ等の要請を知覺せしめる爲めには、種々な社會的作用により、雑誌の表紙の奇抜な圖案により、新聞にニュースを提供して行ふ「紙面奪取」により、他の補助的態度が喚起される(2a、補助的態度の知覺的原理)。アメリカの生活に於ける黒人の現實の状態も亦、宣傳を通じて人種意識を持たせようとの努力を補足することになる。何故かと云へば、白人からの敵視自體が黒人をして團結せしめ、彼等の共同の敵たる白人に對抗して一層相互間の結合が鞏固になることを感ぜしめるからである。

併し、單にこれ等の刺戟情勢を提示して總ての黒人が直ちに人種意識を持つことを期待するのでは充分でないことは明らかである。中心的の型の統合が要求されてゐるのであるから、豫測し得べからざるこの範圍は勢ひ大ならざるを得ない。白人又は白人の社會に倚靠して經濟的存在を保つてゐる黒人は、黒人種は主人たる白人に對して卑屈な程に服従せねばならぬと思つてゐるかも知れない。ブーカー・T・ワシントンによつて推奨された態度に類するものである。又、黒人の主婦は全く家庭の中に閉ぢ籠つてゐて、彼女の社會的環境の大きな動きに對して何等の注意を向けようとせぬかも知れない。又、都市に在る黒人共産主義者はこの人種意識を以て、黒人をして革命的闘争の埒外に引き出さうといふ陥穽であると考へるかも知れない。かやうな人々は、所期の統合には反對する態度を持つてゐる譯である。更に、大多數の黒人には協會の手が届かず、従つてアメリカの生活に於ける彼等の地位に就いて不満を持つてゐるとしても、彼等の態度を適當に組織すべき方法がないのである。加之、所期の統合を持つてゐるとしてもそれが斷片的態度としてであり、極めて微弱な程度に人種意識を有するのみで、而も或る特殊な場合に限つてそれが現はれるやうな連中もあつてゐる。かゝる人種意識は協會が實現を期してゐる夫とは距たりがあるのである。

・人種意識の程度は社會の構成によつても異なるといふことを指摘せねばならない。例へば、ハーレムの如き人口稠密の區劃に於ては黒人は常に互に接觸し合ひ、黒人種に對する不正義が容易に認識されるから、普遍性の印象を経験する心理的機會は、人種の經驗の大多數が代位的である南部の農業地帯(協會又は他の團體が彼等の間に接觸の機會を作つてやつても)に於けるよりも、恐らくはより多いであらう。この生態學的要因も亦、豫測し得べからざるこの範圍に影響を與へる。

協會が人種意識を築き上げようと努力する所以は、この態度が會員獲得運動の主要なる基礎となる可能性が多いから

であらう(4、關係的態度の原理)。何故かならば、黒人が一旦人種意識を持つに至れば、彼は協會が、彼の意識が依つて以て發現し得べき論理的組織であることを發見するであらうからである(5b、行動の原理)。全國に網を張つてある支部は同胞たる黒人達との協働の具體的な種々な方法を提供する(6b、行動の経路指示の原理)。更に協會は、その理事者の陣容の厳めしき、協會に關係あるお歴々、協會の業績に就いての不斷の誇示等によつて服従的態度を喚起しようと努める(6n1、積極的社會的價値の原理)。そして協會の誇りとする過去の業績は決して空虚な空景氣ではない。實際に於て協會は黒人の權利の爲めに、多くの法律上の闘争に勝つたのである。その結果は事實に現はれて、この團體の年收の略々七割五分は黒人の出捐にかゝる。

又、人種意識を持たぬ黒人も、種々な理由で協會に加入することがある。支部の役員が彼等に對して或る程度的人格的勢威を有することもあらうし、彼等が進んで白人ともつと密接に接觸してみようと欲することもあらうし、協會が彼等又は彼等の關係者に對して示してくれた何等かの具體的な助力に對して謝意を表明したと思ふこともあらう。これ等の場合に協會は、所期の統合に導くべき、換言すれば會員にならしめるやうな、關係的態度を喚起し得べき機会を與へられるのである(4、關係的態度の原理)。

その他、協會は白人の中に次の如き關係的態度を喚起することによつて、彼等をその傘下に牽きつけようとする。

1. 人道主義的態度。黒人が荷はせられてゐる生活條件を記述して喚起される。
2. 利己的態度。白人の状態は黒人の地位が向上した場合に初めて改善される。何となれば兩人種は共に同一の組織に倚靠するから。
3. 恐怖に基づく態度。經濟的及び身體的安全に關するものである。何故かならば、黒人が救済されなければ兩人種

の間の摩擦は繼續されるから。

右のやうにして協會は社會に於ける三つの集團に働きかけるのであるが、これ等三つの集團の總てに於て、豫測し得べからざるこの範圍は相當に大きい。即ち、

1. 人道主義的態度は、「リンカーンやラヴジョイ、その他の奴隷廢止論者の精神を再現する」ことを欲する白人の間に存在するかも知れないが、かゝる態度は、職業的社會事業家又は特に敬虔な宗教心を持つ人達又は博愛主義者にあらざる限り、概して斷片的である。又、この態度は稀にしか存在せぬ。何故かと云へば、多くの人々は自分の直接屬してゐる集團に就いてより多くの關心を持つことを常とするからである。同情の程度は、同情する者と同情される者との間に存する類似性の分量に應じて決定されるといふことが云ひ得るらしい。従つて、白人は黒人に對してよりも白人に對して關心を持ち易い——併し、このことも亦、その個人の地位及び彼と他の白人又は有色人ととの間の關係によつて左右される。ともあれ、この人道主義的態度は強いものではなく、従つてこれによつて所期の統合は齎らされ難いのである。

2. 利己的態度、特に經濟的な方面に於けるこの態度は、アメリカ人に於ては、前者よりも強力である。この態度は致命的、且、中心的である。協會は白人の地位と黒人の夫とは互に關聯するものであることを主張し、種々な場合を提へてこのことを立證しようと努める。黒人、及び自由主義的な白人は、忽ちにしてこの相互的關聯を認容し、彼等の中には關係的態度が喚起されるであらう。併し、かやうな人達は社會に於て大なる影響力を持たない。富裕な製造業者をしてこの事實を認めしむることは相當困難であり、かくしてこの經濟的の含蓄ある態度は單に潜在的なものとして彼の心中に止まるに過ぎないであらう。況んや、協會が弊害の表の中に列擧してゐる行爲自體を「白

人種人を保護し」、又は「黒人をその本来の地位に止めておく」爲めの重要な戦術であると考へてゐる白人南部人を、このやうなやり方で、動かさうとするに至つては、實際的には不可能といふの外はない。要するに、この、何れかと云へば抽象的な要請の成功は——その中に含まれた眞理は別問題として——この要請を聞く人々の文化的態度によつて支配されるのである(4. 4. 關係的、支配的の原理)。

3. 恐怖の態度を喚起しようとの企ては、人種的暴動又は私刑を未だ嘗て経験したことのない人々に對しては、人道主義の態度は喚起し得るかも知れないが、成功の見込みは少ない。他の人々は法と秩序とを維持することを欲し、黒人に對する文明的な態度がこれ等の點に於ける人種的關係を改善するに役立つであらうと考へる。協會が常にその目的が本質的に適法であるやうにしよと努めてゐるといふ事實、換言すれば、既に憲法の中に含まれてゐる第十四、第十五の修正を實施しようとする努力してゐる事實は、例へば自由を愛する北部人に對しては好ましい効果を及ぼすかも知れない。併し、同時に、かゝる文字通りの強行は南部人にとつては革命的と映する恐れがある。黒人の地位ではなしに協會全體が、或る人々の間にこれ等の恐怖の態度を喚起し、その結果として生ずる統合は、協會が唱導する方法に對して毫も有利でないことになる。否、却つて、より激しい抑壓、虐待の政策が行はれるやうになり易いのである。

右の如くにして、協會の會員獲得運動は人々の態度が複雑多岐に互ることによつて極めて困難ならしめられることが明らかになされた筈である。協會のその他のより一般的活動に就いても同様のことを云ひ得ること勿論である。何故かと云へば、これ等一般的活動は右に考察した種々な政策の別の様相に他ならぬ場合が多いからである。例へば、會員獲得の努力は同時に一般の輿論にも影響を及ぼし、そして結局に於ては、協會がその窮極目的を達成し得るのは唯、かゝる

影響を通じてのみである。協會のパンフレットを讀む人は必ず協會に加入するとは限らぬことは言を俟たないが、彼の中に一つの断節的統合が形作られ、それが何等かの機會に(選挙の時に)所期の行動を齎らすことはあり得る(6. b. 行動の経路指示の原理)。それ故に、協會の成功不成功は、加入會員の數のみでなく、右のやうな断節的態を持つ人々の全國に於ける數をも考慮して、判断すべきである。勿論、これ等の態度の限度を評價することは不可能ではあるが、人種的偏見を左右するに與つて大いに力があるのは、かゝる態度の有無である。

何故かと云へば、人種的偏見は屢々断節的態を基礎とするからである。人種的偏見を理解する爲めには、兒童がステロ版や態度を獲得する方法と同様の説明の仕方では不十分である。兒童がステロ版、態度を獲得する方法は總ての社會的善悪を永續化せしむべき宣傳の手段を明らかにするに過ぎない。これに對し、吾々の今考察しようとしてゐる問題に於ては、偏見を有する人々を繞る社會的情勢の性質を考量することが必要であり、そしてこの情勢を知る爲めには、歴史的及び心理的發達を経て來た傳統及び慣習を知ることが要する。偏見の社會的背景と直接な心理的背景とを兩つながら知ることによつて初めて、加速度的に全國を風靡し始めつゝある種々な不寛容運動を理解することができるのである。人が人種的偏見を抱くやうになるのは通常、その人種に對する唯一回の經驗によるものでもなければ、かゝる個人的經驗の積分によるものでもなく、或はその微分によるものでもない。それは正常な生活状態の過程に於ける社會的接觸によつて生ずるのである。何故かと云へば、偏見それ自體は、大多數の場合に於て、社會的所産だからである。例へば、ボールドウィン Bouldwin 教授は、學生達の提供する資料に従ひ、人種的偏見の最も重要な理由は「傳統と通念」であることを見出した。ラスカーも亦「制度的反感」が兒童に於ける偏見の多くの場合を説明し得るといふことを發見した。即ち、「兒童が人種的態に就いて彼を繞る成人の環境から獲得するものは、特殊な反動と云ふよりも寧ろ素直な受容の方が

遙かに多い。二つの人種的集團の間に反抗的な態度を含む情勢は兒童の環境に於ける總ての人からして當然のこととして取扱はれるから、何人もそれに就いて云々するものもなければ、それを意識的に承知してゐる者も殆んどない。^(註24)この種の斷斷的態度は多くの社會的態度と同様に潜在的である。何故かと云へば、ラスカーも説いてゐるやうに、兒童は通常、何等かの特殊な事態が起らぬ限り、或は彼が旅行でもしなければ、彼の抱いてゐる偏見を意識しないからである。

加之、黒人に對する偏見の程度は地方によつて異なる。北部、特に黒人「問題」が存在せぬ地方に於ては、この偏見は、假にそれがあるとしても、斷斷的、概括的な態度であり、人格の他の部分とよく統合されてゐない。これに對して、南部に於ては、偏見はよく組織されてをり、大體に於て潜在的ではあるが、中心的な態度を成してゐる。従つてそれが喚起されさへすれば強い力を持つことになるのである。地方によつて夫々、個性的な相違はあるが、宣傳家に關係のあるのは一般的傾向のみである。

されば、人種的偏見はN. A. A. C. P. にとつては一つの心理的敵手である。それは協會の所期の統合に背馳するところの心界内の態度を表象する。協會は黒人に要請するに當つて、總ての黒人がこの偏見を認識し、特に協會を通じて活潑にこれと闘ふことを勧めてゐる(7b、逆宣傳に於ける積極的暗示の原理)。白人に對する要請に於ては、既に述べたやうに、協會は對立の招致すべき不幸なる結果を指摘する。恰かも協會は、嘗て潜在的であり、且、多くの場合には斷斷的であつたところのこの社會的態度を支配的な地位にまで誘導し、意識的個人がその存在に氣がつくやうに仕向けてゐるかのやうに見える。そして、この意識によつて、相抵觸する諸々の態度が統一されて、目指す態度(即ち人種的偏見)の上に作用し、それを無力ならしめようといふ期待がかけられてゐるのである。併し、この分解の過程に伴なふ

豫測し得べからざることを範圍は大であり、基礎的な偏見の強さに倚靠することが多い。

併し、偏見の存在を意識するのみでは尙ほ不充分である。そこで協會は、白人に對するその特殊の要請によつて、より直接に所期の統合を繞らさうと企てる。喚起されたこれ等の態度の或るものが中心的存在であるとしても、その影響は、社會的壓力の結果として人々の心界の極めて安定的な構成要素となり切つてゐるところの、これと對抗する態度に比較すれば、取るに足りない。これ等の態度を生み出す原因となつた社會機構を先づ改めなければ協會の事業の捗々しい進歩は見られない、といふ根據は茲に在る。宣傳は、私刑廢止法案の議會運動に、議員候補者の敗北の手傳ひに、協會の増加に、將又、黒人に於ける人種意識の醸成に、凡ゆる努力を惜まないであらう。併し、これ等の方策を必要ならしめるところの人種的偏見は依然としてその力を喪はない。何故かと云へば、アメリカ人が黒人に對して抱いてゐる反感はアメリカの社會組織の然らしめるものであり、而してこの社會組織は宣傳によつて容易に基礎を動かされ得ないからである。或る地方に於ては有色人に多數を制せられてゐる一群の南部人の態度が、一般の黒人に對して一朝一夕に變化し得るなど信ずることは、全く心理學的、社會學的ナンセンスである。彼等の態度は特殊な黒白人間の情勢の所産であり、従つてこの情勢が變化せねばこの態度は變化する筈がない。

一九三〇年にN. A. A. C. P. はパーカー *Parker* 事件に於けるその「陳情團」としての活動により、全國的な評判の的となつた。北カロライナのジョン・J・パーカー判事はフーヴァー派の一員であるが、フーヴァー大統領によつて大審院判事に任命された。協會は、パーカー氏が十年以前に「黒人の投票及び政治生活への關與に反對する演説を行ひ、その後その所説の否定又は取消を行つてをらぬ」ことを理由として、この任命に反對した。アメリカ労働聯盟も亦、判事が行つた判決の或るものに就いて憤慨してをり、熱烈に彼に反對した。遂に、六週間と六日間に互る躊躇、策動、議論の

舉句、元老院は四十一對三十九といふ切迫した投票によつて、この任命を否決したのである。

協會は元老院に對して壓力を與へる爲めに組織的な攻撃方針を計畫したのであるが、この攻撃を時間の順序に従つて要約すれば次の如くである。

1. 二十六箇州に散在する協會支部に謄寫版刷りの手紙を出し、總ての會員がその地方の元老院議員にパーカーに對せよとの電報を出すことを勸告した。
2. 元老院議員は各個的に陳情を受けた。
3. タイプで打つた個人的書翰を通じて白人新聞と連絡をとり、その中にはパーカーの不都合を列挙し、彼がそれを取消してゐない點を指摘する。
4. 協會の役員が自ら元老院審判部の小委員会に出頭して證言を行つた。
5. 特別の新聞種にこの證言を要約し、證言の複寫は各元老院議員に配布された。
6. 黒人からの抗議文及び電報が各個の元老院議員及びフーヴァー大統領の手許に届き始めた。
7. フーヴァー大統領は任命の辭令を取消することを要求せられた。この要求は廣く公示せられた。結局、この要求は拒否された。
8. 協會の手紙を承認し、パーカーに反對することを約束した議員の姓名が公示された。
9. 北カロライナ州の共和黨領袖が黒人に對して理不盡な態度を採つた旨の陳情が百三十二名の同州黒人によつて行はれ、新聞に發表された。
10. 大ニューヨークの教師達に手紙を差出し、彼等の主筆する會合に参加する人達をして二人のニューヨーク州元老院

議員に抗議せしめるやうに勸告した。

11. ニューヨークの新聞社に特別な電報通信を出し、パーカー支持者の或る者が行つた陳述を否定した。
12. 上院小委員会に於けるパーカー排斥の決定は尙未だ鬭争が終つたことを意味するものにあらざる旨を、協會支部に向つて警告した。
13. 黒人共和黨諸團體の協力を報ずる新聞種を提供し、黒人の政治的潛勢力の偉大なることを暗示した。
14. 一九二〇年四月二十九日、グリーンズボロー日々新聞に現はれた社説の直接複寫版がフーヴァー大統領、各上院議員、新聞社等に送附された。これにはパーカー氏の不都合が記載されてゐる。
15. 頻繁に新聞特報を掲載させて、黒人達の抗議が目を逐ふて高まりつゝあることを注意させた。
16. 策戦の中心となる都市に於ては屢々公の會合を催し、これ等の會合は特別な新聞見出しによつて廣く廣告された。各會合に於て参加者は彼等の上院議員に電報を發することを勧められ、その結果、數千の會衆がこの勸請に應じた。
17. 協會は再びパーカー支持者の非難に應酬した。
18. 協會は黒人の權利に關する大審院判例の表を新聞社に送つた。
19. 協會はパーカーを大審院判事席に列ならせぬやうにと、國民に懇請を發した。
20. パーカーが敗北した後、協會は新聞社及び協會支部に、協會がその勝利の持つ意義であると考へてゐる見解を説明し、又、パーカーを支持して投票を行つた議員は、次の選挙の際に排斥すべきことを黒人に勧めた。

パーカー事件に於けるN・A・A・C・Pの活動の要旨は、或る團體が如何にして、陳情團體として、同時に又宣傳團

體としての機能を發揮し得るかを如實に示してゐる。陳情團體としては協會は上院に影響を與へる爲めに、凡ゆる近代
的傳達手段を利用した。抗議文や電報の數、組織された會合、全國新聞紙上の公表等は多くの上院議員に、全黑人種がパ
ーカーとの闘争に於て團結してゐるといふ感銘を與へたに相違ない。而も協會は、この一致團結した活動が行はれつゝ
あることを宣傳することによつて、この感銘を補強したのである。これは巧妙な戰術であつた。何故かと云へば、愛國
心や法律的正義に訴へることによつて個々の上院議員を動かしたとしても、その力は政治論の脅威、即ち黒人は次期
の選挙に於てはパーカーの支持者に反對をするであらうといふこと、には到底及び得ないからである。このやうにして
最も肝要な上院の態度が喚起されたのである。併し、争點が餘りに複雑なので、この態度のみが決定的であることを人
々は信じ得なかつた。アメリカ労働聯盟の力、フーヴァーに對する、従つて彼の任命にかゝる者に對する上院の敵意、
パーカーが南部のフーヴァー派の一人であるといふ事實、これ等も亦重要な要因であつた。

同時に、上院に影響を與へる上に有效であること試験済みの手段によつて、「輿論」も喚起されたのである。即ち、
顯示的宣傳によつて抗議の流れが創り出され、それが上院の室々に向つて導かれたのである。そしてこの抗議は「陳
情」即ち説得の基礎として役立つたのである。加之、この闘争を然く熱烈に支持することによつてN・A・A・C・P・は
國內の多くの人々をして協會の事業及び全黑人問題を意識せしめたのである。例へば、新聞の讀者達は最初に黒人より
も寧ろパーカー判事に關心を持つたのであるが、パーカーに對する興味は必然的に黒人に關することを彼等に知らしめ
たのである(2a、補助的態度の知覺原理)。その結果として新聞紙は協會に無料廣告の機會を與へ、若しくは、黒人解
放運動擁護者の代表的見解として、協會の提供する新聞種を喜んで受容れたのである。單に協會の存在を知ること、
又は協會の活動に關する知識を有すること、はその人がその團體に加入することも、アメリカの黒人に對してより自由

主義的な態度をとるやうになることも意味しはせぬが、少なくともこの問題を知覺するといふことそれ自體は、さうな
る蓋然性に一步接近することになるのである。

この宣傳戰の成功に就いて協會はその發行する文獻に抜目なく宣傳することを怠らなかつたが、この成功は協會の勢
威を高める効果があつた。何故かと云へば、黒人も白人も等しく、N・A・A・C・P・が國家的問題に就いて有する重要
性を見ることができ、彼等を會員ならしめるやうな關係的態度を既に持ち合せてゐた者は、その結果として一層入會の
傾向を強くするからである(6b、行動の經路指示の原理)。それ故に、協會の或る役員が、パーカー事件を以てアメリ
カ黒人の發展史に於ける一轉期と見てゐることは毫も訝しむに足りない。^(註26)何故かと云へば、白人新聞紙さへも黒人が政
治的に強力であることを黒人自體に想起せしめたからである。この想起は彼等をして一層自己を意識せしめる傾向を持
ち、従つて、恐らくは一層人種意識を高めたのである。要するに、上院議員に壓力を與へ、輿論を喚起し、人々を
して協會の存在に氣づかしたと同一努力が黒人達をして彼等が結束してゐることを信ぜしめるに至り、かくして、人
種意識の根柢に在る普遍性の印象を惹起せしめたのである。

而も尚ほ、N・A・A・C・P・がパーカーを弾劾してかくも成果を収め得たからと云つて、必ずしも人種的偏見が滅
たといふことにはならないのである。南部に於ける多くの人々は憤懣の念を抱き、事の推移を驚駭の眼を以て眺めた。
協會さへも、上院が任命の可否を論じてゐる間に、南部の諸都市に於ては、復仇として、黒人に對する抑壓的措施がと
られた旨を報じてゐる。かうした事件は、人種的對立を揉み消すどころか却つてその火の手を掻き立てる惧れがある。

註1、年報六十一卷、一九三四年、四頁。

註2. 例へば、サムナー氏は「唯その説明を公けにしたのみでも猥褻取締の法規に抵触するが如き寫眞がある。かゝる寫眞撮影の爲めにポーズをつくる人達の墮落の程度は頽廢と云つて説明するの外はない」といふことを指摘してゐる。

年報第六十一卷、一九三四年、一四頁。

註3. John M. Meeklin, *The Story of American Descent*, New York, 1934.

註4. 年報第五十九卷、一九三二年、一七頁。

註5. 「社會の道德的風潮は六十年前に比して寧も改善されてをらず、邪惡な心を有する人々の活動が當時と同様に盛である」とは確實である。年報第六十一卷、六頁。

註6. Morris L. Ernst & William S. Seagle, *To the Pure, pp. 253-256*, New York, 1938.

註7. Pamphlet, *Lords Day Alliance of the United States*, p. 1.

註8. Leaflet, *Why We Observe the First Day of the Week for Worship*.

註9. Leaflet, *The United States Is a Christian Nation*.

註10. この項は次の如き書き出しである。「法案が大統領に提出せられたる後十日（日曜日を除く）以内に回附せられざるときは……」(回點追加)。

註11. 主の日同盟憲法、第二條第二項。

註12. 一九三五年四月にジルモア及び同盟はニューヨーク州に於て日曜日に芝居興行を行ふことを合法化する法案が兩院を通過し、レーマン知事の署名を受けることを阻止する運動に失敗した。

註13. 新會員加入に際して協會が用ひる聲明書。

註14. その要求はタウンゼント「Townsend」博士の夫よりもより穩健であり、より芝居じみてをらず、又、年金が不況を立直らせ得るといふ幻覺にも陥つてゐる。

註15. Abraham Epstein, *Facing Old Age*, New York, 1932; *Insecurity, a Challenge to America*, New York, 1933.

註16. 一九三五年八月に通過した社會保險法案には老弱者の爲めに次の如き規定が設けられてゐる。即ち、六十五歳以上の者に對して差當りの救済を與へる爲めに各州出捐額と同額を政府が追加して、金錢を供與する。そして爾後、聯邦政府は、雇主及び被僱者の双方に課税して徴收する國家の基金より、月額一〇乃至八五弗を六十五歳以上の者に與へる。

註17. 例へば、Syndor H. Waters, "Private Supported Work," in President's Research Committee on Social Trends, *Recent Social Trends in the United States*, v. 2, pp. 1199-1201, New York, 1933; Howard W. Odum, "Public Welfare Activities," in *ibid.*, pp. 1243 ff. 參照。

註18. Pamphlet, "Sweet Land of Liberty," p. 3.

註19. W. E. B. Dubois, *The Negro*, p. 226, New York, 1915.

註20. Floyd H. Allport, *Social Psychology*, pp. 301 ff., Boston, 1924.

註21. Pamphlet, *How the National Association for the Advancement of Colored People Began*, p. 2.

註22. 例へば、ボガルヌスはその「社會的距離」研究に於て「……二百四十八人の審判者が屬する人種に對しては概して友誼的感情が表示せられ、「中立的感情」の欄はそれに關する無智が表示された人種によつて構成された」ことを發見してゐる。

Emory S. Bogardus, "Social Distance and Its Origins," *J. Appl. Soc.*, 1925, v. 9, p. 218.

註23. Bogardus, *op. cit.*, p. 219.

註24. Bruno Lasker, *Race Attitudes in Children*, p. 99, New York, 1929.

註25. Pamphlet, *The N. A. A. C. P.-Why You Should Join*.

註26. Walter White, "The Negro and the Supreme Court," *Harpers*, 1931, v. 162, esp. p. 246.

第十五章 アメリカの共產黨

アメリカ共產黨は一九一九年に社會主義黨の急進的分子が分離して自己の組織を形成することによつて誕生を見た。赤領迫害の廿年代には労働黨と名を變へたが、一九二九年に至つて再び現在の名稱を名乗ることが出来るやうになつた。共產黨は、マルクス及びエンゲルスの言葉に従ひ、自ら「労働階級政黨の最も進歩せる決然的分子」を以て任じてゐる。共產黨は大體に於てその宣傳を「プロレタリアト」の範圍に限つてゐる。この宣傳は意圖的且つ體系的であるか

ら特に注意に値する。事實、アメリカ共産黨の領袖達は、如何にして彼等の固有の目標が達成せられ得るかに就いての理論を持つ程度に、彼等の宣傳を意識してゐるのである。共産黨はニューヨーク市に強力な中央組織を持ち、こゝに彼等の主要な力が集中されてゐる。黨の紀律は嚴格であり、異端者は中央委員会によつて放逐される。共産黨が固持する主張が急進的であるが故に、共産黨以外の多くの者は總ての共産黨の活動に對して「宣傳」といふ烙印を押す。そして共産黨はこの稱呼を甘受するのである。

一、共産黨の戦術

「共産黨の直接の目標は……無産者を結成して一つの階級を形成すること、ブルジョアの支配を顛覆すること、無産者によつて政權を掌握することである。」^(註1)

この「顛覆」は革命によつて起ることを要し、而して革命は階級闘争の所産である。それ故に他の活動は總てこの窮極目的の爲めの手段であり、この窮極目的が概して強調される。より手近な目標の中で就中重要なものは次の如きものである。

1. 黨員の増加。
2. 労働組合統一聯盟(アメリカ労働聯合に相當する共産主義的團體)、ジョン・リード俱樂部及び類似の藝術的並びに智的團體、黒人の權利の爲めの闘争聯盟、青年共産主義聯盟等の補助的共産主義的團體の會員の増加。
3. 他の敵對的團體の領袖に對する激烈な反對。^(註2)
4. 「黒人の完全なる社會的、政治的平等とその自決。」^(註2)
5. 特殊な失業對策の支援、或る囚人の爲めにする示威運動又は抗議、特殊な罷業に於ける勝利、等の如き比較的

過渡的な提言を行ふこと。

6. 蘇聯及び第三インターナショナルに對する能動的支援。
7. 共産主義新聞紙に對する保護を擴充すること。

共産黨の理論は大部の歴史の傳統をその周圍に積み重ねるが、その傳統は主としてマルクス、エンゲルスの原著書及びそれに對する近代的解釋、並びにレニン、スターリンの近時の學說を基礎とするものである。又、所謂改訂主義者、改革主義者、社會主義者、左右兩翼の共産主義者等が、右の如き共産主義の淵源から脱線してゐることを非難する。この傳統を労働者に傳へる爲めにはニューヨーク市に「労働者學校」があり、學校の格率は「階級闘争の爲めの訓練」であり、その指導原理は、「革命的理論なければ革命運動はあり得ない」といふレニンの所說である。急進主義經濟、労働運動、ジャーナリズム及びロシアの歴史等に關する講義が夜學で行はれ、授業料はほんの形ばかりに過ぎない。入學する前から概して共産主義に傾いてゐる生徒達であるが、この學校の教育によつて一層その主義が鞏固にされる。

共産主義新聞はそれ程組織的ではないが、尙一層廣範圍に互る努力によつて大衆に働きかけようとする。共産黨の公式機關紙 Daily Worker は最も多數の購讀者を擁する新聞である。これを補ふに「イタリア語、スペイン語、フィンランド語、猶太語、ドイツ語、ロシア語、ロシア語、ポーランド語、瑞典語その他の言語による」新聞紙があり、これ等の新聞紙によつて國內に在る外國人と直接の連絡が保たれる。比較的特殊な新聞としては、南部の白人及び黒人の爲めの南部労働者 Southern Worker がある。補助的共産主義團體は概して別々にその見解を發表する。新民衆 New Masses は文學、藝術雜誌である。理論的又はもつと卑近な問題を取扱ふパンフレットは十仙以下の價で發賣される。その多くは五仙以下である。最後に「労働研究協會」"Labor Research Association" は「國際出版所」"International

Publicans"を通じて事實を發見する研究と稱して労働と自動車、労働と絹等の研究を發表する。

これ等の刊行物の何れなりとも、それを分析して見れば、共産主義特有の敘述の方法を曝露せざるはない。即ち、その訴へるところは既に共産主義者になつてゐる人々に向けられてゐるかの如き觀を呈し、一切の個々の獨立した事柄は總て共産主義のテーゼに統合される。

先づ第一に、その用語は一般にマルクス流として知られてゐるものがある。階級闘争の強調を含蓄するやうな字句が用ひられる。何故かと云へば、階級闘争こそ共産主義の總ての活動の背後に在る革命理論の鍵だからである。共産主義者並びにこれに對する潜在的の共鳴者は「労働者」、「仲間」、「無産者」、「勤勞大衆」等と呼ばれる。共産主義に反對する者は社會の上層に屬する者は「資本主義者」、「親分」、「有産階級」、「小有産階級」と呼ばれ、労働階級に屬する者は「社會的ファシスト」、「變節者」、「裏切者」と稱せられる。これ等の言葉は不斷に反覆され、全世界の凡ゆる共産主義的刊行物に、その儘の形で、又は修正した形で現はれる。その他、或る特殊の形容詞、例へば「ノーマン・トマス師」(トマスの神學的背景を匂はす爲めに)、「帝國主義的貿易」、「資本主義的戦争」、「有産階級新聞」等が頻りに用ひられる。要するに、特殊な共産主義的語彙があり、それが、これ等の字句に對して略々同様な反應を呈する主義者間の有效な傳達方法となるのである。

共産主義論文の論調は労働者、特に共産黨が上層階級から不斷に壓迫されてゐるかの如き印象を與へる。この壓迫が取り上げられて、何故に労働者が結合して壓迫者を克服せねばならぬか、の重要な理由とされるのである。訴へが孤立して現はれることは稀である。或る特殊の議論の後に行はれることを常としかくしてその議論の存在の理由となる。例へばバルボの飛行を報道するに當り、労働者日報 Daily Worker は先づこの擧の「技術的業績」を推賞し、次で、イ

タリヤ名飛行士達のこの訪問が「實は反動主義的目的」を有するといふことを指摘する。換言すれば、それは「大袈裟な武力宣揚」であり、「ファシズム」を誇示する努力であり、「ルーズベルト及びムッソリーニの兩政府の偉大なる公の握手」であるとする。^(註4)かくして編輯人はアメリカに於て著しく人々の興味を引きつゝあつたこの出来事に對して、適当な解釋を附加することを忘れないのである。共産主義者は又、社會主義政黨及びアメリカ労働聯合の指導者達を攻撃する機會を見逃さない。それは、これ等の人々が労働者間に於ける共産主義の指導的地位に對する脅威を成すからばかりでなく、社會主義者及び労働組合主義者は改宗して共産主義者になる見込みが濃厚な人達に他ならないからである。

労働者日報をより仔細に檢すれば、この新聞が如何にその讀者の意見を補強しようと努めてゐるか、又、それより熱心の程度は少ないが、如何に他の労働者をその傘下に收めようとしてゐるかを窺ふことができる。既に述べた如き一般的戰術に附加へて、共産主義編輯者は共産主義のイデオロギーにとつて有利な事件のみを強調する。他の事項は無視せられるか又は總體の額縁に適合するやうな解釋を與へられる。手當り次第に労働者日報の一部を取り出して來て、同じ日附のニューヨーク・タイムス紙と比較すれば、これ等二つの新聞紙が事件を取扱ふやり方が如何に異なるかが明らかにされる。^(註5)

労働者日報

第一段八行抜き標題

「南スペインにソツエト區發生。」

第三段八行抜き標題

「ニューヨーク港に於て船舶九隻に罷業勃發。」

ニューヨーク・タイムス

第五段標題

「マドリッドに再び砲火。北軍譲らず。」

三行抜き標題

「リンバード大佐ハウプトマンの音聲を確認。殺人の告訴票決さる。」

労働者日報には何處を捜してもリンバード事件は出てゐない。これに對し、タイムスは罷業に關する記事を第四十一頁に追ひやり、次の如き標題を掲げてゐる。

「船員退船。但し船舶は發航。」

共産主義の新聞がスペイン及び船員罷業に於ける共産主義勝利を強調しようと企てゐることは明瞭である。これに對して、タイムスはスペインに於ける事件に別の解釋を與へようとしてをり、リンバード事件の方が罷業よりも遙かに重要であるといふ見解を採つてゐる。スペイン叛亂に就いての兩新聞の記事の冒頭の文章は著しい對照を示してゐる。

労働者日報

ニューヨーク・タイムス

「マドリッド、十月八日。今日スペイン南部バルド・デル・レイにソヴィエト地區が設定された。全國の労働者がルルーのファシスト制度に對して攻勢をとるに至つた結果である。」

「マドリッド、十月八日。全く靜謐な一日が經過してマドリッドの張り切つた神經が安堵の息を吐いたところ、本日午後五時、恰かも豫定計畫によるが如くに、全市に互つて再び砲火が開かれた。」

共産主義者の記事はスペインのソヴィエトが確立されたといふ主張を直ちに繰返してをり、ルルー政府を「ファシスト」と呼んで中傷してゐる。これに對してタイムスは靜謐な日といふことに意味をかけ、最近の擾亂を遺憾とするが如き印象を與へてゐる。更に、労働者日報は第一面に關する社説を掲げてゐる。タイムスは社としての意見の發表を後の頁で行つてゐる。共産紙の殘餘の頁に於てはニュースは矢張り同様に取扱はれてゐるが、唯、共産主義の活動、反共産主義者の策動、罷業、示威運動、集會等に關する記事等が特に強調される。最後の頁には原則として、事件又は人物の漫畫が載せられてゐる。

共産主義パンフレットの多くは、可成りステロ版化した方式に據つて作られる。その標題は、説明的な漫畫又は寫眞と共に、表紙に極めて明瞭に印刷される。出版元を直接、共産黨とすることは極めて稀である。普通には補助團體の一つの名稱（例へば失業者國家委員會とか黒人權利の爲めの闘争聯盟とか）が表紙又は裏表紙に餘り目立たぬやうに記載される。かうした團體と共産黨との間の密接な關係を知る者は、概して、共産主義運動の研究者又は共産黨員のみである。又、多くの場合に、パンフレットは、全巻を通じて黨のことに觸れない。寧ろ、與へられたる題目を論議し、然る後に、一般的共産主義的政策とピツタリ合致するが如き行動の経路を勸奨し、或は公然と、所期の共産主義戰術を述べる。これ等パンフレットの多くは、労働者の間から新たな黨員を獲得することを目的とするものである。アメリカ青年開拓者」は兒童の爲めのパンフレットを發行する。特殊な時事問題、例へばロング及コーリンの學說を捉へて論ずるのは、労働階級の關心を喚起する問題を取上げて、この關心を黨への關心に轉化させようとの努力に他ならない。種々な方面に互つて労働者の教育が行はれる。例へば、生活の權利の爲めの一致の行動を如何にして組織、實行すべきかは「饑餓戰士の教科書」であり、共産主義の補助的團體に加入せしめることによつて問題を解決してゐる。その他のパンフレットは、労働者日報と同様に、一人前の共産主義者の見解を補強することを目的とするものである。運動の理論的訓練を目的とし、或は階級闘争を謳歌する詩歌の名節を掲げる小冊子が發行されてゐる。黨の敵に對して攻撃が加へられる。階級戦の補房」は擁護される。

「労働研究協會」が編纂し、時には上梓する刊行物も亦、宣傳を行ふ別の間接的方法である。例へば、政府の減俸案反對論は代用郵便員全國協會後援の下に發行されたものである。それには共産黨のことには觸れてをらず、戰闘的な十箇條の綱領が定められ、これ等局員の不當な取扱に對して救済を與へると同時に、總ての勤勞階級の人々を全面的に

組織する案が勸奨されるのである。この協会の發行する書物の中、最も完全なものは労働事實 Labor Fact Book であり、共産主義的信念を補強する爲めにも、新たな主義者を獲得する爲めにも役に立つ。「事實」といふ語を用ひたのは故らにはぐらかす意圖に出たものである。實際には、總ての材料を適當に配列して、殆んど總ての項目に於て行はれてゐる共産主義的解釋を容易に補足するやうにしてあるのである。

共産主義者が宣傳を行ふ手段は労働學校と印刷物のみではない。^(註6)何等かの特別の事件に當つて、全國、特にニューヨーク市に於て、組織的會合が催されることが屢々ある。その會合に先立つて行はれるところの新聞廣告、ポスター、ビラ等の廣告には、會合の場所と日時が記載されるのみならず、會合の目的と關係のある何等かのスローガンが目立つやうな形で出される(例へば「帝國主義的戦争全廢止」)。これ等組織的會合の外に、小規模な街頭集會が行はれる。演説者は粗末な演壇に上り、場所と警察とが許す範圍でなるべく多數の人を集める。個々の共産主義者は他の會合に出席し、討論に参加し、屢々辯士に難問を發してこれを困惑せしめ、時には會を散會させる。かやうにして共産黨は、參會者の間にも、反對側の新聞を通じて、廣告を行ふのである。

行列、示威運動及び監視哨等は注意を引きつける爲めの一層劇的な手段である。異常な事件が將に起らうとするときには黨は新聞社に電話して報導員を派遣することを勧める。その結果として、保守主義的な新聞さへも、共産主義の活動を詳細に報導することが屢々ある。特にかうした活動が暴動化する場合に於て然りである。そしてかういふ場合は頻繁に起るのである。又、共産主義者が多數の投票數を獲得することは稀であるに拘はらず、大小多くの官公職に候補者を出し續ける——これ亦、廣告を確保する爲めの一方法である。最後に、ロシヤ映畫の上映が奨励され、又、共産主義のニュース映畫もある。

黨は自己の組織を鞏固にする爲めに全國に亘つて多數の「細胞」(即ち、他方的單位)をばら撒く。既に述べた如き種々な宣傳手段の他に、會員を獲得する爲めに個人的勸説といつたやうな、非形式的な説得的方法が用ひられる。そしてこれ等の「細胞」間に於ける類を突き合せての接觸は共産主義に對する黨員の信念を補強しもある。共産黨は直接に、若しくは労働組合統一聯盟を通じて、國內に共鳴的結合を形成しようと努めた。この目的を達成する爲めに「内部からの穿孔」又は全然新たな敵對的結合の結成が行はれた。^(註7)

ニューヨーク市及び時にはその他の場所に於ても、種々な利害關係に應じた種々な方法により、共産主義者は尙ほ優秀な共産主義者になる。共産主義者の書籍店があるし、共産主義者のキャフテリアがあるし、圖書館、娯樂、舞踏會、遠足會等がある。これ等の施設は總て共産主義者とその黨と接觸せしめて置く爲めに役に立つ。

以上に於ては共産主義の宣傳がその構成的な様相に於て記述されたのである。即ち、共産主義者の活動の各種の分野からして、その種々な方策が説明された。共産主義者が如何にしてその特殊の宣傳戦を行ふかを示す爲めには、一つの特殊の例を擧げて觀察を集中することが賢明である。スコツツボロー Scottsboro 事件が是である。この事件に於て彼等の戦術が如何にして行はれるかを窺ふことができる。

二、スコツツボロー事件

茲でこの事件の真相と云はれることを詳細に述べる必要はない。唯、九人の黒人少年が如何にしい風評のある二人の白人少女を強姦した廉で告訴せられ、その中、八人はアラバマの裁判所によつて直ちに死刑の宣告を受け、一人は終身懲役に處せられた。そこで二つの團體、即ち有色人民福利増進全國協會 N. A. A. C. P. と國際労働擁護會(共産主義的團體であり、通常簡単に I. L. D. と稱せられる)とはアラバマにその代理者を送り、控訴と新たな裁判を準備せし

めた。何れの團體が先にこの問題に乗り出したか、少年達及びその親戚の幾何がこれ等團體に辯護委任を行つたかに就いては幾分の疑問はあるが、間も無くI.L.D.は全被告を代表すべき法律上の権能を確保することに成功した。種々な交渉の末、N.A.A.C.P.の辯護士クラレンス・グロウ(Clarence Darrow)とアーサー・ガフィールド・ヘイス(Arthur Garfield Hays)は退き、I.L.D.が専ら辯護を引受けて、一九三四年の秋までは單獨の活動を續けた。然るに、この時に至つてI.L.D.の辯護士の一人が少年達の爲めの共産黨の戦術を非なりとし、獨立して被告を代表することを企てた。そこで、非共産主義及び反共産主義の團體の後援の下にアメリカ・スコツポロー委員会が形成せられ、大審院に上告中のこれ等少年達の一人を代表する爲めにこの辯護士が用ひられた。I.L.D.は他の少年達を代表した。共同の辯論を行ふ旨の合意が兩者間に結ばれた。アメリカ・スコツポロー委員会及びI.L.D.が相携へて少年達の爾後の辯論に當ることが豫想されてゐる。事件は大審院に持ち出され、大審院は今や(一九三五年六月)アラバマ法廷に於ける陪審員から黒人を除外したことは、被告の憲法上の権利を奪つたことなることを理由として、再審を命じたのである。

(240)

共産主義者の國際労働擁護會の公言した目的は「労働者の爲めの活動の故に迫害せられた總ての労働者を」擁護することに在る。擁護會は罷業、集會、示威運動に對する労働者の権利、種々な形の迫害に對する労働者の権利の爲めに戦ふことにより、「労働階級の橋」の役割を演じた。^(註8)スコツポロー事件の少年達は恐らくはこの陳述の最後の範疇に屬せしめられたのであらう。又、共産黨は黒人の間に宣傳を行ふことにも熱心だつたのである。何故かと云へば「人種的差別を根據として迫害されてゐる黒人労働者及び農夫は、階級闘争の犠牲者と認めてそれに適つた取扱をせねばならぬ」^(註9)としてゐるからである。併し、I.L.D.の第一の目標は少年達を解放するに在つたものと推測される。或るI.L.D.の辯護士はN.A.A.C.P.の或る非難を反駁して次の如く述べてゐる。即ち、

「この事件に就きI.L.D.の爲めに働く辯護士の一人として、吾々の採つた總ての法律的措置は専らスコツポロー被告の法律上の権利の保護を目指すものであつたことを諸君に告げることが適當であるやうに思はれる。I.L.D.がその廣告戦に於て、N.A.A.C.P.が不適當とするが如き行動を採つたとすれば、戦術の相違は正に、黒人少年達に最も有利な手段は何であるかに關する觀點の相違に基づくものである。サッコ・ヴァンツァッティの事件に於ては法律的手段が嚴密に守られた。にも拘はらずサッコとヴァンツァッティとは電氣椅子に赴いた。I.L.D.の見解としては、宣傳と輿論の喚起とは、法廷に於て行はれる現實の法律上の辯護と同様に、少年達の辯護にとつては重要である、と考へたのみである」^(註10)

(241)

要するにI.L.D.は常に法律的手段によつてのみならず、「大衆の壓力」をも用ひて少年達を解放しようとしてゐるのである。これに對してN.A.A.C.P.及びその辯護士達は法律的手段を強調し、I.L.D.が企てゐる「輿論」の喚起が被告達にとつて取返しつかぬ結果になりはせぬかと懸念したのである。そして彼等は何れかと云へば、共産主義者の少年達に對する關心の純粹性を疑つたのである。

加之、共産主義者に云はせれば、スコツポロー事件の被告は階級闘争に於ては餘り重要でない人物である。併し、彼等はこの闘争の犠牲者であるから、闘争の重大性を例證する方法として用ひられねばならない。それ故に、訴訟を行ひつゝある法廷に對する壓力を加へる爲めに「輿論」を喚起する傍ら、「公衆」を構成する個々の個人は事件の背景即ち階級闘争を意識せしめられねばならない。且、少年達は黒人であるから、特に全黒人種を覺醒せしむべき機會とされた。大衆壓力を喚起せしめ、全争點を普遍化することの他、I.L.D.は又、この事件と他の「階級戦」の捕虜達との

關聯を示さうと努め、かくすることによつて同時に後者にも援助を與へることを期したのである。

共産主義者はこれ等の目的を達成する爲めに組織的な努力を行つた。I. L. D. の机上には、この事件に關し、凡ゆる重要國語によつて物されたパンフレットが百部以上も山積した。労働者日報は能くその重要な責務を果し、殆んど毎號、事件の最近の發展或は事件に對する過渡的説明が掲載された。I. L. D. の役員は、世界の各地に於てこの事件を繞つて行はれた集會の回数は總計少くとも百萬に上ると評價してゐる。ボスターは氾濫した。社會の各層に訴へる目的を以て種々な行動委員會が形成された。基金募集の書狀、アラバマ法廷及び大審院の判事達に對する抗議電報は夥しい數に上つた。

歐洲の共産主義者達までがこの事件を宣傳に利用し始めた。一層世人の關心を掻き立てる爲めに、二人の少年の母親アグ・ライト夫人とI. L. D. アメリカ支部總長J. ルイス・エンズグール氏とは一九三二年の春夏に互つて歐洲遊説旅行を行つた。彼等は十六箇國を訪問して演説を行ひ、參會者總數三十萬人以上と云はれた。彼等の集會には屢々頗る多數の會衆が來聴した。何故かと云へば、アメリカ黒人婦人の存在といふ單なる事實が既に歐洲に於ては稀なことであり、大多數の歐洲人の好奇心を喚起するに充分な材料からである。ライト夫人とエンズグール氏とが英國の旅行の査證を拒否されたときには、英國の共産主義者はこの拒絶を労働階級に對する抑壓の新たな證據として利用した。査證が與へられたときには、この態度の變更は「大衆行動」の効果とされた。エンズグール自身はモスコウで没した。死ぬ前に彼はこの歴訪の結果を記述した。

「フランスに於ても、ベルギーに於ても、和蘭に於ても、そして今や英國に於ても逐次増加を示しつゝある大衆の抗議は……勤勞大衆が資本家階級の正義の「公正」又は「不備」に就いて何等の幻想をも持つてをらず、大衆の壓力のみ

がリンントンの合衆國大審院及びアラバマに於ける被壓迫黒人群の上に君臨する一部のアメリカ支配階級から讓歩を奪ひ取り、又はこれに對して勝を制することを得る、といふことを認識してゐる。」^(註11)

スコツポローが共産主義者の組織的努力によつて、全世界の關心を喚起したことは殆んど疑問の餘地がない。例へば、ニューヨーク・タイムスは、一九三一年には少くとも四回の國際的共産黨騷擾を、翌年には十三回を取上げて記事を掲載した。他のアメリカの新聞、雜誌に現はれた記事がより多數であつたことは勿論である。より通俗的な出版物が少年達に宣傳を開始し始めた。そして、ニューヨーク市演劇組合の如き嚴めしい團體さへも、一九三四年三月には、スコツポロー事件を主題とする劇、「彼等死すべからず」They Shall Not Dieを上演するに至つた。

三、分析と批判

共産黨の窮極の目的が、現在の經濟秩序を革命によつて覆へし、その代りに何等かの形の共産主義社會を築らすことに在ることは既に述べた。併しその爲めには差當り、この急激な社會的變革を招來するに足る強力なる黨派を築き上げる必要がある。さればこそ共産主義の宣傳又は「教育」の大部分はこの目的の爲めに向けられてゐるのである。かゝる黨派は、心理學的には、よく統合せられた一つの集團を意味し、その特徴をマクドガル McDougall 教授の「極めて良く組織せられたる集團」の分析に關聯して述べれば、次のやうになる。^(註12)

1. 「……集團の存在の、或る程度に於ける持続性。」

この種の持続性は技術的及び心理的理山により絶對的に必要である。技術的には、黨は責任ある指導者達をして常に特殊の仕事に携はらしめることによつて恒常的な宣傳を續けることができる(2、知覺の原理、6a、補強の原理)。心理的には、黨員に黨が個人に纏る偶然性を超越してその革命の方策を遂行し得ることを示すことにより、信賴の念慮

を抱かしめる(6 a、補助的、服従的態度の原理)。

2. 「……集團の組成員の多數の心意の中に、集團、その性質、組織、機能、能力、及び個人の集團に對する關係、に就いての適當な思念が形作られねばならない。」

これを行ふ爲めには、黨員の爲めに黨の目的を強調する顯示的宣傳の形式が用ひられる。その爲めには、人々をして共産主義の目的及び戰術に對して尙一層服従的ならしめるに役立つやうな一群の附加的態度が喚起される。共産主義宣傳は總て、罷業の實施、勞働組合の結成、犯人の辯護、出版物、集會、示威運動等によつて輿論の喚起等に於ける黨の活動の實際を誇示しようと努める。世界革命及びこれに伴ふ豫備的段階の必然性は、著述又は演説の末尾に附せられるスローガンによつて反覆される(2 e、簡易化の知覺的原理、2 b、反覆の知覺的原理、6 c 1、反覆の補強的原理)。スコツポロ事件の如き末稍的な争論に於てさへ共産主義者は彼等のより一般的な目的、即ち階級闘争を唱導することを閑却しない(6 c 2、附加的、關係的、既存態度の原理)。何等かの共産主義團體に加入すれば、共産黨の事業の具體的な實例が提供される。共産主義書肆又はキャフテリアの存在、共産主義團體の數多の社會的機能、民主主義的又は社會的平等の響きを持つ「仲間」といふ語の使用、これ等總ては黨に關する個人の知識を補強する。

3. 「……集團が、異なる理想と目的とを有し、異なる傳統と習慣とによつて支配される他の同種の集團と(特に抗争、敵對の形で)交互作用を行ふこと。」

この交互作用の結果として個人は彼の屬する集團が統一されることを感じ、従つて彼の普遍性の印象は強化される。それ故に、集團は彼の中に、より大なる程度の服従を喚起することになる(6 a 2、普遍性の印象の原理)。警官又は兵士との街頭闘闘、資本主義、自由主義、又は社會主義新聞からの攻撃、政治犯人の數、黨がその私法上の權利を行使

しようとする場合に經驗する困難、これ等の事實は共産主義者に、黨が、敵意ある好戰的批判によつて全面的に包圍されてゐる孤立無援の團體であるといふことを示す。かくして共産主義者が不斷に主張する壓迫のテーゼは強められる。

4. 「……組成員相互間の關係及び組成員と全體としての集團との關係を決定するところの、一體の傳統、慣習、習慣が組成員の心意の中に存すること。」

これ亦、個人が集團に對して服従的態度を持つこと、及び、この勢威は主として宣傳によつて築き上げられることを意味する(4 d、變化の原理)。かくして黨は常に世界の見透しに自身を適合させる。共産黨宣言を以て便宜且つ正確な要約とするところの全共産主義理論は、階級闘争の歴史的背景を提示しようとする。勞働階級は社會組織が生み出したアンチテーゼの最近の且、最後のものと見られる。又、以前に行はれた闘争も想起せしめられる(例へばスコツポロ事件に於てスコツポ、ヴァンツ、テ、事件が回想されたやうに)。そして「仲間」レニン及びスターリンがソツイエトロシアに於て收め得た成功が屢々引合に出される。何故かならば、ロシアこそは凡ゆる國の共産主義者の象徴的ユートピアだからである。

5. 「……構成要素——集團内の個人及び個人の階級又は集團——の職能の合化及び専門化による集團の組織化。」

かゝる組織は宣傳の不斷の流布及び接觸並びに訓練を通じての集團の思想の補強を可能ならしめる(6 e、補強の原理)。モスコイからの頻繁な宣言、新聞及び黨自體を指導する種々な當局、數多の關係團體、これ等は鞏固なる中央的集團の存在を立證する。

加之、共産主義者は自身の活動が廣範圍に亙ることを繰り返して自分自身に感銘を與へる。「數千」の人々が参加する示威運動が報導され、「世界の勞働者」がスコツポロの「私刑」に抗議すると云ひ、黨員數が増加しつゝあると傳

へる。これ等の戦術に、黨が持つところの集團としての特性が附加はり、普遍性の印象を生み出す補助となる。要するに、他の者を信ぜしめる爲めの努力の結果として、共産主義者は黨のステロ版を作り上げ、自身自身に彼等がこの集團の活動的黨員であることを證明したのである。共産黨の宣傳は共産主義者をしてよりよき共産主義者たらしめる。

共産主義者はかくの如く極めて統合された集團の組成員なるが故に、共産主義に對する態度がその人格に於ける中心的態度であることを期待することは自然である。總ての行動は、多かれ少なかれ、黨によつて動機づけられ、黨に向けられる。共産主義者は推しなべて、彼の共産主義は彼に總ての社會的、經濟的、及び政治的現象を觀察する道、一言にして云へば、眞の世界觀、を與へると云ふ。彼等の人格がこのやうに統合される結果として、多くの共産主義者は彼等の宣傳掛りが用ひる總ての訴へによつて左右される。支那の苦力、コンゴの農園労働者、カリフォルニアのトム・ムーキー Tom Moore、獨逸の政治犯人收容所等は總て彼等の憤激を喚起する。併し、それは彼等が或る人道主義的態度を有する人間であるからではなく、これ等の断片的の出來事を階級闘争の觀點から眺めるところの共産主義者だからである。黨員であることは多くの場合、演説を行ふとか、集會に出席するとか、基金を徵募するとか、社交的會話に於て好戰的になるとか云つたやうに、何等かの行爲を行ふことを意味する。これ等の活動は他の共鳴者と接觸する機会を與へ、それによつて一種の社會的助成の作用が起つて彼自身の態度が強められ、又、反對論者と接觸するときは防衛の態度が喚起される。例へば、獨逸の共産主義者は皆て彼等の活動を補ふ爲めに蓄音器のレコードを發行した。又、彼等の爲めのビール園やカフェを設け、そこではプロリストといふ代りに赤戦線ロート・フロントといふ語が用ひられた。最後に、共産主義の隠語（既に述べたやうな特殊の用語やスローガン）は個人的交通の手段を提供し、それによつてこの連帯性の意識は更に強められることになる。

畢竟するに、共産主義者は彼等自身を補強することのみに關心を持つといふことが眞實かも知れない。何故かと云へば、共産主義思想家達は黨を以て大衆の革命の前衛と見たからである。^(註13)この點に於ては共産主義の宣傳は成功したと云ひ得る。何となれば、大多數の共産主義者は黨の熱烈なる支持者だからである。更に、忘れてならぬことは、ロシア革命を上演したボルシェヴィキはロシアに於ける少數黨であつたことである。^(註14)而も、革命が企てられるに先立つて、この少數黨が、プロレタリアの共鳴を克ち得る程度に強力であり、組織化せられてゐることを明らかにしたことは明らかである。

「鍛冶屋が裸の手に赤熱した鐵を握り得ぬと同様に、プロレタリアも亦、直ちに權力を握ることはできない。プロレタリアはこの事業に適當な組織を持たねばならない。隠謀と暴徒叛亂とが少調を合せて行はれること、隠謀が叛亂に對して従たる立場をとること、叛亂が隠謀によつて組織されること、はマルクスに、エルゲルスが「叛亂の術」と稱したところの、革命政策の中でも複雑にして責任重大な部門を構成する。それは大衆の正確なる一般的指導、事情の變化に即應する弾力性のある指向、熟慮に成る攻撃計畫、技術的準備に於ける慎重な態度、そして果敢なる打撃を豫想する。^(註15)集團としての共産主義者は、據つて以て革命が上演せらるべき「組織」の型を提供するかに見え、されば黨員の相對的增加は近年に於て著しいものがあつた。併し、革命の「計畫」が單に勇敢なクレーダーならざる限り、黨が宣傳によつて「大衆の正確なる指導」を行ふことが必要である。畢竟するに、共産主義ならざるロシア人達がボルシェヴィキに共鳴し、彼等が、レニン、トロツキー等をしてクレンスキの支配を覆すことを得しめたのである。

アメリカに於ては、共産主義の宣傳が労働者「大衆」に影響を與へ、近き將來に於て共産主義が行はんとする革命に暗黙の、若しくは積極的の支持を與へるやうに導くことに成功しなかつたといふ證據の歴然たるものがある。例へば、共産黨はその數的の力を誇る爲めに多數の大統領選挙投票を獲得しようとして努力を惜まぬやうに見える。然るに、一九

三年の選挙戦に於て彼等の奉つた候補者ファスターの得票は全国を合せて僅かに「五萬五千餘」に過ぎず、これに對してルーズベルトは二二、五二一、二二五票、社會主義候補者トマスは七二八、八六〇票を得た。而も共產黨の得票の略半ば、即ち二四、二二四票は、共產黨が最強の組織を有し、實際に於てその總ての宣傳が發出される中心を成してゐるところのニューヨーク市に於て得たものである。^(註19)これ等の得票報告に照し、共產黨に對する共鳴は當時尙ほ貧弱であつたと結論するが至當であらう。共產主義者自身この失敗を認め、「經濟恐慌の深刻さと歩調が有産階級諸政黨の政綱の假面を迅速に剥ぎ取るに有利な諸條件を提供した」際に於ける失敗を愧ぢてゐる。彼等は「組織されて工場の核心となつた黨員数は全體の四パーセントに過ぎず、而も大工場を中心に組織されたものはその中の極く少数であつたこと」、又、労働者日報の賣行きが落ちたことを認めてゐる。彼等は「アメリカ労働者の決定的分子の間に吾々の基礎を鞏固にすることの必要に對する政治的理解の根本的な缺如」に歸せしめてゐる。^(註17)

共產主義者は彼等自身及び特にその指導者達を極めて正確に批判した。併し、彼等の失敗に對する説明は如何なるものであらうか。この間に對する答は、黨の宣傳の術に當つてゐる人達が、輕々しくも、彼等の政策及び彼等自身の信念が彼等の技巧を決定する、と考へたが爲めに、多數の黨員を獲得することになつたのだ、と云ひ得るであらう。彼等は云つた。黒人は吾々の味方である。吾々は革命を齎らす爲めには黒人を必要とする。それ故に、黒人の活動を演劇化し、それを吾々のプログラムの中に織り込み、適確に成功するやうな特別の訴へを行はふではないか、と。彼等は、特にアメリカに於て、人々が如何にして共產主義者若しくはそのシンパになるかを考察しなかつたのである。

共產黨員が極めてよく統合された集團を構成することは既に述べた。以前にこの集團の一部を構成してゐなかつた一人の個人が共產黨員となるが爲めには、或る心理的變化が行はねばならない。又、黨に對する態度は、大多數の共產

主義者に於ては恐らく中心的態度であらうといふことも既に述べた。それ故に、共產主義の宣傳なるものは、殆んど全人格の方向を改めて共產主義の方に向はしめるものであることを要する。このことは、個人の諸々の態度が新たな一つの態度を焦點として、それを繞つて構成されることを要する。かゝる過程は改宗とも呼ばるべきものである。

何等かの主張に改宗するといふ心理は極めて微妙な問題である。而も、この問題を解決するにあらざれば、新黨員を獲得する爲めの共產主義宣傳に對する洞察は得られない。併し、共產主義的戰術の方から云へば、この問題はより具體的になる。即ち、革命及び階級闘争のテーゼ、及び彼等が後には、一つの組織體としての共產黨の中に合體される、といふことが個人の内の中心的態度とならねばならない。宗教に於ける改宗に關する知識からして、この再組織は強烈な感動的經驗を惹き起すやうな事態に於て行はれ易いといふことが知られてゐる。換言すれば、全人格、特に中心的態度が喚起されねばならない。それ故に、反應は表皮的なばかりでなく、内臓的でもあることになる。かくして、再組織は突如的に行はれるのである。

近代に於ける最も偉大なる共產主義宣傳者の一人は、成功を収めた宣傳演説に就いて述べるに當り、彼女も亦、改宗の必要を認めてゐることを示すやうな言葉を漏らしゐる。

「演説は自己の一部として經驗せられねばならない。聴者は最早、自分自身を演説者の思想から區別することができぬやうになるやうにせねばならない。彼自身の生命が彼の前に展開せられねばならない。演説の間、彼は自分が苦惱しつゝある活動的人物であるかの如く感ずることを要する」^(註19)

併し、人々が共產主義の主張に改宗せられるに相違ないことを立證する決定的の證據はない。例へば、ジェローム・デ・ヴィス教授は「百六十三人の著名共產黨指導者の研究」^(註20)に於て、「個人を革命主義者ならしむるに與つて力ある記録せ

られたる刺戟」に關する貴重なる資料を寄與した。これ等ロシアの指導者達の自叙傳及び權威ある傳記の検討により、家庭、書物、學生、労働者、教師等、人を革命家ならしめる總ての影響の六十五パーセントを構成するものが、必ずしも改宗に導きはせぬといふことがありさうではあるが、決して改宗に導かぬといふことが確實である譯ではないといふことを知り得る。而も、これ等の指導者に關する質的の事實（それに就いてデーヴィス教授は明らかにしてゐないが）が知られるまでは、改宗がこれ等の「刺戟」によつて齎らされなかつたといふことを事實として述べることは不可能である。他面、殘る三十五パーセントを占める「刺戟」は「父親の粗暴、不道徳又は狹量」、「人種的差別待遇」、「家庭の困窮又は地主の家族又は他の者に對する不正義」、「學校當局の壓迫又は放校」、「追放者の直接の影響又は入牢者との接觸」、「一九〇五年の革命」、及び「理想を實生活に置換へてゐる宗教に對する幻滅」等は感動的經驗を暗示し、これ等指導者達の人格の再統合を齎したことを首肯できるやうに思はれる。加之、この論文は、單に、「共產主義指導者達が彼等自身に就いて述べてゐることの研究」に過ぎず、彼等自身、何が彼等を革命家ならしめたかを知らぬこともあらうし、別段記憶しようとしなさいといふこともあらう。

併し、著名な急進主義者達の傳記又は自叙傳をより仔細に検討すれば、或る種の改宗が行はれたことを知り得る。例へばレニンは急進主義的の雰囲気の中に人と爲り、そのことが彼の思想を無政府主義の方に向けさせた。次で突然、彼が尙ほ二十歳にならぬうちに、彼の兄弟がツァー暗殺の陰謀に加擔したといふ廉で死刑に處せられた。彼の傳記家の一人が述べてゐるところによれば、この死刑が、

「……高い地位に在る人に對する個人のテロ行爲は、根本的な社會的變革を達成すべき政策としては効果が少ないといふことを、力強く彼に印象づけたのである。これによつて彼は、以前よりも一層明らかに、如何なる社會機構に於て

も力は經濟的に強勢な階級の手握られ、眞の解放運動は、個々の專制者に對する攻撃によらずして、労働者を組織して、經濟力の掌握といふ明確なる目標を有する階級を構成することによつて、行はれねばならぬといふ見解を把握するに至つたのである。」^(註21)

その直後レニンは學校に入つた。そこで彼はマルクスの著書に接し、マルクス主義者と接觸するやうになつた。これらの經驗は、組織された運動は必ずや革命を齎らし得るといふ彼の確信を強めた。

トロツキイは青年時代に於ける自分の改宗を自ら叙述してゐる。智的には彼は容易に確定した立場に到達し得ず、種々な社會理論を考察した。一人の急進主義的な庭師と共に、二度目の孤獨生活を行つた。この伴侶と議論を行つてゐる最中に、國內各所で罷業が起つた。それに參加した學生達が歸つて來た。

「彼等の或る者は大學を放逐された——高等學校を出たばかりの少年達が英雄の榮光を頭に戴いて歸還した。一八九七年二月、ウ・トロツキイといふ女學生は、ペーテル・パウルの要塞に於て燒死自殺を遂げた。この悲劇は充分な説明を與へられることなく、各人を深く動かしした。大學都市に於ては騷擾が起つた。逮捕、放逐は愈々増加した。」^(註22)

これ等の事件がトロツキイをも動かししたことは確實である。何故となれば、彼がそれ迄闘争に參加しなかつたのは、英雄めかした榮光を厭つたが故だからである。その後、或る偶然的な會話に於て、一人の電氣技師が簡単な物語りをした。その結論はツァーの政治を覆へすことと労働者を組織することであつた。トロツキイはそれに對して自分の中に起つた反應に就き、次のやうに述べてゐる。

「私はこの話を聞いて全く血を湧かせてしまひ、全身汗だらけになつた。これこそ現實である。吾々は想像し、期待し、徒らに議論してゐたに過ぎない。」^(註23)

その結果としてトロツキーは労働者を組織し始めた。そして彼は彼の仕事に就いて浪漫的な熱意を以て書いてゐる。

エンマ・ゴールドマンは少女時代には、工場の工女として退屈な日を送つてゐた。然るに、偶々「ヘーマーケット暴動」に興味を牽かれ、無政府主義者の會合に行つて見る氣になつた。無政府主義は忽ちにして彼女を魅了し、その會合からの歸途、「夢みつゝ」歩いたと彼女は云つてゐる。彼女はヘーマーケットの無政府主義者達の審理の經過を、無政府主義の新聞紙を通じて熱心に追つた。驟然、事件に關係した人達が絞首の刑に處せられたことを知つた。彼女も彼女の妹も、二人ながら「打ち擡がれた」やうになり、「無感覺の感じ」に襲はれたといふ。その夜晩く、この眞面目な感じ易い少女は、死刑を是認する人を見て狂ほしい程の憤りを覚え、その人に向つて水瓶を投げつけた。翌朝、彼女は全く元氣を恢復して目を覺し、彼女の心中には、彼女の「殉教せる仲間」の爲めに復讐を行はふと「燃ゆるが如き信念」が生れてゐることを發見したのである。^(註24)

死刑の及ぼした効果は、レニンに就いては種々な傳記家の想像であり、トロツキー及びゴールドマンに就いては、彼等が多年の後に過去の體験を誇張してゐるはせぬかといふ恐れはあるが、これ等三人が總て、改宗の以前に、急進主義的運動に關して可成りの知識を持つてゐたことは明瞭である。又、一つの事件が深く彼等を動かしたと、デーヴィスの研究の對象となつた大多數のボルシェヴィキと同様に、當時、彼等が皆青年期に在つたこと、新たな統合がかなり著しく彼等の前途を變化せしめたことは明らかである。^(註25)

近代のアメリカ共産主義者は、彼等も亦共産黨に改宗したといふことを肯定してゐるやうである。或るインテリは、彼が共産主義を奉ずるやうになつてからといふものは、共産主義哲學は彼の中心の態度になつたことを述べてゐる。

「共産主義は實に私の著述の最初からして、その中に述べられてゐる信念の解明、強化、組織の要因である。それは私

の著述の焦點の尖鋭化であり、方向轉換である。このことは、私が現に居住してゐるアメリカの經濟的及び心理的方向轉換に因るものである。^(註26)

著名なアメリカの共産主義者マイケル・ゴールド Michael Gold は、彼がユニオン廣場で警官に殴打される迄は、通常の生活を送つてゐた旨を述べてゐる。この出来事が、寧ろ強ひて彼を急進的な思想に追ひ遣つたやうなものである、としてゐる。

「私は常にこの巡査と彼の棍棒に感謝する氣持ちを持つた。兎に角、彼が私に文學及び革命を紹介して呉れたのであ

る。^(註27)

グランツ・ル・ヒックス Granville Hicks は自由主義者であつた。

「當時私を深く動かした一つの事件はサッコ及びヴァンツァッティの殺人事件であつた。この事件が私の自由主義に對する信念を全く打ち砕いた……」^(註28)

特定の個人に就いて見られるこれ等の證據はあるとしても、總ての新黨員が心理的に黨の方に改宗せねばならぬといふことにはならない。例へば、ボヘミアン型のインテリは黨に加入するかも知れないが、余心から黨員となりきりはない。併し、共産黨のやうに極めて良く組織された集團に積極的、能動的に參加するが爲めには、人格内に於ける如上の變化を必要とするやうに思はれる。加之、大衆中のシンパになる見込みのある人間までも、かやうな狭い意味での改宗を行はねばならぬといふことが眞實でないことは疑問の餘地がない。

余人格の再組織が起る前に、或は、共鳴感が獲得される前に、その人は所期の統合に適合し、従つてそれを惹き起す助けになるやうな關係的態度を持たねばならない(4、關係的態度の原理)。假に、改宗の場合に於ては共産主義に對す

る態度が、又、共鳴感を獲得する場合に於ては階級闘争に對する態度が、心界内に動的平衡を齎すべき磁力であるとしても、世界で最も強力な磁石と雖も、散らばつてゐる鐵屑をどうにも出来ないといふことになる。そして、「平均的な」アメリカの労働者は概して、かやうな所期の統合に導くべき態度を持たないのである。この事態を理解する爲めには、アメリカの社會的背景を引き合ひに出さねばならない。何となれば、個人はこの背景からして敵視的なステロ版及び態度を獲得したのだからである。

アダムスその他の人々が説いたやうに、アメリカ人を支配するイデオロギイは「アメリカ人の夢」を實現するといふ欲望である。その夢とは即ち民主主義であり、そして具體的生活に於ては、經濟的及び社會的方面に於ける出世の可能性である。アメリカの立憲傳中の人の實例は、統計的には少数ではあるが、少くとも心理的には、總てのアメリカの労働者を鼓舞するに役立つたのである。アメリカは向上を志す人々を以て成る國家であり、これ等の人々にとつては、この尅大な大陸の廣茫を自體が靈感の源泉を成すのである。かやうな事情とかやうな態度を以てしては、アメリカ人が階級闘争の現實性又は壓迫のテーゼを信するやうになることは極めて困難であると云はねばならない。國自體が一つのステロ版を生み出し、そのステロ版がこの闘争を包容せず、恐らくは包容し得まいといふ譯である。それ故に、アメリカの社會的價値及びそれに対応する態度は不斷に現状の宣傳によつて補強せられ、共產主義者達が求めてゐる統合に對して敵意を吐きかけてゐるのである。例へば、ウィリアム・ランドルフ・ハースト William Randolph Hearst は、自分の熱狂的な自己發展の爲めに、共產黨を身替り羊にしやうと熱中してゐる。發行部數を増加させる爲めのこの計畫は當然、廣く影響を及ぼし、その結果として凡ゆる型のアメリカ人が、如何なる共產黨の政見發表に對しても、盲目的且つ猛烈な附屬を抱くに至つたのである。

アメリカが嘗て経験したことの無いところの封建制度から完全に脱却し切らぬ歐洲に於ては、こゝで説明するには餘りに複雑過ぎる種々の理由により、經濟的及び社會的成層の數多の實證があつた。マルクス、エンゲルスは、實に、これ等の諸條件に應ずるやうに彼等のテーゼを形作つたのである。そして歐洲の労働者は、現實の體驗の結果として、及びこれ等の成層から生ずる風習の結果として、共產主義の主要な論點を認容する傾向を豫め與へるやうな關係的態度を有したのである。従つて、歐洲の共產主義者の仕事は比較的簡單であつた。即ち、統合又は改宗に好都合な態度を有する人々の間に宣傳を行ふことになつたのである。(4a、關係的、支配的態度の原理)。それ故にアメリカの共產主義者の多數が歐洲産であることは單なる偶然ではないのである。彼等の共產主義は彼等の歐洲的態度の結果として生れたものである。

かくして、アメリカの共產黨に課せられた使命の困難なことを理解することができる。即ち、アメリカの労働者を改宗しようとの企圖に於て、黨は先づ第一に、この改宗の基礎となる態度を築く爲めに努力せねばならない(4d、變化の原理)。而もこのことは、新態度の形成を意味するのみならず、アメリカ的背景の結果として労働者達が既に持つてゐる態度を切り崩すことをも意味する(7a、逆宣傳に於ける消極的暗示の原理)。かくして、假令、或る労働者が現實にその備主によつて壓迫され、又は厳しい經濟恐慌の重壓を現に被つてゐるとしても、この事實によつて彼が當然、共產主義者となるとは限らないのである。彼は彼の抑壓なり恐慌なりをアメリカのステロ版に基づいて觀察する。即ち、彼はかゝる現象が一時的なものであるとし、そして、彼自身が近い將來に於て繁榮を遂げるといふ希望を持ち続けるであらう。

かゝる事態に於て共產主義者は何を行つたか。彼等は概して、能ふ限りの傳達の手段を利用することによつて、ア

リカの労働者をして共産黨の存在を知覺せしめようと企てたのである(2、知覺の原理)。その爲めに彼等は新聞を持ち、パンフレットやピラを發行し、集會を催し、國家的及び地方的選舉に参加し、重要な時事問題に頭を突き込む等のことを行ふのである。又、彼等の宣傳の大多數は顯示的宣傳に屬し、而してこの型の宣傳は、敵對的な既存態度に對抗する爲めの宣傳を伴はねば有效でない(Gas、宣傳の選擇の原理)。パンフレットや、労働事實の如き刊行物、及び補助的團體の戰術等に於ては幾分の隱蔽的宣傳が見られるが、これ等は一般方策から云へば例外に屬する。

この種の宣傳が非共産主義的アメリカ人に及ぼす結果は次の如きものであるやうに見える。即ち、共産黨の存在は最早疑ふ餘地なく、そして黨は多數の市民の恐慌の的となる、といふことが是である。共産主義者はニューヨーク・タイムスの如き新聞に對して最大級の輕蔑の氣持を抱いてゐるかも知れないが、兎もあれ、ワシントンに於ける示威運動の直後の社説は、典型的なアメリカ的態度と呼んで然るべきものを簡潔に要約してゐる。

「月曜日、首都に於けるスコツポロ示威運動は全く共産主義の色彩に被はれてゐた。このことは、生命を脅かされてゐる九人の若いアラバマの黒人達が運命の手に放置せらるべきだといふ譯ではない……。唯、吾國に於ける共産黨の指導者は正義よりも寧ろ宣傳に關心を有することを意味するのみである。このことは、アメリカ人一般及び特にアラバマ州人民が共産黨の態度に傲つて、正義を犠牲に供して他の目的に趨かねばならぬ、といふことを意味し得ない。」(註30)

共産主義者はこの社説を目して、彼等の思ふ處に嵌つた無料廣告の徵候と考へるかも知れないし、或はスコツポロ事件の少年達の爲めに彼等が全國に喚起した憤激の證左であると考へるかも知れない。而も、この廣告なり憤激なりがアメリカ人をして共産主義者たらしめるとも限らないし、共産主義宣傳に注意を向けるやうにするとも限らない。何故かならば、共産主義者をして一層共産主義的ならしめる爲めの方法は、共産主義者に對しては成功しても、共産主義に

共鳴せぬ人達を遠く追ひやる傾向がある。集團の統一性を保つ爲めに有效な共産主義的用語はアメリカの労働者に反感を抱かせることが屢々ある。かやうな隱語は彼等の耳にも、彼等の態度にも縁が遠い。而も、それ以外にも、不利な態度を喚起する傾向のある種々な要因がある。ニューヨーク市ユニオン廣場から半徑一哩以内を範圍を限つてゐるところの、共産黨の強力な中央組織は、人々に、共産黨なるものゝ性質が餘りに官僚主義的であり、結局それはロシアの手先によつて動かされてゐる、といふ感じを抱かせる。數多の共産主義の示威運動は、先のタイムスからの引用が示すやうに、不評の源となる。何故かと云へば、事情に通じない労働者は、修正資本主義の或る形式に對する希望、必要を信念としてゐるが故に、「赤」が、彼が將來に、又は彼の子達の爲めに獲得しようとする努力しつゝある生活の安定に對する脅威を成しはせぬかといふことを惧れる。加之、共産主義に反對するアメリカの新聞がこの恐怖を補強する。「赤」「ボルシェヴィキ」「共産主義者」等の語目體が、大多數のアメリカ人の間に好もしからざる、且、分裂せざる反應を喚起する。南部は黒白兩人種の間に一種の平等關係を實現しようとする共産黨の政綱により、共産主義から離反する。かゝる政綱は南部の全態度體系にとつては全く唾棄すべきものとされるのである。ニューヨーク以外では、共産主義の組織者の多くが本來のアメリカ人でなく、その或る者は猶太人であるといふ事實は、大衆を共産主義から遠ざける傾向がある。これ等は共産主義宣傳が齎らす思はしからぬ結果の或るものである。

併し、共産主義者は殆んど全面的に彼等を包圍する右の如き敵意に氣がつかずにはゐる譯ではない。彼等は種々な方法でより有效な運動を行はふと努力した。彼等の逆宣傳は特に社會主義者及び急進主義者に向けられる——彼等が對手の戰術の失敗又は對手の性行上の缺點を摘出する機會を捉へてそれを利用することを決して怠らぬことは既に述べた(7a、逆宣傳に於ける消極的暗示の原理)。この遣り口は、これ亦、潜在的な共産主義者の性質を有する人々に對して訴へ

つゝある敵手の求めてゐる統合が同一であるが爲めに、必要となるのである。
青年共産主義聯盟その他の組織により、共産黨は賢明にも、青年達の間で宣傳を行つた。人格が形作られる年頃には、少年も少女も、彼等の環境の偏見を忠實に反映するものではない。而も、彼等の多くは、熱意を傾注するに足るやうな包括的な問題を求めてゐるやうな状態に在る。換言すれば、彼等は共産黨に對する強い反感を抱いてをらず、動もすれば、純然たる心理的理由に基づき、彼等が殘酷又は不親切と判断した從來の環境を捨て、共産主義に趨りたがるやうな傾きがあるのである。

又、下層階級が壓迫されつゝあることを不斷に主張することにより、共産黨は正義及び經濟的向上に對するアメリカ人の信念を動揺させようとするのである。然るに、共産黨の主張は、既存の態度の強さに比較すれば、比較的弱い。そして、假に労働者が階級闘争の現實性を確信するに至り得たとしても、この統合は極めて不安定であるが故に、何等かの「進歩主義」の候補者が立つて、進歩した政綱のやうに見えるところの主張を押し立て、攻勢的な運動を行へば、忽ちして瓦解して了ふのである。共産主義宣傳の總てが、或る意味で、これ等のアメリカ人の態度の切り崩しを目指してゐると云ひ得る。併し、筆者の見解に従へば、この宣傳の大多數は文學的な「飛んで來い」のやうな作用を持ち、それが提示される方法の故に、尙一層人々を遠くに推しやるやうな結果を生ずるのである。換言すれば、アメリカ人の態度はイデオロギーであることは事實ではあるが（即ち、誤れる、合理主義化された、時代遅れの態度であり、最早、現實の經濟的、社會的、及び政治的諸關係に適應しない）、共産黨はこの事實を曝くに當つて、餘り巧妙ではなかつたのである。

右の如くにして、何故に共産黨の指導者達がより多數の黨員を獲得し、又はアメリカ労働者間により多くの共鳴者を

確保することに成功しなかつたかといふことが明らかになる。又、同様の批判は、外國の共産黨に對しても當振るのである。共産黨の宣傳は、共産黨哲學から引き出された「べきである」、「ねばならぬ」、「管である」等の言葉によつて形成された。アメリカ人の如實の心理的構成に就いて行はれた考慮は餘りに少な過ぎた。革命の爲めの準備は黨がニ・ヨークに集中せられ、そこから、而も屢々外國から受ける指令に従つて、指導されることを要するといふ點は承認しよう。指導者は適當に大衆を「教育する」爲めに、大衆の上に課せられねばならぬことも認めよう。社會主義者に對して不斷の攻撃を行はねばならぬ點も認めよう。總ての黨の支持者並びに黨員は階級闘争に照して思惟すべきであるといふことも宜しからう。又、ソヴェト・ロシアの業績が強調せられねばならぬといふことも認めよう。併し、——この最後の信條を他の總ての代表として考察するならば——改宗してをらぬ人との最初の接觸に於てソヴェト・ロシアを口にするのは極めて愚策である。何故かと云へば、ロシアに對する大多數の人々の態度は、例へばハースト系の新聞紙に掲載されてゐる物語によつて形作られたものだからである。或る特殊の問題に關する、共産黨の所謂「煽動」さへも、若し最初の反應が反抗的であるならば、成功望まないものである。

スコツポロー事件は共産主義宣傳の長所と短所とをさらけ出してゐる。これ等の少年達の擁護運動により、共産黨員をして自身及び彼等の目標に對する意識を一層鞏固ならしめることができた。何故かと云へば、全世界に亘る示威運動により、共産主義者は労働者の團結が存することを確信し得たからである。階級闘争の犠牲者として眺められた黒人少年達は支配階級の横暴に就いての附加的證據として利用せられ、そしてこの事實が、對立する諸團體に對する戦に於て、共産黨の統一性を更に強化する傾向を齎らした。要するに、スコツポロー事件は共産主義哲學にとつての焦點となり、既存の共産主義的態度を更に鞏固にする爲めの刺戟となつたのである。そしてこの事件は一般的な共産主義的

世界観の中に採り入れられて、有効な作用を行つたのである(6c、補強の原理)。

併し、他面、スコツポロー事件は非共産主義者によつて如何に見られたか。共産黨が国際労働擁護會及びその他の補助的團體を通じてこの事件に直接に關與した結果として、全世界を通じてこの事件が重大なものであると思はせたことは確かである。かくして、事件自體は知覺された(2、知覺の原理)。併し、共産主義者にとつては、事件の單なる知覺は、その事件が階級闘争の觀點から眺められるといふことを意味するのであるが、主義者以外の人々に於てこれと同様な態度が喚起されるとは限らないのである。黨は顯示的宣傳によつて、スコツポロー事件と革命の必然性との間、又は共産主義の陣營に参加することとの間には關聯があることを證明しようとした。又、事件を理解することによつて人々はこの關聯を認めるやうになるだらうといふ希望を持つた(3e、隱蔽的宣傳の原理)。然るに、結果は全然豫想外であつた事例が多かつた。何故かと云へば、多くのアメリカ人は、スコツポロー事件のことを聞いて、それは裁判所の誤判であると見たからである。又は、この訴訟は、南部の白人がその支配的地位を保持する爲めに行つた努力として、社會的意義があるのだと考へたからである。これ等は喚起せられたステロ版の若干であり、これによつて、豫測し得べからざることの範圍の大きさが増したのである。更に、共産黨が事件に關與したことを自體が南部の陪審員及び裁判官の少年達に對する態度を悪化せしめたのみならず、多數の非共産主義者をも動かした。要するに、共産主義者がスコツポロー事件に對して與へた評判は少年達の即時的死刑を延期するの效果はあつたが、長い眼で見れば、結局は、少年達の事件を彼等にとつて不利な状態に導き、且、他のアメリカ人の間に所期の關係的態度を喚起しなかつたといふことになる。

この事件は逆宣傳の手段としても利用された。N.A.A.C.P.及びその他の自由主義的團體にして少年達の擁護を

目的として立たうとしたものは屢々攻撃せられ、これ等團體のこの事件に於ける活動は、かかる團體が概して無價値であるといふ共産主義の主張の證明として用ひられた。スコツポローは、共産黨の目的と主張とを極立たせる爲めに、強姦に對する興味といつたやうな補助的態度を喚起する手段となつた(2a、補助的態度の知覺の原理)。この知覺を基礎として社會的事件に對する新たな態度が齎らされ、これ等の態度によつて人格が所期の統合に傾き易くなる事が期待されたのである(4d、變化の原理)。又、國際労働擁護會は労働者及び特に黒人の間に勢威を大にしようとした。何故かと云へば、共産主義者の主張するところによれば、この事件は、共産黨がその手先を動かして如何に熱心にプロレタリアを擁護するかの明瞭な實例を提供するからである(6a1、積極的、社會的價値の原理)。事實、勢威に關するこの主張のみを基礎として、共産黨の機關は少年達の母親の或る者を共産黨に加入せしめることを得たのである。

要約すれば、共産黨は自ら労働階級運動の代辯者を以て任じたものと云ひ得る。黨がプロレタリアの無意識的な努力に表現を與へつゝあるのだと自ら感じたのである。それ故に、知覺された場合に所期の統合にとつて有利なる關係的態度を喚起すると豫想されるころの大衆への訴へに努力を集中したのである。然るに現實には、黨がかやうにして動かす態度は概して統合が起ることを妨げる。何故かと云へば、これ等の態度は、共産主義の大抵の形式に對して敬意を有する環境に於ける社會價値によつて齎らされる態度だからである。加之、共産黨の性質上、それが黨員によつて全的に支持されることを要する。黨は主義者の人格が共産主義に對する中心的態度を繞つて統合されることを要求する。この種の改革は極めて微妙な心理的過程であり、それに伴ふ豫測し得べからざることの範圍は、この傾向とは凡そ縁の遠い人々を生み出す環境に於ては、甚だ大であると云はざるを得ない。共産黨がシンパを獲得しようとしたアメリカ人達は、彼等の夫とは殆んど全く異なる智的背景を前提とする宣傳の型に對して敬意を抱いた。アメリカの労働者を改宗させる

か又は少くとも主義に對するシンパとする爲めには、又、彼等がハーストの偽購を發見し得るやうにする爲めには、階級闘争及びこの闘争に於ける労働者の役割に對する好意的態度は、もつと緩徐に、もつと微妙なやり方で築き上げることとを要するし或は、かゝる態度は、差迫つてゐるやうに見えるところの、社會的及び經濟的諸條件の根本的變化によつて齎らされるかも知れない。

- 註1 Karl Marx & Friedrich Engels, *The Communist Manifesto*, pp. 30—31, Chicago, 1915.
- 註2 Labor Fact Book, p. 202, New York, 1921.
- 註3 Ibid., p. 203.
- 註4 Daily Worker, July 17, 1933
- 註5 日附は共に一九三四年十月九日、標題は第一頁から引用。
- 註6 共產主義者自身、既に述べたやうな活動を彼等の「宣傳」の實例であると云つてゐる。何となれば、彼等は包容的なマルクス主義哲學を築き上げようとしたからである。これに對し、次に述べる活動は「煽動」と呼ばれる。何となれば、この場合には或る特別の問題に就いて支持を獲得することが目的であり、その問題と根本の哲學との關係は強調されてゐないからである。この意味に於ける「煽動」は「宣傳」よりもより大なる程度に行動を要求し、より多くの説得を必要とするが、その他の點では「宣傳」との相違は輕微である。それ故に、筆者は「煽動」を宣傳の特殊な場合と見る。
- 註7 David Schneider, "The Workers' (Communist) Party & the American Trade Unions," *Johns Hopkins University Studies in Historical & Political Science*, 1928, v. 46, no. 2. 參照。
- 註8 Labor Fact Book, p. 204.
- 註9 Edmund Wilson, "The Freight Car Case," *New Republic*, 1931, v. 68, p. 40. 此引用せられたる "Thesis and Resolutions for the Seventh National Convention of the Communist Party of the United States," March—April, 1931.
- 註10 Carol W. King in *New Republic*, 1931, v. 67, p. 155. 此引用は正確。

- 註11 J. Louis Engdahl, "Scottsboro Campaign in England," *Negro Worker*, 1932, v. 2, no. 7, p. 12.
- 註12 William McDougall, *The Group Mind*, pp. 67—70, New York, 1920.
- 註13 N. Lenin, *The State and Revolution*, pp. 30 ff., London & Glasgow, 1919.
- 註14 Leon Trotsky, *The History of the Russian Revolution*, v. 1, esp. pp. 329 ff., New York, 1932.
- 註15 Ibid., v. 3, p. 169. 共產主義者は極めて明確なメンタロ版を有するが故に、トロツキーからの引用は恐らくは筆者をトロツキー主義者と誤解しないであろう。
- 註16 数字は World Almanac, 1933, p. 910. から。特にヒューロン市及びその他の政治的に統制せられた都市に於ける。投票の勝敗は、恐らくは幾分この数字を減らしめたであろう。
- 註17 An Open Letter to All Party Members, Section II of the Daily Worker, July 13, 1933.
- 註18 William James, *Varieties of Religious Experience*, pp. 189 ff., New York, 1920 (2nd impression).
- 註19 Angelica Balabanoff, *Erziehung der Massen zum Marxismus*, p. 35, Berlin, 1927.
- 註20 "Studies in Quantitative and Cultural Sociology," *Amer. Sociol. Soc.*, 1930, v. 24, pp. 42—55.
- 註21 James Marton, Lenin, pp. 14—15, New York, 1932; D. S. Minsky, Lenin, p. 8, Boston, 1931; George Verratsky, Lenin, Red Dictator, pp. 16—17, New Haven, 1931.
- 註22 Leon Trotsky, *My Life*, pp. 103—104, New York, 1930.
- 註23 Ibid., p. 105.
- 註24 Emma Goldman, *Living My Life*, v. 1, pp. 7—9, New York, 1931.
- 註25 この文はメンデルソンの説「政黨は特に青春期の現象である」を説書する。 Edward D. Starbuck, *The Psychology of Religion*, p. 28, New York, 1928. Davis, op. cit. によれば、彼が調査した革命主義者の八〇パーセントは廿一歳以前に、九五パーセントは廿六歳以前に、この主義に投じたといふ。
- 註26 Waldo Frank, *New Masses*, Sept. 1932, p. 6.
- 註27 Michael Gold, *Ibid.*, p. 9.
- 註28 Granville Hicks, *Ibid.*, p. 8.



註 2. Janus T. Adams, The Epic of America, pp. 404 ff., Boston, 1931.

註 3. New York Times, May 10, 1933, 16:4.

註 31.

ローゼンタールの研究に就いては前にも述べたが(二二頁)、彼は又、百名の學生より成る二つの集團を作り、八十四語の中、「彼等の好まざる」語を抹消させて見た。實驗群は共產主義の映畫を見てから比較的急進的にはなつたけれども、それにしても、彼等の好まぬ語の平均的增加は、對照標準群の夫に比して二倍乃至三倍といふ數字を示した(三四頁)。最も好まなかつた五つの「保守主義的抹消」は「宣傳」「煽動者」「革命」「共產主義」「急進主義者」であつた。その或るものは映畫に「關係ある」ものであつたし、その總ては共產主義者が頻りに用ひるものである。要するに、この點に於ては、共產主義の宣傳は彼等が期待したとは凡そ反對な効果を齎らした譯である。

第十六章 ナチスの宣傳

一、一九三三年以前

ヒットラー及び彼のナチスに就いて冷靜な態度で語ることは殆んど不可能である。何故かと云へば獨逸ファシストの全運動は、全體主義的國家を建設する爲めに採つた冷酷無殘の戰術により、文明世界の大部分を戰慄せしめたからである。併し、憤激の語調を以てナチス主義を撲滅しようとする企ては、貴重なるエネルギーの浪費でしかない。ヒットラーが現に獨逸を支配してゐるといふ事實は否定し得ない。それ故に、彼が力を掌握することの理由を理解しようとする試みる方がより賢明である。

ヒットラーが權力を握り得たのは、良く計畫せられたる宣傳戰の結果であるとするのは半面でしかない。宣傳が効果を發揮し得るのは、それによつて影響される人々の態度を満足せしめるやうに宣傳が形作られた場合に於てのみであ

(193)

る。ヒットラーと彼の協力者はその爲めに必要な巧妙さと獨逸人民に對する洞察力とを持つてゐたことは事實であるが、ナチスの宣傳をして然く成功を収めることを得しめたものは獨逸人の態度の特殊な一群である。他の時代に於て、又、他の人民に於ては、ナチスの宣傳は恐らくは凱歌を奏し得なかつたであらう。ヒットラーの訴へに進んで、又は心ならずも呼應したのは獨逸人民の一部であつた。そして、これ等の獨逸人は大戰後の獨逸の社會狀態を單に反映したのみである。

ヒットラーがバヴリアに於て控へ目勝ちな宣傳戰を開始した一九二〇年代の初期に於ては、獨逸は眞に混沌たる状態に置かれてゐた。この状態は次の十年間に於て徒らに悪化するのみであつた。文化的には獨逸國は數多の強力な社會的潮流によつて四分五裂の有様であつた。僅々五十年前にビスマルクが達成した政治的統一はこの國民を佛國の如くに愛國主義的に結合した國民にはしなかつた。ベルリンの中央集權的政府は地方、特に南獨逸の諸地方により、第二のブロンシャの出現として恐れられてゐた。人民自體が種々な慣習、地方語によつて分裂してゐた。彼等は、彼等が總て獨逸人であり、ライヒの組成員であることを知つてはゐたが、而も彼等は屢々、北方の官僚に對するよりも寧ろ彼等の地方の爲政者に對して忠實である傾向を示したのである。

政治的には、獨逸は凡ゆる明暗と凡ゆる色彩を反映した。ヒンデンブルグがヒットラーを首相に任命する直前には、支配と政治的利益の爲めに相争ふ黨派の數は二十七を算したのである。これ等の政黨は考へ得る凡ゆる政治的信念を代表したのみならず、その中、最も強力なもの、一つに算へられた中央黨は、同時に明確な加特力教的組織でもあつたのである。これ等政黨の何れもが投票の過半数を制することを得ず、唯、社會民主黨が屢々辛うじてそれに近い域まで進つたことがあつたのみである。その結果として、政府の執行的方面は互に敵對する政治的利益の聯合から成つてゐたの

(265)

である。かくして獨逸の政治舞臺には平和はなく、獨逸の嚮べき方向は定まらなかつた。

社會的にも獨逸は半煮えの思想の取合せの悪いごつた煮であつた。戦慄的な大戦の緊張感から解放された獨逸人達は、何事かを試み度い願ひで疼いてゐた。青年運動は自然及び舊時の民族文化に復歸しようとの企てであつた。併しそれは徐々に死滅し、その跡に残されたものは好ましいキャンプの連鎖と數多の美しい音楽とであつた。裸體主義が興隆し始めた。性的な風習は瓦解の途を辿つてゐるやうに見えた。強力な女尊運動が勃發した。避妊の方法は例の獨逸式の能率を以て用ひられた。不況に悩む經濟状態は正規の結婚を減少せしめ、神のみが認める苟且の結合が流行した。教會に行く者の數は減じた。何故かと云へば、日曜日にはぶらついたり、ビールを飲んだりした方が面白かつたからである。同性愛が社會的に認容されさうな域にまで達したのである。夥しい外國の影響もあつた。熱烈な共産主義者はソヴェト・ロシアの生活を公にした。原始的な民族の怪奇な所産として單體されたにも拘はらず、アメリカの映畫は寧ろ熱狂的な愛顧を蒙つた。獨逸の有産階級は依然として、休暇を機としてイタリアやフランスに殺到することを止めなかつた。

(266)

これ等の力の背後には、獨逸が世紀の轉換期頭から熱心に、且、迅速に採用しつゝあつた新たな型式の資本主義があつた。獨逸の産業は合併への傾向を感じつゝあつた。I.G.染料工場を代表的なものとして、獨占事業、カルテルは通常のことになつた。同時に國家資本主義又は國家社會主義の形態が出現しつゝあつた。獨逸の鐵道、電信、電話、郵便は共和國によつて統制された。地方政府は多くの公益事業や種々な形の娛樂を所有した。個人の事業と國家とのこの對立は日に益々尖鋭化した。

獨逸人民はこれ等數多の問題と戦はふといふ努力を續けた。彼等の大部分は民主主義的傳統の訓練を経てゐなかつたが、にも拘はらず、理論上は——教授の理論——は最も理想主義的な文書の一つであるところのワイマル憲法を實施しつゝあつたのである。例へば、國會に於ける代議員の數は、或る選挙に於て行はれた投票の數に應じて直ちに變化した。かかる情況に於て獨逸人は子供の如くに行動した。事實、彼等は政治的には子供だつたのである。彼等は、恰かも五歳の兒童が危なかしい積木の家を築かうとする自分の努力に感應すると同様に、眞剣に民主主義と取組んだのである。政治論がカフラーに充滿した。多くの獨逸人は、彼等の投票を行ふに先立つて總ての政治的集會に出席することがその愛國的な義務であると考へた。彼等によつて政府は、複雑な組織と數多の社會的機能が必要とする一個の結合體と思はれるのである。

加之、獨逸人は誇りを持つた文化人であつた。労働者はオペラを觀に行くだけの金を持つてをらぬに拘はらず、彼等はこの種の藝術に對する敬意を持つてゐた。而も彼等はオペラに就いて幾分の知識を持つてゐたのである。學校で彼等が受けた嚴格な教育により、彼等の多くは獨逸の文學に於ける傳統的な聲價を有する人達を知つてゐた。卒業後、就職の見込は少ないに拘はらず、大學の學生の數は前例のない程の多數に上つた。獨逸人は彼等が占據する土地の歴史を知り、彼等の爲めに解釋されたその歴史によつて感激した。彼等は又彼等の祖國とその風俗とを愛した。彼等は彼等が獨逸の國土を離るゝことなくして北海に水浴を行ひ、黒森の山々に登り、都市の郊外でスキーを行ひ、ライン河に舟を浮べ、農民の服装の多様な取合せを眺めることを知つてゐた。彼等は實に祖國を持つてゐたのである。然るに突如として三つの災難が彼等の頭上に降りかゝつて來た。ヴェルサイユ條約、インフレーション、及び全世界に互る經濟的不況が是である。

獨逸人にしてヴェルサイユ條約に就いて語り、而も心の平靜を保ち得る者は稀である。彼等は如何にして彼等がこの

(267)

冷酷無残なる條約に調印するの已むなきに至り、彼等が自衛の爲めに戦へりと信じた戦争の全責任を認めることを強いられた貴重な領土を喪ふことを餘儀なくせられ、獨逸の國土上に佛軍を駐屯せしむることを忍ばせられ、不可能とも云ふべき巨額の賠償金を強制せられたかを語つて飽くことを知らない。暫らくの間は彼等はアルプス・ローヌの喪失を悔んだが、總て、この地方の住民が結局は眞の獨逸人にあらざることを覺るに至つた。そこで彼等はポーランドの廊下に關心を集中し、彼等の氣持は迫害せられつゝあるこの地方の獨逸人に對する同情によつて充たされた。ザール地方は盡きることなき紛争の源泉となつた。又彼等は時には、南チロル地方のオーストリア人に彼等の同情を押し擴げた。而も佛國はヴェルサイユに於て宣明された現状維持を確保する機會を見逃しはしなかつた。佛國はその全國境に互つて整然と要塞や地下壘を構築した。強制徴兵の制度を變更しようとしなかつた。そしてヴェルサイユ條約の創り出した實際聯盟の牛耳を探らうと企てた。かくして、獨逸人達がこの條約は彼等を劣等國の列に逐ひ遣るものであると信じたことは訝しむに足りない。條約調印の日を期して毎年學生その他の者が舉行する追悼會は、大多數の獨逸人が考へてゐたことを簡単に要約したものに他ならなかつた。

(268)

不況の以前にはインフレーションの時代があつた。僅々數箇月の間に、中産階級は無價値な紙幣を持たされてゐることを發見した。安樂な未來と思はれてゐたことが零細の貯蓄と不調節の夢魘と化した。焚木の代りに焼却されたマルク紙幣とは事變り、嘗て存在せる金が消滅することはあり得なかつた。何人かこの不幸によつて利益を占めたことは明瞭であつた。人の去つた別荘は別の人々によつて買はれた。彼等の多くは明らかな成上りであり、他の者は確かに猶太人であつた。

獨逸人は不況が到來する以前にも馬鈴薯や強く緊つた帯皮には慣れてゐた。大戦後といふものは大衆には幸福な生活

はなかつた。不況は更にこの状態を悪化せしめた。忽ちにして獨逸の失業者數の率は世界最大のものとなつた。幸運にも仕事をもち得た者は重税を課せられた。養老保険及び失業保険、醫療の社會主義的政策は一層平均市民の負擔を増加するやうに見えた。人々はビールを飲むことを躊躇した。四旬節の前に行はれる謝肉祭は多くの地方で省略されねばならぬやうになつた。

オーストリアから來たベンキ屋がナチス運動を起し始めたのは實にかゝる情況に於てであつた。ヒットラーは決して馬鹿ではなかつた。彼の自叙傳をそれとなく讀んでも明瞭に知り得る如く、彼は當時の獨逸の状態を確實に把握してゐた。何故かと云へば、彼は大戰中獨逸軍隊と共に戦ひ、その後、獨逸人の間に生活したからである。

茲で國家社會主義黨の歴史に餘りに深く立入ることはこの著述の趣旨ではない。ヒットラーと彼の協力者達が既に一九二〇年二月二十五日に全獨逸を満足せしむべきプログラムを作り上げたといふことを述べれば足りる。最初の二十五の「點」の或るものを茲に反覆するのみでも各綱領が夫々、極めて特別な目的を遂行するやうに仕組まれてゐたことを知ることができる。

- (1) 吾人は民族自決を基礎として總ての獨逸人が結合して超獨逸國を形成することを要求する。
- (2) 吾人は他の國家の獨逸に對する平等の取扱ひ、及びヴェルサイユ條約並びにサン・ジェルマン條約の廢棄を要求する。
- (4) 獨逸民族のみが市民たるの資格を有する。獨逸民族とはその信仰の如何に拘はらず、獨逸人の血統を有する者である。それ故に猶太人は獨逸民族たり得ぬ。
- (10) 各市民の第一の義務は精神的又は肉體的の勤勞に服することである。個人の行動は全體の利益に反せず、共同の

(269)

善に寄與することを要する。

(13) 吾人は反社會的な作用を爲す總てのトラストの國有を要求する。

(15) 吾人は老年者救済が大規模に擴張されることを要求する。

(16) 吾人は健全なる中産階級の形成と維持、大百貨店及びその總使用料が適當の率で小商人に分配せられること、及び小商人の仕入れが聯邦政府各邦及び地方自治團體により、充分考慮されることを要求する。

(18) 吾人は吾國の國家的要求に適合するが如き土地制度の改革、公用の爲め無償にて土地を收容すべき法の制定、土地の利息の廢止及び一切の土地投機の防止を要求する。

(19) 吾人は唯物主義的國際主義の用を爲す羅馬法に替へるに獨逸普通法を以てすることを要求する。

(22) 吾人は傭兵の廢止と國民軍の形成を要求する。

(23) 吾人は意識的なる政治的虚偽及び新聞紙によるその播布に對する法律的措置を要求する。

これ等の要求は、社會民主黨その他が考へたやうに、狂氣じみた夢想家の途方もない要求ではなかつた。それは自ら「獨逸國家社會主義労働黨」と稱する一個の集團の政綱だったのである。そして彼等はこの自負し切つた名稱だけのこととを成就したのである。

この政黨は「國家的」であると同時に「獨逸的」でもあつた。この政黨は獨逸が外國から平等に取扱はるべきことを主張した。それは適當に獨逸を防禦し必要あれば國家の名譽を擁護し得べき軍隊を求めた。それは舊來の獨逸文化を再生せしめ、獨逸に對して明瞭に獨逸的な法律的並びに社會的基礎を與へようと企てた。獨逸の工業家に對しては、この政黨は競争が國家の福利と背馳せざる限り、自由競争を認むべきことを約束した。又はそれは獨逸の労働組合は非獨逸的

であるが故にこれを解散せしむべきことを、いとも平靜な態度で述べてゐる。大資本家、特にライン・ヴェスファリア地方の者が、ナチスの爲めに夥しい寄附を行つたことは訝しむに足りない。更に、この政黨はチェイン・ストア及び百貨店を廢絶せしめることによつて、少商店主の救済を圖ることを約した。かゝる約束は大工業家の眼前にぶら下げられた褒美とは凡そ矛盾するものであるが、矛盾は決して宣傳成功者が意に介しないところである。

この政黨は人種に對する態度から云つても「國家的」「獨逸的」であつた。黨に屬する評論家アルフレッド・ローゼンベルグ Alfred Rosenberg を通じ、ゴビノー、チェンバレン、及びエーテによつて唱導されたところの人種理論を公布した。この理論に従へば、所謂、北歐人を除き、その他の總ての人種は劣等な地位に置かれてゐる。この主張は特に猶太人に向けられたものである。猶太人を攻撃することは巧妙な戰術であつた。猶太人が獨逸文化に對する脅威であることを證明することはいとも容易である。猶太人の多數がヒットラー自身よりもより獨逸的であつたとしても、宣傳的目的上、彼等を他の民族であるとして迫害することはできた。獨逸都市の或るものには、猶太人街の痕跡を止めてゐるものもあつた。真相を述べるならば、ヒットラーの云ふところに依れば、彼の反猶太主義は、彼がウィーンの猶太人が彼等の傳統的服裝を着て歩いてゐるのを見、彼等個々の言語を用ひて語り合つてゐるのを聞いたときに始まつたのである。大戰後、ポーランドから獨逸へと移住して來た多數の猶太人はその風俗習慣に於て全く異分子を構成した。猶太人の或る者は實業界に大成功を収め、比較的多數の猶太人が種々な職業や大學生活に於て顯要の地位を獲得した。猶太人の銀行家が猶太人以外の同業者と同様に、インフレーションによつて莫大な利益を占めたことは疑を容れない。その結果として、ナチスの煽動家は總ての猶太人を十把一括げにして、個々の猶太人に對して攻撃を行はず、猶太人全體を攻撃することができたのである。猶太人に對するかやうな背烈な攻撃には羨望と劣勢の感じが混入してゐたに相違ない。とも

あれ、内部的には猶太人、外部的にはフランス人とポーランド人とが獨逸の膏血を啜り盡さうと企てつゝある怪物とされたのである。この脅威は、何故に獨逸人は自己の防禦の爲めに團結を鞏固にせねばならぬか、のよい理由となつた。それが、これ等の共同の敵に對抗して、連帯性と統一性の感じを興へた。それによつて彼等の内に普遍性の印象が樂き上げられ、彼等をして一屏ナチスの宣傳を感受し易くしたのである(6a2、普遍性の印象の原理)。

加之、この政黨は「社會主義的」であり、且「勞働者的」であつた。これは都市及び地方の勞働者に對する餌であつた。彼等は明確な救済を約束された。それは貧慾な資本家からの救済であり、利息を支拂ふことからの救済であり、老年及び失業の不安に對する救済であり、疾病に對する救済であり、外國及び猶太人の搾取に對する救済であり、擾亂的宣傳に對する救済であつた。ナチスのプログラムは彼等の眼前に平和と豊かさの旗幟を振り動かした。そしてプロレタリアの支持を捉へ得るものは平和と豊かさであつた。

併し、これ等の約束の總ては、體系的な或は智的な形で獨逸人民に提示されはしなかつた。詭辯に長じたナチス黨員達が多くの精緻、複雑な理論を組立て、ファシストの經濟及びファシストの國家主義を獨逸の文化模様に適合し得るやうにしたことは事實である。そして彼等の多數、特にオット・シュトラッセル Otho Strasser と彼の輩下の黒シャツ黨とが國家社會主義とは一國の境界内に適用せられたるマルクス主義の近代的の改變であると信じたことは事實である。併し、ナチスの宣傳家及びヒットラー自身は、宣傳が敵手又は味方の地位に對する何等の批判的論議をも要求するものではないことを認めたのである。否、宣傳に必要なものは人々の集團に於ける支配的な態度の喚起でしかないのである。(4a、關係的、支配的態度の原理) ナチスは日和見主義者であつた。彼等はカメレオンのやうに、個々の情勢に應じてその要請を變化させた。

一九二四年にヒットラーが出獄した後、彼と彼の協力者とは、ナチスの宣傳を弘めるべき人達の能率的な組織を構築することに手を附け始めた。ナチスの新加入者は突撃隊となり、後には、その或る者は特別師團を構成するの名誉を興へられた(所謂 S. S.)。これ等の良心的な獨逸青年達は多くは下級中流階級からの者であつた。何故かと云へば、ヒットラーの軍隊内に地位を有することは、褐色制服によつて彼等の自尊心を満足せしめる手段にもなつたし、又、全體主義國家の官僚の一部として比較的永続的な地位を獲得する可能性を興へられんとしたからである。それ以外の者は勞働者の子弟であり、彼等の欲するところは自分の社會的地位をより良くし、勢威を獲得するに在つた。ヒットラーの軍隊はプロシヤの軍隊制度及び厭迫された住民に殆んど感激を興へないやうな環境の、論理的所産に他ならぬものであつた。彼等は極めて忠實な集團であり、恰かも宗教的命令が尊敬されてゐる指導者に對する殆んど盲目的な服従を確保すると同じやうに動いた。彼等の大多數は全心全意を以てナチス運動に没頭した。筆者は彼等と語り合つてその宗教的熱意を感じたのである。彼等は、共產黨が全世界に亘つてその支持者を求めてゐると同じ意味に於て、眞の改宗者であつた。彼等が弘布を助けてゐる宣傳は決して宣傳とは考へられなかつた。それは一つの通達と考へられた。如何なる犠牲を拂つても全獨逸國民に傳達せねばならぬところの一つの確固たる通達と考へられた。彼等はヒットラーが彼の約束を果すであらうし、又、果し得ることを正直に信じた。そして最初にはヒットラーは彼等の依頼に背かなかつた。

加之、ナチス黨それ自身が宣傳の機構を提供した。相當な大いさを有する獨逸の都市の多くには地方的な褐色の家が設けられ、そこには有給の役員が置かれて一切の努力を黨の爲めに捧げた。これ等の褐色の家の各々は、その近隣地方に於ける黨の現實の及び潜在的の勢力を示すべき、周到に保管された記録を以て充たされてゐた。團員はナチス役員の命令を受け、概してそれに服従した。個々の褐色の家は、ヒットラー自身及び黨の主腦部があるミュンヘンの中央褐色の



家から訓令を與へられた。全獨逸に亘つて黨は強力な新聞紙を弘布せしめることに成功した。フェルキッシャー・ペオバ
ハター紙はミュンヘンに於て發刊され、次で擴張されて全國を包擁するやうになつた。後にはゲッベルス博士自身デア
アングリッフ紙を創始した。この新聞紙程執拗に戰闘的な新聞は嘗て類例を見ない。最後に種々な地方新聞があり、ナ
チスに關係ある事件の他、その地方の特殊な事件をも報導してナチスの合唱に夫々の聲を附加した。ナチスの行列及
びナチスの集會に景氣をつける數多の音楽隊があつた。ナチス交響樂團さへも設けられ、全國に巡回演奏を行つた。そ
のプログラムに含まれる曲は獨逸作曲家の物したものに限られた。これ等の手段の總ては不斷にナチスの徽章、古代の
卍を顯彰した。この象徴は新聞社の橋頭に、パンフレットの表紙に、ナチスの旗の赤地に、ナチス黨員の襟に見られ
た。ナチスはラヂオを利用することはできなかった。何故かと云へば、放送は獨逸國家によつて統制されてゐたからで
ある。併し、強力な戰闘的な少數黨を組織し、黨員の熱情を補強する爲めには、他の宣傳手段で充分であつた（Ge、
補強の處理）。これ等の活動に必要な資金はフリッツ・テューセン Fritz Thyssen の如き大實業家からも來たし、人民自
體からも集められた。隊員及び黨員は比較的重い負擔を課せられた（失業者は著しい減額を認められたが、それにして
も何程かは微せられたのである）。ナチスの政治的集會を機としてナチスが主催する良い演劇からは多額の入場料が得ら
れた。又新聞紙を含み、種々の刊行物の賣上の純益も彼等に可成りの収入を與へたに相違ない。

ナチスのプログラム二十點は反覆唱導された。猶太人は正面から攻撃もされたがその他のより微妙な方法の方が尙
一層有效であつた。一九三〇年九月には國會の猶太人議員の横顔を掲げたポスターが街頭に現はれた。それは彼等の
猶太人たることを圖示によつて強調することを目的としたものである。そしてこれ等と並べてナチスの候補者の寫眞が
掲げられた。その總てが洗練された人々、將軍達、生粋の獨逸人であつたこと勿論である。多くの會合の公告の末尾に

は入場料と「猶太人お断り」といふ簡単な注意が附加へられた。世界に起る凡ゆる事件はナチスの講演者又は著作家に
よつて紹介せられ、黨に有利なやうなとして獨逸を支配しつゝあつた、若しくは支配しようとなつた黨派に不
利なやうな解釋を與へられた。ナチスが政權を握るに至る以前にも彼等はベーデンの衛の大家であつた。彼等の主
催する祝典は、よき趣味を以て、而も大規模に行はれた。ニュルンベルグに於て毎夏催される突撃隊の大會はナチス
黨に對する忠誠を強め、愈々成長するナチス運動の力を更に熾烈ならしめるに與つて力があつた。大學に於ては、不滿
を抱く貴族黨や財産を失つた貴族の子弟等は概して容易にナチス黨に改宗し、總て彼等の多彩な國旗は數多のナチス祝
典に翻るのが見られるやうになつた。學術的な會堂に於ても彼等は戰闘的な態度を以てナチス黨の原理、理想の擁護を
叫び、獨逸の智的生活の破綻を豫告した。美しい婦人達が而も麗々貴顯の出身にかゝる婦人達が街頭の演壇から群集に
話しかけ、教養ある威嚴を以て、婦人の地位は家庭に在ること、婦人が實業界又は政治界に入ることは婦性を失ふ所以
であることを説いた。併し、最も有效であることを明らかにせられたものは實現を約束された夥しい政綱であつた。こ
の約束は鈍重とも云はるべき程の確信を以て、それが今日明日にでも實現されたかの如くに取扱はれた。かやうにして
ナチスは自分自身に拍車をかけ、同時に他の者の加入を誘つたのである（4d、變化の原理）。

かゝる宣傳により殆んど獨逸全人民の半ばを獲得することができた。工業家の多數が改宗したのは、ヒットラーの
空想的な思想には危懼の念を抱いたが、如何なる形式のものにせよファシズムは資本家の小集團に利益を齎らすといふ
ことを覺つたからである。これに對して、中産階級は雲霞の如くにヒットラーの傘下に集まつた。何故かと云へば、彼
等はヒットラーを以て救世主、彼等を民主主義の混沌から救出すやうに指導する者、インフレーション及びヴェルサイユ
條約の不正に對して復讐する者、彼等に或る種の安全性を保證する者、と考へたのである。農民の参加者はこれに比す

れば少数であつた。併し、一旦参加した者はナチス主義によつて獨逸精神が復興すると信じたのである。労働者階級は概して支持を差控へた。彼等の多数は社會民主黨員であり、ニュー・ハンブリアの任人が共和黨の公認候補者名簿に投票すると同様のやり方で、この黨を支持した。より急進的な労働者は獨逸共產黨に属した。勿論、その或る者は時にはナチスの方に轉籍することもあつた。彼等はナチス運動が、労働者が當然享受すべきものであると考へられてゐる利益を約束してゐること、及びこの目標に到達する近道を提供してゐることを感じたからである。總じて云へば獨逸人は熱心なるナチスにあらざれば熱烈なる反ナチス黨であつた。彼等は全的にナチス黨を支持するか、心の奥底からこれを憎悪した。何れの場合にせよ彼等はナチスを助ける結果になつたのである。何となれば、彼等の支持はナチスの指導者達の勇氣を鼓舞したし、彼等の憎悪はナチスに對する迫害の意識を強め、従つて結合を鞏固にする作用があつたからである。

一九三三年、ヒットラーが現實に政權を掌握したことは彼の力の宣傳のみを以てしては説明し得ない。この宣傳は進路を準備した。この宣傳はブリュニング、ファン・パーベン、ファン・シヨライヘル及び終には老パウ自身さへも存在を認めざるを得ぬやうな強力な政黨を現出せしめた。併し、ナチス主義の最後の勝利は政治的なものであり、この経緯に就いては讀者はカルツ、フーヴァー教授の明快な説明を参照すべきである。^(註3)同時に、全獨逸の情勢の社會心理學的様相があり、その或るものがこの勝利に寄與したのである。

獨逸人は倦怠してゐた。彼等は不況に倦きた。統計的には明るい光線が雲間を割つてゐるやうな状態ではあつたが、不況は依然として好轉を感じさせなかつた。彼等は民主主義に倦きた。それはあまり實現されることのない無限的政治的論争のやうに思はれた。彼等は選挙に倦きた。何故かと云へば、ヒットラーが宰相の印綬を受ける前年には、少くと

も四回の選挙によつて四分五裂の目に會つたからである。彼等は賠償金を支拂はねばならぬと考へることに倦きた(實際には聯合國に支拂つた金額は彼等が借入れた金額よりも少ないのではあるが)。そして一九三一年のフーヴァーのモラトリアムは彼等に、賠償金でさへも神聖なものではなく、鞏固な意思を有する指導が改訂を要求しさえすれば再三に互つて改訂が行はれるものだといふことを覺るに至つた。彼等は又、彼等の政黨に倦きた。特に獨逸の政界に強力な地盤を持ち得た政黨を厭はしく思つた。彼等は、例へば社會民主黨が政略上の大過失を後から後からと積み重ねて行くのを見た。この政黨の指導者達は迅速に社會主義を遂行する勇氣を缺いた。彼等は比較的害の少ないものとしてブリュニングの施政に對して寛容な態度をとり、かくすることによつて暗黙裡に、労働者の利益に反するやうな方針の行はれることを容認したのである。そして彼等は獨逸ファシズムの危険を、最初から認識し損つたのである。共產黨は或る程度ソヴェト・ロシアからの指令を受け、一團の熱心な改宗者とその翼の下に收め得たが、その投票上の力は決して著しい増大を見なかつた——その間、社會民主黨との無用な闘争を繼續することに専念し、ナチスに對して勢力を集中することを怠つたのである。又、中央黨は狭量な保守主義的立場を蟬脱することなく、その指導者達は獨逸の内閣を左右する力を持つてはゐたが、恰かも停止して前進を忘れたかの如き觀があつた。要するに、全獨逸を通じて疲勞困憊の色が漲つてゐたのである。彼等は叫んだ、吾等に秩序と平和を、と。吾々は政治のことを忘れない。何故かと云へば生活、獨逸の生活はその他にもつと澤山のもの吾々に與へてよい筈だから、必要があるなら一切の責任を双肩に負ひ、吾々をして安心して日常の仕事に従事することを得しめるやうな力強い指導者を與へよ。これが彼等の衷心の要求であつた。ヒットラーに對する最も強硬な反對者達さへも、公私の機會を捉へて、あの政治的「跛手」を獨逸の指導者とすべきであるといふ意見を漏すやうになつた。何故かと云へば、一國の指導者となつた嘴には彼は冷靜にならざるを得ぬであらうし、自

身が冷静になれば恐らくは他の戦闘的な連中を冷静にすることもできやう、と考へたからである。ヒンデンブルグに勸めてヒットラーの要求を總て受け容れ、彼を宰相の位置に置かせた人は賢明な人であつたに相違ない。彼等は獨逸がヒットラー出現の爲めに機熟したと覺つたに相違ない。そして實際に獨逸は、又は少くとも獨逸の大部分はヒットラーの出現を待構へるやうな状態に在つたのである。

二、一九三三年以後

ヒットラーが指導者の地位に就くや否や、彼はナチスの宣傳を行動によつて補足することを開始した。この活動は彼の宣傳の範圍と能率とを増大せしめたのみならず、彼をして獨逸人の老大な衆團を彼の指導の下に結合し、全ナチス施政を鞏固にすることを得しめた。何故かと云へば、ヒットラーは獨裁者であり、彼が政權を掌握して後數箇月を出ずして獨逸には彼の政策に疑問を抱くことを敢てする者の跡を斷つに至つたからである。

表面的には、ヒットラーは、彼が權力に向つての上昇を確かな足取りで続けつゝある間、獨逸人に既に存在してゐた態度の緊張を解くことができたのである。併し事實は、彼は毫も冷静にならなかつた。否寧ろ、以前よりも一層熱狂的になつた。フーヴァー教授が述べてゐるやうに、一九三三年四月に行はれた猶太人商人に對する大規模のポイコットは、ヒットラー及び彼の顧問達が仕事を行ふ意志を持つことを意味したのである。何人も身の安全を確信することはできぬやうになつた。總ての人は全體主義國家の理念を受容れねばならぬことになつた。否んば政治犯人收容所に閉ぢ込められるか、追放されるか、簡単に殺されて了ふのである。民衆が猶太人の迫害を要求すると、猶太人の迫害が實際に行はれ、數千の猶太人が國外に追ひやられる。大工業家が労働組合の解消を要求する。忽ちにして或る日の早朝労働組合が解消する。愛國主義者達が獨逸はその國家主權を主張すべきことを要求した。獨逸はそれを主張した。即ち、獨逸は

(278)

淡白に爾後賠償金を支拂ふことを拒み、國際聯盟を脱退し、海陸軍兵力を増加し、徵兵制度を宣することによつて故舊にヴェルサイユ條約を廢棄した。民衆は政黨の論争を終熄させることを要求した。忽ちにして政黨は解消せられ、その記録は沒收され、市民はナチス黨に加入するか或は一切の政治的關係を失ふかの二者何れかを選ぶの他はないことになつた。大衆は外國の、又は非獨逸的な一切の徵候が獨逸國から一掃されることを要求した。嚴密な檢閲が行はれ、書籍は燒却され、凡ゆる交通機關はベルリンによつて統制されることになつた。民衆は獨逸が多くの小地方に分たれてゐる状態の終了を欲した。地方政府は忽ちにして解消された。失業者は仕事を欲した。彼等の或る者は准兵士又は警官として政府に傭はれ、又は労働宿舍に收容された。ナチス黨員は卽ち國家の紋章とし、舊時の黒、白、赤の國旗を復活させることを要求した。卽ち公式の徵章となり王國の徵表は復活した。これ等總てのことは力によつて行はれた。純粹な簡單な力によつて行はれた。併しナチスの領袖達は、純粹な獨逸人の爲めの統一せる幸福な獨逸といふ目的の爲めの一切の手段は當然正當であるといふことを認めることに決して躊躇しなかつた。

而も右の如き行動のみでは不充分だつたのである。反古にされた約束、失敗に歸した政策を蔽ふ爲めには宣傳によつて塵埃の雲を掻き立てねばならなかつた。強化された支配階級によつて擯取されつゝある大衆の注意を轉換させる爲めにも宣傳が必要であつた。ナチスに加入する頃合の者を現實にナチスに加入せしめる爲めのナチス化の宣傳も行はれねばならなかつた。これ等の點に就き、ヒットラーは、若しさうした者があるとするれば、一個の意圖的宣傳家と呼ばれて然るべき者である。人々に影響を與へるといふことに關する限りに於ては、彼の經濟政策の多くに於ては然らずとするも、彼は彼が要求することをよく知つてゐた。そして夙に一九三三年三月十七日には、自ら命令を發して "Ministerium für Volksaufklärung und Propaganda" 即ち人民啓發並びに宣傳省を設け、彼の友人ヨゼフ・ゲッベルス博士を

(279)

その長とした。この命令は、苟くも輿論と何等かの關係のある一切の活動はこの省の下に統轄せられ、そしてこの省はヒットラーのみに對して責任を負ふといふことを、直截に定めてゐる。獨逸の生活の凡ゆる様相が絶對的にその所管の範圍中に含まれ、嘗て他の諸省の管轄に屬したか或は私の團體又は個人に委ねられてゐた諸々の機能にして、新たに成立した省に屬せしめらるべきもの、詳細な表が掲げられた。特にこの省には五局が設けられた。宣傳、ラヂオ、新聞、映畫及び演劇が是である。ヒットラー、ゲッベルス及びその他の獨逸の宣傳家達はこれ等の傳達手段の重要性を認識し、統一獨逸は民衆をして統一獨逸を形成せしむべき堅忍持久の努力によつてのみ齎らし得るといふことを知つてゐたのである。彼等は又、國民の如何なる部分にせよ、又その部分が假令如何に取るに足らぬやうに見えるとしても、それを統御することに失敗すれば、何等かの集團が意圖的又は無意圖的に、ナチス自體に反對な若しくはナチスの宣傳程宜しくない宣傳を行ふことを許すことになり、延いては全面的に悪い結果を及ぼすことを知つてゐた。^(註4)

獨逸に於ける事態の動向はゲッベルスをして手廣い逆宣傳を行ふの餘儀なきに至らしめた。三月の選挙に於けるナチスの政敵を壊滅させる爲めに、多くの人々は、彼又はゲーリング又はナチス黨の要人の誰か、國會議事堂の焼却を企てたといふことを信じ續けてゐる。獨逸に於ける種々な状態がヒットラーの支持者達が豫期した程迅速に改善されなかつたときに、ゲッベルスは統計を呈示して、現實に著しい改善が行はれたことを證明しようとした。又、豪華なベージントンや果敢な對外政策によつて獨逸民族の注意を他に外らすことにも成功を収めた。或る地方の農民が耕作物に對する收益が一向増加しないことを訴へ出たときには、ゲッベルスの手先は、既に他の地方では好景氣になつて來てゐるからその地方も總ては繁榮を見るであらうと云つて慰留した。一九三四年—一九三五年の冬には又しても慘めな經驗をするであらうといふ不安に襲はれたときには、獨逸のかやうな状態は放逐された猶太人の陰謀による世界的壓迫がその原因であ

ると説いた。街頭の人が附加税又は賃銀の引下げの形で犠牲を拂ふことを強制されたことに對しては、この制度に従ふことによつて彼は眞の愛國者たるの本領を發揮し、超獨逸國を築き上げる手助けを行ふことになるのだと説明される。銀行業の改組が行はれたときには「自給自足」が口實とされた。これ等の宣傳に於て用ひられた技巧は次の如きものであつた。即ち、反抗的態度は無視せられ、その代りに一層強力な支配的態度が喚起せられたのである。(7b、逆宣傳に於ける積極的暗示の原則)。

この宣傳の成功の秘訣は公衆啓蒙、宣傳大臣が行使し得る絶對的の權力に存する。ゲッベルスは言つた。輿論の機關は彼がナチス國家主義の讚歌を演奏せしめる鍵盤である。この讚歌が演奏された。そして他の何物も演奏されなかつた。何故かと云へば、ゲッベルスのみが完全な檢閲を行ひ得るからである。獨逸人は他の世界から孤立せしめられた。彼等は宣傳相が見聞させようとするのみを見聞する(6c、限定の原理)。

新聞の自由なるものは最早、毫も存在しない。ナチスはこの概念は陳腐な自由主義又は民主主義の遺物であるとして輕侮の眼を向ける。法令の規定により「アーリアの」血統を引くことを要求されてゐる獨逸の編輯人は、事件の公式筋書に掲載し、ナチスの通達を報道することを要する。これに違背すれば免職、投獄の憂目を見ることになる。外國からの引用は故意に改竄せられ、そして實際上は、これを是正し得る能力を有する者は獨逸にはゐないのである。それ故に多くの獨逸人は、地方的及び外國の事情に關して正確な知識を持ち續ける爲めに外國の新聞を購讀する。^(註5)ゲッベルスはそれを見て苦蟲を噛んだやうな顔をする。又或は、ナチスが嘲笑的に「語られたる新聞」と呼んでゐるものに頼らうとする。そして、第三帝國の下に於て發行せられた書物をそれとなく取上げて見ても、それ等の書物が總て政治的に中立であるか又は紛れもないナチスの後押しであることを知り得る。

ラヂオの利用に於てナチスは最も巧妙であつた。何故かならば、彼等は、適宜な統制を行ひさへすればラヂオの影響は新聞の次よりも遙かに大であり得ることを知つてゐるからである。ゲッベルス博士讃仰者の一人は卒直に、この傳達手段は單に娯樂を提供することを目的とする演劇人によつて行はれずして政治家によつて利用されねばならぬと述べてゐる。この人の推理は明確であると同時にぶつきら棒である。

「多年に亘りラヂオの改革が論議されてゐるに拘はらず眞に決定的な、即ち政治的な見解が未だ嘗て前景に乗り出して來ぬことは恥づべきである。政治は生活である。それ故に「非政治的」ラヂオに關する總てのゴシップは實は煽動に他ならず、輿論の域に介入することを排すべきものである。」

「ラヂオは政治的であらねばならぬ。然り而してそれは唯一の政策を反映すべきものであり、それは現に指導者たる政治家の政策に他ならぬ。」^(註6)

かくして日曜日を除き、總ての放送局は毎夜「國民の時間」と稱するものを放送する。プログラムの多くは優秀な音樂を提供するが、それは勿論、嚴密に獨逸的な作曲家の手に成つたものである。而もこれ等の音樂には前以て解説を附し、その解説はアメリカの商業的「放送」に酷似する。加之、ナチス黨の領袖達は屢々豫定された番組を變更し、その代りに演説を放送した。かやうにして彼等は、音樂を聴く爲めにスイッチを入れた人々を政治的目的の爲めに利用したのである(2ル、補助的態の知覺原理)。この「國民の時間」の外、獨逸の放送の種の様相も亦注意に價するものがある。夥しい數の擴聲器が空中を占據し、獨逸の軍備、歴史、失はれたる領土、ナチス社會政策、婦人の新地位等に關して頻りに放送が行はれる。或るクリスマス・プログラムの於ては、聖ニコラスの口を藉りて、突撃隊員を父とする子供は贈物を受けるが、父親が突撃隊員にあらざる兒童はクリスマス・イブに見落されるかも知れぬ、といふ放送が

行はれた。獨逸のアナウンサーは不斷に獨逸及びナチス領袖に對する讚辭を積み重ねる。そしてナチスの敵は粗野な、露骨な言葉で攻撃される。ニュース放送は新制度の讀般の活動状態に重點を置き、事ある毎にフランスその他の世界に對する非難的な評論を放送する。その他の事件は慎重な檢閲を経て放送される。「失業者の時間」もあり、その時間には失業者も老兵も共に熱心にヒットラーを支持することが示された。ヒットラーを以て神の新たな使徒とする牧師達の説教が送られる。突撃隊員の組織する弦樂四重奏がある。ヒットラーの生活とナチス運動とを劇化するラヂオ・スケッチがある。加之、人民は、地方の放送局を通じて重要な政治演説を聴取する爲めに廉價なラヂオ・セットを購ふことを奨励される。國內の多くの場所に於ては、これ等のセットは餘りに微力にして外國放送局の放送を聴取し得ない。何等かの特殊な事件の際には擴聲器は重要地點に備へつけられ、ラヂオ商人は形ばかりの料金を聴取器を貸貸する。

ナチスの宣傳は獨逸人の生活の凡ゆる方面に亘つて浸潤する。學校ではナチスの宇宙觀が講義される。放課時間には獨逸少年の多數は種々なナチス團體に所屬し、そこで健全な娯樂、宣傳及び少年期の軍事教練等の混合を授けられる。ナチス黨自體及びその種々な派生の他に、政治的並びに社交的な俱樂部が全國に散在する。善良なるナチス黨學生のみを大學に入學せしめようといふ計畫が企てられたこともあつた。教授達は講義を始めるに先立つて「ハイル・ヒットラー」を唱へねばならず、又、獨逸人は手紙の末尾に「ハイル・ヒットラー」と記すことを勸奨された。より普遍的なラヂオン文字に代へて獨逸風の文字を用ひることが奨励された。劇場及びその所屬員は注意深く詮衡される。音樂會のプログラムも異常な慎重さを以て選擇されねばならない。何故かならば、或るナチス黨員の言ふところによれば、

「黒人のジ・ズがベイトーウィンの交響樂と同様に感覺される筈はない。音樂を通じ、意識下の状態で睡つてゐる人種の力、血の勢力が深い影響を與へられるからである。」^(註7)

右に述べたやうな宣傳はナチスの制度を維持し、新たな改革者を獲得する爲めに行はれたものである。それ以外の計畫は獨逸人が持つ普遍性の印象を補強することを目的とする。彼等は言、猶太人又は共產主義者に及ぶ毎に統一感を経験する。何故かと云へば、獨逸國內に於て猶太人及び共產主義者は殆んど完全に絶滅されてゐるに拘はらず、彼等は依然として潜在的敵と考へられてゐるからである。頻繁に行はれる大集會は具體的に、ヒットラーの背後には獨逸國民があることを證明する。ナチス主義を助長する爲めには如何なる機會も疎そかにされない。ヒンデルブルグの葬儀さへも舊時のスカンデナヴィアの神々に相應はしいやうなナチスのお祭り騒ぎと化したのである。而もこの宣傳の背後には力の威嚇がある。かくして獨逸人は、ベルリンに在る少數の者が命令することを「自發的に」受け容れねばならぬこと、若しこれに違背すれば恐るべき結果を招來すること、をいとも正直に信するやうになつたのである。

獨逸人の態度を變更する爲めのこの組織的な計畫の總ての上にヒットラー自身の姿が立つてゐる。彼は新獨逸國、第三帝國の象徴となつた。彼の言は表面上は、眞實のみを語り得る豫言者の言葉である。現時の獨逸の國家主義的情熱の一切は彼及び彼の言を中心として動いてゐる。この情熱はザールにまでも擴がり、そこに居住する明瞭に獨逸系に屬する人々は進んで——そしてよく組織された宣傳の助けにより——ベルリンからの一切の指令に服従することを承諾するに至つた。世界の他の部分が到底考へることのできぬ程多數の獨逸人が、ナチスの宣傳によつて全く舊態を一新した。多くの場合に於て彼等の中心的態度は今やナチス主義に對する態度であり、この態度を最も有効に喚起し得る刺戟情勢は指導者である。されば、近時の獨逸が獨逸人自身にとつても、又旅行者にとつても、秩序の整つた平和的な國のやうに眼に映することは訝しむに足りない。人民は秩序を整へ、平和的にならざるを得ない。何故かと云へば、他の方向は許されないからである。この秩序と平和とは力と宣傳とによつて齎らされたものである。それは秩序であり、平和であ

り、そして大戦後の獨逸人は秩序と平和とを求めてゐたのである。現下に在る獨逸のこの状態には疑問の餘地がない。併しその現實性と持続性とに關しては重大な疑懼を抱くことができる。否、抱かねばならない。

三、米國に於けるナチス

獨逸人達はヒットラーの糾合に應じたし、又、應ぜざるを得なかつたが、獨逸以外の世界はナチスに對して至極冷淡な態度を採つた。何故かと云へば、獨逸人にあらざる者は非獨逸的の態度を持ち、そして非獨逸的の態度を以てしてヒットラーの戰術は到底理解できないし、且、唾棄すべきものと思はれたのである。夫々の愛國心、不寛容と迫害に對する憎惡、自由の信仰、民主主義又は社會主義の愛好、その他の多くの態度は、第三帝國が他の民族に於て喚起したものであつた。かやうな態度は、その態度を持つ人々がヒットラーがナチスに對する理解を求めて絶叫してゐることに對して好感を抱くことを妨げた。その結果は殆んど無限とも云ふべき程の反ヒットラーの集會や文獻、獨逸の製品に對するボイコットであつた。かゝる情勢に於てはヒットラー及び彼の輩下の逆宣傳が効果を收めることは實際的に不可能であつた。何故かと云へばゲッベルス氏は全世界の傳達機關を統制し得る譯ではなく、而も事實といふものは、嚴重な檢閲によつて堰かれねば漏れ易いといふ、具合の悪い習慣を持つからである。

非アメリカ的活動委員會は、獨逸人が公式非公式に、アメリカに宣傳を流布することを企てゝゐたといふことに就いての、可成りの分量の證據を集め得たらしい。^(註8)例へば、ナチスがアメリカ在住の獨逸系の人々に對して、完全な統制組織を擴張しようと企てたことに就いては疑問の餘地がない。頗る神秘的な人物、ハインツ・スパンクネーベルはナチス擁護の團體「新獨逸の友」を組織する爲めに米國に來た者と思はれるが、後に、米國の聯邦逮捕狀が彼に對して發せられるに及んで何處ともなく影を潜めた(證人の言に據れば、彼は「本國からの命令に従はなかつた爲めに」ゲッベルスの

手先によつて誘拐されたといふ。彼はこの種の集中的運動に最も貢献あつた一人である。「友」の團體を組織した以外に、スペインクネーベルは「新獨逸」^{Neue Deutsche Zeitung}と稱する新聞紙をも發行した。この新聞には英語版もあつた。この新聞は明瞭にグッベルスの省から補助金を貰つてゐたし、獨逸の旅行業内局及びハンブルグ・アメリカン・ライン並びに北獨逸ロイドの二汽船會社の廣告を通じて間接の補助を受けてゐたことも認められてゐる。後に「新獨逸」は別の出版人に一弗の代價で賣られ、「獨逸新聞」^{Deutsche Zeitung}と名を改めてヒットラー政府に對する熱心な支持を行つた。新聞人としてアメリカに在つて活動してゐた際に、スペインクネーベルは彼の新聞の競争者たる *Die Freiheit* を、廣告収入を無くして了ふぞと威嚇して、取り潰した。又彼は獨逸内の人々に對すると同じやうな嚴格な遣り方で獨逸汽船會社の使用人を組織しようとして企てた。前掲二汽船會社の役員はその實行を承認したがこの計畫は結局實現されずに終つた。最後に彼は、以前には七十幾つかの米獨俱樂部を代表する微力な團體であつたところの統一獨逸協會の政策を變更した。そして彼の支持者は群を成して會合に殺到し、定款を變更する爲めに役員や會員の或る者を放逐する投票を行つた。

新獨逸の友は、ナチス黨や獨逸國自體と同様に、その會員から「アーリア人以外の」者を排除する。一時は米國に在るナチスにして本國の黨本部の命令に服する者は同時に當然「友」であつたが、纏て彼等は獨逸の官憲により、これ等二つの團體の何れかを選択することを強ひられるやうになつた。併しこの區別は全く形式的のものでしかなかつた。例へば、フリッツ・ギンブルといふ者がナチス黨員としての身分を失ふことを欲しないが爲めに「友」の團體を脱退した。而も依然として彼は「友」の會に於ける指導的、活動的分子であつたのである。更に後には彼はナチス黨を脱退して再び「友」の會に入り中西部に於ける領袖となつた。「友」の會が外國からの補助金によつて事業を行つたことに對して非難の眼が向けられ、スペインクネーベルに對して聯邦政府の逮捕狀が發せられるに至つてこの補助金の途が断られた。

「友」は全國を通じて十五に近い地方的組織を擁し、彼等の徽章は卍を米國々旗の上に描いたものである。彼等はナチスの大會を模倣して制服を定めたり行制を行つたりし、種々な「青年」道場を設けた。團體の組織法及びその補助的規則は獨逸に於けるナチス黨の法規に類似し、會員は「指導者」の命令に服従することを強いられた。これ等の「指導者」の或る者は、彼等の新しい新アメリカ主義が「友」の獨逸的目的と抵觸するに至つたときにはその地位を奪はれた。米國に於ては今日ナチス黨は殆んど全く解消してゐるが、このナチス黨と「友」との以外に、獨逸政府は「鐵兜」として知られてゐる獨逸老兵のアメリカ支部と直接の關係を持つてゐる。ヒットラーが政權を掌握した後に、鐵兜の地方的指導者は、彼がベルリンから發せられる命令に服従しつゝあることを肯定した。鐵兜は制服を著用して訓練を行ひ、若干の眞銃を以て訓練する。それ等の銃の或るものはニューヨークの國防軍から貸與され、その他、多數の本銃を用ひる。彼等の多くは、外國人であり且つ彼等の或る者は初級の市民證さへも受けてゐないに拘はらず、國防軍の組成員でもあつた。實は、國防軍が町重に彼等の参加を招請したのである。

獨逸に於けるナチスの組織とアメリカに於ける夫とを結ぶ連鎖は獨逸の船舶であつた。二つの獨逸汽船會社の役員達は、彼等が、ニューヨーク港碇泊中の船舶内に於てヒットラー及び「友」の爲めの「祝典」を舉行することを許可した覺えがないことを主張するが、併し事實は動かすことを得ず、ヘンリー・ワード・ビーチャム號から下船した者の證言によれば、「ハイル・ヒットラー」が大氣を揺がし、制服を著けたナチスが埠頭から祝典の會場に向つて行進した、といふのである。税關の監視員は船員たる黨員からの宣傳物件を差押へた。一つの包みにはニューヨークで投函せらるべき數千の書狀が入つてゐた。「友」の役員達は、正規の郵便機關によらずして船員によつて文書を送る方が便宜であると考へることが屢々ある。元ナチス黨員にして現在鐵兜の一員である或る者は如何にして制服が船舶によつて密輸されるか

を説明した。船が港を離れるや否や直ちに秘密な無電が獨逸に向つて打電されるといふことさへ判つてゐるのである。獨逸人の船員又は司厨がこのやうにして聯絡員として働いたといふことは別段驚ろくまでもないことである。何故かと云へば、總ての獨逸船舶は船員中の一人の黨員の統制下に在るナチスの一單位であり、船内には黨の秘密機關もあるし、船が大洋上を航行しつゝあるときには規則的な訓練も行はれるのである。

これ等獨逸的宣傳家に協力する者として獨逸の外交團がある。ルーター大使はこの點に關する非難を否定はしたが、實際の證據は未だ以て大使に對する嫌疑を晴らすに足りない。ニューヨークの牧師、フランシス・ゴッスなる者が反猶太人的パンフレットを頒布し、ニューヨークの獨逸領事は現金を供與してこの仕事を後援し、「無名の友人」といふ形で、獨逸大使館は大使館用の書翰巻を用ひて註問を發した。ギンズブルは獨逸大使館が宣傳映畫の輸入に援助を與へて呉れたと主張する。獨逸新聞の元主筆は大使館氣付でフィルムを受取つたとまで云つた。少くとも一人のナチス突撃隊員は、用務を帯びて米國に渡航するに當り、出發の際、米國に到着したら地方的ナチス事務所又は大使館にその旨を報告すべしといふ訓令を受けたのである。ニューヨークの獨逸領事は現實に、二人のアメリカ人公共關係顧問を、滑稽な程高級で傭入れたのである。

この宣傳の幾何が個人自身の新獨逸に對する態度によつて行はれ、幾何が外國からの組織的壓迫に基づいて行はれたかを判断することは困難である。反アメリカ的活動委員會に於て證言を行つた者の多くが彼等の祖國に對して示された敵意によつて深い困憊を感じ、そして彼等が個人的確信に基づいて米國の朝野に浸潤せる反ヒットラー的感情を緩和しようとして試みたことだけは明らかかやうに思はれる。併し、獨逸に在るナチス黨が、彼等の行動を緩和する爲めに殆んど何等の措置をも取らなかつたといふことには歴然たる證據がある。何故かと云へば、獨逸には「外交局」な

るものがあつてそれが米國に於けるナチス系の團體を統制し、ゲッベルスの官房と協力して、或る證人の云ふところに従へば、新獨逸を創設する爲めに五〇〇弗の寄附を行つたとされてゐるからである。同じ證人は米國に在る獨逸の「手先」は獨逸政府の政策の遂行を助ける爲めに次の如きことを行つたといふ。

「デックスライン氏。云ひ換へれば、或る者が反ナチス、反ヒットラー、反國家社會黨であるといふ意見を吐くと、その者の姓名が獨逸に報告されるのか？」

クルツバ氏。然り。

デ氏。この秘密情報機關が報告するのか？」

ク氏。正に然り。

デ氏。すると獨逸に在る彼の緣故者は何等かの方法によつて處罰されると云ふのか？」

ク氏。自分の経験した通りに。

デ氏。かやうなことは昨年からは行はれてゐたか？」

ク氏。然り。

デ氏。そして今日では一般に行はれてゐるか？」

ク氏。正にその通り。

獨逸の逆宣傳のこの様相は相當露骨であつた。先づ第一に、それは獨逸に於てナチス黨が政權を獲得した際に用ひた技巧の擴張であつた。猶太人と共產主義者とはナチス獨特の激越さで攻撃された。ニューヨークの獨逸人書籍店は反猶太人的書籍、パンフレットを賣り出した。ギンズブルはヘンリー・フォードが嘗て物した反猶太人的文章を、著者の承諾を經

ずして再版、頒布し、その爲めフォードは困惑した。「友」は自己を衛るに敏活であつた。この團體が委員會によつて調査されてゐるときに「ハイル・ヒットラー」の合唱が行はれた。かゝる逆宣傳は獨逸の敵に對して消極的暗示を用ひる爲めの企圖であり(7a)、逆宣傳に於ける消極的暗示の原理)。而もそれは新制度に對する一層の敬意を煽る爲めに役立つたのみだつたのである。第二には、ヒットラーの支持者達がナチス政府に關して世に弘められてゐるとする「虚偽」を否定する爲めに、より消極的な暗示が用ひられた。機會ある毎に誇張された新聞記事を捉へてそれを非難し、記事の奥底に潜む悪意を曝露した。この逆宣傳も一向捗々しい成功を収め得なかつた。何故かと云へば獨逸からのそれを裏切るやうな記事が人々の注意を惹くことを断たなかつたからである。最後に、これ等の團體はヒットラーの施設の善い點を公に知らしめる努力を行つた。彼等は獨逸人民の熱意、特殊なナチスの功績、外國旅行者の持つた好意的印象等に注意を向けさせようと努めた(7b、逆宣傳に於ける積極的暗示の原理)。

この逆宣傳の多くが米國に於て不成功に終つたこと他の理由は、ヒットラーの支持者達が不運な「銀シャツ」と交渉を持つたことに歸せしめることができる。パウル・ハンス・アレクサンダー・フォン・リーエンフェルト・トールなる者が一時に北獨逸ロイド會社を解雇されて、二箇月間自稱アメリカのヒットラー、ウィリアム・D・ペリーの許に雇はれた。その間に彼は過激なパンフレットの播布の手助けをした。その中にはルースヴェルトを攻撃し、彼が和蘭系猶太人を祖先に持つことを指摘するものもあつた。後にトールはフィラデルフィアの汽船會社支店に復歸し、ペリーを二つの獨逸汽船會社の支店支配人に紹介した。この支配人も亦「友」の會員であつた。彼はペリーに名簿を與へたが、その名簿には多數の米國の大學教授の姓名が連ねられてあつた。これ等の教授には銀シャツの出版物が送附されたといふ。この運動に對して彼が財政的援助を行つたか否かは疑問であるが、證言に於ては彼はそれを否定してゐる。トールは又新獨逸及

びニューヨーク市に居住する「白系」ロシア人をして銀シャツ後援に乗り出させようと企てた。加之、「友」は、後の證言によつて誇大妄想狂であることが知れたのであるが、一人の愛蘭青年を彼等の會合に出席せしめ、彼等の爲めに演説を行ふことを許した。又、この青年の經營する愛蘭週報に廣告を載せた。そしてこの週報は「レム・ロック」(愛蘭國華)とを徽章としたのである。

併し、獨逸の逆宣傳が總てかくも露骨であつた譯ではない。獨逸人の團體や個人にして極めて有能なアメリカ人公共關係顧問を備入れ、その忠言を求め、米國輿論の動向を知る手段としようとした者も多數に上つた。

この忠言や情報は潜在的には有用のやうに見えたが、米國新聞紙によつて作り出された印象に對しては捗々しい効果を示さなかつた。獨逸政府自體としては自己の現状を確實に把握してゐたことは明らかである。何故かと云へば、米國をして協力に乗り出すことを強いるが爲めには、米國からの輸入を制限し、米國の實業家又は投資家に對して差別的待遇を行つたからである。

1. 6. 染料工場はアイヴィー・リー及び彼の協力者に年額二五、〇〇〇弗を拂つてその援助を求めた。リー氏は彼の忠言を次のやうに要約した。

「先づ第一に、私は彼等に、彼等が決してアメリカ人を彼等の猶太人取扱に賛成せしめることはできないであらうといふこと、かゝる取扱は全くアメリカ人の性情に適合せぬことであり、アメリカの輿論によつて擁護されることは決してあり得ず、従つてこれを企てることは全然無駄である。」といふことを告げた。

「第二に、ナチスの宣傳めいたことは一切アメリカに於ては禁物であり、決して試みてはならない。アメリカ人はそれをアメリカの社會に騷擾を齎らす行動と見るから、甚だ拙い遣り方である。

「獨逸で苟くも眞に理解せられる唯一の方法は——それにしてそれが米國の同情を齎らし得るとは限らないが、少なくとも正確な理解を齎らす可能性はある——獨逸に存在するアメリカの新聞通信員とより密接な關係をつけることであるといふこと、その上に尙、責任ある獨逸人による獨逸の政策の權威ある解説が能ふ限り廣い範圍で在獨の米國通信員に知らせられ、極めて重要な文書に就いては常にその出所を明らかにしつゝ、在獨通信員の手によつて米國にそれが播布されるやうに取計らねばならぬといふこと」を彼等に教へた。^(註10)

かやうにしてリー氏は明瞭に、獨逸の内政が逆宣傳を不可能ならしめたこと、米國に於ては顯示的宣傳は効果なきこと、問題の解決は米國通信員をして獨逸の新政策に關する有利な報告を送らしめるに在ることを指摘したのである。リー氏に代つてニューヨークに於て獨逸の事務を取扱つたカーター氏は、知名の高官が合衆國を訪問し、ラヂオ放送を行ふことを勧めた。彼は又、合衆國に送られつゝあつた宣傳用の文書を詳細に批評した。リー氏の息子は新たな局面の展開と直接な接觸を保つ爲めに獨逸に留まつた。カーターは彼及びリーの助言が獨逸政府に傳達されることを欲することを平直に認めた。I. G. の繁榮は獨逸政府と極めて密接な關係がある以上、かうした處置を採ることは寧ろ望ましいとしたのである。「又、ナチス訪問者、獨逸外交團の人々がヒトラーに對するアメリカ人の態度に關する彼等自身の印象を本國に傳へたことは勿論である。

アメリカの旅客を獨逸に誘致するといふ問題も亦極めて困難であつた。米國に於ける旅客宣傳はニューヨーク市の「獨逸旅客案内所」によつて指導される。これは獨逸の鐵道によつて支持されてゐる非營利團體である。大戦後五年間といふものはアメリカ人の獨逸に對する數多の敵對的態度と闘ふことが必要であつた。それは闘争的態度を無視し、その代りに新たな態度を置き換へることによつて行はれた(7b、逆宣傳に於ける積極的暗示の原理)。或るパツリア人の指

導により、ボスター、繪畫、パンフレット、映畫のフィルム等がベルリンの中央事務所から全世界に送られた。例へばパンフレットは艶出しをした紙に魅力ある印刷の仕方で作られ、珍らしい面白い寫眞を挿入してある。國內の各地方及び比較的大きな都市は總て別々の折込みに記載されてゐる。そして獨逸の昔ながらの魅力及び外客接待の習慣などを頻りに廣告してゐる。加之、旅客は實際に到らぬところなき優待を受け、そして無意圖的宣傳家として、獨逸に對する讃辭を巷に流布し始めた。かくして案内所は忽ちにして獨逸旅行に對する好意的態度を築き上げることに成功したのである。獨逸といふ國を眼立つやうに盛り立て続け、音楽祭、美術展覽會、博覽會等の年々の特殊な親切を廣告しなへすれば、これ等の關係的態度が補強せられ、少くとも短期にはそれが支配的になるといふ結果を收めることができたのである(6c2、附加的、關係的、既存態度の原理)。

ナチスが獨逸を支配し始めたときに、獨逸旅客案内所は再び、アメリカ人を獨逸旅行に誘致する爲めに逆宣傳を行ふ必要があることを感じた。ジージ・シルヴェスター・ウィレックはミンヘン生れの熱心なアメリカ市民であつたが、大戦後、彼の祖國の米國に於ける評判を好轉させることにも努力を惜まなかつた。この事態に當つて彼は、嘗てマナド政府の爲めにキューバの宣傳事務を取扱つたことのあるカール・ビョア合名會社を十八箇月に亘り、月六千弗の割合で雇傭することを案内所に勧めた。ウィレック自身もこの仕事に参加し、月給一、七五〇弗を給せられ、ビョアの事務所の一案とステングラーとを當てがはれた。案内所長エルンスト・シュミツは、彼の顧問の仕事に「旅行獎勵事業」と呼び、彼等の方策の輪廓を次のやうに記してゐる。

「第一の仕事はハムリン氏といふ人をベルリンに差遣し、ベルリンに事務所を設け、併せて吾々の目的の爲めの資料を準備せしめることであつた。これに附加してカール・ビョア合名會社は吾々の爲めに、旅行案内及び一般的商業案内を

含む雑誌を發行して呉れた。彼等は又、次々に起つて来る種々な問題、折込印刷の發行、折込の内容、吾々の行ふ廣告事務、その他事態に應じて生ずる種々な問題に對して助言を與へて呉れた。^(註1)

ビョア商會のデッキー氏によれば、シュミツ氏が述べてゐる雑誌はもつと廣い目的を有するものである。それは簡單に「獨米經濟時報」と呼ばれ、所謂「獨逸との商業關係改善の爲めの委員會」によつて發行された。この形に於てはこれは一個の隱蔽的宣傳の實例と云はねばならない。何故かと云へば、この委員會なるものを現實に構成するものは、獨逸旅客案内所、獨逸通商局、ライプツヒ商業博覽會、漢米航路、北獨逸ロイド會社等の團體であり、その總てがその正體を隱蔽した方が有效な宣傳を行ひ得ると考へたからである(6a3、宣傳の選擇の原理)。月二回に五千部が出版され、獨逸戰債といつたやうな旅客の問題とは凡そ縁の遠いやうな題目さへも論ぜられた。デッキーは又、時報の送達先に、教會及び國家に關する「友」のパンフレットを配布した。デッキーの部下の一人は熱心にアメリカの新聞紙を閱讀研究した。彼女の報告はデッキーの案内所並びに獨逸新聞に對する勸告の基礎となり、又、その或るものは直接に獨逸の鐵道當局に送られた。デッキーもヴァーレックも共に、同時にニューヨークの獨逸領事に備はれ、ヴァーレックは、彼が在米の獨逸諸官吏と屢々自由の語り合つたことを認めてゐる。

ビョア合名會社との契約が結ばれる以前にも獨逸旅客案内所は決して活動を怠つてゐた譯ではない。その新獨逸に與へた「補助金」に就いては既に述べた。ナチスが政權を掌握した後の最初の新聞種に於ては、獨逸には人が云ふが如き混沌たる状態は存在せぬといふことを簡單に宣言したのみであつた。^(註12)例へば、汽船會社及び旅行會社に長文の書翰を發し、「これ等の風評が全然虚構」であることを主張し、「現在の獨逸政府は決して宣傳家が唱へてゐるやうに、獨裁制の爲めのクーデターによつて成立したものでなく、總ての愛國的アメリカ人の心にとつていとも大切な眞の

民主主義の原理、即ち多數決によつて成立したものである」ことを顧客に告げて欲しいと要求した。併しこれ等の否定は、案内所といふやうな偏つたところから出されたが故に、そしてそれはアメリカの商業に關心を有すること明瞭なる團體によつて弘布されたが故に、かうした偏倚した性質を觀破し得る批判的態度を持つ人々の間に於ては著しい勢威を持ち得なかつたのである。次で案内所は「愉快で親切」と題する魅惑的なビラを發行した。それには旅客案内業としての案内所の名聲を賭けて獨逸旅行が力強く勸誘され、新政府の或る様相によつて好意的な印象を受けたアメリカ人の奇抜な取合せを引用したりなどしてゐる(6a1、積極的、社會的價値の原理)。又、シュミツ氏は汽船會社がバートン・ホームズ及びアメリカ新聞人その他に對して取計つた無料渡航を承認した。何故かと云へば、これ等のアメリカ人達が、ヒットラー黨に改宗して獨逸から歸つて來ることを冀つたからである。

傳統的な廣告を通じてのより廣範圍に亘る要請に於ては、案内所が逆宣傳を當にしなかつたことは明らかである。その代りに、「諸君の町重なる正直な宿主」としての獨逸を宣傳し續けた。加之、一九三三年には、ナチス主義によつて提供される新奇さを、恰かもイントリストがソヴェト制度の獨自性を強調すると同じやり方で、強調した(獨逸の周知の旅客に對する魅力に今や國民の再生といふ魅惑的觀物が付加へられた)。然るに、一九三五年になるとこの訴への調子は餘程緩和されてゐる(歐洲に於て最も興味ある休暇旅行先、獨逸は今日、安價に、より多くの休暇娛樂を提供する)。かゝる廣告は人々の敵對的態度を無視したものである。これはアメリカ人の旅行者の間には尙、獨逸を訪問しようといふ何等かの結合が存在し、この新奇といふ要素によつて附加的、關係的態度が喚起され得るといふことを考へて行はれたのである。かやうな廣告は、ヒットラーの出現以前よりも遙かに大量に現はれたが、獨逸國內に於ける現實の、又は傳へられる事件によつて非友誼的になつた米國に於ては、廣い豫測し得べからざることを範圍に當面せざるを

得なかつたのである。

- 註1. 筆者は一九三〇年から三二年にかけての獨逸潜在の間に次の如き資料を集め、結論に到達したのである。
- 註2. 鐵譯はナチスの公式の出版物 *Das Program der N.S.D.A.P.* edited by Gottfried Feder, pp. 19-21, Munich, 1932. から直接且逐字的になされた。
- 註3. Calvin Hoover, Germany Enters the Third Reich, Chapters IV & V, New York, 1933.
- 註4. ゲッベルス自身の言によれば、「政府は殆んど科學的な正確なものと云ふべきものを以て人民の精神を診斷し、市民に於ける總ての心理學的傾向を知らねばならない。これ等の傾向が處々ところを知りなむときには人民を啓蒙し、人民の意見が正當であればそれを認容せねばならぬ。」(Frankfurter Zeitung, March 25, 1934. より Fritz M. Marx, "Propaganda and Dictatorship," Ann. Amer. Acad. Pol. & Soc. Sci., 1935, v. 179, p. 212. に引用。)
- 註5. 獨逸の諸新聞が單調な一木調子を示し始めたので、新聞紙の賣行は急激に減少の足取りを辿ることになった。Fritz M. Marx, op. cit., pp. 217-218. 參照。
- 註6. Eugen Hickamovsky, Propaganda und Nationale Macht, p. 86, Oldenburg, 1933.
- 註7. Ibid., p. 245.
- 註8. 次に掲げるこれ等活動の要旨は、一九三四年六月五日、ワシントンに於ける七月九-十二日、十月十六-十七日、十一月卅日及び十二月五日、ニューヨーク市に於ける公開審問の證言を輯録した七七四頁の冊子を基礎として物したものである。それは公式下院出版の形式により Investigations of Nazi Propaganda Activities and Investigation of Certain Other Propaganda Activities, House of Representatives, Seventy Third Congress, Second Session, Hearings No. 73-DC-4, No. 73-NY-7, No. 73-NY-12, No. 73-NY-18, 等として公にされた。
- 註9. No. 73-NY-12, pp. 30-31. デイックスタイン氏はこの委員會の副議長であり、クルッパ氏は證人であつた。
- 註10. No. 73-NY-7, p. 178.
- 註11. No. 73-NY-7, p. 211.

(296)

註12. 獨逸旅客案内所の通宣傳をより詳細に亘つて敘述することは不可能である。何故かと云へば、これ等の點を明らかにすべき下院委員會の「證據書類」は公にされなかつたからである。それ故に、茲に掲げる記事は直接に案内所から得たことを基礎として書いたものである。

第十七章 戦争、平和及び宣傳

戦争と平和と宣傳とは極めて密接な關係がある。戦争は平和の所産であり、平和は戦争の所産であり、そして宣傳はこれ等兩者の所産であり、且、その非法律的な親の一人である。これ等三者に就いて同時に語らぬことは、一脚又は二脚で立つ三脚椅子を作らうと試みるやうなものである。

多くの人は近代的宣傳は世界大戰の所産であるといふことを好んで云ふ。この陳腐な事實を支持する爲めに彼等は事々しく種々な事實を羅列する。例へば、宣傳は大戰中に嘗て見ぬ程の廣汎な範圍に使用されたとか、宣傳家は彼等の母國の正しい主張を支援する爲めに訓練を受けたとか、人々は集團的な訴へによつて動かされることに慣れて来たとか、これ等の事實は事實として勿論眞實であり、又は少くとも虚偽ではない。併し、宣傳は戦争があれば必ず附物として行はれた。吾國の宣傳家の多くは一九一四年以前にも可成り効果的な活動を行ひ始めてゐたし、現在有爲な宣傳家の或る者は當時尙ほほんの子供だつたのである。そして、今日の程度に發達した大多數の國家に於て、民衆は柔順なものとして止まることに熱心であつたといふことは、悲劇的な事實のやうに思はれる。戦争を齎らしたと同じ諸條件——交通機關の迅速な擴大、老なる都市社會の勃興、資本家と帝國主義者との間に瀰滿する苦い敵意、經濟的及び政治的な諸々の

(297)

力の暗々裡に強化されたこと……が又、近代的宣傳の進化を促進したと見る方が、より合理的のやうに思はれる。して見れば近代的宣傳と最近の大戦争とは、これ等兩者を共に促進した社會的自體の性質から同時に出現したものと見るべきである。

一、戦争宣傳

茲で戦争宣傳の蒸し返しを管々しく行ふことは無意味である。何故かと云へば、大虐殺の直後に、聯合軍側の宣傳家達自身が、自分達の功績を誇示する爲めに彼等の成功の秘訣を夥しい数の出版物に託して發表した。又、獨逸人達は彼等自身の失敗と、彼等の敵の策謀を眞剣な態度で曝露した。稍々後には没趣味なメンケン時代の暴露戰術者達が登場し、戦争宣傳なるものが「虚偽」を基礎とするものであり、總て恐るべき害悪を齎すものであることを頻りに強調した。最後に、一九二〇年代の末期には、より地道な著述が現はれた。それ故に讀者は詳細に就いては特にハロルド・ラッセル Harold Lasswell 教授の著述及びハンス・テンメ Hans Thimme による獨逸側の陳述を参照されたい。^(註1)

併し大戦の宣傳は、宣傳を研究する者に對して、無視し得ないやうな貴重な洞察の夥しい數を提供したのである。米國、英國及び佛國の宣傳が國內に於ても外國に於ても成功したことは、宣傳の所産を組織的に統制するところの強力なる中央組織を有することが如何に重要であるかを如實に證明した。危急存亡の際に何が遂行せらるべきか、そして如何にそれが遂行せらるべきかを正確に知つてゐる何人かゝるなければならぬし、その何人かは、英國に於けるビーゾープルック卿の勢威、米國に於けるジョージ・クリールの經驗を有する者と否とに拘はらず、宣傳の正確な性質を命令せねばならない。聯合國側の宣傳家は自分の國をよく知り、他の國々に就いて俊敏な測定を行ひ得る優秀な者であつた。彼等の大多數は新聞人又は政治家であり、その従前の訓練によつて宣傳の仕事に對する準備がよく整へられてをり、喚起せら

るべき重要な關係的態度を發見し得る能力を持つてゐた。

これに反して獨逸の宣傳は、獨逸が東部及び西部の戦線に於て勝利を獲得した當時に於てさへ完全に成功はしなかつた。獨逸人は煽り立てられて熱狂の状態に在つたから、寡勢を以て恐るべき多勢に對する戦闘にも耐へたし、經濟的封鎖の苦難も喜んで忍んだのである。然るに彼等の宣傳は肝要の場合に失敗したのである。例へば、米國に在る獨逸の代表者は、米國が聯合國に加擔して戦争に参加するに先立つて、米國人を聯合國側から乖離せしめる爲めの努力が拙なかつた。かゝる情勢に於ては彼等は英國が用ひたやうな隱蔽的宣傳に依るべきであつた。獨逸人が失敗したのは彼等が餘りに素朴だつたからである。即ち、彼等は戦争の勝敗は殆んど全く軍事作戦如何に依ると考へ、従つて彼等は宣傳を閑却する傾向があつた。彼等は中央新聞局を設けて彼等の宣傳を統制しようといふ煮へ切らぬ態度をとり、ベルギー人及び占領地の住民の爲めに佛國新聞を發行することさへしたのであるが、概して、宣傳の仕事は軍隊關係の人達に委ねた。ところが軍人といふものは一般には微妙な技巧には不向きなものである。軍隊的イデオロギーを持つたこれ等の役員達には、故意の虚偽は考へるだに唾棄すべきことと思はれ、到底理解がでなかつた。例へば、ラッセル教授は、或るプロシヤの將校が、佛國に於て間諜行爲の爲め銃殺された獨逸看護婦の事件(エディス・カッセルの全く逆の場合)に就いて、非難すべき點を發見することを拒んだといふ實例を語つてゐる。「何?抗議する?フランス人は彼等を銃殺すべき完全な権利を持つてはいないか!」と叫んだといふ。^(註2)

一旦、自國の愛國者の精神を昂揚せしめるとか、敵軍の士氣を沮喪せしめるとか、中立國を味方に引入れるとかいふ目的が決した以上は、一切の傳達手段を擧げてその目的の爲めに向けることができる。最初からして、戦争宣傳——少なくとも國內を目的とする宣傳——が成功するといふことは豫想できるのである。何故かと云へば、實際には何人も敵

側の逆宣傳によつて影響される機会を持たないからである。宣傳家は民衆の支配的態度を知悉してをり、彼の心の奥底で、そして彼の事務所の奥まつた所から、これ等の態度を喚起すべきステロ版を作り上げる爲めに出来る限りの有效な刺戟情勢を工夫しよへすればよかつたのである。

人々が赤兒や婦女が殺戮された話を好まないならば、敵が正しくかゝる殘虐な行爲を行つてゐることを宣傳し、それを證明する爲めに何枚かの寫眞を作り上げればよい。若し獨逸系米國人が彼等の以前の仲間を母國に於て殺害することの手傳ひを拒むならば、戰爭は實にこれ等の同胞を殘忍な専制主義から救ひ出す爲めに行はれつゝあるのだと答へるがよい。若し支那人が死者を尊敬し、そして諸君が支那人を味方に引入れようと望むならば、獨逸人は死體から石鹼を製造すると支那人に告げたらよい。若し社會主義者が戰爭とは資本主義的争奪の一つであると主張するならば、眞の民主主義が凱歌を奏する以前にプロシヤ主義を毀滅せねばならないと告げたらよい。若し獨逸人が米國の參戰によつて動搖の色を示すならば、獨逸人としては、近代的シ、イロクであるアンクル・サムは單に彼の國の實業家達が英國に投資した資本を保護しようとして試みてゐるばかりだと同胞に告げたらよい。若し宗教人が基督の誠の一つに背くことを拒むならば、これ等の信心深い人々に對しては、新聞紙上に現はれた最近の勝利は神が諸君の側に加護を垂れ給ふことの證據であると脱げばよい。若し諸君が戰勝によつて士氣を鼓舞しようとして欲し、而も生憎と戰勝がなければ、敗戦に口を拭ひ、口授器で勝利を創作すればよい。若し敵軍兵士をして彼等の親なる家族が絶望に瀕してゐることを覺らしめようと欲するならば、意氣銷沈した人々が書きさうな手紙を作り、それを翻譯し、印刷し、擲彈筒により、又は飛行機若しくは氣球によつて兵士の間に播布すればよい。かゝる種類の宣傳の範圍は宣傳家の才能によつて制限されるのみである。そして彼等は卓越した才能を持つてゐた。戰爭宣傳は、歪曲、捏造及び抑壓(6d、局限の原理)によつて人々の支配

的態度(4a、關係的、支配的態度の原理)を喚起しようといふ野心的な企てであつた。各國の宣傳家は統制されてをり、彼等が自己の正體を隠蔽すると「情報委員會」に屬する者であることを公表するとを問はず、彼等は勢威を有し、彼等の手先は勢威を有した(6a1、積極的社會的價値の原理)。この宣傳を受取る方の側の人々は彼等の聞いたり讀んだりすることの眞偽を確かめるべき立場に居らぬことを常とした。されば、宣傳家は單に矛盾撞著の尻尾を掴まれぬやうに心懸けさへすればよいのであり、一方、國の防禦力は、敵がこの宣傳家の陳述に矛盾するやうな行動に出ることを防止し、又は防止しようと努めたのである。聯合國側は獨逸の墮壞を痛めつけるに巧みであつたと同時に、彼等の心理的堡壘を崩すことにも巧妙であつた。獨逸人が祖國の必勝に對するステロ版を失ひ始め、彼等自身の支配者に對して消極的態度を持つやうになり始めたのは、一部は協商側の宣傳に因る。

或る時期が経過した後、そしてその時期の間の戰爭の進行によつて人々が動かされた後に、宣傳家は彼等の宣傳が比較的熱心に受け容れられたことを知つた。何故かと云ふと、その頃になつてステロ版とそれに伴ふ態度とが出現し、人々は彼等が信するやうになつたことを確かめることを求めたからである。殘虐な物語りは歓迎を受け、戰線に於ける少年達の勇敢な行爲は無意識の裡に誇張して傳へられた。かやうにして戰時の態度は、宣傳家と各個人自身との双方によつて補強された(6c、補強の原理)。

多くの國家が極めて鞏固に組織された集團となることができたのは戰爭の際にであつた。宣傳により、愛國者達は彼等の傳統、彼等の習慣及び彼等の責任を知らしめられた。國家的象徴や國家的スローガンが貴重なものになつた。人々は彼等の政府が重大危局を切り抜ける丈の力を有する強力な組織であるといふことを信することを強いられた。これ等、國內的統一を確保する爲めの努力の上には、久しい時代を通じての刻苦艱難の結果獲得された一切の文明の證據を

壊滅しようとしつゝある獸畜によつて組織されるところの、これ亦同様に統一された敵國の姿が、重ねて焼き付けられてゐた。市民はこの仇敵に對して一つの普遍的態度を持つた。即ち、彼等は個々の敵人と闘つてゐるのではなく、宣傳家によつて作り上げられた厭ふべき架空的集團の抵抗を押し切つて永遠的價値を保存しようと努力しつゝあつたのである。善き目的の爲めに戦つてゐるのだといふ感じが、彼等の多數の内なる中心的態度に訴へるところがあつた。彼等自身の不調節はより高い目的によつて抑壓され、又は統合された。共同の敵も亦、社會的刺戟情勢であることが判つた。これによつて各人は、他の總ての人が彼と同じやうに考へ、同じやうに感じてゐることを信ずることができた。換言すれば、普遍性の印象を経験することができたのである。國家主義のステロ版は一層具體的、内面的、有意義になつた。統一された集團といふ状態に於ては、人々は一層服従的になり、それに應じて宣傳は一層有效になつた。

戦争中現實に起つた事件さへも、それが宣傳家によつて解釋されないと意味を持たぬやうになつた。例へば、ルシタニア號が獨逸の潜水艇によつて爆沈されたといふことにより、英國の米國に於ける宣傳は、英帝國の戦争理由を非公式な接觸に於て弘める爲めに米國に集つて來た英國の知名の士や皇室の人々よりも一層力強く促進されたことは大體確實であらう。この場合に於ても獨逸人は運鈍であつた。何故かと云へば、彼等がルシタニアの航海に先立つて充分な警告を與へたこと、及びこの英國客船が聯合國の爲めに軍需品を搭載してゐたこと、の證據を獨逸側で抑へてゐたからである。

内國新聞紙上に現はれる勝利の報道の連続は少し時日を経過すれば信じ得べからざることのやうな響きを持ち、従つて一般の報道がその勢威を失ふやうな危険がある。その爲め、聯合國側の宣傳家は退却の記事をも公にした。併しかうした退却は眞に「戰術的退却」と呼ばれるか、或は獨逸軍が行つた、若しくは將に行はうとしつゝある退却に較べれば

取るに足りぬとされるかした。これに反して獨逸の宣傳は勝利の連續を要求し、敗戦の記事を毫も公にしない。何故かと云へば、最初には、獨逸人は、クリスマスまではパリを奪取するといふ約束を與へられたからである。然るに、聯合國軍が徐々に佛國の失地を回復し始め、カイゼルの軍隊の退却のニュースが漸次獨逸の方に這ひ込んで來るやうになつては、宣傳預言者は最早敬意を拂はれぬやうになつて了つた。これは致命的な失敗だつたと云ひ得る。獨逸人に對して與へられた態度は佛國內でその緊張感から解放され得るものであつたから、いざそれが駄目と判ると、この士氣の沮喪を取戻す方法は殆んど無いと云つて差支へないのである。一言にして云へば、獨逸の宣傳の極限にまで來て了つたのである。即ち、宣傳は敘述されつゝある現實に刺戟情勢が人々の手に届かぬ所に在るときにそれ等の人々に影響を與へ得るのであるが、現實の情勢が宣傳家が言はふとしてゐることを執拗に裏切つて行く場合には、宣傳は決して奇蹟を起すことはできないのである。

戦争の宣傳の總てが虚偽で固めたものではなかつた。直接の報聞が實質的な結果を齎したことは屢々ある。イタリアが敵を決定することに躊躇してゐた際に、ムッソリーニは聯合國側の新聞紙を發行するやう説得されたと傳へられてゐる。併しこの「説得」が如何なる性質のものであるかは正確に傳へられてはゐない。多くの獨逸兵士は、宣傳パンフレットが約束したコーンビーフの罐詰を食べる爲めに脱走して聯合軍に投じた。アメリカ軍がオーストリア戦線に於てイタリア人に對して與へた補助は、イタリアがアメリカの參戰に對して抱いてゐた懷疑的感情を一掃する爲めに役立つた。年功を経た外交官達の間に結ばれた幾多の秘密條約が、これ等の條約を實施する爲めの盡力が行はれる以前に於てさへも、聯合諸國間の友誼の紐帯を強めたことは疑を容れない。レンスがスキスからロシアへの途次、獨逸を通過する際に乗つた所謂封印車は、この有爲な革命家が祖國に歸還することを可能ならしめ、ケレンスキー施政の崩壊を齎らす

ことを可能ならしめた。かやうにして獨逸はロシアと平和條約を締結する爲めにロシア國內の革命を促進せしめたのである。かやうな例はラッスヴェル教授その他、宣傳を漠然として心理的範圍に限定しようとする人達には宣傳と呼ばれないかも知れない。併し、かやうな事實はより包括的な口頭の宣傳戦と極めて密接に關聯してゐるから、筆者の見解としては、これ等の事實の社會的效果を「此の如きものとしての」宣傳と呼ばれてゐるものから區別しようとする試みは無益の業である。

二、兵器製造業者

國家的宣傳は休戦と同時に終了しなかつた。平和時代の到來は宣傳が他の形をとり、以前とは稍々異なる目的の爲めに行はれるやうになつたといふことを意味するに過ぎなかつた。米國は赤色又は桃色の傾向ある一切のものに對して、戦後の酒宴とも云ひ得る程の大規模な抑壓を行つた。フランスは大陸にその萌芽を見せ始めた。佛國は「國防」の爲めに高税を課した。ヴェルサイユ條約の副産物たる歐洲の群小諸國は自己主張を開始し、それ等が他の總ての國家とは異なるものであることを證明し始めた。そして世界の凡ゆる國の政府は、國家主義の見地から、交通傳達の一切の機關を擧げて以前よりも一層廣く獨占、統制するやうになつた。^(註3)「平和」は一つの心理學的ハンディキャップを持つてスタートした。即ち、戦争の態度はこびりついてをり、何等かの他の路を通じて解放されることを要求した。恐らくはソヴエト・ロシアを除いては、如何なる國家もウィリアム・ジームスの「戦争の道德的等價物」(Moral Equivalent of War) を發見することができなかつた。解決の方法は、過去のことは忘れ、次の戦争の爲めの宣傳を準備し、遂行することに在るやうに見えた。

然るに、今日に於てさへ尙、新たな宣傳に屬することを拒む者がある。彼等は眞面目腐つて云ふ。過ぎにし大戦は戦

慄すべきものであつた。次の戦争は一層恐るべきものであらう。戦争は何ものをも齎らさない。唯、或る者は感動に浸り、或る者は血に浸り、或る者は莫大な利益を収め、多くの者は一層貧窮に陥るのみである。一言にして云へば、戦争は悪である。それ故に吾人は戦争を行つてはならない。吾々は平和主義者となり、平和の爲めに闘争的な活動を行はねばならぬ。實は、戦争に反對することは宗教人及び婦人の俱樂部等の間に見られる流行でしかない。

これ等の熱心なる平和主義者その他の者は近時に至つてやつと材木置場に隠れてゐた悪の帳本人を發見し、それを暴露した。そして彼を暴露し続けようとしてゐる。これ即ち兵器製造業者である。何故かと云へば、どんな子供でも知つてゐるやうに、戦争は無烟火薬、銃弾、大砲、砲彈、毒瓦斯等がなければ行はれ得ないからである。これ等の品物を供給する者は正に兵器製造業者であり、それ故に、彼が戦争の原因であると論ぜられるのである。上院の兵器委員会の推奨に價する調査に照し、今までに確かめられた事實を擧げてこの惡漢の役割を考察することにしよう。^(註4)

平和主義者や通信的評論の筆者が主張するやうに、兵器製造業者が實務家であることは事實である。彼は能ふ限り澤山のものを賣ることを欲し、そして殺戮の器械を賣るといふ仕事に通常の事業の方法を適用する。例へば、上院委員会の發見したところによれば、南米に於ける兵器販賣外交員は、政府との署名入り契約書を得る爲めには屢々官吏に贈賄する必要に迫られるといふ。かゝる發見は、アメリカの實業家が聯邦政府との取引に於て或る場合には同様の不正行爲に出ることがあることを知悉するアメリカ人にとつては別段驚ろくべきことではない。南米に於ては何にあれ、取引が行はれる前には、それが自動車であれ、煙草であれ、石鹼であれ、塗料であれ、曳光彈であれ、買手にならうとする者は愛想の良いことを要求する。彼は外交員の懇應を欲する。「コンミッション」を要求さへもする。贈賄は決して「死の商人」のみに限らないのである。

兵器の供給者は、製造業者なると、仲買人なると、更にその下の仲介業者なるとを問はず總て、常に世界の動きを熱心に見守る。彼は潜伏してゐる戦争を見張つてゐる。何故ならば潜伏的戦争は彼にとつては商賣を意味するからである。彼自身又は彼の代表者の一人は廣く世界を旅行する。併しこの種の知識は如何なる事業に於ても必要である。多くの武器製造業者は彼等の顧客に勧めて、銃器彈藥に支拂ふ爲めの資金を外債募集によつて獲得せしめた。彼等の或る者は、自國政府に對する自己の勢力を利用してかゝる外債を實現せしめさへもしたのである。武器販賣者は現金取引を最も望むことは勿論ではあるが、時には、販賣の金融手段として、「補償輸出」といふが如き複雑な方法に同意したこともある。實業家にして、苟くも何人か支拂を實行して呉れるならば、現實に請求書に對して支拂ふ者が何人であるかといふことに深く拘泥する者は稀である。

アメリカの兵器會社が歐洲及び南米の諸國に地方代理店を設けてゐることは人の知るところである。これ等の代理店の中には、専ら兵器のみを取扱ふ所もあれば、他の事業をも兼ねるものもある。又、その或るものは種々の國から輸入した戦具の取合せを賣ることを以て知られ、その中の少數は、競争者同志に當る者の製品を現實に賣つてゐる。代理店がその所在國の政府に對して勢威を有することは大いに望ましい。それ故に、彼等の多くは何等かの勢力ある政府部門と公式の關係を持ち、或は家族的な關係さへも持つた。更により多數の者は元内閣の役人であり、又は元軍人であつた。これ亦、有效なる事業上の技巧に他ならない。如何なる方面の販賣員にせよ、彼の商品を賣る手助けになる友人の數を誇ることに變りはないのである。かゝる實行は説得の應用であり、而も巧妙なる説得である。

アメリカの會社は、潜水艦を賣ると、タンクを賣ると、無烟火藥を賣るとを問はず、外國の會社と協定を行はふとする。これ等の協定は技術上の情報交換、販賣區域の決定、販賣員の共同名簿等を含む。特に、過去に於て米國の敵で

あつた國又は現在アメリカの假想敵國の一である國に在る會社との情報交換は一應は戰慄を催させるやうに見えるが、この慣行及びその他總ての國際的性質を有する協定に含まれてゐる慣行は、商業界の凡ゆる分野に於て當然のこととして行はれてゐることを想起すれば、さして驚ろくに當らない。會社は、重要な製法を外國會社に賣ることは單にこの製法に到達した過程に於て費やした莫大な費用を回收する爲めの手段であると感してゐるかも知れない。そして會社はかく感ずる道徳的權利はなしとするも法律的權利はある。同一國内の又は別の國の會社が武器取引に於ける激甚な競争を減ずる爲めに互に協力することがある。勿論この協力はそれから生ずる利益が明瞭である限りは於てのみ存続するものである。この種の國際的協定は大事業が國境を超越して發達するといふ普遍的傾向が存するといふことを簡単に證明する。それは資本主義的發展の不可避的結果の一つである。

兵器製造業者も亦宣傳を行ふ。彼等は販賣外交の通常の方法で満足しない。或る肝要な點に壓力を與へることによりこれ等の努力を補足せねばならない。彼等は大規模な輿情團體を擁し、議員をして陸海空軍の擴張に投票せしめるやうに運動させる。併しかうした運動方法を用ひるものは他にも保護貿易論者その他幾干といふ團體がある。彼等は少くとも一つの軍備縮少國際會議を分裂せしめるに與つて力があつたといふ。如何なる經濟會議にせよ個別的利益の主張が許されれば、會議は圓滑に進捗することを得ない。彼等は新聞の一部を支配し、人々をして軍國主義的心理状態を持たせようとする。新聞は常に何れかの方向に向つて影響力を持つものである。彼等は彼等自身の目的を促進する爲めに密かに愛國團體を後援する。彼等は彼等に對して好意を有する議員の選舉を助けようとする。彼等は凡ゆる愛國の集會に参加する。直接に彼等の信念を弘布する爲めに自ら書物を發行することもある。かゝる宣傳は勢力ある人々を説得して兵器事業を支援せしめる爲めか(8、説得の原理)又は友誼的選舉區を作り出す爲めである(3、隱蔽的宣傳の原理)。

外國に在る兵器販賣外交員は本國政府又はそれに屬する部門からの積極的支持を受ける。兵器事業と政府との間の關係が比較的緊密な歐洲諸國は公然と彼等に援助を與へる。これに對してアメリカの販賣業者は國務省、商務省、陸軍省、海軍省等から暗々裡の補助を受けたに過ぎない。國務省は一九三二年にこの慣行の廢止を企てたが實際には依然として隠れて行はれてゐるのである。併し、如何なる産業に於ても國旗は取引の後を追ふといふことは人のよく知つてゐることである。商務官なるものは彼等のエネルギーの大部分をアメリカ貿易増進の爲めに捧げるものと考へられてゐるのであるが、彼等にとつては兵器の取引も取引には相違ないのである。彼等がワシントンに送る「商機」報告が齒ブラシに關するものであるか又は催涙瓦斯に關するものであるかは大した相違を來さないものである。陸海軍のアタッシュ達は、彼等が當然兵器業者を後援する資格があるものと考へた。といふのは一面、兵器業者が販賣しつゝある商品に就いては専門家であると考へられたと同時に、彼等の上官は、次に述べるやうに、アメリカの戰時産業を伸長せしむることを明確に希望したからでもある。

兵器製造業者に對する最も苛烈な非難は彼等が現實に戰爭及び戰爭の脅威を「醸成」するといふことである。彼等は米國に於ては、議會が新たな豫算案を審議し初めるに先立つて、國際的緊張感を作り出すやうに新聞社を動かす。又他の國に於ては一群の高官に面會し、假想敵國が軍需品を買込まうとしてゐるといふことを知らせ、従つて當國政府も純然たる「防禦的」立場からも、より大量の兵器を買込むべきだと説く。又、この政府に對し、或る型の武器を使用する「獨占的」權利を約束することももある。然る後に彼等は「さらば」を告げ、次の列車又は便船に乗つて相手國に趨き、そこで同じことを繰り返す。かやうにして彼等は對立する二國の夫々に、各々その國有の愛國的態度を程良く利用して、賣込を行ふことができる。眞に恰憫な販賣方法の他の一例である。バジル・ザラホッフ卿 Basil Zahoroff がこの遣り口

を通俗化して以來、兵器製造業者が十九世紀第四半期及び二十世紀の最初の十年に於ける小競争の或るものを激成し、世界の諸國を狂的な、無益な軍備競争の渦中に巻き込むに與つて力あつたことは否定できぬやうに思はれる。所謂世界戰爭の後には、場所と方法との見境なく武器の賣込を行はふといふ努力は可成り烈しいものがあつた。何故かならば、多くの國、多くの會社が、突然の休戰宣言によつて敵國に對して用ひることのできなくなつた餘剰在庫品を何とかして處分しようといふ企てたからである。大戰後、發明家が近代戰に齎らした著しい變改は、能ふ限り速かに、舊式化した器材を賣却することを必要ならしめた。これ等の兵器にとつて有利な市場は支那と南米とであつた。それは恰かも昨年流行服が今年に割引値段で労働階級に賣られるやうなものであつた（唯、支那人にせよ南米人にせよ割引を享受したことは殆んどないといふだけである）。國と國とを噛み合はすことは屢々經濟的の必要に基づいて行はれた。併し、一層立入つて検討して見れば、双方に賣込むといふこと、亦通常の商業慣行の延長に他ならないのである。例へば自動車外交員が買手の社會的又は經濟的敵手が最近買つたからと云つて買氣を煽ることは普通に行はれてゐることである。この競争心といふ要素がなければ、婦人の流行が數千といふ夥しい數の商人に有利な事業を提供し得る筈はないのである。兵器製造業者の行つてゐることの社會的結果は恐らくはこれよりも遙かに悲しむべきことであるとしても、彼等が個人的不和にあらずして國際的不和を激成してゐるといふことは畢竟するに他の方面の事業に於ける彼等の同僚の遣り口を模倣してゐるに他ならないといふ事實は、事實として残るのである。

最後に、兵器製造業者は、他の製造業者と同様に、不斷にその製品を改良し、又はそれに附屬品を附し、その市場の創設、擴張を心掛ける。例へば、現在に於ては飛行機と高射砲との競争が行はれてゐる。飛行機をして無敵の破壊機械ならしめるかのやうな工夫が發明され、或る會社がこれを後援して懸て廣く販賣される——何れの國にしても常に他の

國に遅れまいとしてゐる。稍々後に、同じ會社又は他の會社が一切の攻撃機の運命を封じ込むかのやうに思はれるところの高射砲を發賣する。その結果として、件の新工夫を航空機に對して實施した諸國はそれを無用なものとして廢棄するか又は、若しも彼等が「安全」感を保持することを欲するならば、少くとも新たな高射砲を買はねばならぬことになる。而も他の製造業者も皆擧つて同様なことを行ふのである。去年の服は、まだ少しも着古してはゐないにも拘はらず、若しその人が流行遅れになるまいとするならば、より新しい型を取換へねばならないのである。

して見れば兵器製造業者が優秀な販賣外交員であり、彼等の販賣外交を補足する爲めに宣傳を用ひることは殆んど疑を容れない。或る南米の國に在るアメリカの牧師が、その兄弟の爲めに催涙瓦斯を賣つたといふことは、單に彼の地位の勢威を資本化したといふだけのことである。支那に在る彼の同僚の一人が聖書や祈禱を弘める傍ら、咳止ドロップや油を賣つてゐなかつたと誰が保し得やう。一番安値で兵器を買ひ込み、一番高い買手にそれを賣込む仲買人の數は、米國に於ては、不況時代に激増した。何故かと云へば、軍備産業は經濟狀態の變化によつてさしたる影響を被らなかつたからである。

けれども、殆んど常に、販賣外交員が賣込み成功する以前に、彼の商品に對する何等かの需要があることを要する。説得者として彼は買手が初めに思つてゐたよりも大量なものを買はしめる力しか持たないことが屢々ある。所期の統合を齎らざうと求める宣傳家は、或る數の關係的態度を既存のものとして持合せてゐる個人に勢力を集中する。彼は先づこれ等の態度を喚起し、次でそれを思ふ方向に指向する。

又、兵器製造業者は彼等が活動するのを見るに熱心である世界に於て活動した。概して、世界の文明國は兵器を需要する。これ等の國々が時々買入れを躊躇することがある。武器會社が最もその説得の効果を擧げ得るのはかうした場

合に於てである。それ故に兵器工業の當面する實際上の問題は二つに要約される。即ち、内國、外國の競争者からの猛烈な競争に應戰すること、自衛の名に於て政府の或る部門からの支持を確保すること、が是である。

經濟的競争と熾烈なる國家主義との結果として、各國はその隣接國からしてよく保護されてゐるといふ感じを持ち度がる。この目的を果す爲めには莫大なる軍需品の供給が何時なりとも間に合ふといふことが必要である。多くの國々、特に中歐及び南米の諸國は、自國の製造工場を設けることによつて兵器製造業者から獨立しようとして企てる——これ等の國々は凡ゆる手段に訴へて外國の軍需品會社を勧誘し、自國內に兵器製造所を設ける爲めに補助を提供せしめようと試みた。他の比較的豊かならざる諸國は自給自足の域には到達すること到底不可能なることを覺り、その大臣は、政府が銃器彈藥の追加買入れを行はんとしつゝあることを、時々公表する。茲に於て世界中の強力な兵器業者間の激烈な競争が開始される。この競争に参加するものは比較的少數の會社に限られてゐる。即ち、英國のアームストロング・ハルカース會社、Armstrong-Vickers、佛國のシナイダー・シュナイダー、デュボワ・スコーダ、スウェーデンのクルップ所有の（？）ボフォールス・ボフォス、日本の三井、アメリカのデュポン・ダブソン及びその傍系會社、レミングトン武器會社 Remington Arms 等である。

上院兵器委員會は一つのセンセーションな事件を摘發した。この事件の裏面に潜む微妙な含蓄は一言に價する。何故かと云へば、兵器賣込戦の中から如何なる出來事を捉へて來ても、それは少くともこの問題全部に瀰漫する本質的な複雑性を示すに足るからである。一九二八年にトルコ政府はその西歐化政策の遂行を決定し、その爲めに高射砲を買込まうと計畫した。高官の若干名は「使節」となり、歐洲諸國を歴訪して種々と物色して歩いた。アメリカの陸海軍に能率の良い製品を供給してゐる或るアメリカの發明家兼製造業者はこの大きな取引のことを聞き込み、直ちにその代表者

をトルコに派遣した。彼は他の歐洲諸國に於て種々の要務を果した後にこのトルコ使節と會見する機会を捉へた。トルコの役員達は彼の言葉によつて大分意を動かしたが、契約書に調印するに先立つて、現物を見度いと要求した。そこでアメリカの遺艦隊の旗艦 S. S. ローレー號 *Palmer* (その艦上にはその裝備の一部分として件の高射砲を積載してゐる) を、地中海を横切つてコンスタンチノープルに回航せしめるやうに話が纏まつた。到着後休暇が與へられた。トルコの役人達は艦上に入り、砲を検査し、然る後に件のアメリカの會社に契約書を渡した。^(註5)コンスタンチノープルに駐在してゐたアメリカの外交官も將校も、この歴史的な事件に當つて、凡ゆる援助も惜まなかつた。

平和主義者と戦争憎悪者とは直ちに、ローレー號が一個の製造業者の爲めの「陳列櫛」にされるとは怪しからんといふ結論に達した。アメリカの金が或る特定の個人の利益の爲めに惜氣もなく費はれたといふのである。併し、かやうな判断を決定するに先立つて、他の種々な要素をも考慮の中に入れることを要する。コンスタンチノープル在住のアメリカ人達はトルコがこの新武器を購入する決意を確定したといふことを知つた。彼等は歐洲に在る競争者達の挑戰的戰術を眼の邊りに見たのである。事實、數週間以前には、或る歐洲の國は單に一隻の旗艦どころではなく全艦隊を擧げてコンスタンチノープルに派遣し、彼等の高射砲の示威を行つた。かやうな事情に於ては、アメリカの官憲がこの契約がアメリカの會社の手に落ちることを衷心から望んだといふことは頗る當然である。苟くも宙に浮いてゐる取引があるならアメリカ人にその利益を収めさせたらよいではないか。而もローレー號はその艦員を訓練する爲めに何れにせよ歐洲諸方を巡航してゐたのである。別段これと云つて決つた日常もなしに巡航するよりも、價值のある川務の爲めにコンスタンチノープルに赴いた方が遙かに有意義ではないか。

加之、陸軍も海軍も、アメリカの兵器製造業者を支持することを彼等の愛國的義務であると考へてゐるのである。他

の國でも行つてゐることだから、米國獨り立ち遅れの姿に陥る譯には行かない。チャコ紛争の爲めに彈丸を供給することにより、アメリカの労働者が就業の機會を得て悪いといふことが何處にあらうか。加之、アメリカは少數の國有兵器廠しか持たない。而も、現に政府によつて動かされてゐるものは比較的能率が低く、米國の平時の要求の一部分を充たし得るに過ぎない。それ故に、私設の軍需品製造業者を凡ゆる方法で奨励する必要があるのである。何故かと云へば、これ等の特定個人はかくすることによつて相當の利益を擧げ、従つてこの事業を繼續する氣持ちも失はなければ、製品を改良する爲めの研究も續けることになるのである。國家危急の際には彼等の工場は殆んど直ちに政府の爲めに役立ち得るのである。要するに、陸軍にせよ海軍にせよ、米國を防衛する爲めに私製の軍需品を利用することができるのである。この理由により、これ等聯邦政府の二省は國內の武器製造業者を奨励するのである。官廳はこれ等の兵器製造業者に製圖や設計書を貸與して外國の註文に應じ易くするやうに取計つてやるのである。又、政府の試験場を名ばかりの料金で貸してやり、彼等の製品をテストすることを許すのである。陸海軍使節を組織して他の國々に軍備の充實を奨めた。

甚だしきに至つては陸海軍の専門家を外國に巡遊して他國の軍備計畫を實現することを助けたことさへ知られてゐる。彼等は私設會社の技術専門家と密接な連絡をとる。その多くは以前に正規の陸海軍又は豫備軍の將校であつた者が多い。かやうにして彼等は貴重なる情報と交換し、特殊な輸出禁止によつて蒙る不利益を免かれる爲めに協力する。大戰が終了して間もない頃、彼等は少くとも一度は、優秀且つ重要な一アメリカ會社に勸めて、兵器製造業から身を引くことを思ひ止まらしめたのである。私設會社に對するこれ等の保護は總て、愛國心の名に於て喜んで行はれたのである。加之、將校の或る者はこれ等の接觸によつて個人的利益をも収めた。政府に雇傭されてゐる間にも顧問料を受取つてゐる者があるし、又或る者は官職を辭して私設事業に於けるより有利な地位に赴いたのである。

それ故に、兵器製造業者は國家的理想によつて動かされずして、利益のみによつて動かされると主張することにより、一切の情勢を片付けて了ふことは無意味である。五に競争し、五に戦意を持つ國々が存在するといふことが一旦認められた以上は、兵器及び兵器製造工場に對する需要はその不可避的な結果である。而して事實、かゝる戦争の危機を孕む國々が歐洲にも、南米にも、極東にも存在するといふことは認めなければならぬのである。そして兵器製造業者がこの需要に對して供給を行ふことは、文房具店が長たらしい記録の用紙を官廳に供給するのと變らぬのである。「大國にしてその金生産の一〇乃至二〇パーセント以上を外國に輸出するものはない」と評價されてゐる。この事實のみを以てしても、軍需品の國內消費が如何に夥しい數量に上るかを窺ふことができるのである。兵器工業は一つの商業的企業である。従つて、現代の凡ゆる商業的企業に於けると同様に、殆んど如何なる手段も、より大なる利益といふ目的によつて正常化される。實は、手段がセンセーションを起し、屢々反感を催さしめたことは、實は、これによつて得らる利益が然く老だつたからなのである。

それ故に、筆者の見解によれば、兵器製造業者は戦争の身替り羊としてこれに全責任を負担せしむべきではない。戦争を齎らすと同じ社會的、政治的並びに經濟的諸條件が人々を驅つてこの特殊な産業部門に携はらしめるのである。或る實業家が一旦兵器製造業に顔を出せば、彼は殆んど自動的に、この事業を他の事業上の經驗に照して考察することは當然である。そして事實「死の商人」が、他の、戦争に關係のない品物と同時に賣ることも屢々あるのである。實業家としては、兵器製造業者は當然その事業の繁榮を圖るであらうし、かくすることによつて彼は直接にも間接にも戦争を促進することになるのである。この手續は武器に對する要求が最初にあつて然る後に初めて循環論法となるのである。需要が販賣員を生み、販賣員は需要を増加せしめやうとし、増加せられたる需要は更に販賣員の數を多くし、

かくして地上の凡ゆる國が餘すところなく武装されるに至るのである。併し、この弊害の根本に在るものは戦争自體を生み出すところの力である。

特定の情勢に限つて觀察した場合に、或る戦争を齎したものが、兵器販賣業者によつて喜んで供給された武器である、といふことが證明せられ得ることは勿論である。中米の或る共和國に於ける少數黨が叛亂を起すことを企てるとする。國際條約に反して、革命側は、その主張の貫徹の爲めに無くてならぬ武器彈藥を手に入れる。併し、叛亂を起さうとしたのは革命側の連中である。兵器販賣業者は單にこの計畫の註文に應じたのみである。

兵器工業は近代的事業の經營法に照して考察するにあらざれば理解し得ないことにより、筆者は、この困惑すべき問題を取扱ふに當つて自由放任の政策がとられねばならぬと云はふとしてゐる者ではない。武装する國家は武器販賣業者より以前に存在したことを認めるとしても、販賣業者は、一旦舞臺に乗り出してからは、國際情勢全體に好ましからざる緊張感を齎らすことに可成り寄與してゐるのである。この理由のみによつても、何等かの形に於ける統制が必要である。

兵器工業に關する法規は次の二つの相互に關聯する事實を無視することを得ない。即ち、諸國家は軍需品の供給を欲するといふこと、及び軍需品の製造業者は特定の一國に限られてゐないといふこと、が是である。例へば、一九三四年の春には、チヤコの紛争を終結させる一つの方法は、米國が自國から或はボリヴィアに或はパラグアイに向つて積み出される武器に對して輸出禁止を宣するに在る、かのやうに見えた。假にこの輸出禁止が「販賣」のみが禁止せられたので「輸出」は禁止されたのではないといふ法律的披道を含まなかつたとしても、國務省がもつと充分に協力したとしても、又、アメリカの輸出法規が全般的に陳腐で絶望的な状態になかつたとしても、この手段によつて紛争を終了させる

ことは到底不可能であつたと思はれる。兵器製造業者自身、彼等と協定を結んでゐる外國同業者に仕事を與へることにより、又はテリーの如き中立國を經由して貨物の積み換へを行ふことによつて、脱法行爲を行ふことができたのである。それにポリツ、アム、パラグアイも戦争を繼續する意志を持ち續けたことは明らかであり、アメリカに武器の供給を仰ぐことが困難であると判つてからは、兩國共に熱心な日本の商人の方向を換へたのである。加之、この種の輸出禁止が兩戦争當事國の何れかを處罰する間接の作用をなすことが屢々ある。現にチ、コ紛争に於ても、米國の輸出禁止令はポリツ、アムよりもパラグアイに對してより大なる困惑を齎らした。といふのは後者が前者よりも海から遠かつたからである。又、革命を起さうとしてゐる人達に對して武器を供給することを禁止することは、この禁止令を宣する國が現状維持を助けるといふことを意味し、この政策が社會的に望ましいか否かは疑問である。

輸出禁止令又はその他の法規に於て、「戦争の用具」(Instruments of War)とは何を意味するかを定義することは極めて困難である。陸軍にせよ海軍にせよ、大砲、彈藥、毒瓦斯その他の無氣味な道具を必要とすることは勿論であるが、食糧、衣服、貨物自動車及び娯樂等のありふれた細々したものを要求するのである。これ等の商品一切に互つて統制を及ぼすことは、恐らくは國際貿易の全機構を瓦解せしめることを意味するのであらう。例へば、最近ナチス政府が「商業用」として購入した多数の航空機が補助的兵器に改造せられ得ること、又は實際に改造されたことに就いては、最早疑問の餘地がない(或は戦闘單位として、或は迅速に軍隊を輸送する手段として)。次に來るべき戦争に於て用ひられるであらうところの殺人的化學製品の大多数は普通の鹽、石炭、水等から造られる。又、彈藥の主要な要素は、多くの有用な平時の製品を生産する爲めに纖維素鹽基を使用する工場、又は肥料の爲めの硝酸鹽を製造する工場からして忽ちに供給を受けることができる。何れの國の政府もこれ等の潜在的武器の統制を敢てするものはあるまいし、恐るべ

き化學的變化を齎らし得るやうなものを考へる知識を統制したり、破壊したりすることに至つては、頭から不可能であると云ふ他はない。

加之、現實を重んずる者は、兵器製造業者がその國の社會生活、政治生活に於て占める重要な地位を資本化して、彼等の利益に反する如き一切の動きを抑止するであらうといふことを、決して忘れてはならない。例へば、米國のデュポン會社に就いて云へば、その無烟火藥からの利益は同じ會社の他の多数の部門から得られる利益に比較すれば取るに足らぬものであるが、この戦争目當の商賣に對して會社が持つ關心は單に感傷的なものではないし、會社全股の事業とこれとは一種の化學的關聯を持つてゐるのである。嘗ての組織化された悲劇の間に會社が懐にした二五、五〇〇、〇〇〇弗といふ莫大な利益によつて會社はその工場を擴張することもできたのであるし、デュネラル・モーターズ、レミングトン武器會社、カーチス・ライト會社等の株を大量に買込むこともできたのである。再び世界的慘劇が起れば、その渦に巻き込まれる諸國が前よりも一層デュポンの化學製品に頼らねばならぬであらうし、そしてそれは會社にとつては決して不幸なことではないであらう。さればこそデュポン會社は、その事業の如何なる部分にせよ、それが脅威を感じた場合には、決してそれを黙過しなかつたし、將來とても黙つて退くことはあるまい。

或る一國に於て、その國に在る一切の兵器工場を撲滅してふと提言することは現世に於て到底實現し得ない計畫を提出することを意味する。何故かと云へば、かやうにして一つの國の武装を解除するといふことは、その國の人民を理論的に危殆な地位に置くことを意味するからである。潜在的危險といふことは一種の神話であるかも知れぬし、又多くの場合、特に米國に關する限りは、それは全く神話として留まつてゐる。併し、神話であるが故に力強い刺戟情勢となることができ、それを通じて陸海軍の利己主義的な願望が、かうした計畫を全然打破る爲めに選舉民及び議員の間に

支配的、關係的、愛國的態度を喚起することもできようといふものである。併し何れの國か先づ軍備縮少を開始せねばならぬと平和主義者や平和團體が叫ぶことは判り切つてゐる——そしてそれは正に眞理である。が俊英な政治家は、彼の貴い祖國が危険を冒すのを無視するに忍びないと抗議するであらう。

政府が兵器事業を行ひ、自分の平時及戦時の需要を充たすやうにすればよいではないかと云ふ人がある。この考へは、兵器事業關係の會社がそれを受け容れさへすれば實行の可能性があるやうに思はれる。かういふ見方を以てすれば兵器工業は又しても公益事業と同じ轍を履むものであり、結局政府の統制に俟たねばならぬことになる。若しこの案が一國のみに於て實行されたとする、その國の兵器製造業者は困窮に陥るであらうし、外國の製造所は一層繁昌することになるであらう。又、政府の統制といふことは一面、陸海軍省の權力を増大するといふことになる。かうした權力は濫用の危険が多分にあるし、それに一體我國の陸海軍省はかゝる工業を管理する能力があるであらうか。かやうな問題は容易に明確な解答を與へ得ぬものではあるが、若し過去に於て政府から絞取られた賄賂や不當利得を絶滅することに方針を決定するとなれば、この問題には可成りの危険性があることを承知してかゝらねばならない。加之、かゝる計畫は、他の國々が同様の處置をとる場合にのみ徹底した効果を發揮することができ。然るに、不幸にして、かやうな協力は現在の世界の仕組みに於ては到底豫期し得ない。若し各國政府が自ら兵器製造を管理し、その輸出を拒むに至れば、軍需品の供給を受けぬ國が多數で上るであらう。かゝる可能性があるといふことはこの提案の中に含まれた本質的缺陷を暴露するものである。何故かと云へば、資本主義に於て、商品の爲めの市場が存在する場合には、各國政府がその國民がこの市場を確保しようとするのを禁止するといふことは到底期待できないからである。政府が或る外國に對して「現金取引」で軍需品を賣ることを認めることによつて妥協をつけるといふことも考へられる。併し、かうするこ

とは、米國が又もや世界的責任から孤立し、而も同時に世界通商による利益を享受しようといふ企てゝゐることになるのである。かゝる計畫は、既に存在する數多の無益なつきはぎに附加して更に一つのつきはぎを行ふことを意味するに過ぎない。

目下(一九三五年六月)論争せられたる計畫の大多數は、又しても戦争の氣運が切迫してをり、この戦争に於ては過ぎにし大戦の場合よりも一層效果的に戦はねばならぬといふ前提を基礎として行はれてゐるやうに見受けられる。

政府は、國防を確保する爲めに、兵器工業に乗り出さねばならぬとされる。今度の危局に當つては私設兵器工業を組織化せねばならない。戦争は戦闘によつて利益を得る大産業及び一定額以上の収入を有する個人に對する重い課税によつて遂行されるものであるが故に、これによつて儲かるやうにせねばならぬ。「戦争から利益を得る」といふ政策の背後に在る心理的希望は次の如きものであるらしい。即ち、私設の兵器製造業者は、彼等が最早流血の慘事によつて利益を得ぬやうになつた場合に、米國が戦争に参加し、又は一旦参加した戦争を何時までも繼續することを欲しない。併し悲しむことには、戦争の興奮自體によつて、脅へ切つた議會が、その平時に宣言した高潔な目的を齟すやうになるかも知れないと云ひ度くなるのである。平和の爲めの或るものに見られる別の特徴は、米國をして歐洲の戦争に巻き込ましめる惧れのある事件の數を減少せしめようと努力することである。即ち、交戦國へ赴く米國市民の旅券は取消さねばならぬ。米國人並びにその貨物は戦争區域に於ては國務省の保護を拒否されねばならない。外國債は不法とされねばならぬ、等である。併し、この種の提案が、偶然の機會に、又は爲めにするところある計畫の結果として、生ずるところの戦争挑發の凡ゆる根源を豫見し得る筈はないのである。

三、平時の宣傳

漸く勢を増しつゝある國家主義の潮流に對し、平和主義者及び平和團體の戰術を觀察することは興味がある。かゝる團體の主要なものとしては米國平和協會 American Peace Society 外交協會 Foreign Policy Association グリーン・インターナショナル Green International 戰爭防止國民評議會 National Council for the Prevention of War 平和自由國際婦人聯盟 Women's International League for Peace and Freedom 戰爭拒否者聯盟 War Resister's League 永久平和世界聯盟 World League for Permanent Peace, the World Peace Foundation, the World Peace Ways 等がある。平和主義者及びこれ等の團體の會員(會員中の若干のみが平和主義者であり、他の者は保守主義者である)はルマルクその他の暴露戰術家の藥を利かされた者であり、一九一四年に始まつた五年間の悲劇を以て體驗した者である、その結果として彼等は戰爭を問題視し、戰爭を遺憾とする。彼等の多くは戰爭が廢止されることを欲する。團體として彼等が遂行しようとして來た目的は、戰爭の慘害と無益に對する輿論を喚起すること、特殊な立法を促進することである。

制度としてこの戰爭の暴露によつて輿論を喚起せねばならない。輕壕生活及び輕壕戰に就いての香ばしからぬ詳細が廣く弘布される。次の國際戰爭に於て豫想される化學戰が強調される。兵器製造業者の役割が劇化される。老年外交官の論争が嘲笑される。戰爭及び軍備の費用と、例へば文教費とが印象的な統計によつて比較される。平和團體の多くは何等かの定期刊行物を發行する。その總ては屢々公の集會を催し、ラヂオのプログラムを編輯する。上院の兵器委員會自體は兵器問題全般に互つてこの關心を喚起したが、平和主義者はこの委員會の調査によつて發見されたことを廣く一般に傳へた。特に「世界平和の道」World Peace Waysは意識的に、近代的教育、廣告、公告及び公の組織の最善の手段の一切を利用しようと企てゝあるものであるが、この團體はブルース・バートンその他の協力を得て平和の爲めの全頁廣告

を出すこと二回に及んだ。この團體は「國內到るところの揭示板によつてその主張を弘めることができたし、ニュース事務及び編輯事務を行つてゐるし、現在多數の大臣に時事問題に關する包括的な事實報告を提供してゐる調査局を擁してゐるし、「世界最大の木」として知られてゐる見世物の木を作り、その中にアメリカ人のその政府に對する平和維持の要求を載せたのもこの團體であり、これ等種々雜多の事業を積極的に援助する意志を有する會員を獲得する爲めに努力を行つてゐる。又、「平和映畫聯盟」"Film League for Peace"と稱するものもある。懸賞論文又はボスターによつて兒童の注意を牽く。大學生その他の者は戰爭に反對して抗議を行ひ、又は「休校」することを勸誘される。

これ等平和團體の或るものはワシントンに、よく組織された運動員を置いてゐる。そして國際協力に對しては贊意を、陸海軍豫算の増加に對しては反對の意見を發表するのであるが、その遣り口は他の陳情團體の夫と大同小異である。時には、反戰論者が米國の專門學校から R. O. T. C. を放逐しようといふ運動を支援したことがあることは人の知るところである。

これ等熱心な人達は又、國際關係の知識を増進せしめることによつて戰爭の蔓延が下火になるであらうと信じてゐる。そして彼等の希望を教育、そして若し能ふべくは國際教育にかけてゐる。例へば國際教育會 Institute of International Education は一九一九年にステファン・P・グッガン教授によつて創設されたものであるが、その目的に就き、次の如き聲明を行つてゐる。

「本會の根柢をなす哲學は民族間の理解の前提は相互の認識に在るといふことである。相互の認識は文學、音樂、藝術、哲學によつても行はれ得るが政治關係に重要な役割を演ずる」。

そこで、國際間の理解を促進する爲めに、この會は「アメリカ人に對して諸外國に關する、そして外國人に對しては

米國に關する、教育及び教化の凡ゆる様相に就いての情報並びに忠告の交換所の役をなしたのである。その爲めにこの教育會が行つた主たる事業は、時報又は單行本を發行し、同種の目的を有する團體と協力し、外國大學に關して相談に應じ、米國の教育視察旅行を行はふとする外國に援助を與へ、米國の諸大學に語學教師を供給する爲めに教師仲介事務を設け、協力提携又は交換教授によつて學生交換に便宜を與へ、學者の世界に於ける非常時に對して救急對策を講ずる、等のことを行つた。加之、協會は數多の外國に於ける同種の團體と提携したが、一個の團體としては自分の宣傳を行なはなかつた。當然考へられることであるが、その寄附金の大部分は同種の理想を有する他の團體、例へばカーネギー團體、ローラ・スベルマン・ロックフェラー紀念財團、カール・シュルツ紀念財團等からのものである。

この平和主義的な、教育的な反戰宣傳が今迄のところでは多くの有效な成果を見てゐないといふことは疑を容れない。併し、この團體は少くとも一つの、部分的には正確な心理的前提を認めたのである。戰爭に對する洞察が反戰といふ所期の統合を齎らすであらうといふことを考へたことが是である(7a、逆宣傳に於ける消極的暗示の原理)。この觀點よりすれば、攻撃の矢を兵器製造業者に集中することは頗る賢明なやり方である。何故かと云へば、私の個人の收入を増加させる爲めに多くの若者達が殺されて行く光景は、狹量なシ・ヴィニズムに對して充分反感を抱かしめるに足りるからである。けれども、この種の逆宣傳は現在の世界に於ては殆んど絶望的である。その敵手、即ち戰爭を促進する力は餘りに強過ぎる。傳達の手段の大部分をその掌中に握り、戰爭の脅威があるか、又は戰爭が勃發した際に、忽ちにして恐るべき宣傳を開始し得るのは實に愛國主義者であつて、平和主義者ではない。戰爭に對する反對の態度を有する強力に組織された少數者の用ひ得る唯一の武器は國家危急の際に戰爭に参加することを現實に拒否し、受動的、能動的な反抗によつて國民の精神状態を悪化させるといふことである。而もこの武器さへも不幸にして頼むに足りない場合が多い。

何故かと云へば、過去の經驗によれば、平和主義者の反對的態度なるものは甚だ斷斷的、不安定なものであり、戰爭宣傳の前に一溜りもなく分解されて了ふことが屢々あるからである。加之、戰爭の體裁のよい方面の記述さへが青年達にとつては魅力であり、戰爭が彼等に齎らす利益(興奮、勢威及び——就中最も重要なものは——仕事)に較べれば反戰論者の説く預々たる弊害などは取るに足らぬやうに思はれるのである。

有效な反戰宣傳は常に戰爭に對する反對の態度を作り出すのみならず、戰爭を生み出すが如き制度に對する反對の態度と、戰爭を生み出すことのない制度に對する好意的態度をも作り出すものでなければならぬ(7a、逆宣傳に於ける積極的暗示の原理)。平和主義者や平和團體が人々に對して教へ込んだところの戰爭の裏面に對する洞察は、國家主義及び資本主義に對する洞察並びに國家主義の數多の様相とは凡そ懸絶したことに對する積極的な熱意にまで擴張せられねばならない。戰爭は單に幾多の人々の生靈を破壊する戦慄すべき物語りと見られないで、全世界を風靡する帝國主義及び侵略主義の不可避的結果であると考へられねばならない。戰爭それ自体に抗爭することは戰爭を廢絶せしめる爲めの有効な方法ではない。生命を脅やかすやうな國家的又は國際的競争を除去し、文化的(國民的にあらず)少數及び多數の權利を認め、より平等なる富の分配を達成した世界秩序に向つて努力を進めることこそ、戰爭自体が影を潜め始める前に達成せらるべき本質的な目的でなければならぬ。戰爭に對する憎悪と社會に對する尊重とを兩つながら含むところのあらゆる普通の態度を有する人々は政府及び兵器製造業者の宣傳家達によつて容易に左右されはしない。かかる態度はこれ等の人々の人格内に於て比較的中心的な地位を占める傾向を有し、従つて肝要な瞬間に分解する危険が少ない(7a、統合の型の原理)。

右の如くにして國際教育會は平和を促進することを目標とする貴重な團體である。學生及び教授の交換を助成するこ

とにより、これ等の人々が、外國に於ける經驗の結果として、國際生活に對する新たな態度を獲得することを希望するのである。若し彼等の態度にかうした新たな傾向が現はれて來れば、彼等は夫々の在住する場所に於て、世界の諸國は協力せねばならぬといふことを他の人々に説得するやうになるであらう(8)、説得の勢成原理)。それ故に、かゝる事業は、極めて廣汎なる豫測し得べからざるこの範圍を伴へる隱蔽的宣傳の、何れかと云へば無害な一例なのである。例へば、外國に於て外國人と直接に接觸するといふことは、必ずその個人をしてその國に對し好意を抱かしめる、といふことは眞理であるか。ストラットン教授は、互によく知り合つてゐる、否、餘りによく知り合つてゐるが爲めに闘争を行ひつゝある國家に對する全般的な觀察により、成長する親密さは單に戦争の可能性を増加するのみであると論結してゐる。(註9)こゝに於て、外國にゐる人の社會的心理の問題が考察されねばならない。この者の既存の態度又は習慣は、彼が訪問しつゝある國に對して好意的に感應せしめることもあらうし、さうでないこともあらう。この點に關して引用されてゐる證據はどちらかと云へば貧弱である。この團體の記録によれば、交換學生はより國際的な傾向を持つやうになつたと同時に、種々な文化的な、奥深い複雑な點は誤解したことも少なくないといふ。併し、友誼的な態度を有する交換學生と雖も決して平和の保障にはならない。この會はこれ等の人々が後には彼等の夫々の居住地に於て、特に教育事業により、及び出版物又は講義を通じて、影響を及ぼしたといふことを證明する材料を提供し得ることは事實である。(註10)而も、それ以外の強力な力の方が、國際關係を形成する上により決定的な作用を及ぼした。例へば、一九二一年から一九三二年にかけて、この團體の後援の下に、米國に於て研究を行つた獨逸人學生の數は千七百八十八名の多きに上り、同じ期間に獨逸に渡つた米國人の數は恐らくはこれよりも多かつた。併し、これ等の人々は水桶の中の一滴の水にも等しいことは、讀者が、この期間に、外國の經驗としては大戦中彼が参加してゐた獨逸軍が佛國領に侵入した時を以て唯一のもの

とするアドルフ・ヒットラーが、確實に彼の運動を進捗させつゝあつたことを想へば、愚半ばに過ぎるものがあるであらう。假に、國際教育會が一世紀に亘つて活動を續けてゐたとしても、ナチス主義は國際的好誼のこの眞摯な構造を地に塗れしめたであらうと筆者は考へるのである。要するに、この團體は少數の人々の間に所期の統合を齎したが、假令これ等の統合が中心の態度であつたとしても——そして勿論さうでなかつたこともある——それによつて招來された社會的效果は殆んどなかつたと云ひ得るのである。

註1. Harold D. Lasswell, Propaganda Technique in the World War, New York, 1927; Hans Thimme, Weltstrategie Ohne Waffen, Stuttgart & Berlin, 1932.

註2. Lasswell, op. cit., p. 32.

註3. O. W. Riegel, Mobilizing for Chaos, esp. Chapters II & III, New York, 1934.

註4. この敘述は公式文書に表はれた上院査問會の記事の極めて概略をよつた。(Hearings Before the Special Committee Investigating the Munitions Industry, Seventy-Third Congress, United States Senate Parts 1-12, Sept. & Dec., 1934.) これ等の文書は併せて三千頁に近く、その後の査問會の聴取書も驚くべき、併し餘りに驚くべきではない、詳細を含んでゐる。勇氣のある、而も有能な人がそれを綜合して發表することも近い將來に行はれるであらう。一九三四年の夏、筆者は調査員の資格で、この委員會に備はれてゐた。

註5. 結局試問は或る歐洲の會社に出された。米國の製造業者が必要な保障を提供し得なかつたからである。

註6. H. C. Engelbrecht, "One Hell of a Business," p. 51, New York, 1934.

註7. この記事は一九三四年の World Peace Ways の年報から直接に引用したものである。

註8. Fourteenth Annual Report of the Director, 1933, Bull. No. 4, p. 4.

註9. George M. Stratton, The Social Psychology of International Relations, pp. 127-134, New York, 1929.

註10. この團體の時報 Theodosia Herliet, A Decade of International Fellowship, 1930, Bull. No. 2.

第五部 宣傳の媒介論

第十八章 新聞紙

今日の發達状態に於けるラヂオは別問題として、新聞紙が近代生活に於ける最も重要な宣傳の媒介物であることは、愚者も賢者も等しく知つてゐることである。共產主義者は自己の新聞を有し、これと敵對する新聞紙をして自己の地位を認識せしめようと努める。宣傳會社は頻りに情報を送附して、如何なる新聞にせよ、それを受領して掲載するやうにさせようとする。無料公告に成功しようとする爲めの一切の努力は新聞讀者の眼を拘かに捉へようとの苦心に向けられる。公共關係顧問はニュースを作り、彼が廣告を引受けた品物が新聞讀者全般によつてよりよく知られるやうにしようとする。陳情團體は、日々新聞に現はれる我等の活動の記事が、輿論を動かさうとの彼等の努力を補強するといふことを知つてゐる。要するに、新聞紙は近代的傳達手段の最たるものである。併し、早晩、新聞の勢力は衰微に趨くのかも知れない。例へば、近代に於ける最も重要な獨裁者の三人は、重要新聞の強い反對があつたにも拘はらず結局政權を掌握した。けれども、レニンも、ムッソリーニも、ヒットラーも^(註1)第四階級の間に支持者を有し、一旦勝利を獲得した後は、彼等の地位を一層安固にする爲めに新聞を利用したのである。

新聞が一つの文化的所産であり、そしてかくの如きものとしてそれが或る特殊な社會的環境若しくはその環境の一部分の反映であることは疑を容れない。實際問題としては、新聞紙がある近代社會の如何なる部分も停止してはゐない。

(326)

従つて如何なる新聞も、意圖的たると無意圖的たるとを問はず、或る觀點を代表する。「或る觀點を代表する」といふことは、パーネース及び共產主義者達が好んで主張するやうに、宣傳を行ふといふことと變りはない。併し、新聞紙が單に社會的環境の反映であるのみならず、同時に社會的環境を變化させようとしてゐるといふことを忘れてはならない。これ等二つの役割は現實には相互に依存する關係を有し、分析の目的を以てする場合のみ分離すべきものである。この章に於ては、宣傳の使用を通じて文化的機構に影響を與へようとするものとして新聞紙を考察することが必要である。

一、新聞に於ける意圖的及び無意圖的宣傳

「藝術を除き、單純な眞理に對する敬意を要求すること新聞事業の如きはない。」「良き報導員とは決して虚偽によつて欺かれぬ人である。」この事實を遂に意識せず終つた人々があつたし、現在でもあるが、新聞界に於て頭角を露した人々の大多數にとつては、右の原理は第一の刺戟的原理であつたのである。^(註2)

この一文は米國の新聞事業の歴史を記述する文章の典型的なものである。これによれば米國の新聞は「眞實」又は「單純な眞實」のみを記述し、全然宣傳によつて煩はされてゐないといふことになる。併しそれは、率直に云へば、全くナンセンスである。

何故かと云へばニュースは何等かの歪曲を含まねばならないからである。一つの傳統的定義ですらもこの意味を込めかしてゐる。即ち、

「ニュースとは新聞がそれを取扱ふに當つて多數の人に興味を與へるやうにして選擇されたものである……ニュースは事件ではない。ニュースは事件を目撃しなかつた人に對して語られる事件の説明である。」^(註3)

(327)

この文の中で重要な句は「事件の説明」といふ句である。「事件の説明」は報導者の描寫を通じての讀者に向つての事件の傳達といふことを意味する。この描寫は當然報導者の人格を反映する。

「絶對の事實を陳述しようとの努力は單に人間には不可能なことを遂行しようとの企てでしかない。事實に對する私の解釋を與へることが私の爲し得る總てである。」^(註4)

或るニュースの斷片が何等かのやり方で偏倚せしめられる理由は無數にある。報導者自身が彼の態度の體系により、觀察者として或る特殊性を有することもあらう。彼が米國新聞の在外代表者である場合には、彼の仕事の範圍に屬する國の一般的氣分によつて無意識裡に影響されてゐるかも知れない。例へば、彼は彼の直接の環境に魅力を感じてゐることもあるであらうし、常に彼の神經を刺戟するその國の特殊な習慣に反感を抱いてゐることもあらう。彼に情報を供給して呉れる外國の官吏との友好關係を持続する爲めには、本國の新聞社から來た電報の或るものを公表することを控へることもあらう。或は、多くの國が今日、外國新聞社の代表者達に課してゐる一定の檢閲制度に従はねばならぬこともあるであらう。何處でも新聞人が持つてゐる例の「ニュースに對する鼻」は彼等をして、公の數字や事件の背後に存する基礎的な力よりも寧ろ煽情的な劇的なものを索めしめる傾向がある。加之、これ等の基礎的な力は探り出すに極めて困難である。何人も大抵の情勢の「事實」を記述することは望んでもできない。況んや新聞人や社會科學者に至つては尙更である。地方からの、又は外國からの電報が終に新聞社の編輯局に回付されて來たとしても、それは「書き換へ、」係りによつて改訂され、且、市内版の手を通過せねばならぬことは確實である。それ故に、この兩者は歪曲の二つの附加的、潜在的源泉を成すのである。又、如何なるニュースと雖も新聞社の政策に歩調を合せることを要する。この政策がハースト系特有の極めて煽動的なものであるか、又はタイムスのやうに「印刷に適する總てのニュース」と云つたや

うな漠然とした簡單なものであるかは問題でない。加之、或る電報通信の重要性はそれ自體の價值によつて判斷されず、その一日中に得られた總てのニュースと比較して評價される。近代の新聞が印刷済みとなるに至るまでの目眩しい程の迅速さの爲めに、新聞紙上に不正確な記事が現はれることは到底完全に防止することはできない。大多數の新聞社は通信社に頼つて仕事をしてゐるのだし、そして通信社はその社員、株主又は直接間接にこれに補助を與へてゐる本國政府の偏見を含んだ通信を提供する傾向がある。所謂ニュースの「客觀的」取扱なるものでさへも、簡單に云へば種々な態度の中の一つの態度を反映してゐるに他ならない。かゝるニュースは單に「眞實」の部分の呈示であり、従つて何等かの形に於ける宣傳である。^(註5)

併し、米國の編輯者又は發行人は彼等が印刷しつゝある宣傳に氣が附いてゐることもあるし、氣が附かぬこともある。彼等は彼等が單純に「事實」を提供しつゝあるものと信じて居り、彼等の徹底的の態度を誇りとしてゐる。この點に關しては、米國の新聞が概して、如何なる歐洲の國の新聞よりも、遙かに優秀であり遙かに正直且良心的であることを直ちに認めなければならない。而も彼等が公衆の趣味と一致する煽情的な物語りや事項を印刷してその發行部數を増加し、同時に廣告者から得る収入を増加しようと企てゐるとき、彼等が意圖的宣傳家となつてゐることは疑を挿む餘地がない。^(註6)例へば、米西戰爭を惹起す爲めに「黄色」新聞が演じた役割は今日では周知知られてゐる。^(註7)新聞は又、危急の場合に、又は大企業若しくは廣告人からの壓迫の結果として意識的にニュースを抑壓する。^(註8)ニューヨーク・ワールド・テレグラムはタマニー・ホールの反對者であるが、この新聞が一九三三年の市會議員選舉を前に控へて「大審院の抵當流れの物の拂下げを受ける者の六人の中五人までは政治團體と緊密な聯絡がある」(タマニーの悪辣な遣り口の指摘)と云ふことを特種としたこと、或は或る事件の標題として「ベリー税制研究に出發、市の費用二、五〇〇弗」(當時タマ

ニ一の役員が如何に公費を濫用したかの證據^(註9)と掲げたとき、編輯人が、彼がタマニ一に對して行ひつゝあつた反對宣傳を充分意識してゐたことは疑を容れない。併し、この同じ編輯人が、自分の意見と關係なく、アメリカ・イアハートのハソイ、カリフォルニア間の飛行の記事を掲げ、かくすることによつて或るハソイの事業の爲めに汎太平洋事務局の計畫に公示手段を提供した場合には、彼自身はこれを特別「ニュース」と考へ、そして實際にさうであつたことが疑なきところであつたにせよ、彼は無意圖的に甘蔗栽培業者及び旅客代理店の爲めに宣傳を行ひつゝあつたのだと云ひ得る。

にも拘はらず、多數のアメリカ人は新聞宣傳は社説の頁又は時評欄寄稿家の物したものに限られてゐると思ひ込んでをり、ハーストの共產主義者及び無害な自由主義の大衆教授連に對する惡どい挑戦を眼前に見ながらその眞意に氣がつかない。彼等は無意圖的宣傳の存在を把握しそこなつてゐるのである。民衆は概してアメリカの新聞紙の所有者關係を問題としない。何故かと云へば、これ等新聞社の大多數は、大體に於て同様な意見を有する商會社によつて統制されてゐるからである。新聞紙が所謂「特殊利益」又は有名な新聞人と關係があることが知られた場合にのみ、その新聞の取扱ふニュースに就いて「宣傳」の叫びが擧げられるのである。ニューヨーク・タイムスが或る情況に關する記事を掲げればそれはニュースと考へられ、これに對して同じ事件をデリー・ワーカーが取扱へばそれは「宣傳」とされる。^(註10)前者は宣傳の傳統的手段を用ひてゐるのであるが、それは現狀維持の偏見によつて飽和されてゐる。これに對して後者は、米國に於ては一般に受容され難い哲學に順應させてその資料を編輯してゐるのである。實は兩者共に宣傳の形式である。タイムスは多少共に無意圖的に現在の制度を支持してゐるのであるし、デリー・ワーカーは意圖的にこれに反對してゐるのである。プリントはこの區別を求めて模索してゐるかの如くである。即ち

「個人的又は制度的偏見はニュースに於ける感じのよいことを餘りに熱心に歡迎する程、感じの悪いことを排斥しはし

ない。例へば、勞働爭議に就いて見るに、この問題を繞つて新聞に對する最も辛辣な攻撃の火の手が上げられるのであるが、新聞聯合から送られるニュースと現實に印刷公表されるニュースとを仔細に検討すれば、勞働者側からの情報は勞働者の領袖の聲明をも含み、可成りの分量が取扱はれてゐることを知り得るのである。たゞそれが、その反対側から發せられた材料の多量に壓倒されてゐる場合が多いといふのみである。^(註11)

「壓倒」の處置はプリントが言外に含めてゐるやうに意圖的なものとは限るまい。編輯者は公衆が使用者側の觀點により以上の關心を持つてゐると現實に信じてゐることもあらうし——そしてこれは或る程度眞實であらう——従つて彼等がこの方面のニュースを強調することもあり得る。併し、右の如き壓倒が使用者を支持するに役立つといふ事實は儼として残るのであつて、従つてそれは宣傳と呼ばねばならぬ。アメリカの新聞紙に於ける宣傳は無意圖的なものである傾向が強い。それはニュースは意見から切り離さなければならぬといふ新聞人の道徳に基づく。その結果として、無意圖的宣傳は、常にではないが概して前者に含まれ、意圖的宣傳は後者に含まれるのである。

何故かのニュースが意圖的若しくは無意圖的の宣傳を含むことを尙未だ信じ切れぬ者は、自分の國の夫とは異なれる新聞の傳統を有する國の新聞を検討して見ればよい。例へば、佛國に於ては、所謂「意見の新聞」"Journal d'opinion" が全く宣傳によつて浸潤されてゐることを認めることは容易にできる。而も同様に「情報の新聞」"Journal d'information" も亦宣傳を漲らしてゐることを發見することも容易である。にも拘はらず、フランス人は後者が宣傳を含まずして「情報」のみを含んでゐると信じてゐるのである。事實、初めて佛國の新聞を見るアメリカ人は、これ等二つの型の新聞の間に相違に氣がつかない。兩者ともにその傾向に於て如何にも「フランス的」であることが歴々としてあることに氣を取られるのみである。然るに、苟くも愛國主義的なフランス人にとつては、この相違は明白である。何

故かと云へば、フランス人はアメリカ人と同様に、常に必ずしも無意圖的宣傳の社會的結果を知覺し得ないからである。

二、新聞が新聞として有する印象的要因

新聞を買ふ者が尙未だその内容に一瞥をも與へぬうちに、彼は彼が讀まうとしてゐる事柄を受け容れるやうに豫め傾向づけられてゐる。その理由が二つある。第一に、一つの刺戟情勢としての新聞は、發行者が意圖的又は無意圖的に求めてゐる統合を容易ならしめるべき補助的態度を喚起する(6a, 補助的、服従的態度の原理)。第二には、新聞は概して、社會に於ける獨自の、樞要な地位を有する(2, 知覺の原理)。

新聞紙の最も明瞭な特徴は、それが傳達の方法として印刷せられたる文字を利用するといふことである。印刷された文字は、それが如何なるものにせよ、それ自體として或る程度の勢威を持つ(6a1, 積極的、社會的價値の原理)。何故かと云へば、人は耳で聞くよりも印刷物の上で見たことの方により大きな信用を置く傾向があるからである。彼等は單純にも、印刷といふ仕事の中に含まれた時間及びエネルギーの消費は、その内容の重要性を證明すると考へるのである。例へば、世紀の轉換期に(今日でも、文化の後れてゐる社會に於ては)、眞醫者はこの種の信じ易さを利用し、藥瓶の外側に魅惑的な欺瞞的なレツテルを貼布して如何はしい藥を賣付けることに成功した。何人か印刷されたものに對して疑念を抱くやうになる可能性が常に存することは認めざるを得ない。又、新聞紙の勢威及び讀者の一般的經驗等を含んだ他の種々の要因は、欺瞞され易い傾向を減少するやうになることも考へられる。加之、新聞に對する批判的態度は特に大戦後、著しく増強された。何故かならば、人々は新聞と廣告とによつて人間の一切の態度、希望及び感情が方向を決定され得ることを覺り始めたからである。併し、かうした讀者の懷疑的態度にも拘はらず、印刷された文字は

(332)

尙ほ依然として或る優越性を持つてゐる。何故かと云へば、これによつて讀者は、自分の歩調を調節することによつて讀られてゐることを理解し、若し彼が欲するならば、反覆することによつて、彼が既に一度讀んだことを補強する機會を與へられるからである(6c1, 反覆の補強的原理)。

又、新聞の讀者は、同一の新聞が他の數百、數千の人々によつて讀まれつゝあるのだといふ意識を持つ。このことは彼の内に普遍性の印象と、それに引續いて起る服従的態度を齎らし、それによつて彼は新聞の傳へるところに向つて豫め好意を抱くことになる(6a2, 普遍性の印象の原理)。事實、多くの論文の調子は、頗る明瞭に大衆に好まれるやうに仕組んである。

俊敏な報道員、新聞代理業者、及び新聞社によつて利用される凡ゆる近代的通信機關、就中、電信及びラヂオ、等の結果として、大多數の人々は彼等のニュースに對する最初概念を新聞紙から受取る。一般の讀者が世界の凡ゆる部分と直接な接觸を持つてゐないことは云ふまでもないことであり、従つて彼は、遠隔の地に起つた事件の敘述に就いては全く新聞に頼つてゐるのである。この最初のステロ版及び統合が安定的になる傾向があることは容易に首肯できる(6b, 優先の原理)。讀者は新聞を見るまでは、多くの場合に、何が起つたかを知らない。新聞の記事が彼に最初の印象を與へ、そしてこの印象が彼のステロ版に餘りに著しく抵觸せぬ限りは、彼はこの記事によつて事實を知り得たと考へるのである。萬一彼が別の新聞を讀むとか、或はその特別のニュース事項に就いて彼よりも良い判斷を下し得る何人かと語り合ふ機會を持つたとかいふ場合には、彼は第一の新聞によつて彼が獲得した態度を以てこれ等の別の情報源に臨むのである。第一印象を第二印象よりも尊重する方が容易である。そして第二印象を得ることが遅れれば遅れる程、第一印象を變改することが困難になる。この心理學的な理由により、急進主義の新聞の編輯人は、特に激烈な政

(333)

治的差別に新聞同志の敵對關係が見られる歐洲の國に於ては、その社のニュース及び社説を能ふ限り迅速に發表する爲めに苦勞するのである。加之、世界のニュースの敏活な配布者として新聞と太刀打ちのできるものはラヂオあるのみである。

新聞がニュース傳達の最も迅速な手段の一であるのみならず、それは近代民主主義に於ける唯一の重要な傳達手段である(2、知覺の原理)。人々は情報即ちステロ版と態度とを、實際の體驗、ラヂオ、書物、映畫、會話、講義、教育等を通じて獲得するが、新聞はこれ等の總てを補足する。今日に於てはラヂオのニュースは新聞に於て既に印刷されたことを含んでゐるのが通常である。そして、それに附加して「詳細に就いては新聞を御覽下さい」といふお座なりの言葉が放送される。放送業者の或る者はかやうにしてニュースの傳達を制限することを承知せず、「ニュースがニュースである間に」放送することによつて新聞と競ふてゐる。カリフォルニアの地震の生存者は彼等が食糧を支給され、テントを與へられるやうになるや否や直ちに新聞を要求したといふ話が残つてゐる。そこで町の三つの新聞社が協同して一つの新聞を發行したといふ。一言にして言へば、現代の文化に於ては、新聞は積極的、社會的價値を獲得したといふことになるのである。これに對する最も良い證據は、戦争とかN・R・A運動とか獨裁制とかいふ危局に際しては新聞が掌握されて多少なりとも嚴格な檢閲が施される、といふことを想起すれば充分である(6d、制限の原理)。新聞に對するかうした態度の力を測定する他の方法は、讀者大衆が重大なりと考へるやうな事件が起つた際の發行部數の増加に眼を向けることである。

新聞は情勢の源泉としてのその勢威を保持する爲め、地方的事件に就いては能ふ限り正確な報道を行ふとする。讀者といふものはかうした地方的の事柄に就いては一層批判的になり勝ちなものであり、その少數は現實にその「ニュー

ス」を體驗したであらうし、或は體驗した人を知つてゐるであらう。若し或る新聞がかうした事柄に就いて、人に氣取られるやうな誤謬を餘りに頻繁に繰返せば、讀者がその新聞の掲げる凡ゆる記事の信憑力に對して疑問を持ち始めることが、直ちに發見されるであらう。この理由により、編輯者は國內のニュースに就いては完全な、又は少くとも首肯せしめるに足る記事を掲げようと努める。これに對して遠隔な、又は行くに困難な場所からの通信の詳細に關しては、然く慎重であることを要しない。

一般に新聞が印刷された文字の強味、讀者との最初の接觸、情報の主要な源泉としてのその地位等に賴るといふ事實の他、特定の新聞はそれ自體の勢威を有し、それによつて影響を及ぼし得るのである(Ga1、積極的、社會的價値の原理)。何故かと云へば、多數の新聞紙はそれ自身の傳統と名聲を持つからである。アメリカに於てはニューヨーク・タイムスがこの種のものに屬することは勿論である。英國に於てはロンドン・タイムス、獨逸に於てはフランクフルター・ツァイトゥング及びケルニッシュ・ツァイトゥング及びより近くはフルクシター・ベオバクター、佛國に於てはマクタンとクン、イタリアに於てはボボロ・デ・イタリヤである。或る國の新聞が他の國の「輿論」を確かめようと欲する場合には、これ等、傳統的に信頼し得べきものとされてゐる、若しくは權威ある新聞の一つの觀點を引用することが屢々ある。これ等の新聞總ては戦後生れたナチスの機關紙「ルキッシャー・ベオバクター」を除いては、大戦中幾多の歪曲や見え透いた虚構を掲げたのであるが、それにも拘はらず、夫々の國民の文化生活に於ける在來の地位を維持し得たのである。例へば佛國に於ては、ル・ジュールナル・デ・デバは、發行部數が減少したとは云はれてゐるが、にも拘はらず依然として佛國の指導者階級及びインテリ層の間に強い勢力を持つてゐる。それはこの新聞が佛國の歴史に於ける顯著な事件と關聯を持つて來たからである。一九二九年に香水製造家フランソワ・コティが新聞界に入ることを決意したときに彼

はル・フィガロとル・ゴロワといふ二つの古い保守的の日報を買収し、それを合同して一となし（前者の名稱のみを保持して）、かくして、彼自身の國家主義的思想のイデオロギー的跳板として兩紙の勢威を利用した。彼のも一つの新聞ラミ・デュ・プーブルは、露骨なやり方で自分の勢威を作り出さねばならなかつた。即ち、他の總ての佛國の新聞よりも可成り安い値段で賣られたのである。歐洲に於ては新聞は、補助金の他、公式若しくは准公式な政府との關係によつても勢威を獲得することができる。加之、佛國の編輯人は屢々知名の士であり、自分の人格の力によつて配下を作り上げた。かうした傳統は幾分が米國では稍々變化を來したかの觀を呈する。嘗ては編輯者も亦自身の支持者群を持つてゐた。然るに當今は、編輯者や發行者は概して知られてゐない。何故かと云へば、ウリアム・R・ハーストやロイ・ハワード等の人々を除いては、彼等は背後に隠れてゐるからである。これに代つて時評寄稿家が表面に現はれて來た。

比較的历史の古い新聞は、その新聞の觀點には同意せぬ人々の間に於てさへも一種の勢威を有するものである。何故かと云へば、この新聞の見解はその讀者の態度を創り出す上に影響があつたものであるから、若し彼等が今尙ほその舊時の態度を保持するものとすれば、彼等がこの新聞紙上に於て讀む事柄に就いては信用を持ち続けるであらう。彼等がこれ等の態度に疑問を抱くときになつて初めて、この新聞の價値にも疑を抱くやうになる。併し、假に彼等がこの新聞の社説欄に掲げられる見解に對して最早敬意を拂はぬやうになつたとしても、又、假に彼等が、例へば或る社會主義の新聞は眞實を傳へるといふことを信じようと欲するに至つたとしても、彼等は依然として、この舊來の新聞の「ニュース」がより正確であるといふ信念を動かさないであらう。加之、傳統的に保守主義的な米國の新聞は餘り多くの反對論的讀者を失ふことはあるまいと考へられる。何故かと云へば、これ等の新聞社は極めて發達した商業的企業として、急進的新聞紙などの到底企及し得ぬ程の費用を要するところの、報導者、通信員、寫眞班等の大規模な組織を利用するこ

とができるからである。

三、新聞の技術的呈示の諸要目

前節に於ては、一つの社會的刺戟情勢としての新聞の性質の結果として、新聞の購讀者間に喚起されるところの補助的態度に就いて記述した。次には、人が新聞紙を選択した後は如何なることが起るのかを極めることを要する。彼は最初に何を見るか、如何なる記事から讀み初めるか、或る記事の中で他の部分よりも長い間注意を集中する傾向があるやうな部分があるか、これ等の質問に對する答は知覺の問題を含む（2、知覺の原理）。

併し、最初に、知覺的要因は讀者が見たり讀んだりすることを決定するに、常に必ずしも決定的なものではないといふことを明らかにすることを要する。多數の人は新聞の一定の欄に對して特殊な態度を持つてゐる。その結果として第一頁を最初に避ける場合が多い。即ち、實業家は直ちに經濟欄に飛ぶであらうし、スポーツ熱愛者はスポーツ欄に、美しい社交界の花形は社交欄に、精神分析學者の患者は死亡通知に、等々。より一層特殊な、必ずしも新聞の一つの欄に限られてゐないやうなニュース（知名の士の性生活、犯罪、國際問題等）に對する態度が讀者を指導することもある。併しこれ等の人々は總て、彼等が新聞の或る部分を選択した後は、次に述べる知覺的要因の或るものによつて影響されるやうになるであらう。

概して云へば、新聞紙の最も目立つ特徴は標題である。他の點が平等であるとすれば——かやうなことが殆んどないことは勿論であるが——標題が大きければ大きい程讀者がその方に注意を向けるチャンスが多い。併し、心理學實驗室に於ては現はれて來ないやうな別の變數がある。標題に注意を惹きつける要因はその絶對的な大きさでもなければその位置でもない。例へば、週刊新聞又はハースト系の新聞に現はれる大きな標題は必ずしもその月極めの讀者に強い印象

を與へない。何故かと云へば、後者の第一頁は他にも澤山の大きな標題を掲げてゐるし、兩者共に毎日、同様に大きな標題を掲げ、その日のニュースの重要性如何に頓著しないからである。加之、標題の重要性は、それが讀者に對し、彼が記事の一行をも讀まぬうちにその記事に對する確定的な態度を持たしめるといふ事實に因るのである。總體として云へば、標題は簡潔ではあるが、記事の要旨としては相對的な正確さしかもたぬことを常とする。それは客觀的には謬まれる要旨であるかも知れない。或は、或る態度を喚起すべき意見の暗示であつたこともある。又或は、記事自体には含まれてゐない附加的情報又は意見であることもある。如何なる標題も大多數の人々の内に何等かの態度を喚起するであらうから、右の如き工夫の何れもが、補助的態度の喚起によつて（2）補助的態度の知覺的原理）特定の記事を讀ませるやうに仕向けることにはなるであらう（或は、標題が遠方から見ることが出来る程大きい場合には、標題に掲げられた事件の記事を見る爲めに、その新聞を態々買ふこともあるであらう）。併し、不幸にして、多くのアメリカ人は單に標題のみの讀者である。それ故に記事の内容に對する彼等の全印象が不適當な源泉から抽出される懼れがある。

標題を別としても、記事が掲げられる頁如何、及び特定頁上に於ける位置如何によつて、記事に對して與へられる重要性が變化する。第一部の第一頁は概して最も重要であり、これに次では第二又は第三頁、或は、一部に限られてをらぬ場合には、第二部の第一頁といふことにならう。併し例外もある。例へばロンドン・タイムスは技術的な仕上げによつて重要性を示すことを減多に行はぬ新聞であるが、その最も重要とするニュース記事を餘り目立たぬ中間の頁、概して第十頁に置く。習慣により、特定の欄は規則的に同じ場所に現はれ、その結果として、この位置がその獨自の勢威を獲得する。次には、頁全體の模様により、或る記事又は若干数の記事が他の記事を背景としてその上に浮き上るやうにすることもできる。目立つといふことは、標題、寫眞又は漫畫、頁全體の植字の工合、活字の大きさ、等が原因である。

最後に、或る記事に對して與へられた紙面の大きさは、讀者をして事件に關する比較的完全な知識を得しめる可能性を提供するのみならず、讀者をして記事の重要性はその長さによつて判断することができると信ぜしめるやうな影響をも與へる。

標題の場合と同様に、大きな又は普通でない活字は、その部分が知覺せられる可能性を増加する。大きな又は普通でない活字とは次の如きものである。即ち、太文字を用ひること（その周囲の活字が小文字である場合に）、周囲の活字より大型の活字を用ひること、イタリックを用ひること、太字の使用、下に線を引くこと、及び（少なくとも）獨逸語に於ては）活字の間を空けること等が是である。かやうな活字は記事の一部分を目立たせるのみならず、讀者が讀み進んでその場所まで到達せぬうちに、その記事の内容が強調されようとしてゐるのだなと覺らしめることができる。この期待的な態度によつて齎らされる緊張感はこの部分に接近するやうに仕向け、従つて讀者は一層速かに讀むやうになるであらう。又讀者をして、この強調された部分を一層速かに銘記することを得しめるであらう。讀者がその記事なり、その筆者なりに好感を持つてゐること、恰かも佛國の社會主義者達がレオン・ブルムの寄稿に對するが如きものある場合には、彼等は恐らくは努力をしてもこれを理解しようとするであらう。何故かと云へば、彼等は筆者がこの點に重要性を置かうと欲したのだといふ事實を意識するからである。

近代の新聞が愈々頻繁に利用するやうになりつゝあるも一つの技術的工夫は寫眞の使用である。何故かと云へば、寫眞は印刷された文章に比較すると、確實な心理的優越性を持つからである。寫眞はその内面的排列が印刷された文字とは全く異なるが故に、殆んど直ちにその背景たる文字の羅列から浮き上つて目を牽く。寫眞は「現實在」の寫眞と考へられるから、大多數の人々は忽ちにしてそれが眞實であるに相違ないといふ感じを持つ。即ち、寫眞はその本來の性質

上、全く独自の勢威を有するのである。實に又、讀者は——文字を解せざる讀者に至るまで——直接に、そして印刷物によるよりも一層速かに、寫眞によつて示される情勢の觀念を捉へ得ることを常とする。これ等總ての理由により、寫眞は人をして所期の統合に向つて豫め傾かしめるが如き種々な態度を喚起することができるのである。かやうにして喚起された態度は或は補助的のものであるかも知れない。換言すれば、宣傳家が當初から關心を持つてゐたことに向つて讀者を指向するものであるかも知れない(2a、補助的態の知覺的原理)。

寫眞は意圖的並びに無意圖的宣傳の兩者を研究すべき絶好の機會を提供する。この點に就いては意圖的宣傳の方が一層利口に價するから、茲では最初にこれから觀察し始める。寫眞に添へられる表題が讀者の反應を決定する上に重要な役割を演ずるといふことは初めから明瞭である。一九三一年、フーズのモラトリウムが商議されつゝある間に、佛國の新聞ラ・リベルテはオーエン・D・ヤングの肖像を掲げ、それに添へた表題によつて、このモラトリウムに對する新聞社の態度を表明した。

「オーエン・ヤング氏。今やサボタージムによつて痛めつけられつゝあるヤング案の主たる唱導者。」^(註14)

黑人擁護の爲めの或る共產主義的出版物は、嘗て五つのタングの寫眞を掲げ、それを證明して、「植民地大衆を奴隷の桎梏に繋ぐ爲め使用せられたタング。」^(註14)

これ等は遅延的、顯示的宣傳の二つの適宜な例である。最初に、寫眞によつて補助的及び關係的態度が喚起せられ、次で後者は、表題によつて所期の統合の方に向けられる。遅延的、顯示的宣傳の原理は宣傳に使用される多くの寫眞に當てられる。寫眞によつて喚起された態度は、表題がなければ、全然別個の統合を齎らすことがある。併し、或る場合には表題は必要でない。例へば、前述のモラトリウム商議進行の際にラ・リベルテが一八七一年獨逸に對する佛軍降

伏の古の繪畫を寫眞にして掲げた場合、又は、共產主義の雑誌が白人に虐待されてゐる黒人の寫眞を載せた場合、喚起された態度は表題がなくとも所期の統合に導き得たのである。唯、表題は寫眞の一般的效果を補充し、かくして豫測し得べからざることを範圍を縮小するに役立つであらう。

更に一層重要なことは、宣傳家が關係的態度を喚起するやうな寫眞のみを選択するといふことである(6c、局限の原理)。共產主義者が、黒人が白人婦人を強姦してゐる寫眞を掲げないことは勿論であるし、ラ・リベルテ紙がモラトリウム論争の最中に獨逸國境に沿ふ佛國要塞の寫眞を掲載せぬことも疑を容れない。又、技術的な方法により、修正したり描いたものを挿入したりして、宣傳家が所期の效果を得る爲めに元の寫眞を歪曲することもある。最後に、所期の關係的態度を喚起せしめる爲めに態々寫眞を撮ることもあるし、不適當な寫眞を表題を變へて用ひることもある。これは捏造の一例と云ひ得る。

人を釣り込むやうな表題、歪曲、抑壓、及び純然たる捏造の使用は特に大戦中には頗る盛んに行はれた。フェルディナンド・ブツ、ナリウスと^(註16)呼ぶ一獨逸人は聯合國側のかうした戦術を暴露した書物を著した。寫眞の意味を變ずる爲めに表題が用ひられる。例へば難破した英國のツェペリンの古い寫眞が獨逸軍用ツェペリンの墜落と題される。捏造もある。例へば、獨逸の窮乏状態を示す證據として英國の新聞紙に藥をかけてゐない方を燃してゐるマッチの寫眞が現はれた。これは獨逸人が、木材の不足に悩んで、既に一度使つたマッチに「再び藥をつける」か又は兩端に藥を塗つたマッチを造つてゐることを示さうとするものである。この寫眞が、通常のマッチの燃へさしの別の端に火を點じて態々作つたものであることは明らかである。又、歪曲された寫眞もある。例へば、種になつた寫眞はウリアム二世とその息子、皇太子とが、或る建物をしながら話をしてゐるところを撮つたものである。皇太子は煙草の灰が父親の上に落ちぬやうに

少し手を上げてゐる。或る佛國の新聞はその煙草を取り除いた。すると恰かも皇太子が父親の顔を撲る爲めに手を振り上げてゐるやうな格恰になつた。——要するに、皇室内部に不和があることを示さうといふのである。他の一例——或る佛國の新聞は一九一五年に一九一五年のオデッサに於ける猶太人虐殺の直後ロシアの猶太人によつて發行された繪端書の幾分引延した再製を掲載した。この繪端書には元來ロシア語で「オデッサの暴徒によつて殘虐に殺戮されてゐる母子」といふ表題が附せられてゐたが、この説明が取除かれ、寫眞はその儘にして「ポーランドに於ける獨逸暴徒の非行」といふ表題が添へられたのである。併し、アヴナリウスは否定してゐるが、獨逸人も亦、「偽の寫眞の流布といふ點では全然無罪ではない。獨逸軍がベルギーの兒童を買収して彼等の膝の上に穩ましく坐らせ、この涙ぐましい情景を寫眞に撮らせて本國、敵國及び中立國に流布せしめ、ベルギーに於て獨逸軍が受けた温かい歡迎の證據としたといふ事實が摘發されてゐる。

大戦當時の寫眞に關する右の如き敘述は讀者に微苦笑を催さしめ、かやうな宣傳がかくも成功し得た理由を訝む氣持ちを起させるかも知れない。併し讀者は彼がこれ等の寫眞を平時の態度で眺めてゐることを忘れてはならない。即ち一九一四年から一九一八年にかけての五年間に彼を——或は失禮とあれば彼の隣人又は外國人を——支配した態度とは異なる態度で見えてゐるのである。今や讀者は比較的批判的であらう。併し當時は、若し彼がかうした欺瞞手段に乗らなかつたとすれば餘程の例外的人物である。要するに、宣傳の用具として用ひられる寫眞に對しては、人々がそれに對する或る既存のステロ版と態度とを有することを要し、それによつて彼等が見るものを信するやうに豫め傾向づけられてゐることが必要である。オックスフォード大學の卒業生はザ・ニグロ・ウィーカーに挿入された或る寫眞が人爲的に修正を與へられたことを認めるかも知れない。併しこの雜誌が目指してゐるところの植民地に在る黒人はこれ等の寫眞の眞實性

を信するであらうし、特に彼が同様の場合を目撃した経験があるとなれば尙更のことである。又、若しフランス人が獨逸新聞紙上に、佛國兵士が獨逸の兒童を殺してゐる寫眞を見たとなれば、彼は寫眞の眞實性を認めるかも知れないが、この出來事を因果應報の一例と考へ、そしてその佛國兵士を例外的な存在と考へるであらう。或は寫眞が獨逸の新聞に載せられたから、又はかゝる野蠻性は佛國兵士としては到底あり得ないと考へるから、その眞實性を信じないであらう。然るに同じ寫眞を見て大多數の獨逸人は恐らくは佛國兵士が如何なる行動を爲すかに就いての彼等の既存のステロ版を一層強めるであらう。それ故に、寫眞を宣傳として用ひる場合にはその心理學的並びに社會學的周圍を慎重に考慮して初めて効果を擧げ得るのである。

無意圖的宣傳の用具として利用される寫眞の實例は一層發見困難である。アメリカの新聞に於ては、犯罪人と思はれる、又は眞の犯罪人である人々は一様に、多少なりとも人々が犯罪人に對して有するステロ版に合ふやうな寫眞を掲げられる。一團の支配者階級に屬する者は殆んど常に威嚴のある姿の寫眞を掲げられる。一群のフランスの寫眞撮影者がヒトラー以前の獨逸の「客觀的」寫眞研究の材料を提供しようと企てた際に、彼等は、獨逸人といふものが何れも夫々一定の人格の型を持つものであり、獨逸國が凡ゆる種類の政治的、社會的抗争によつて分裂してをり、軍國主義とモダニズムとが跋扈してゐるといふ印象を讀者に與へることに成功した。同じ寫眞師達が同様な佛國の研究を行つたが、彼等は佛國を「中庸の國フランス」として呈示したのである。この寫眞集には、獨逸人に限らず總ての外國人を喜ばすやうな周知のバリの特色は示されてゐないし、佛國に充満してゐる兵役中の制服の少年達の姿は見當らないし、フランスの都市村落に特有な薄汚ない裏通りの寫眞も見受けられない。^(註17)要するに、これ等の寫眞師及び編輯人は無意識裡に彼等のフランス人としての態度をしてこれ等の寫眞に色彩をつけしめてゐたのである。

一言にして言へば、ステューが述べてゐるやうに、「レンズは整理者であつて客観性の保障ではない」。(註18) 何故かと云へば撮影者は、軍隊の行進とか彼が重要なと考へる王様の肖像とか云ふやうに、或る情勢の特殊な様相を選択せねばならない。この選擇は彼に倚靠するものであり、従つて、彼の哲學或は立脚點に對する無意圖的宣傳を含むことになる。撮影者は彼が撮影する人物なり物體なりに對して何等かの態度を有せねばならぬものであり、否んば彼はフィルムを浪費してゐることになる。それ故に、得られた寫眞は當然それ等の態度を反映する。然る後に、その寫眞に恐らくは何等かの修正が加へられ、頁の上に何等かの位置を定められ、編輯者によつて表題を附せられて人の眼に觸れるに至つた際には、それは一個の宣傳として出現せざるを得ない。

新聞が用ひる永續的な工夫が一つある。漫畫が是である。漫畫には寫眞には見られぬやうな不利な點がある。それが或る人によつて削り出され、細工された人爲的所産であることが歴然としてゐる點が是である。併し、現實性の感受といふ點で失なつてゐることを他の點で補つてゐる。即ち、その意圖を容易に捉へ得るといふことである。加之、漫畫が常に意圖的宣傳であり、而も概して云へば顯示的宣傳であるといふことは、殆んど漫畫の定義上當然のことである。これは有效な心理學的武器である。何故かと云へば、それは所期の統合に關係ある態度を喚起する爲めに慎重に計畫されるからである。寫眞と同様に漫畫にも表題を附することができし、事實、通常表題を添へて一層その効果を有效ならしめてゐる。これ等の表題は、これ亦寫眞の場合と同様に、補助的態度の喚起によつて個人を宣傳の指す方向に向つて指向せしめる基礎として役立つ。漫畫の効果は、これを見る人の既存の態度に倚靠すること頗る大である。

四、新聞の内容呈示の諸要因

新聞の内容の検討は、宣傳が如何にして印刷された文字によつて行はれるかを具體的に示すことを要求する。茲で説

述されることの大部分は、常に新聞紙に當て嵌るのみならず、宣傳が意圖的なる無意圖的なるを問はず、凡ゆる種類の定期刊行物の内容にも當嵌るのである。何故かと云へば、宣傳は暗示を基礎とするし、暗示は言語に倚靠するからである。

先づ第一に、編輯者はニュースの提供に、このニュースに關する彼の見解を添へるであらう。アメリカの編輯者は好んで彼等がこの兩者を截然と分離せしめてゐると信じてゐる。例へば、理論としては「米國新聞編輯人協會」(American Society of Newspaper Editors)の規約は頗る印象的に見える。

「健全なる實行はニュース報道と意見の開陳との間に明確な區別を置く。ニュース報道は如何なる種類の意見乃至偏見からも解放せらるべきである。」(註19)

然るに成功者ロイ・ハワードは、このことが現實には社會的に不可能であると喝破する。

「實際には、優秀な人員を備へた總ての日刊新聞のニュース欄は、その記事に或る分量の結論又は立脚點を補挿してゐる。」(註20)

かくして、或るニューヨーク日刊紙の典型的な記名論説は次の如くに冒頭される。

「昨日、異常な警察の警戒の下に元王立歌劇々場に於て行はれた驚ろくべき「國家的結束の示威運動」は公式の宣傳機關を通じてのみ報道されたが、今日に至つて、これに引續いて、外國新聞に對する猛烈な攻撃陣が布かれた。」(註21)

この文章の調子は總て、タイムス報道員の主觀的反應であること明瞭なる種々な形容的、「驚ろくべき」、「異常な」、「猛烈な」等によつて齎らされたものであるが、それはナチス制度に關する不氣味な印象を削り出す傾向を明らかに持つてゐる。かやうな宣傳は、假にタイムスがそれを否定したいと思つたところで、無意圖的なものは到底云ひ得ないで

あらう。

ニュースと「意見」とを混同するといふ行爲は特に歐洲大陸の新聞に顯著であるが、就中、極端な觀點を有する新聞に於てはこの傾向が頗る著しい。といふことは、この混同が宣傳を助長するといふ證左になりさうに思はれる。讀者は主として記事の中に含まれたニュースに關心を持ち、「意見」には興味を牽かれぬかも知れない。併し、ニュースを讀む爲めには意見によつて刺戟されねばならぬといふことになる。補助的態度を喚起するものはニュースであり、その結果として、意見は新聞の他の地から極立たせられる(2 a、補助的態度の知覺的原理)。更に又、讀者がニュースを理解するや否や、彼は編輯者により、彼がこの問題に對して如何なる立場を採るべきかを告げられ、而も、ニュースが彼をこの立場に導くやうに案配されてゐることもあるのである(6 d、局限の原理)。概して云へば、意圖的宣傳の場合には、意見は明瞭に認知し得る(3 a、顯示的宣傳の原理)。無意圖的宣傳に於ては編輯者の批判によつて喚起されるものは關係的態度のみであり、これ等の態度は編輯者が無意識的に求めてゐた統合に導くかも知れない(3 c、隱蔽的宣傳の原理)。加之、ニュースと意見とが密接に近接してゐるといふことは、ニュースと編輯者の意見とが希望通りに統合された場合に、それが心界内に於ける最初の統合となるといふことを可能ならしめる。かゝる統合は或る心理學的長所を持つことは既に述べた(6 e、始原性の原理)。これとは反對に、或る欄にニュースを掲げ、他の欄に編輯者の意見を掲げるといふことは、宣傳家にとつて次の如き危険を含む。即ち、讀者はその何れかを讀んで他を讀まぬ場合もあらうし、假に兩方を讀んだとしても双方を關聯せしめ得ないかも知れない。

佛國の新聞は、急進的であればあるほどニュースの源泉又は論說の筆者を匿す傾向が著しい。これに對して、英米の新聞は、多くのニュースの源泉は、特別通信員であると通信社であると問はず、常に記載せられ、その代りに社説は

(346)

實際上總て匿名である。即ち、社説は總て新聞社の橋頭の下に物される。然るに——この一般的傾向に反してデリー・ワーカーの如き急進主義的の新聞は筆者の名を明らかにすることが殆んどない。かやうに筆者の個性を抑壓することは記事の内容を編輯者又は新聞社の立脚點に適合するやうにして編輯することを可能ならしめる。要するに編輯者は自己に對してのみ責任をとることに成り、彼の欲するだけの宣傳を挿入することができる。この遺り口の心理的効果は、恐らくは讀者と新聞とに應じて異なるであらう。例へば、或る特定の新聞に對して服從的態度を有する讀者は記事の源泉を示されないと云つて別段影響を受けないであらう。何故かならば、彼にとつてはこの新聞は一種の職權的性質を持つからである(6 a、積極的、社會的價値の原理)。又或る讀者は匿名寄稿の非個人的性質によつて印象づけられることもあらうし、更に讀者は疑心を抱くやうになるかも知れない。或は讀者が聯合通信者又は或る特定の通信員に對しては服從的態度を持つこともあらう。この場合、彼は容易に匿名記事によつて影響を受けない。

編輯者は讀者をして理解せしめようと欲するニュース及び論說を頗る賢明に、且、慎重に取捨選擇する。彼は所期の統合を促進すると思はれる事柄のみを讀者に知覺させる(6 d、局限の原理)。かやうにして彼は喚起せられたる關係的態度を自分の思ひ通りにする爲めの差値を行ふのである。そしてその爲めに豫測し得べからざるこの範圍は可成りに縮小されるのである。かゝる抑壓、歪曲、又は甚だしきに至つては捏造が効果を發揮し得るのは、讀者が、より正確なニュース若しくは別種のニュースを獲得すべき他の源泉を持たぬ場合に限る。多くの場合に讀者は、近代世界に於ける新聞の地位により、及び一つの又は精々二つの新聞しか讀まぬといふ彼の習慣により、情報を得る源泉としては彼が購讀する一つの新聞しか持たない。前にも述べたやうに、米國の新聞は使用者側の觀點を強調する傾向を持つて來た。それ故に讀者たる大衆は、米國には勞働者支持の新聞が殆んどないから、使用者側から眺めた事件の相しか持ち得ない。

(347)

機宜に適した取捨選擇は、戰時宣傳に關する書物が擧つて明白に證明してゐるやうに、戰時に於て有力な政府が用ゆる主要な武器である。大衆の精神状態を鼓舞する爲めにニュースの檢閲が行はれてゐるに拘はらず、戰争の一部がその國の領域内で現實に戦はれつゝある場合を除き、戰争の進行に關する讀者の全印象は彼が新聞紙上で知るところに限られるのである。近代の戰争に於て、塹壕からの兵士の書翰が檢閲されることは勿論である。讀者が極めて注意深く、超批判的とも云はるべき人でないと、彼が間接に受けつゝある檢閲の存在だにも氣が附かないであらう。將校の缺で切取られた穴や空白のある檢閱済の手紙と異なり、新聞は完全な、總てを包擁するものゝやうな體裁で手に渡る。檢閲された紙面の總ての欄が何等かの記事によつて充たされてゐれば、禁示事項が取除かれてその埋草に他の記事が掲載されてゐるなどいふことは容易に知られるものではない。

新聞は又、引用を種々に細工する。新聞は一の企業であるから讀者は、例へば凡ゆる演説がその儘をつくりと再製されることを要求し得ない。他のより重要なニュースもあるであらうし、廣告も紙面を要求するであらう。そこで、完全な引用に代つて次の如き四つの方法が用ひられる。即ち、演説の或る部分のみを載せ、引用せられざる部分は省略するか、その要旨を掲げる。演説又はその一部分を引用すると同時に、引用中に新聞社の意見を挿入する。直接的引用の代りに演説を要約する。或は、多くの外國新聞に見られるやうに、演説又はその一部分を引用し、それに、適當と思はれる強調若しくは暗示を附加する爲めに、感動記號を追加したり、異なる活字を用ひたりする。多くの重要な演説がラヂオを通じて放送されてゐる今日に於ては、新聞は詳細を傳へる際に餘程慎重な態度を採らねばならない。何故かと云へば讀者がラヂオによつて既に知つてゐる點で誤謬があると、その新聞の勢威が失はれる傾向があるからである。併し、國際間の事件に就いては、言語上の困難や距離の爲めにラヂオ受信が不可能である場合がある。それ故に、この方面で

はラヂオはさして重視するに當らない。

加之、國際關係は極めて微妙なものであり、部分的には、新聞の記事によつて促進され、齟齬される。この理由により、種々な國の新聞の引用を縦横に行ふことが極めて必要になつて来る。而も、外國通信員は彼等の主管範圍に屬する國の「輿論」の状態に就いて報道を行ふことを常とするが、かゝる「報道」は「顯官」若しくは「要人」の言つたことを基礎とするか、或はその國の新聞紙に現はれる社説から得られるものである。「顯官」又は「要人」の選擇、及びその國の新聞の論調の解釋は通信員自身に委ねられてゐるのであるから、通信員は彼等が本國に電報する「報道」を意圖的、無意圖的に色彩づける危險は常に存在する。かやうにして讀者は、他の人々の心界を通じてのみ、外國に於て起つた事件の知識を得ることになる。

新聞編輯人は、意圖的宣傳を行つてゐると無意圖的宣傳を行つて居るとを問はず、顯示的、遲延的顯示的宣傳を行つてゐると隱蔽的宣傳を行つてゐるとを問はず、讀者群を刺戟する爲めには凡ゆる語句を左右することができる。それ故に、彼は、或る與へられたる瞬間に於て最も効果的と思はれる語句を用ひる。或る新聞の讀者が陳腐な文句によつて容易に感銘を受けることもあらうし、もつと複雑微妙な含蓄を持つた言葉でないと反響がないこともある。

スローガンの持つ社會的意義と理解とにより、文字を新たに、恣意的に組合せるよりもスローガンの方がより有效であることが多い。スローガンは極めて容易に知覺され得るやうなものでなければならぬ(2、知覺の原理)。この社會制御の方式に就き、ラムレー教授が與へた性質の或るもの、即ち「リズム」、「頭韻的性質」、「頭韻と對句との結合」、「音の響くやうな反覆」、「簡潔」及び「語呂合せ」等は拙かに知覺を容易ならしめる。同時に、適當なスローガンは、編輯者の求むる統合に導くべき關係的態度を喚起する。加之、これ等の態度はこの特殊な文字の組合せを繞つて既に策き上げ

られてゐるのである。換言すれば、刺戟情勢とその人の態度の或るものとの間には豫め統合が行はれてゐるに相違ないのである。又、或るスローガンを持つ含蓄は宣傳によつて得られたものであり、そして用ひられる宣傳の原理は場合に應じて變化する。統合を表象する態度が一旦出現すれば、爾後は、スローガンがこの態度を喚起する刺戟情勢となる。加之、スローガンが既存の統合にピッタリと當嵌ることが屢々ある。ラムレーに従へば、輦轡に在る米國兵士の間には頗る流行したスローガンの一つに「獨逸をやつて」"Get Germany"といふのがあつた。この威嚇は獨逸に對する既存の態度を如何にもよく要約してゐる。スローガン自体は單に統合をより鋭い焦點に齎らしたに過ぎないが、醸つて、爾後の場合に於けるこの統合喚起の手段となつたのである。

多數の讀者を擁する新聞は素より、少數の讀者しか持たぬ新聞でも、一つの最後のな、心理學的工夫を行ふことができる。即ち、その宣傳を執拗に反覆し得るといふことである。この工夫は宣傳家の目的の反覆であることもあれば、關係的態度を喚起する刺戟情勢の反覆であることもある(2b、反覆の知覺的原理、601、反覆の補強的原理)廣告に於ける反覆と同様に、編輯者は時々「新鮮味」の要素を注ぎ込まねばならぬ。

又、新聞は豫測し得べからざるこの範圍を縮小する計畫に適する。何故かと云へば、新聞は毎日發行されるものであるから、毎日、定義上「新たな」種々なニュース事項を案配するか、又は一列の社説を掲げることにより、同じ觀點を異なる形で呈示し続けることができる。そこで、無意圖的宣傳の重要性と徹底性とが再び認められねばならぬことになる。何故かと云へば、筆者が主張するやうに、新聞は部分的には無意圖的宣傳家であるといふことが真なりとすればその結果として當然、殆んど總ての問題は編輯者又は發行人の無意圖的宣傳を補強するに役立つといふことになるからである。要するに、新聞は、何故に人々は社會の種々な様相に就いて熱中するか、といふことに對して一つの説明を與へる。即ち、彼等が日々讀む新聞は、彼等が然くするより他、詮方ないやうに仕向けるのである。

へる。即ち、彼等が日々讀む新聞は、彼等が然くするより他、詮方ないやうに仕向けるのである。

註1. ノンは強力な發行新聞の補助を受けた (Arthur W. Jost, Die Presse der Sowjet Union, pp. 5—22, Berlin, 1931)。そのリーニもゴットローも彼等自身が創始した新聞を持つてゐた (Bartolo Mussolini, My Autobiography, pp. 39—40, New York, 1928. ナチス新聞に關する二七四頁の論述參照)。

註2. George H. Payne, History of Journalism in the United States, p. 378, New York, 1920.

註3. Gerald W. Johnson, What is News? pp. 48, 63—64, New York, 1926.

註4. Ivy Lee, Publicity, p. 21, New York, 1925. ノン Allen の思想を殆んど同様な言葉で發表し、ノーディングの就任演説に當り、殆んど總ての報道員がこれに就いて夫々異なる敘述を行つてゐるといふ點を指摘して彼の手點を強めてゐる。

Frederick L. Allen, "Newspapers and the Truth," Atlantic Monthly, 1929, v. 129, p. 46; Frank R. Kent, The Great Game of Politics, pp. 206 ff., New York, 1926; André Billy & Jean Pivot, Le Monde des Journaux, pp. 69—70, Paris, 1924. 報道の不正確なることを立證する心理學的實驗の要旨は John H. Wigmore, The Principles of Judicial Proof, pp. 575—591, Boston, 1913.

註5. この點に關する稍々哲學的議論は Walter Lippmann, Public Opinion, Chapt. XXIV, New York, 1922. より事實に即した説明は O. W. Riegel, Mobilizing for Chaos, Chapter. V, New Haven, 1934.

註6. 一六七—一六九頁參照。

註7. 詳細に就くは Marcus W. Wilkinson, Public Opinion and the Spanish-American War, Baton Rouge, 1932.

註8. George Selig, You Can't Print That, p. 11, New York, 1929.

註9. New York World-Telegram, July 13, 1933. これ等のニュース記事は手當り次第に取出したものである。

註10. 三三五—三三六頁參照。

註11. Leon N. Fild, The Conscience of the Newspaper, p. 18, New York, 1925.

註12. ボンバーガーは「増大する大きさの效果」と「大きさの現實の増大」との間には「平方根の關係」が存すると説く。

- Albert T. Poffenberger, *Psychology in Advertising*, p. 199, Chicago & New York, 1925.
- 註11 La Liberté, July 6, 1931.
- 註12 Negro Worker, 1933, v. 4, no. 6-7, p. 6.
- 註13 Ibid., 1932, v. 2, no. 4, p. 3.
- 註14 彼の著 Das Bild als Verleumdung, Munich, c. 1915. 参照。この著書は同著者の他の著述と合せて、幾分か苦澁ではあるが立派な一冊に要約される。How the Madress Was Engineered, Berlin, c. 1920. 又、彼のその後の著述 Die Machie im Weltkrieg, Berlin, 1932. 参照。
- 註15 獨逸及び佛國に關する特別號を發行した佛國の繪入り週間紙のことに就いて述べてゐるのp. 46. Vn, no. 213, April 13, 1932 & no. 220, June 1, 1932.
- 註16 Wily Stieve, Das Bild als Nachricht, p. 77, Berlin, 1933.
- 註17 Flint, op. cit., p. 69. 二引用。
- 註18 Ibid., p. 65. 二引用。
- 註19 New York Times, Jan. 5, 1935, 1:3.
- 註20 Frederick E. Lumsley, Means of Social Control, pp. 168-176, New York, 1925.

第十九章 ラヂオ

宣傳の媒介物としてのラヂオは、現今までは、米國に於ては完全に利用されてはゐなかつた。何故かと云へば、ラヂオの誕生は宣傳家が故意に生活の凡ゆる様相に滲潤した世界大戦といふ歴史的事件の直後だつたからである。然るに、實際には世界の總ての大國はこの新たな説得の手段の潜在的の力を認め、かくして今日の歐洲の空氣は意圖的ラヂオ宣

傳によつて喧嘩を極めてゐる。例へば、マクドナルドの所謂國家主義政府は、一九三一年、選挙戦に於て反對黨に勝つて制する爲めに、英國の諸放送局を利用した。オーストリアのラヂオアンは、獨逸放送局からの放送を受けると處罰された。ブルガリアの頭の良い脅喝團の一統は山中に隠匿された放送局から放送して全國に誹謗を撒らすことを企てた。以前にはラヂオを單に廣告の媒介又は政見發表の延長としか考へなかつたアメリカ人達でさへも、今日に於てはルースベルト大統領の頻繁なラヂオ放送によつて、そのより大きな意義を理解するやうになつた。就中、著しいものは一九三三年三月四日及び十四日の、銀行恐慌に關する二つの演説である。或る放送會社はこれ等の演説の効果を潑刺たる言葉で誇らしげに指摘してゐる。

「これ等二回の放送に於ける大統領の言葉に就いては世論が湧き立つた。その輝やかしい率直公明、その完全な單純さ等に對する讚辭は巷に溢れた……そしてこれ等の言葉を——心の奥底から、そしてよく響く良い聲で——一千五百万のアメリカの家庭に傳へる爲めにラヂオを利用したことに就いても多くのことが云はれた。「友よ、私は數分間、合衆國の諸君と話をし度い」——そしてこの言葉を冒頭とした十五分間の演説に於て、この聲、この人物は、全世界を前にして奇蹟を行つたのである……」

「名聲の爲め、思想の爲め、商品の爲めに公衆の信任を獲得することを要望する人々は數多あるが、これ等の人々の意中にラヂオの重要性を痛感せしめ得たこと、米國に健康を賣る爲めにマイクロフォンを利用すること程著しいものはあるまい。」

「ケンネス・グードの言葉「三月四日にルースベルト大統領は最も壯嚴な廣告を行つた。「勇氣を廣告したラヂオの八分間は絶望を征服した」の如き閃光的な言句を一夜にして印刷に結晶し得るものが他にあらうか。そして……グード

は續ける。「廣告を行ふ者は、ルーズベルト氏のラヂオの八分間が如何に國家の現金價値を高めたかを考へるがよい」
：商品市場は動悸を打ち始め、弗は全世界を通じて値上りを示した。百貨店のクレジットの需要は四〇パーセント方増
加した。^(註3)

聴取器の價格が低下して全世界各國の數百萬の大衆が器具を買ひ、放送を聴くことができるやうになつて以來、ラヂ
オは次第に、大衆に呼び掛ける爲めに最も廣く用ひられる方法になりつゝある。

繰り返して述べたやうに、何人であれ宣傳家の最初の問題は知覺の問題である。即ち、人は、宣傳家が依つて以て彼
の影響を及ぼさうとしてゐる刺戟情勢を知覺せねばならない(2、知覺の原理)。聽覺を通じ、人々は勞働的娛樂の大多
數の形式によつて提供される刺戟を獲得することができる。即ち、彼等は音楽、劇、文學、詩、速報ニュース、政見演説
等を聞くのである。かやうにして、ラヂオのプログラムはこれ等の活動の根柢に在る補助的態度を喚起する。人々は喜
んで聴く。そして宣傳家はその機能を發揮し始める機會を持つのである(2a、補助的態度の知覺の原理)。これが、
重要な宣傳刺戟情勢としてのラヂオの心理學的説明である。

要、次には、この觀點に照して個々の商業的プログラムを考察してみよう。聴取者は、新聞でラヂオの放送番組を知
るか又は偶然スイッチを入れるかして、或る特定の製造業者の廣告番組を聴く。彼の興味は主として娛樂プログラムに
かゝつてゐるので、廣告にかゝつてゐはしない。併し、前者を聴く爲めには後者に對しても幾分か注意を牽かれること
になる。かやうにして廣告主たる製造業者は彼の廣告を極立たせる。ラヂオ番組の指導者は聴取者の主たる關心を知つ
てをり、従つて、^(註4) 即ち廣告に割當てられる時間を最少限に止める。事實、聯邦ラヂオ委員會は「商業プログラ
ムのみを用ひられる時間の一八・一パーセントだけが、販賣條件又は廣告される商品の叙述に用ひられる」としてゐ

^(註4) その結果として、ラヂオを利用する製造業者は、少しでも多くの聴取者を牽きつける爲めに、能ふ限りセンセーシ
onalなプログラムを作り上げようとする。^(註5)

加之、聴取者は、廣告が如何に短くとも、プログラムが如何に優秀でも、直接の宣傳を含む廣告には能ふ限り注意を
向けまいとする事は明らかである。彼はオーケストラに合せてダンスはするが、廣告が放送されてゐる間は相手に話
でもしてゐるであらう。^(註6) かやうにして聴取者が廣告に對して背を向けないやうにする爲めに、宣傳家は惻口な「ブラッ
グス」を工夫した。商品の長所が稱揚されてゐる最中、音楽は演奏を續けられる。呼物のオーケストラは廣告されてゐ
る商品の名稱の曲を演奏し、終つて聴取者は次の曲目を知らうとすれば否應なしにその名稱を聞かねばならぬことにな
る。例へば、大體に於て「廣告主の名は、三十分間の放送に於て十回乃至二十五回呼ばれる」とされる。短かくて面白
い笑話が放送され、その中に現はれて來る人物が特定のパン又は白粉の優秀な品質に就いて證言を與へる(3b、遅延
的、顯示的宣傳)。専門の權威者が彼の使用主の商品に壯重な讚辭を生ずる。喜劇役者がプログラムの「ブラグス」に

滑稽な皮肉を述べ、かくして「ブラグス」を繰り返して述べる。ニュース放送の間に、アナウンサーが世界の事件を最
も明瞭に聴取し得る或る型のラヂオ器械に觸れる。アナウンサーが後にプログラムに現はれる知名の士の名を告げ、又
は「特別放送」があることを豫告する。これは聴取者が名士の放送又は特別放送を聴き逃すことを慮つてそれまでの間
のプログラムを廣告であらうと何であらうと聴くやうにする態度を喚起する爲めの技巧である。ラヂオ聴取者を豫期せ
ざる廣告によつて「罪にかける」といふ方法がある。例へば、或る有名な太平洋横斷飛行家がロング・アイランドに着陸
したときに行はれたものがある。彼の飛行に就いて熱心に説明してゐる最中に彼は附加へて

「私が諸君に語つてゐる間に、現實に飛行を行ふ者以外の人々が頗る、否、飛行を行ふ者より以上に、かゝる飛行

の成功に寄與するのだといふことを告げることは、單に公正であるのみである。例へば、米國に於けるこれ等の人々の組織が是である。一層特定して云へば……」

と云ひ、彼の飛行機及びその發動機の設計者及び製造者、彼に油を供給した會社、彼の話の獨占權を有する新聞社等の名を挙げ始めたのである。

ラヂオ宣傳家は種々に工夫を凝してラヂオの聴衆を作り上げようとする。即ち、彼のプログラムに對する特殊な態度を作らうとする。プログラムは一定の間隔を置いて規則的に現はれる。それ故に聴取者は、この特殊な態度の齎らす緊張感が何時解除され得るかを知り得る譯である(6b、行動の経路指示の原理)。特徴のある主題歌又は言葉が、各プログラムの前後に放送される。物語りが連続の形で放送され、初期の映畫のやうに、興奮的な瞬間に中斷される。かやうにして聴取者は物語りを聴き逃さぬ爲め、それに先行する「ブラッグ」に對して寛大である。次に行はれる放送番組の豫告が行はれる。印刷物によつてプログラム及びその目星しい呼物を知らせる。廣告者が彼の普通の廣告及びその製品にラヂオ娯樂を表象し従つてそれに廣告を與へる象徴を用ひることもある。總てこれ等一切の場合に宣傳家は人々を彼の「ブラッグ」の方に向かせる爲めに補助的態度を喚起してゐるのである。

最後に、プログラムの型も亦、廣告の効果を決定する要素となる。交響樂に耳を傾ける聴衆はジャズ愛好家よりも概して注意深い。この理由により、前者の方が商業廣告を聞く場合が多い。同時に、「眞面目な」プログラムを聴く者の數は、それが異常な又はセンセーショナルな特徴を持たぬ限り、尙一層少ないであらう。或る著者が云つたやうに「プログラムがそれを聴く爲めに注意の集中を要求する程度に正比例して、その商品化が必要になる。」(註9)

宣傳家は、彼のプログラムの性質が彼の牽きつけ得るラヂオ聴衆の型に影響を及ぼし、そして彼の商品は従つて、或る一定の人々によつての

み關心を持たれるといふことも知つてゐる。それ故に彼は、平均の聴取者のみならず將來の顧客をも吸收するやなプログラムを提供しようと努める(4a、關係的、支配的態度の原理)。かくして、洗濯液の製造業者は主婦達への話を廣告放送に用ひ、乗券販賣業者は低唱歌本を用ひる。何故かと云へば、前者を買ふ者は家事に就いての有益な話を欲してゐる婦人連であり、後者を買ふ者はこの種の通俗音楽を好み、より廣い範圍の聴衆だからである。

又、ラヂオ宣傳家は人々が彼のプログラムを聞き得ることを確かめようと望む。夜間八時から十時までの間、又は日曜日是最も有利とされる。何故かと云へば、この時間には、仕事を持つ人々がスイッチを入れてゐると考へられるからである。放送局はこの事實を利用した。そして従つて晝間料金と夜間料金(放送日の時間により四つの異なる料金率)との區別があり、休日には特別料金が定められてゐる。

ラヂオを宣傳家は特定の放送局を決めて自分の放送は専らその局から行ふものであるが、それには種々な理由がある。その放送局の送波器が強力で、プログラムが人口の大部分に到達し得るからである(2a、知覺の原理)。或はその放送局自體が、その過去のプログラムが優秀であつたが爲めに或る勢威を有し、従つて廣告放送者も多數の聴取者を持ち得ることもある(2a、補助的態度の知覺的原理)。同様の考慮からして廣告者が或る別の放送局を選択し、彼の放送の範圍を増大を図ることもある。

個々の放送局及び全國に範圍を及ぼす會社は、多數の聴取者を獲得し、かくして能ふ限り多くの商業上の顧客を呼ぶ爲めに、勢威を築き上げ、それを保持することに熱中する。この目的の爲めに彼等は、彼等自身の爲めに意圖的宣傳を行ふ。これ等の放送局は、少くとも一時間に二回は局の名を放送する。局の名の放送は一分間の何分の一かの短時間ではあるが、頻繁に繰り返され(6c1、反覆の補強的原理)、しかもそれは聴取者のセツトに關する知識にとつて極めて

大切なことであるから(2a、補助的態度の知覺的原理)容易に忘れられない。併し放送局は娯樂及び廣告に或る水準を設けること、及び所謂「維持番組」(Sustaining program)によつてその勢威を大にする。

「維持番組」とは放送局が無償で、自己の費用に於て放送する番組である。その目的は二重である。即ち、(一)認可状に含まれる公益約款を實行する一つの手段として役立つこと、(二)放送局がその聴衆を維持、擴大し、延いては商業プログラムに用ひられる時間の價値を増加する爲めに役立つこと、が是である。この番組は通常オーケストラ、歌謡、劇、交響樂、オペラ、寄席、文學、科學、政治、ニュース、スポーツ、又は特殊の事件等を内容とする……〔聯邦ラヂオ委員會による〕調査の期間を通じて五百八十二の放送局の放送時間總計の六三・八六パーセントは維持番組に三六・一四パーセントは商業番組に用ひられた。^(註10)

かやうにしてラヂオ聴取者は、過去に於て愉快的聴取の經驗を持つた舊知の放送局に當ると、ダイヤルを捻り廻して模索することを止める傾向がある。

ラヂオ宣傳家の「ブラッグ」を分析して見ると、この種の廣告と、既に吾々が検討した印刷の形の廣告との間には驚ろくべき相似が存することに氣がつく。目的は繰り返して反覆される(2b、反覆の知覺的原理)、關係的態度が喚起される(4、關係的態度の原理)、内容に變化が與へられる(4d、變化の原理)、所期の統合が分解され又はそれが潜在的になることを防止する爲めに努力が行はれる(6c、補強の原理)、行動の経路が指示される(6b、行動の経路指示の原理)等である。人々をブラッグの方に注意を向けしめる爲めに、プログラムの内容に對する聴衆の補助的態度が演ずる役割は頗る重要であるが故に、ラヂオ宣傳家は、これ等の補助的態度が關係的態度としても作用して欲しいものと考へる(4c、關係的、補助的態度の原理)。儼めしい印象を與へようと努める商品は、同様に儼めしいプログラムによ

り、更に一層儼めしいアナウンサーを通じて廣告される。プログラム及びアナウンサーに對して感じられた威嚴の一部が商品自體にも蔓延することもないとは限らないのである。併し、概して云へば、ラヂオ廣告に於ける豫測し得べからざるこの範圍は大きい。コロムビア放送會社さへも次のことを認めてゐる。即ち、「併し、ストーパーネーグルやパッツ等に對する聴取者の熱心は彼等が廣告された品物を買ふといふことの科學的證明を意味しはしない。」

「ガイ・ロムバードのプログラムは何を廣告するか」、大多數の人はそれを知つてゐる。併し、若し知らなかつたとしてもそれは何を意味するであらうか。單に商品の名稱又はその商品の製造者の姓名と音樂隊又は歌の名とを結びつけるといふことは、それ自體としては健全なる廣告の目標ではない。儘かに、「廣告者が何人であるかを知ること」は相場を越えて販賣が行はれることの證據ではない。^(註11)

今日は殆んど總ての商業的ラヂオ宣傳はその目的を顯示してゐる(3a、顯示的宣傳の原理)。併し、或る新しいプログラムが開始せられるときには、廣告の分量は最少限に止められ、然る後にそのプログラムが聴取者を獲得すると歩調を合せて次第に廣告が増加する。かうした策略は正に遅延的、顯示的宣傳である。何故かならば、最初には補助的態度の喚起に重點が置かれ、宣傳家の目的が明らかに示されるのは稍々遅れてからだからである(3b1、遅延的、顯示的宣傳の時間的原理)。又、ラヂオ宣傳家は兒童の存在を閑却しない。例へば、コインフレイキの製造業者が、専ら兒童の爲めのプログラムを編成する、と云ふやうなものである(6c、始原性の原理)。

總體としてのラヂオ廣告が普通の廣告と異なる點が少くとも三つある。先づ第一に、印刷物による宣傳と共通の正規の手段によつて所期の統合を確保しようと努める以外に、ラヂオ宣傳家は通常「お得意」と呼ばれてゐるものを樂き上げようと努力する。ラヂオ聴取者が或るプログラムを毎夕、否、多くの場合には何週間も、甚だしきに至つては何年もに

互つて享樂するやうになると、彼はこのプログラムを提供する廣告主に對して感謝の念を抱くやうになり、従つてその商品を買願したくなるといふことが考へられる。この効果は、ラヂオによつて提供される娯樂の知覺的價値とは別に確保せらるべきものである。即ち、聴取者は單に特定の商品の名稱及びその種々な長所を記憶することを期待されるのみならず、彼の感謝の念を表現する爲めに現實の購入を行ふ程禮儀深いことを期待されてゐるのである——或る會社に至つては、實際にさうした要求を行ふのである。かやうな「訴へ」は、所期の統合に對して關係的であるかも知れぬところの態度を心界内に打ち建てることによつて、豫測し得べからざることの範圍を縮小しようとの企てに他ならない。併しその態度の、この統合及び行動に對する關係は、多くの人々に於ては不確實な疑はしいものと考へられるかも知れない。

第二に、ラヂオは時には、關係的態度を喚起し、及び聴取者に商品の現實の見本を與へる唯一の機會を提供することがある。普通、廣告されつゝある食料品は、ボスターに示して味覺を唆るやうにすることが出来る。併し、宣傳家が消費者にその品物の品質を味はしめ得るのは試食會を通じてのみである。又、家具の寫眞は現實の物によく似てゐる。併し人はその家具が彼の居室に似合ふかどうか、或は永持ちがするか否かを知らず思ふこともあらう。ラヂオによつて提供される商品の或るものに至つては、殆んど現物と變らない形で經驗させることができる。一流のホテルのダンス・オーケストラ、映畫館の舞臺演藝、講學教師の口授法等が是である。これ等の音は人々の家庭に入り、そして、若し彼のそれに對する反應が、好感を抱かしめるやうなものであれば、彼がそのホテルでダンスをすること、その映畫館でその聲を聞くこと、その講學校を信賴すること、に對して少くとも好意的態度を持つといふ可能性はある。この場合、その態度は經驗によつて築き上げられる(44、變化の原理)。併し、同時に、この種の「商品」の宣傳家は或る困難に陥ることもある。即ち、ラヂオを通じての經驗が好意的態度の緊張感を解除し、見本が潜在的愛願を取除くことがあり得る。

最後に、廣告者は、ラヂオを通じて、凡ゆる出版物の讀者よりも可成り多數の聽衆に接觸し得る。

「ラヂオ事業は六百七の放送局を包擁し、これ等の放送局は地理的に散在して夜間は大陸合衆國全領域の四六パーセント以上(晝間は五六・二パーセント)に亙り、その人口の約八九・六パーセント(晝間は九四パーセント)によつて間斷なく聴取せられるやうになつてゐる。合衆國の全領域、全人口は夜間、間歇的放送を受ける。」^(註12)

茲でラヂオ宣傳のより廣範圍の様相を述べて見よう。米國に於ては、放送局の大部分は商業的企業である。^(註13)この理由により、その方針は何れかと云へば保守主義に傾く。例へば、實際問題としては、共產主義は未だ管でラヂオ宣傳を行ふ機會を持つたことがない。或る有名な放送網は、その所屬の放送局の若干からして放送された攻撃に對して或る自由主義團體が反駁を行ふことを申込んだ際に、それを拒絶した。又、他の或る放送局は或る婦人が海峽橫斷水泳選手の壯舉を稱揚する演説を行ひ、「大戰の際、平和主義を採り、軍備廢止の傾向を有する國、丁株から……」と述べたときにその放送を中斷させた。その理由として「……良き趣味の命ずる事柄がある」と云つた。ベントリー少將は少くとも二回は放送を切られたことがある。それは彼が特殊な激越な口調を用ひ、それが何人かを憤慨させることを慮つたからである。

演説、ニュース、廣告等の總てが現状維持を支持する傾向がある。この點に於てラヂオは無意圖的な、又は恐らくは意圖的な宣傳の用具である。急進主義的政黨の一つは、間接に(社會主義新聞社を通じて)一つの放送局を支配し、商業的宣傳家には賣られないやうなプログラムを案配して急進主義的哲學を支持しようとしてゐる。他の急進主義者達は理論的には或る程度まで放送を認められてはゐるが、放送局支配人の要求する高率の料金を實際には支拂ひ得ない。或る放送局は新聞社、百貨店、公益事業會社、商業的製造業者等の所有にかゝる。これ等の大事業は自己所屬の放送局の「ブラッグ」によつて自ら直接の宣傳を行ふ以外には、自分達の利害關係を脅かすことのないやうなプログラムに限り放

送を許す。

右の如くにして二つの大放送會社は何れも「倫理の標準」を有し、嚴密にそれを實行する。ナショナル・ブロードキャスト・コンパニーは「神の名の使用は、それが敬虔な態度で述べられるか又は標準的な古典的作品の一部として用ひられる場合に限り、認められ」をして「宗教的見解、人種的特性等に對する攻撃を含む陳述又は暗示は避けねばならぬ」と定めてゐる。より降つては、コロムビア・ブロードキャスト・システムは兒童のプログラムを淨化し、不愉快な内臟機能に關する廣告を排除することを決定した。要するにラヂオ聴取者は掻き立てゝはならぬといふのである。毒にならぬやうに樂しませてやらねばならない。聴取者の態度に干渉することは禁じられてゐるのである。

加之、聯邦通信委員會（元の聯邦ラヂオ委員會）は放送局に認可狀を交付し、若しくはそれを更新する際に或る程度の檢閲を行ふ。例へば、或る教會團體に對して更新を拒絶した際に、コロムビア地方合衆國控訴院に於て、元の委員會は次の如く述べた。

「……この教會の主たる説教師の放送するプログラムは教訓的と云はんよりは寧ろ煽動的であり、彼は、公の正義の秩序ある遂行をラヂオを通じて妨害しようとして企てた廉で有罪の宣告を受けたこと二回に及んでゐる」。(註17)

裁判所は委員會の決定を是認して次のやうに判示した。

「自由人は何人と雖も彼の感情を公衆の前に披瀝する權利を有することは疑問の餘地なきことである。これを禁ずることは新聞の自由を禁ずる所以である。併し、若し彼が不穩當な、有害な、若しくは違法なことを發表すれば、彼は彼自身の非行の責任を負はねばならない。」併しこのことは、政府が、議會によつて認められた機關を通じて、認可を濫用して名譽毀損又は不眞實を放送した者にその更新を拒絶してはならぬ、といふことを意味しはせぬ……」。(註18)

委員會の陳述にせよ、裁判所の判決にせよ、何れも、憲法の正常なること、國家が個人に對して優越せることを肯定する意見を含んでゐる。彼等は恣意的に、放送者をこれ等の標準に従ふやうに強制してゐる。(註19)

米國に於けるラヂオ宣傳は、政府が歐洲諸國の例に倣ひ、意圖的に全國の放送局を指導するやうになれば、より一層效果的、且、攻勢的になるであらう。何故かと云へば、歐洲に於ては一國內に於ける放送局同志の競争は實際上は絶滅せられ、その結果として聴取者は、苟くもラヂオを通じて何事かを聞かうと欲するならば、プログラムを選択する餘裕が殆もない。或は殆んどない。今日のロシヤの街上を通行する者は擴聲器の高聲を聞き続けねばならない。獨逸に於てはその程度は稍々少ないがそれにしても相當にある。従つて通行人は彼の爲めに意圖された宣傳を避けることは頗る困難である(2)。知覺の原理。強力な聴取器を以てすれば外國放送局を捉へ得るが、それにしても、國境附近に居住するにあらざれば明瞭な聴取は不可能である(言語のハンディキャップもあらう)。政府は外國の放送を受けることを禁止さへもしようとする。政府は極めて低廉な價格で、地方的放送局のみを受け得る力のあるセットを賣付ける。或は政府が外國放送局と同じ波長で放送したり、又は雜音を入れさせて外國の放送を消したりする(今日、技術的には「妨害」, Jamming、又は「spraying」と呼ばれる)。かうした事情に於ては、政府は實際上は政策に合つた如何なるプログラムでも按配することができ、そして、この政策に適合した事柄のみが放送される(6d、局限の原理)。(註20)

米國に於ては N.R.A. が草創の際にはラヂオを宣傳の用に供する爲めの企圖の一例が見られる。殆んど總ての放送局は「自發的に」これに協力し、個々のプログラム提供者も亦協力した。その結果として聴取者は殆んどこの宣傳を聞くことを強制された。平常の呼び物が脇に除けられてこれに代つて特別な N.R.A. の演説者が立つた。一九三三年の晩夏には、復興計畫に關する若干の文句が通常の局名放送の間に挿入された。製造業者は彼等が彼等の事業の統制規則に

加入したことを誇り、かくして規則と彼等自身とを同時に稱揚した。廣範圍の放送はこの計畫を支持する顯官達の聲を送つた。勿論、聴取者は殆んど常にかゝるプログラムを消すことができた。併し、多くの場合、例へばルーズヴェルトが放送を行つてゐる際、同時に他のプログラムを放送してゐたのは唯、あまり重要ならざる放送局のみであつた。ラヂオを通じて民衆の一致を圖るこの努力は次に戦争が起つた場合には如何なるかの試味であつた。かゝる場合になつて初めて、ラヂオは、一九一七—一九一八年に新聞が統制されたと同様に有効に統制されるであらう。「空中に於ける言論の自由及び機會平等の権利を保障する何等の規定をも」含まざる放送規則及び一九三二年の選挙戦に於て民主主義國家委員會のラヂオ宣傳指導者ハーバート・L・ペッティー (Herbert L. Petty) を書記とする聯邦通信委員會の創設は、^(註21)恐らくはこの冷厳な將來を暗示するものであらう。

- 註1. 詳細は O. W. Riegel, *Mobilizing for Chaos*, Chap. IV, New Haven, 1934.
- 註2. 併しその頻繁なることは間も無く利潤遞減點に達せしめた。それ故に大統領は彼の「爐邊談話」及び演説の数を制限し始めた。
- 註3. 小冊子 *We Think a Point Has Been Missed*, New York, 1933, 4c.
- 註4. *Commercial Radio Advertising*, Senate Document No. 137, Seventy Third Congress, p. 32.
- 註5. 併し、宣傳者にとっては、有名な「Name program」の危険がある。即ち、放送によつて廣告されつゝある品物の評判が高まるよりも寧ろ出演者の名聲が上ることがある。
- 註6. ラヂオ聴取者の商業廣告に對する反應は近年面白からぬ状態になつて來た。Oxford Kitchpatrick, *Report of a Research into the Attitudes and Habits of Radio Listeners*, pp. 43—44, St. Paul, 1933. 同様にロンドンビヤ・ブロードカスティング・システムは一九三五年に、十五分間放送を除き「午後六時以後のプログラムには、懸賞及び景品を含み、廣告主の商業廣告に使用する

時間は、全放送時間の二〇パーセントを最大限とする」と定めた。New York Times, May 19, 1935, IX, 13:1. 晝間放送に於ては最大限は一五パーセントとする。

- 註7. Orin E. Dunlap, Jr., *Radio in Advertising*, p. 110, New York, 1931.
- 註8. *Ibid.*, p. 29.
- 註9. Paul Kesten, "Merchandizing a Radio Program," in Levering Tyson (ed.), *Radio and Education* p. 95, Chicago, 1932.
- 註10. *Commercial Radio Advertising*, op. cit., p. 14.
- 註11. *Has Radio Sold Goods in 1932?* ロムビア・ブロードカスティング・システムの一九三二年の廣告冊子。この書物はマサチューセット工務研究所のロバート・D・エルダー教授の研究を基礎とするものであり、ラヂオで廣告された商品が、然らざる商品よりも如何に頻繁に使用せられるかを示す證據を提供してゐる。
- 註12. *Commercial Radio Advertising*, op. cit., pp. 19—21.
- 註13. 「連領會社及び放送局の大多數——全體の約九〇パーセント——は少くとも部分的には商業的活動を行ふ。」*Ibid.*, p. 47.
- 註14. *New Republic*, 1923, v. 36, p. 113.
- 註15. *Nation*, 1927, v. 124, p. 545.
- 註16. *New York Times*, loc. cit.
- 註17. *Seventh Annual Report of the Federal Radio Commission*, 1933, p. 11.
- 註18. *Ibid.*, p. 11. に引用。
- 註19. 加之、一九三三年以後は、委員會の決定は控訴院の確認を要しないことになつた。それ故に委員會は、ラヂオの多少共に啓蒙せられたるツヤになつた。
- 註20. ナチスが如何にしてラヂオを掌握したかの詳細は二八一—二八三頁に述べた。
- 註21. Elisha Hanson, "Official Propaganda and the New Deal," *Ann. Amer. Acad. Pol. & Soc. Sci.*, 1935, v. 179, p. 177.

第二十章 映畫、演劇、藝術

一、映 畫

「商業的映畫は概して露骨な宣傳を避けようとする。「宣傳」が甘つたるい物語りか戦慄すべき冒険の中に織り込まれないと、「金を拂つたお客」を怒らせる可能性が強い。併し、微妙な聯想を常に反覆させれば、頗る顯著な効果が見られる。筋書の主人公が北歐人であり、悪漢が淺黒い狂暴なラテン種である場合が如何に多いことか。銀幕上の勞働者は通常無知、粗暴な者として、或は富者の濫刺たる息子や娘に卑屈な程従順な者として描かれる。」^(註1)

右の如き通俗的な言葉により、オードガード (O'Dogard) 教授は、宣傳の媒介としてアメリカの映畫を正確且つ簡単に要約してゐる。大衆は娯樂を求めて映畫館に赴くものであるから、彼等はそこで説教されることを拒む。或は少くとも現に起りつゝある説教に氣が付くことを拒む。その結果として映畫宣傳は殆んど全く無意圖的であり、一般には隠蔽的である。

次の一文は映畫觀衆に關する多數の文學的描寫の典型的なものである。

「荒蕪たる太平洋の孤獨な船乗りがブランドーに慰安を求め、軍旅に在る兵士が一服の煙草に憐れを遣ると同様に、工場、百貨店、會社等に働く者は、一日の仕事から放たれると映畫に慰安を求める者が多い。そして映畫こそ正しく彼等が求めてゐるものを提供するのである。即ち、彼等の單調な生活とは極立つた對照をなす空想とセンチメン、そして、豪華と富裕、エロティックとエキゾティックを含む翹望の土地への幻想的移住……」^(註2)

宣傳の目的にとつて映畫は理想的な手段である。人々は進んで映畫館に娯樂するが故に、宣傳家は多數の觀衆を持ち得ること請合である。一九三〇年には、毎週合衆國の映畫館入場券賣上數は一億と評價された。^(註3) 即ち、民衆自體が宣傳家の第一の問題を解決してゐるのである。民衆はその熱心な愛顧によつて宣傳家の刺戟情勢を極立たせてゐるのである^(註4)

(2、知覺の原理)

・映畫觀衆といふものは娯樂を求めてゐるものであるから、米國に於ては、商業宣傳映畫は餘り成功を収めなかつた。番組の白眉は如何なる場合に於ても呼物映畫であることを要し、そして映畫の無意圖的宣傳はこの映畫の中に求められる。加之、この宣傳は多數の觀衆には氣付かれずして終つて了ふ。毎年何百本といふフィルムを檢閲する或る人の言によれば、映畫生産事業の所産はサタデー・イヴニング・ポスト紙の物語りに類似する。即ち、それは大衆の情緒を趁ふのみならず、微妙なやり方で次第にこの情緒を指導するのである。

搜、映畫の内容といふ觀點よりすれば、映畫は正に宣傳を含む。呼物映畫を仔細に檢すれば、別段驚歎するまでのことではないが、それにして重要な意義を持つ數多の事實が發見される。^(註4) 映畫のテーマの大多數は「犯罪、性、及び戀愛」を強調する。主人公たる犯罪人は「魅力のある性格」として描寫され、法の手には捕へられて處罰されることは稀である。

映畫に登場する人物の大多數は富者階級に屬し、その職業別は、多數の順序に従へば、「無職」、「商業」、「職業不明」、「不法」、「演劇」、「高級演劇」となる。俳優及び女優の大多數の年齢は二十三歳乃至二十六歳である。好んで着用される衣服は「儀式服」である——これは要するに映畫監督や製作者の工夫に出たものであり、そのお蔭で大衆は無殘に近い位に、不必要な華美に憧れるやうになるのである。「寢室の内部」は他の部屋に比して最も頻繁に示される。「他の者の愛を顧み得ること」、「戀愛結婚」、「仕事の上の成功」、「愛する者の幸福」、「復讐」、この五つは、映畫檢閲に當つて最も頻

察に發見される目標である。疲れ切つた檢閲者が勇を鼓して再び仕事に取り掛る時分には、花形女優の名聲が衰へ初め
てゐる。附言すべきことは、^(註15)科學者は概して、神として描かれるか悪魔としてであり、又、今日までのところでは、ソ
ヴェト・ロシアは悪意を以て描き出され、宗教及び米國憲法は最大級の敬意を以て取扱はれ、家庭の婦人は職業婦人よ
りも幸福なものとして描かれ、戦争は一般に光榮あるものとされ、同盟罷業者に通常暴漢として描寫される、等々とい
ふことである。かやうな「約束」を持つた映畫は、その中に描き出されてゐる主題に對する宣傳の無意圖的媒介物と見
ねばならない。多數のアメリカ人はかゝる映畫を以て毒にならぬものとしてゐることは勿論であるが、外國人は、他の
國に生活する人が持ち得る距離を以て觀察し、アメリカ映畫に於ける無意圖的宣傳を認めるのである。例へば、オース
トラリア人は、佛國戰場に於て最も多數を占めてゐたのが米國兵士であつたかの如き印象を與へるハリウッド製の戦争
映畫を公開することに對して抗議を行つた。^(註16)

次には、刺戟情勢としての映畫は、最近の研究が明瞭に證明するところに従へば、現實に人々の上に影響を及ぼす。
映畫が兒童の睡眠に影響を與へ、彼等の生活状態、正確と不正確とを問はず彼等の知識、彼等の態度、彼等の行動に作
用するといふことが證明された。^(註17)例へば、ピーターソン (Peterson)、サーストン (Thurstone) 兩氏は、或る標準で選定
した映畫を兒童に見せる約二週間前と、見せた翌日との調査により、「態度表」を作成した。^(註18)黑人、支那人、ギャング、
戦争、賭博等を主題とする映畫を見せた後には、これ等の重要な諸問題に關する態度の著しい變化が現はれた。兩氏は
「同じ問題に關する二つ以上の映畫の累積的效果」をも決定し、次のやうに結論してゐる。

「二つ々々としては態度の上になしたる重要な效果を持たない映畫も、二つとなると、これ等兩者を見た群の上に著し
い效果を持ち得るものだ、といふことが結果として表はれた。^(註19)」

加之、これ等の新たな態度は永続的統合の傾向があることも發見された。何故かと云へば、「十週間乃至十九箇月の間
を於いて再検査を実施したところ……映畫を見る前の立場への復歸は幾分かあつたが、態度に及ぼした映畫の影響が
依然として殘存してゐることが證明された」^(註10)からである。かやうな實驗結果は、それが印象に對する感受性の頗る強い
兒童間に得られたものであること(6)、始原性の原理、及び兒童が頗る映畫を愛好するといふこと、を想へば、特に
重要な意義があると云はねばならない。一例を挙げれば、フォーアマン (Forman) の云ふところに従へば、「未成年者映
畫觀客数は實際上は全國兒童の總てを含み、そして彼等は平均毎週一回又は年五十二回映畫館に行く」^(註11)

映畫が人々の態度を變化せしめるとしても別段驚くには當らない。何故かと云へば、子供にせよ、大人にせよ、一
旦映畫館に入つた以上は、映畫によつて影響を與へられざるを得ない。先づ第一に、彼は映寫されつゝあることを總て
視ようと欲するであらう(2a、補助的態の知覺的原理)。彼は映畫を見まいとしてもそれは殆んど不可能である。即
ち、暗くされた部屋で映寫幕だけが照明されてゐるのであるから、眼を開いてゐる以上その方を視ざるを得ない。米國
の研究家達は映畫が觀衆特に兒童を動かす程度を強調した。この力強い、^(註12)共演の状態、この神經的興奮は心界を物語
りの方に向つて偏倚させる。従つて被暗示性は増大する。かくして、かゝる期間に受けた宣傳は、ピーターソン、サー
ストーン兩氏が證明したやうに、恐らくは持続的な效果を持つことになるであらう。次に、映畫は大規模に配給される
ものであるから、無學文盲の人も理解し得るやうに製作される(2c、單純化の知覺的原理)。觀客は映畫がスタジオで
作られたものであることを承知してゐる場合でも、映畫に或る程度の現實性を與へぬといふことは彼にとつては困難で
ある。要するに映畫は、新聞紙や雜誌の寫真と同様に、勢威を有するのである。加之、映畫愛好者は同時に他の諸々の
觀客によつても刺戟されつゝある。即ち、彼等が單に存在するといふこと、彼等の賞讃又は非難の表現によつて刺戟を

受ける。かゝる社會的情勢は普遍性の印象を促進し、それが彼を一層暗示にかゝり易くさせる(6a2、普遍性の印象の原理)。最後に、映畫は新聞と同様に、製作者が表現に適當だと考へる現代生活の幾分怪奇な様相に關する知識の唯一の源泉であることが屢々ある。かやうにして、人々の環境の諸様相に就いての人々の認識、及びそれに次いで生ずるスプレッドは、人々が何を見るべきかに關する製作者の思想によつて限定される(6d、限定の原理)。要するに、映畫愛好者は、到底抵抗することのできない或る力に、自發的に服従してゐるのである。

これまでは映畫が單に無意圖的宣傳のみを表象するといふことを述べた。この論點は今や映畫といふ手段が意圖的宣傳にも用ひられるといふ議論によつて修正されることを要する。例へば、大戦中、殆んど總ての國家は自國民の精神状態を昂揚する爲め、及び中立國に對して好印象を與へる爲めの映畫を製作した。又、戦線に於て撮影された寫眞も同様の効果を與へるやうに工夫された。

「例へば佛國軍隊は素晴らしい裝備に於て示された。佛國騎兵が戦場に於て攻撃態勢を整へて募進してゐる場面、歩兵が共和國大統領の閱兵を受けつゝある情況、といつたやうな整然たる「舞臺情景」が呈示された。これに引續いて現はれるのが獨逸の兵營の有様、練兵用の纏られた服装でのろ／＼と行進してゐる新兵、分列行進をして直線を保ち得ぬ様子、自分の隊伍すら判らぬ混亂した模様等である。一切は眞實に撮影されたものではあるがそれは或る特定の政策に合致するやうに取捨選擇されてゐるのである。」(註12)

戦を交へつゝある兩交戦國の軍隊をかやうに描寫することは、佛軍に關して喚起される關係的態度をこれに有利なやうに局限し、他面、獨逸軍に對する好もしからざる態度を喚起することによつて、當然佛軍に有利な結果を來すのである(6d、限定の原理)。

大戦後、米國に於て、ララビー Larrabee は簡明に述べて

「勞働不安の悪化は使用人慰安の問題を頗る重要なものとした。その方法として映畫は種々に用ひられ得る……」(註13)

更に彼は、雇主が如何にして使用人にフィルムを見せたか、そして如何にして「全く所期の効果を」齎したかを説いてゐる。今日に於ては軍備の問題が多數の大映畫會社の映畫に於て強調されてゐる。又、反目的、反平和主義的、又ギャンブル、反恐喝團、反兵器製業者、反人身賣買、反麻酔劑取引等に關するフィルムも時々現はれる。これ等は意圖的宣傳の實例の部類に入れることができるが、それは宣傳を含むが故に製作されたものではなく、寧ろ觀取し得る大衆の動向に一致するが故に商業的成功が確實だから製作されたものである。映畫産業に投資されてゐる資本の額は莫大であるから、製作者は假令如何なるものにもせよ、一群の人々を怒らせるやうな映畫を製作するの危険を敢て冒さないのである。切符賣場の収入が最高善であつて、進歩や改革の故ではない。併し、ハリウッドは、少くとも一度は、自己の利益を映畫を通じて擁護しようとしたことがあつた。即ち、一九三四年に、映畫界はアプトン・シンクレアの E.P.C. 計畫を恐れ、カリフォルニア州の人々の恐怖を助成する爲めに、「共產主義」の下に安易な生活を送る目的を以てカリフォルニア州に入り込みつゝある放浪者の群を描いて「虚構」の映畫を製作した。(註14)

又、合衆國の殆んど總ての州が検閲局を設け、或る映畫は全く上映を禁止するし、或る映畫に對しては部分的に削除を命じてゐる。これ等のフィルムは各州検閲官の獨斷的標準に従つて検閲される。その結果として、或る州に於ては風俗上面白からずとされたフィルムを他の州では上映を許可されることがある。(註15) 近時に至つて保守主義團體及び宗教團體の或るものは「矯風」聯盟を結成し、ハリウッドを源泉とする所謂「不道德」と闘はふとしてゐる。これ等の人々は彼等の上品な嫌惡の情を喚起した映畫を組織的に排斥しようとする。この種の検閲、排斥は所謂「良き趣味の標準」を強

行する爲めの計画的努力であると言を俟たない。そして「良き趣味の標準」とは現に行はれてゐる習俗の體系に他ならない。宣傳をよく意識せること加特力教會の如きがこの陣營に参加してゐるといふ事實は、正しく、米國のフィルムの通常の形には宣傳が存在してゐるといふことの證據とするに足りる。教會は單に逆宣傳を行はふと企てゝゐるに他ならぬ。^(註16)

映畫によつて大衆に受けの悪い問題が後援され得ることは、一九三一年—一九三二年にワイマール憲法の流産禁止の項目の廢止を熱烈に強調した一群の獨逸映畫によつて示される。獨裁者が一切の傳達機關を統制してゐる國家に於ては映畫産業も亦統制を受ける。この點に於て最も巧妙であつたのはロシア人であり、ロシア映畫と云へばその中から何等かの「宣傳」を摘出しなければ氣が済まないやうな、ロシア映畫に敵意を抱いてゐる批評家達でさへも、ロシアの監督達が意圖的宣傳を實行する方法を心得てをり、しかもそれと同時に、映畫の藝術的潛勢力を發達せしめたといふことを認めてゐる。最近、ヒトラー政府はヒトラー施政を諷刺する映畫の製作を監督した。これ等意圖的宣傳の一切の場合を通じ、映畫は娯樂としての價値を保つこともあれば、喪失することもある。宣傳は、假令如何に明白なものであらうとも、物語りに對しては附隨的であらねばならない。

併し、呼物映畫と雖も畢竟するにプログラムの一部分でしかない。觀衆は短篇ものゝ影響をも蒙るのである。この點に於て宣傳家は呼物映畫の興味に牽かれる多數の觀衆を確保することができ、プログラムの殘餘を利用して自己の欲する宣傳を行ふことができる(2a, 補助的態度の知覺的原理)。この種の宣傳の最も粗野な、而も最も明瞭な形は、映畫の間に示される次に上映すべきフィルム豫告である。比較的低廉な劇場及び「地方」映畫館に於ては、その地方の商人はその商品を俗悪な色彩の幻燈板で廣告することもあるし、商人が聯合して作らせた廣告フィルムに自分の名を連ね

ることがある。又、所謂「教育映畫」なるものがあり、休暇中の外國旅行又は特殊な工業の技術的工程を直接に廣告することがある。公然たる商業宣傳映畫の大多數はこの形で呈示される。比較的短篇の喜劇さへも社會の「道德的標準」を高める爲めの無意圖的宣傳の役割を演ずる。又、傳統的な愛蘭、猶太、獨逸、黑人、蘇格蘭等の喜劇役者が、人種的偏見の基礎に存する或る種のステロ版を築き上げ、又は補強するに與つて力があることは疑を容れない。

呼物映畫に含まれた宣傳を除き、最も効果的な宣傳の手段たり得るものはニュース映畫である。或る著者が、ニュース映畫を見る幼い少年に皮肉を含めて云つたことであるが、

「世界で起る重要な出來事の殆んど四分の一が陸軍の巨砲、海軍のドレッドノート、ウエスト・ポイントの候補生、航空機の爆彈、フィスカール・B・サムボイズ海軍大將等に關係があるといふことが判る。これ等總ては頗る面白いことであるし、進行する軍隊の後では極りきつて星條旗が高く掲げられ、美しく隣るのが見られ、それ以外の場面では實際上は殆んど全く見られないのを知るときに、お前は忽ちにして愛國心とは何であるか、愛國心が主としてお前に、そして凡ゆる善良な米國人に要求するものは何であるかといふことに就いて獨り決めをしてしまふであらう。」^(註17)

何故かと云へば、ニュース映畫は新聞紙と同様の歪曲を行ふことができるし、それと同時に、凡ゆる映畫と同様に寫眞であるといふ優越した地位を持つのみならず、寫眞を通じての時事の反映として一層「現實的」なやうに思はれるからである(6a, 補助的、服従的態度の原理)。それ故に、ニュース映畫は、呼物映畫に内在すると同じ理由により、現狀維持の加擔者である。實に、或る新聞の讀者が朝刊又は夕刊を通じて世界に起つた事件に關する第一印象を獲得したとすれば、映畫館に於ける觀客として彼は、映畫館に見られるこれ等の事件の模様を通じてこの印象を補強されるであらう(6o2, 附加的、關係的、既存態度の原理)。實際に於て、ニュース映畫の勢威の結果として、スクリーンを眺めてゐ

る間に、多くの事件に對する彼の態度を獲得することが多い(6。始原性の原理)。觀衆が或る事件の意義を把握することを一層確實にする爲めには、製作者が感じの良い聲を持つた人に、映寫されてゐる事柄の解説を行はせることが屢々ある。例へば、合衆國海軍がカメランに對して凡ゆる町重な取扱ひを惜まないことは、決して單なる偶然のことではない。多數の人々がドレッドノート型の巨艦や印象的な提督達の姿に接することを好むことは勿論であるとしても、彼等がかゝる巨艦、巨人を好むことを不斷に回想せしめることは、或る人々に於ては愛國的態度を補強する所以であり(6 e. 1、反覆の補強的原理)。又或る人々に於ては愛國的態度を築き上げる所以である(4 d、變化の原理、6 c. 3、附加的、關係的、新態度の原理)。又、當裕な者の活動が比較的貧しい階級の人々の夫よりもより廣く取扱はれることも亦決して偶然の機會の問題ではない。又、同じ週中に、異なるニュース映畫によつて選擇された材料を比較對照して見ると概して常にその間に一致が見られるといふことも重要な意義を持つてゐるのである。少數のインテリ的な米國の學生が突如躍起してハースト・メトロ・ニュース映畫の排斥を行ひ、それに成功したことがあつたが、それはハースト系の一派が煽動した「赤」の脅威に對抗し、このニュース映畫が特に涵養しようとした反米國的感情に拮抗しようとの努力に出たものであつた。

加之、ニュース映畫による宣傳の多くは無意圖的であることがある。一九三二年の大統領選挙戦に際して、總ての映畫會社は極めて慎重な態度を採り、二大候補者の演説に對して殆んど同一の時間と空間とを與へた。かくすることによつて、これ等映畫會社がトーマス、フナスターその他の候補者に對する反對宣傳も行ひつゝあつたことは勿論である。有力な觀察者の言に従へば、前大統領フーヴァー氏は、彼のぎこちない外見と一本調子な演説とが「トーカー」によつていとも忠實に記録されたが爲めに、映畫を通じて多くの人々に知られることにはなつたが、選挙戦には却つて妙な

らず不利な立場に陥ることになつたといふ。ヒットラー、ムッソリーニの如き人々は、人々の嗜笑を招く惧れのあるやうな姿で映寫幕に曝されることを決して許さないのである。

映畫は映畫館以外の場所に於ても宣傳の手段となることがあり得る。教會、學校、工場その他のもので自ら映寫機の設備を設け、何等かの目的に向つてその觀衆を動かさうと企てるものは尠くない。かやうにして、娯樂の源泉としての映畫の勢威を利用して人々の視聽を牽きつけようとする。併し、右の如き設備が、私有の映寫機を通じて、宣傳とは縁のない眞に有用な知識を提供することもある。例へば學校に於ては、教育補助の手段として映畫が利用される。或る著者によれば、フォード自動車工場に於ては、「映畫を見せてゐる期間中は遅刻事故の二七パーセントまでが減少した」といふ。

二、演劇

映畫に就いて述べたことは殆んどその儘にその閑却せられたる親戚、演劇に就いても當嵌る。一見理窟に合はぬやうではあるが、多くの場合に於て、觀衆の前に現實の役者が現はれるといふことは、彼等が「芝居」を觀てゐるのだといふ感じを一層強く意識させる。その結果として、劇は映畫程の勢威を持ち得ない。米國に於て劇場の觀客の数が少ないのは「本格的な」劇場の数が比較的少ないこと、その入場料が高いことに因る。従つて、宣傳の用具としては、演劇は映畫程重要でない(2、知覺の原理)。

それと同時に、演劇上演に要する費用は通常、映畫製作に要する費用よりも遙かに少なく、従つて、少數の集團の代表者として制限された財力しか持たぬことを常とする意圖的宣傳家は、彼の主張を提唱する爲めには演劇に訴へる可能性が多い。強力なソヴェト宣傳の指導者達でさへもロシア國內の僻遠の地方には小さい劇團を造り、他の宣傳

の補助とするのである。又、演劇は、映畫が對象とするよりも遙かに少數の觀衆を對象とするものであるから、劇作家は比較的狭い主題を取扱ふことができる。それ故に、何等かの智的な問題に就いて宣傳を行はふと欲する者は、彼の思想が、少くとも劇場の觀客の或る人々には理解されるであらうといふ點に就いて、比較的大きな確信を持つことが許される。これに對して、映畫のシナリオを書く人は、映畫が大衆向きであるが爲めには、右のやうな思想の多くを抛棄せねばならぬことが屢々ある(1a、關係的、支配的態度の原理)。最後に、強調せねばならぬことは、劇場に行く者は娛樂を求めてゐるといふ點である。それ故に、演劇を通じての宣傳が効果的であるが爲めには、それは第二義的、若しくは全然隠蔽的であらねばならぬ。

三、藝 術

藝術と宣傳とを結びつけたからと云つて戰慄を感じるに當らない。かく云へばとて藝術に對して、又宣傳に對して何等の價值判斷を加へてゐることにはならないのである。宣傳に關係のある性質以外に藝術は數多の他の性質を具有してゐるのである。それは美しくもあらうし、多くの含蓄を持つてもあらうし、慰安的でもあらう、又は全く無言でもあり得る。これ等の藝術固有の性質は、この藝術を創作した者がこの藝術を通じて企てつゝある社會的使命の遂行とは無關係に、残り、そして永續することが屢々ある。或る特殊な社會的環境に基づいて或る藝術作品が生れたといふことに就いての奥深い物語りが伴つてゐる場合ですらも、その藝術作品自体に含まれた特殊性は一向變らないのである。かやうな説明は單にこの藝術品に對する人との理解を補足し得るに止まり、この藝術作品を説明し盡すことはできないのである。かくして、宣傳は、繪畫、建築、音樂、散文、詩等の可能なる數多の機能の中の一つであるといふに過ぎない。藝術家は眞底からの藝術家であるとしても、無意圖的に宣傳を行つてゐないとも限らない。事實、歐洲復興期に作り

上げられた傑作と云はれる作品の大部分には宣傳が漏れてゐる。唯、これ等の傑作は、現在に於ては、その些細な使命よりも遙かに重要な意義を有し、それを超越してゐると考へられてゐるのみである。イタリアの畫家達はカトリック教會の榮光を讃へる爲めに彼等の畫布の上に顔料を擴げた。後に、時代が頽廢するに及んで、これ等の畫家の或る者は繪畫の一隅に彼等のパトロン肖像を描くやうになつた。もつと世俗的な北方の國々の畫家は、市役所の壁に掲げる爲めに市の有力者達の肖像を描いた。シエナは、フロレンスの人々にこのウムブリアの市の強力になつたことを誇示する爲めに、壯麗な伽藍の建築を始めた。シルトルサへも、佛國のこの地方の強力なギルドが、マリヤの特別な御恵みを授かる爲めに行つた一つの取引だつたのである。音樂も亦王家の人々がその勢威を誇る爲めに用ひたものであつて、彼等が作曲させる爲めに雇ひ入れた天才音樂家の名聲などは二の次であつたのである。

近代の商業的世界に於ては、大企業はその賣上高を増加させる爲めに藝術家の援助を求める。廣告代理業者は或は見本を作る爲め、或はラヂオのプログラムの織りや内容を作らせる爲めに藝術家を雇ひ入れる。ガソリンスタンドは多數の顧客を吸収する爲めに奇妙なゴシック風の入口を設ける。政治家は自分の美徳を吹聴させる爲めに音樂隊を備ふ。藝術の役割は、概して、人々を宣傳家の傳へんとする使命の方に指向することに在る(2a、補助的態度の知覺的原理)。博物館は元來、私の蒐集品を通じて一種の不朽性を求めた富者の要求によつて設立されたものである。現在に於ては過去の國家的事蹟の證跡を展示する目的を以て博物館又は陳列場を設けぬ國とは稀である。全世界を通じての保守主義的設立物は尙ほ近代藝術を排斥するの態度を採り、かくすることによつて意圖的に舊時の巨匠を支持してゐる。程度はそれ程ではないとしても、音樂の指揮者に就いても同様のことが云ひ得る。ロシア人は古い教會を博物館として使用してゐるが、それによつて齎らされる舊制度に對する無言の、併し有效な非難の効果を狙つたのである。

あり、郵便によつて送られることもある。意圖的宣傳の最も直接的な形のものであり、一見直ちに宣傳といふことが知られるが故に通常、新聞程の勢威を持ち得ない(6a1、積極的、社會的價値の原理)。大きな、又は目立つやうな印刷により、若しくは繪畫によつて補助的態度を喚起し、通行人をしてその内容を讀ませようとする(2a、補助的態度の知覺的原理)。元來短かいものであるから、その訴へんとするところは簡潔に敘述せられ、従つて、より完全な説明に於ては相當重要と思はれるやうな點が省略される場合がある(6d、限定の原理)。宣傳家の求める行動の経路は明白に陳述される。即ち、讀者は或る店に行くこと、或る政黨に加入すること、或る會合に出席すること、或ることに抗議すること等を率直に要求される(6b、行動の経路指示の原理)。併し、宣傳家の目的は、特にパンフレットの場合には終りに近くなつてからやつと顯示され、又は全然隠蔽された儘で終つてゐる。

歴史的にはこの種の傳達手段は重要な役割を演じた。例へば、ヴォルテールは匿名で佛國人民をルキ十五世に反抗して蹴起せしめる爲めに用ひたし、トム・ペーンは聯邦憲法の爲めの宣傳を行ふ爲めに利用したし、トロッキイはボルシェヴィキの結束を固める爲めにそして後には獨逸、オーストリアに於ける過激分子を糾合する爲めに使用した。今日に於てはその重要性は減じた、といふのはより多數の人々を動かし得る他の手段によつて置き換へられるに至つたからである。とは云へ、或る重要な瞬間、又は特殊な情況に於ては、頗る價値があることが屢々ある。市場に赴く途中の主婦が突如その手の中に突き込まれた引札によつて特殊の賣出しに行つて見る氣を起すこともあり得る。何故かと云へば、この場合には、買物に行くといふ比較的に散漫な心組みがその賣出しが存在することの單なる知覺によつて容易にこの賣出しに向つて統合されるからである。佛國の如何はしい芝居小屋の外に立つてゐる人が、レヅューが果てた後の觀客にカフエーや娯家の廣告を配布するものこの宣傳の一種である。又、熱心な宗教家は信仰復興の會合の後に、近所の街路でパンフ

レットを配布してその宗派への改宗者を獲得しようとする。政治家は政治的集會の後にパンフレットを配つて政黨に加入することを勸説し、或る候補者に投票することを勧め、或は政戰費用に寄附を求め、これ等總ての場合に、宣傳家は、彼等自身の爲めにするところある目的と、夫々の會合に於て喚起せられたる態度とを、その態度が支配的である瞬間に於てその目的を顯示することによつて、統合せしめようとするのである(4a、關係的、支配的態度の原理)。戰時の宣傳を説くに當り、獨逸人が、聯合國側が配布したパンフレットを讀んで、如何に精神的の痛手を負ふたかに就いて述べた^(註1)。これは、宣傳家の目的を背景から極立たせ、この目的を戰爭に對する絶望といふやうな既存の態度と統合せしめる爲めの新奇な企てであつたのである。

二、廣告板、看板、サンドウィッチメン、空中文字、自動車、飛行機、ツェッペリン廣告、及び「補充的廣告」^(註2)

右の方法は總て、宣傳家はその目的を知らしめる爲めに用ひる手段である(2、知覺の原理)。自動車を運轉する者は街の曲り角で彼の真正面に位置する廣告板を見ぬ譯には行かない。雜沓するニューヨークの地下鐵の乗客は彼が取纏つてゐる吊皮の丁度後ろに掲げられた廣告を讀むことを殆んど強制されてゐると云つても差支へない。サンドウィッチメンが雜鬧の街路上で人の注意を牽くのは、恐らくは彼は路上で身體の前後に板をぶら下げて歩いてゐる唯一の存在であるといふこと、彼の歩行の速度が通常は他の歩行者の夫よりも緩徐であるといふこととに因る。空中文字は近來甚だ稀になつたから、それが行はれれば群衆の視線を空の方に向け得ること請合である。飛行機の尻から吹き流される廣告は飛行機そのものが人々の注意を牽くから、當然日につき易い。ツェッペリンに就いても勿論同様である。停止の信號で速

度を著した自動車操縦者は彼の車の前方に停止してゐる車の後部の替りタイヤに印刷された大文字の廣告に目を留めざるを得ないであらう。速記者がチ、ウイングガムの包みを開けるときには、彼女はその包紙の上に書いてあるガム禮讚の言葉を自ら見ることになるであらう。病人が、買つて来た藥瓶の上に貼付けてある用法を讀む場合には、同時に同じ製藥業者が他に如何なる藥品を賣り出してゐるかを發見することになるであらう。或る本を讀み始めようとする者は、その本の扉の裏側に、同じ著者によつて物された他の著書の表が記載されてゐるのを見るであらう。劇場に行かうとする者が、切符の入つてゐる封筒から切符を取り出さうとすれば、その封筒の外側に、終幕後に來店を歓迎する料理店の廣告が印刷されてゐるのを見る。これ等總ての場合に、人々はさういふ氣持でもないのに自ら宣傳家の目的を理解することになる。「補充的廣告」の場合は例外とし、その他の場合には利用し得べき空間が小さいから、喚起され得べき關係的態度の數も極めて局限されてゐる。多くの場合に於て宣傳家は單に彼の目的を陳述するのみである。その結果としてこれ等の宣傳手段は往々他の手段と連繫させて用ひられる。例へば、廣告者は、雜誌廣告やラヂオのプログラムを補足する爲めに廣告板の賃借を行ふといふが如きである。これ等の手段の或るもの、特に看板及びサンドウイッチマンは、こゝぞといふ瞬間に用ひて著しい効果を擧げる。ちらしも亦同様である。例へば、安い定食を廣告するサンドウイッチマンは、午刻に料理店を物色して歩いてゐる會社員の注意を捉へ、彼のぶら下げてゐる廣告板に掲げられてゐる料理店に行かせることがあり得る(4a、關係的、支配的態度の原理、6b、行動の經路指示の原理)。

三、雜誌

雜誌は、既に新聞に關聯して論述したところ以外に、別に新たな心理學的問題を提供しはしない。宣傳家が、通常は物語りや論說等に割當てられてゐる欄に、商品の廣告を挿入する場合には、「紙面奪取」さへも行はれるのである。併し

雜誌は屢々専門化された内容を持つことがあり、然らずとするも少くともその一般的な調子は社會内の或る特殊な集團に適合するものであることが多いから、かゝる集團に特有な態度を喚起するやうな努力が行はれる(4a、關係的、支配的態度の原理)。

政治的、經濟的又は社會的な問題に關する幾分なりとも論戰的な内容を盛つた雜誌の場合には、各論說が特定の見解を昂揚してゐるのだといふことに就いて讀者は疑問を持たない。論說がその内容を證明する爲めに單に態度を喚起するのみである場合には、その筆者は宣傳家と呼ぶことができる。これに對して、論說が、或る問題に就いての凡ゆる證據と云はぬまでも殆んど凡ての證明材料を呈示し、そしてそれと同時に、この證據を基礎として爲めにするところある若しくは爲めにするところなき結論を抽出してゐる場合には、それは寧ろ、宣傳の奥ひのある教育の一例とすることを適當とする。同時に、雜誌の主義、方針に適合する論說のみが採擇され、その結果として出版物そのものが宣傳の機關となることがある(6c、限定の原理)。最後に、編輯人が不知不識の裡に、或る特殊な世界觀を支持する論說を掲載する場合もあり得る。この場合は無意圖的宣傳の一例と見ることが出来る。

雜誌の讀物も亦宣傳の用に供せられることがある。アプトン・シンクレアの如き急進主義者は、雜誌、著書の大多數は資本主義固有のイデオロギイを強調する讀物のみを掲げてゐると主張する。かやうな方針は意圖的に採用されることもあるし、無意圖的に行はれることもある。讀物の形に於ける宣傳は特別に効果的である。何故かと云へば、讀者の關心が話の筋書によつて喚起されると、彼は同時に宣傳家の主張によつて影響されることもあり得るからである(2a、補助的態度の知覺的原理)。

著述の批評、演劇、映畫、藝術作品、演奏會等の批評は、それが正直に行はれたときには、換言すれば、それが筆者

の正直な反應を呈示する場合には、無意圖的な宣傳となる。又、筆者が賄賂によつて、客觀的に評論、批判されてゐると考へられてゐるものを推賞するやうに反應する場合、又は、筆者が何等かの別の目的によつて動かされてゐる場合（一身の名聲を博する爲めといふやうな）には、筆者は意圖的な宣傳家若しくは説得者である。かやうな宣傳は、意圖的な場合にせよ、無意圖的な場合にせよ、重要な作用をなすものである。何故かと云へば、人々は、上に述べたやうな娯樂の諸形式の一つを選び出すことにより、彼等が讀んだ批評を受け容れ易い傾向があるからである。評論家又は批評家は、彼の批評が印刷に附せられたといふ單なる事實により、又は民衆若しくは讀者自身の眼に映する彼の名聲の結果として或る程度の勢威を持つものである（Gal, 積極的社會的價値の原理）。

新聞と同様に、雑誌は夫々特有の勢威を持ち、それによつて讀者は豫めその内に呈示される宣傳の方に傾き易い傾向を持つ。或る雑誌は論調の高邁なるを以て知られ、或る雑誌は性問題を以て著はれる。或るものは保守主義、貴族主義的傾向を有するし、或るものは自由主義的觀點を以て鳴る。或るものは娯樂を提供することを主眼とし、或るものは實際的な事業上の示唆を多く盛る。と云ふやうに近代生活の全階梯が網羅される。加之、多くの雑誌は雑誌として勢威を有する。その尤もらしい外観、注意の行き届いた出来上り、價格が比較的高價であること等は、眼を通して直ちに捨てられる新聞に比してより多くの社會的價値を持つ傾向がある。

米國の雑誌が廣告には打つてつけの手段を提供するといふことも注意せねばならない。或る論説に興味を牽かれて讀む者は、その論説が、又はその論説の続きが、廣告の欄又は頁によつて包圍されてゐるのを發見する。その結果として彼は心ならずも廣告に眼を觸れることになるのである（2、知覺の原理）。又、廣告が雑誌の紙面の大部分を占めてゐる場合が屢々あるから、廣告者は、讀者が面白い讀物として廣告を讀むやうに、自分の廣告の牽引力を強める工夫を争つ

て行ふのである。雑誌にも廣告者にも利益を與へるやうな便利な循環現象が見られる。それは、雑誌の勢威は或る國家的に有名な商品がその頁に廣告されることによつて強化され、それと同様に、商品は嚴密な廣告標準を持つることを以て知られてゐる雑誌に廣告を掲載することを許されることによつて、一層その勢威を増大するといふことである。

四、書 籍

書物が文化的に重要な意義を有することを事新らしく指摘したり、書物が社會的相續財産を後世に傳へる主たる手段の一つであることを證明したり、これあればこそ吾々は再び野蠻状態に復歸せず済んでゐるなど、眞面目腐つて論じたりすることは、迂愚の誇りを免れ難い。何故かと云へば、現今に於ては、人が何事か多少なりとも通常でないことを行つた場合には、それが何等かの科學的發見であらうと、人氣のあるジャズバンドの組織であらうと、彼の業績は殆んど忽ちにして書物の中に詳細に敘述されるやうになるからである。繪畫や彫刻の複寫を掲載する書物さへもある世の中であり、これによつて藝術家の名聲が一層高められるのである。

かく觀するときは、書籍が無意圖的な宣傳家にとつて最も重要な宣傳手段の一つであることは疑を容れない。何となれば、若い人々は時代の文化的模様の諸様相に對する態度を、書物を通じ、又は教師によつて解釋せられたる書物を通じて、不知不識の裡に獲得する場合が少なくないからである。歴史に對する愛國主義的解釋、人種的イズムの或るもの、説明、時代の要求する徳性の勝利によつて大團圓となつてゐる小説、それ等はこれの隠蔽せられたる宣傳が裝ふ形式に他ならない。要するに、社會は、書物はそれを讀む兒童の上に頗る深い感銘を刻するが故に、一種の智的安定性、持續性を保つてゐられるのである。大多數の人々が「教育」と呼んでゐることの大部分は、少數者の觀點よりすれば宣傳に他ならない。又、社會現象を或る距たりを以て觀察し得る社會心理學者又は社會學者の觀點からしても同様である。例へ

ば、ロシアに於ては國家は、米國の兒童が獲得する態度とは凡そ異なる態度を兒童に植ふつけようとしてゐるが、この國に於ては N・イリン¹⁾ の新ロシア入門書 *New Russia's Primer* といつたやうな書物は、「教育」と見られ、これに對して、米國の政治學關係の教科書の大多數は「宣傳」の實例と見られてゐる。米國の觀點から云つてこの逆が眞であることは云ふまでもない。然るに、入門書は意圖的に五箇年計畫の頌歌を謳つてゐるに對し、米國の教科書は多少共に無意圖的に米國憲法を讃へてゐるに過ぎない。この相違の由つて來る所以は、ロシアの制度は米國の夫に比して新らしく、従つて先づ、意圖的宣傳によつて安定させる必要があるからである。^(註3)

概して云へば、書物は、新聞雜誌と同様に、獨自の勢威を有する。即ち、その外觀は最も儼めしく、その價格は一層高價であり、而も重要な文化的所産といふことを普遍的に認められてゐる。これ等の理由により、讀者は書物の内容に對して服從的であるといふ傾向は、少くとも持つてゐる(6a1、積極的、社會的價値の原理)。宣傳家の目的が彼自身によつて堂々と顯示されることもある。書物の終末近くなつて厭々ながらに示されることもある。全篇を通じて隠蔽し通されることもある。この最後の方法は宣傳家が單に一般的態度を強化若しくは弱化させようとしてゐるときに採られる。公益事業の宣傳家が有利なる統合を築き上げると同時に彼等の窺極の目的を隠蔽することの重要性を覺り、教科書及び教科書の著者の上に影響を及ぼすことを企てたことに就いては既に述べた。^(註4) 教科書を利用するかやうな宣傳は特に効果が著しい。兒童は教科書を教室の一部分と考へ、そこでは「真理」のみが教へられるものと思ひ込んで、教科書に對しては畏敬の念慮を抱くことを常とするからである。何故に書物が宣傳の重要な仲介となるかの他の理由は、刺戟情勢として書物の性質の中に内在してゐる。即ち、書物の包容力が宣傳家をして種々な方法で彼の主張を提示することを可能ならしめ、かくすることによつて宣傳家は豫測し得べからざることを範圍を局限することができるのである(2

b、反覆の知覺的原理、4d、變化の原理、6c、補強の原理。又、讀者が或る書物を讀了する爲めに多くのエネルギーと時間とを費やしたといふ事實は、比較的良く組織された統合、そして恐らくは一時的には中心的な地位を持つ統合を齎らすことになり易い。

それと同時に、書物は他の印刷せられたる宣傳の用具に比して價格も高いし分量も多いが故に、書物を手にする人の頭數から云へば勢ひ或る程度の制限を受け、従つてその影響を及ぼす範圍も限定されることになる。多額の資金を擁する意圖的宣傳家のみがその主張の爲めに書物を利用し得るのである。それ以外の者はかやうな恵まれたる宣傳家に垂涎を禁じ得ないであらう。

五、集 會

現在に於ては集會は孰れかと云へばラヂオによつて蠶食されてゐる。併し、頗る良い能率を挙げようとする宣傳家は演説者を雇備し、又は甚だしきに至つては演説會場を設備したりする。集會に於て聴衆に提供される刺戟情勢がラヂオを通じて提供される夫とは凡そ異なるものであることは言を俟たない。會堂に於ける聴衆は常に演説者の聲響によつて影響を蒙るのみならず、彼の外貌及び身振りによつても影響される。これに對してラヂオのファンは刺戟の唯一の源泉として聲響を聞くのみである。^(註5) 加之、集會に於ける人々は演説者によつて影響される他、會同者相互間の影響をも蒙るのである。それによつて惹起される心理的過程は種々あるが、就中重要なものは、普遍性の印象に伴なつて起る服從的態度の喚起である。かゝる態度は正に宣傳家が求めてゐる所期の統合を促進するものに他ならない(6a2、普遍性の印象の原理)。或る會合に於て行はれた演説がラヂオを通じて放送される場合には、聴取者は現實に會場に出席してゐる人々の物音(喝采や笑聲その他)を聞いて如上の服從的態度を喚起されることがある。併しこの場合に於ける態度は、視聽に

よる印象といふ重要な要素を缺くが故に、恐らくはより弱いものであらう。更に、公衆の會合に出席する者は、演説者が演説を完了するまでその坐席で留まつてゐる傾向が強い。何故かと云へば、禮儀正しくあれといふ習慣や、彼が態々出席したのだといふ事實等を含み、總ての社會的情勢は彼により大なる忍耐力を興へるだらうからである。これに反してラヂオの聴取者は單にグイアルに軽く手を觸れさへすれば何時でも別のプログラムに方向轉換を行ひ得るのである。集會堂の中に聴衆を誘致する爲めに用ひらるべき工夫は種々ある。その或るものは單に人々をして集會が開催されるやうにしてゐることを知らしめるだけのものであり、ピラ、新聞廣告その他一切の印刷による廣告法及びラヂオを通じての廣告を含む(2)、知覺の原理)。その他、宣傳家は音楽とか、演説者の一人として美貌の婦人を挿入るとか、集會前の行列を行ふとかいふやうな、補助的態度を喚起し得るやうな種々な方法を講ずることがある(2)、補助的態度の知覺的原理)。

宣傳家が演説の内容として行ふ現實の訴へは、一旦聴衆が獲得せられた以上は、宣傳の他の形式に於けると同様に種々雑多であり、一定の型に當嵌めることは不可能である。併し、演説者が利用し得るところの演説に特有な附加的武器が三種類ある。先づ第一に、演説者は聴衆に面と向ふことによつて得られる人格的接觸を資本化し、この人々の集團の反應に適合するやうに演説の内容を變化させて行くことができる。彼がかやうな態度を探る場合には彼は寧ろ説得の域に接近しつゝあるものと云ひ得る(註6)。第二に、彼は彼の手下を聴衆中に「植ゑ」つけておき、大切な瞬間に、而も適當な分量の拍手を得られるやうにすることが出来る。かやうにして彼は聴衆の爲めに明白なる賛同を創り出す爲めの努力を意圖的に行ひ、そして同時に彼等の内に普遍性の印象を喚起せしめようとする。第三には、演説者は、若し彼が欲するならば、討論を行ふことができる。討論は説得の他の形式に他ならない。何故かと云へば、演説者は聴衆に對する反應を

聴取することによつて新たな言辭的刺戟情勢を創り出し、これによつて所期の統合を確保するやうにすることもできるし、或は逆宣傳を行ふこともできるからである。

戸外の集會、特に街頭の集會は宣傳家にとつては一層困難な仕事である。一般にこの種の集會は豫め行はれる廣告を缺くものであるから、所謂石鹼演説者は先づ第一に聴衆を牽き寄せることから始めねばならない。或る老練なる社會主義宣傳家は「戸外集會の要諦」として次のことを擧げてゐる。

「第一に、場所である。歩道の幅員が廣く、燈火が演説者に具合の良い場所を選定せねばならない。演壇は街角に餘り接近させてはならない。少くとも街路の交叉點から五〇呎は退いた場所でなければならぬ。かくすることによつて演説者の前に立ち得る人の數が多くなるのである。多數の聴衆を獲得する爲めには場所が廣くなければならぬ。多數の者が立停つても左程交通の妨害とならぬやうでなければならぬ。」

「聴衆は演説者の言葉を聞くと同時に彼を見度がるものであるから、演説者は相當高い位置をとらねばならない。その爲めには箱か椅子で充分である。彼を取巻く聴衆は數列の間陣以上には出るものでなく、而も彼の背後に立つ者は演説者の一瞥を得る爲めに首の筋を遂へるやうな苦勞をする……演壇には常に何等かの裝飾を行ふべきである。大きな清滑しい旗……小旗や立看板、ポスター等、演壇を色彩に富んだ、魅力のあるものにせねばならぬ。」(註7)

演壇の場所と外觀、及びこれに附加へられるものとして客引の道化、これ等は人々の注意を演説者の方に向ける爲めの方法であり(2)、補助的態度の知覺的原理)。演説の内容に對する彼等の反應の上に幾分かの効果を持ち得る(4)、關係的、補助的態度の原理)。加之、この種の宣傳に於ける豫測し得べからざることを範圍は極めて大きい。通行人は立停らないかも知れない。彼等が立停らうとせぬ、又は立停り得ぬ理由は概して無數にある。假りに立停つたとしても、彼

等は演説者に對して一種、恩に被せるやうな態度を持つことが往々にしてある。何故かと云へば、石鹼演説が勢威を有することは稀だからである。石鹼演説の聖地とも云はるべきロンドンのハイパークの聴衆でさへも、興味の爲めに、又は彌次る爲めに、熱心な牧師や政治家の演説を聞いてゐるのだと云つても過言ではないのである。併し、ニューヨーク市のニュートン廣場で演説を行ふ急進主義者の多くがさうであるやうに、演説者が著名な人である場合には、聴衆の敬意を確保することが出来る。又、クレッセン *Cresson* が指摘したやうに、演壇及び演説者の裝飾は多衆を吸引し得ることも事實である。又、例へば能業といつたやうな特殊な場合には人々が熱心に演説に耳を傾けることも事實である。かやうにして、街頭集會は、他の手段によつて到達し得なかつた人々に對して宣傳家の傳へんとするところを傳へる爲めには役に立つ。この方法が頻繁に利用されるのは、これに要する費用が通常輕少だからである。且、この方法は例へば革命の最中といふが如き、單に一時的の統合でも差支へないから直ちに行動に導くやうな統合が要求されてゐる危急の場合には極めて便宜である。最後に、演説を聞く爲めに集つた人々の相互的刺戟によつて普遍性の印象は比較的容易に得られ、従つて、聴衆化して群衆となり、甚だしきに至つては暴徒にまで發展する可能性があるといふことを注意せねばならない。

六、風評

無意圖的宣傳といふ觀點からすれば風評は噂話と呼んでも差支へない。何故かと云へば、ラムリー教授が云つたやうに「……人々が最も解放された氣持ちで噂するのは社會律に對する違反に就いてである。やり過ぎといふ意味での違反もあるし、放漫、弛緩といふ方面の違反もある。性關係に於ける大小の脱線は吾々の間の永遠の話題である。」(註3)

金棒曳きといふものは彼等自身の個人的動機とは關係なく、風俗習慣の或る様相又は行爲の標準に對して無意圖的宣傳を行つてゐることがある。彼等の或る者は悪意を以て、意圖的に、同じ、若しくはより以上に輕蔑すべき目的を果すこともある。それ故にラムリー教授はゴシップを「社會的制御の一手段」とするのである。

風評自體が意圖的である場合がある。過ぎし大戦に於ける「捏造」に關する著述が幾分かの眞理を含むとすれば——そしてそれは疑問の餘地がないことであるが——將校達は兵士の戰意を昂揚する爲めに意圖的に虚構の話を軍隊に撒き散らしたものだと思はれる。例へば、或る兵士は、旅團長の次の話によつて激昂した。

「……ランドツェリー・カッスル號が(獨逸人によつて)魚雷を見舞はれた後に吾等の傷つける戦友に對しては毫も救濟の手は差延べられなかつた……世界史に於ける如何なる野蠻行爲と雖も、病院船ランドツェリー・カッスル號の爆沈に比肩すべきものはない……想へ、三百餘のカナダ人が波立つ英佛海峡に苦悶しつゝあるを……」(註9)

かうした話が聲囂中に行き渡つた。その結果として兵は盲目的な復讐の念願に燃え、出遭ふ敵兵は容赦なく殺戮された。攻撃に於て負傷した一英雄が英國に後送されることになつた。彼は通りかゝつた看護卒に云つた。

「横断は危険ぢあないか。時々奴等は魚雷のお見舞をするといふぢやあないか……ランドツェリー・カッスルみたいにな」。

「ランドツェリー・カッスルだつて、」彼は嘲笑つた。「あれは血腥い人殺しだけのことさ。うちの將校達は銃殺してもいい位なものだ。あの船にはな、軍需品や兵器を積んでゐたんだぜ——怪しからん罰當りといふ譯さ。」

「ランドツェリー・カッスル號——軍需品——兵器の輸送——私はアミアンの戦を前にして將軍が吾々にその報告書を読んでゐる姿を眼前に彷彿する——太陽は彼の軍帽の上に輝いてゐた——彼の冷靜な、無表情な聲は今だに耳の底に残つてゐる——」

「可愛想な奴等、泳げなかつたんだ——暴虐な振舞——復讐せずにおくものか……」。

私は捕虜共が頭の上高く手を上げて吾々の方へ走つて來るときの滑稽な、癡癡的な歩き振りを想ひ出す——砲彈のつくだ穴の縁から合掌された手が差し出されてゐた。私達は本構ひなしに射撃した——無言で憐憫を求めてゐる合掌された手……」(註10)

政治に於ける意圖的風評は今日に於ては「嘘き戦術」(Lying campaign)と呼ばれてゐる。候補者に就いての何事かぞ、それが新聞種になる前に、又はそれが新聞に取扱はれてから後にも、口から口へと傳へられる。一九二八年の選挙戦に於てはアル・スミスの加特力主義が政治的風評の内容であつた。一九三三年のニューヨーク市の市長選挙に際しては、獨立黨候補者マッキーの反對者達は「嘘き戦術」により、彼が嘗て餘り著名ならざる加特力教の雑誌に論文を發表し、その中に於て反猶太人的主張を行つてゐる旨の攻撃を行つた。

商業的宣傳家も亦風評を利用する。公益事業會社は嘗て有力者達を「改宗せしめ」、その結果としてこれ等有力者は非公式的な會話に於て、電力の國有の弊害に關する説明を弘めるやうになつた(註11)。より最近には、ニューヨーク・ワールド・テレグラムの幹部記者の一人は「熱練せる宣傳家を萬事に」を標語とする或る會社の内情を暴露した。この會社の契約書の一部には次の如きことが記載されてゐる。

「右の宣傳者は(2)の隊形に従つてその職務を執行すべきものとし、當地方又はその他の地方に於て、契約文所載の場所、即ち、地下鐵道、高架鐵道、鐵道、電車、汽船、事務所又は百貨店の昇降機等に於て、及び劇場、音樂會、遠足會、博覽會、野球又は蹴球の試合等大衆の集合する場所に於て、所定の情報を公衆に與へることを要する」。

この組織は「言葉の口にする」によつて罷業を破る爲めの活動を行つた。この組織の手先の一人は、例へば筆賣

りに假裝して罷業に参加してゐる労働者の妻に接近する。彼女が買ふことを拒絶すると、彼はさも同情のあるやうな風を装ひ、彼女の、及び彼自身の現状を、「腐敗せる労働組合の指導者達」の責に歸せしめる。同じ記者は更に、他の例として、或る商事會社がその外交員をしてタクシーの運転手に次のやうなことを云はせた事實を擧げてゐる。「〇〇の製造に従事してゐる連中が工場で働いてゐる間に癩病に取りつかれたつていふ話を知つてゐるかい。」かやうにして、その後これ等の運転手がそれと知らずにこの虚構を傳播させるといふ効果を狙つたのである。

總て風評といふものは、宣傳を行ふ人がその社會的地位の故に或る勢威を有してゐるから効果があるのである。聞き手は單純に、話し手は別段の動機を持つものではなく、従つて信用して良し、と思ひ込んで了ふのである(6a)。補助的、服從的態度の原理)。併し、この服從的態度の強さは、心界内に於ける他の既存の態度に倚靠するものであり、それに應じて豫測し得べからざることの範圍の大きさは大きくもなれば小さくもなる。中年未婚の婦人は概して嘘つきといふやうに考へられてゐるから、彼女のゴシップはあまり信用されない。殘酷な話を聞いた兵士は既に同じやうな話に慣らされてゐて、新たな話は單に敵に對する彼の態度を補強したに過ぎぬこともある。マッキーの嘗て行つた宣言に重要性を認める猶太人を他の者は、豫め、公職に在る加特力教徒に對して悪感情を抱いてゐた者かも知れない。そして、「凡ゆる目的の爲めの熱練せる宣傳家」の言葉は、その眞の目的が隠蔽されてゐるが故に、信用されるのである。要するに、風評は、宣傳として認められてゐることよりも容易に傳達せられ、信じられるが(6a3、宣傳の選擇の原理)、その傳達される率は、風評を受取る人々の事情によつても左右されるのである。

七、行 列

簡單に云へば行列とは、宣傳家の目的を極立たせることにより(2、知覺の原理)、及び普遍性の印象を喚起するこ

とにより(642、普遍性の印象の原理)、宣傳の用具としての役を務めるところの一つの集合現象である。

行列は、少くとも平時に於ては、そして、比較的民主的な國に於ては、稀なことが普通である。それ故に、行列が行はれると人々はそれに注意を牽かれる。人々は群集、多様な色彩、音楽、特殊な観物によつて約束される特殊な呼物によつて牽き寄せられる。彼等は補助的態度が喚起されることによつて興奮の埒場の中に巻き込まれる(24、補助的態度の知覺的原理)。行列とは、その定義上、或る主張の爲めに熱意に燃えて行進しつゝある多數の人を意味する。行列中に伍して行進する者も、傍らからこれを眺めてゐる人も、夥しい數の人々が或る主張の爲めに動かされてゐるのだといふことを不可避に意識し、そして彼等も亦、それを支援しようといふ氣持を抱き易い。音楽隊の奏する軍隊的音樂の響きは、大多數の文化に於ては、殆んど抗すべからざる心理的牽引力を有するやうに見える。それは恰かも、音樂の方に向けられた何れかと云へば漠然たる一つの態度が、心界内に於て支配的なものとなり、その結果として、その作用を受ける人は少くとも瞬間的には、暗示を蒙り易くなるかのやうである。例へば、米國の大戦参加軍人年次大會の行列は、この團體に所屬する者に、結束と貫祿の意識を與へずにはおかない。^(註13) 行列が行はれてゐる間に、これに参加してゐる人が急速な決意を持つやうになることがある(海軍に入るとか、債券を買ふとか、政黨に加入するとか、或る事業に賛成の署名をするとか)。かうした決意は彼の内なる他の態度とは矛盾するが、これ等の態度はこの決意が行はれる際には潜伏して了ふのである。そして、この決意は、この決意を齎らした態度は兎も角として、社會契約の拘束性の結果として、瞬間的に消滅することを許されず、比較的永續することがあるのである。

註1. 三〇〇、三〇三頁参照。

註2. 「補充的廣告」"supplementary advertising"とは、商品が買はれた後に行はれる廣告の謂である(或る場合には、商品の買行きを助けることもある)。商品の包紙又は貼札に商品自體が廣告されたり、他の商品の廣告が包紙の中に入れられたり("students")、出版人が書物の包紙にその書物の體裁を述べたり("steps")、同じ出版人の出版に係る他の書物を列挙したりする。

註3. 筆者は總ての書物が宣傳の用を成してゐると主張する者ではない。前に述べたやうな意味に於ける教育(七〇頁以下参照)に關する書物は、殆んど宣傳を含まぬことが屢々ある。

註4. 一六一—一六四頁参照。

註5. 1935點に關する實驗的材料に就しては Harley Cartell and Gordon W. Allport, The Psychology of Radio, Chapter VIII, New York, 1935. 参照。W. H. Wills, An Experimental Comparison of the Speech, the Radio, and the Printed Page as Propaganda Devices, Arch. Psychol., 1934, v. 25, no. 169. は大學生を多數の三群に分ち、同じ「感動的宣傳材料」を、一群に對しては彼自身が口述して、一群に對しては聽取機を通じて、一群に對しては聽取機のパンフレットによつて與へた。宣傳の前後に取られた態度表により、ウィルクは、口演が「最も驚くべき積極的效果」を持ち、聽取機は「稍々効果が劣り」、印刷物は「微弱なる効果しか」齎らざぬことを發見した。かうした實驗結果を「一般の宣傳々達に應用する場合には充分慎重な態度を以てすることが必要である。何故かと云へば、別の場合に於ては別の變數が含まれてゐて、その爲めにウィルクの到達した結果とは全く異なる結果が現はれて來ることもあり得るからである。ウィルクの實驗に就いては、若し聽取機の代りに本當の印刷が用ひられたとすれば、もつと注意深く讀まれたかも知れないのである。

註6. 一四〇—一四三頁参照。情況の變化に應じて演說の内容を變化せせて行くことは、公開演說の心理の要諦である。

註7. August Classens, A Manual for Socialist Speakers, pp. 20—21, New York, 1933.

註8. Frederick E. Lunley, Means of Social Control, p. 223, New York, 1933.

註9. Charles Y. Harrison, Generals Die in Bed, p. 245, New York, 1930.

註10. Ibid., pp. 268—269.

註11. Jack Levin, Power Ethics, pp. 46—47, New York, 1931.

註12. New York World-Telegram, Oct. 18, 1934. に於ける Lionel Louser の所説。

第六部 結 論

第二十二章 何れの宣傳

今や、この著述が取扱つた宣傳との遭遇を簡単に要約することができる。卷頭に於て筆者は、彼の目的は讀者をして宣傳といふ現象をその凡ゆる顯現に於て理解することを得しめるやうに把握せしめることに在る、といふことを述べた。この目的を達成する爲めに選ばれた武器は社會心理學であつた。

社會心理學は宣傳の社會的背景を再構成することからその分析を開始する。かうした方面から宣傳といふ現象に接近することによつて明らかになされたことは、近代社會に於ける思想傳達の方法は總て、何等かの形に於ける宣傳を含んでをり、されど覺られること最も少ない宣傳家は、人々の集團の態度又は行動を無意圖的に制御しつゝある人である、といふことである。

人間といふものは、宣傳の創造者であると同時に宣傳の對象ともなるものであるから、人間の行爲の基礎に存する動的機構の知識は極めて重要である。これ等の機構は、人々に影響を與へること頗る顯著であるところの社會的環境に關聯させるやうにして示された。動機づける機能を有するものとしての態度が強調され、態度の組織化といふことによつて、統合せられたる個人といふ問題に對する或る程度の洞察が與へられた。瞬間的にも、或る期間に亘つても、人格を分析する爲めの便があるやうな、種々な型の態度に就いて概略の説明を行つた。更に、或る與へられたる文化に於ける

社會的價値の結果として、環境は多くの人々をしてかなり似通つた態度を持たせるといふことを述べた。多數の男女をして變化せしめ、又は、變化させられしめるところの心理的過程は、暗示といふ概念を通じて説明された。

宣傳家の用ひる種々な手段、工夫を要約して一群の原理を打建て、みた。これ等の原理に關聯して宣傳家の意圖、宣傳の型、逆宣傳、説得等に就いて述べた。特に強調されたことは總ての宣傳の基礎たる二つの心理的過程、即ち知覺と暗示とである。この點に就いての説明は、宣傳家の技巧の一切の様相を考察しようといふ現實主義的企圖に他ならぬ。何故かと云へば、宣傳家が、人々及びその環境の複雑性によつて生ずる豫測し得べからざることの範圍と如何にして抗爭するかといふことを具體的に説くことを要したからである。

現時の意圖的宣傳の例の中から目星しいものを取り出して詳細に検討してみた。この種の例示を數倍にしてみたところ、次の如き一般的結論に對して取立て、云ふやうな追加的證明を提供することにはなるまい。即ち、宣傳家は既存の態度を有利に利用し得たときには成功したやうに見える。或は、別の觀點から云へば、宣傳家が宣傳戦を遂行しつゝある文化に就いての徹底的な知識を有する場合には、彼は成功に近い。廣告は人々の關心に直接懇へることによつて彼の嗜好を變化せしめる助けをなし、そして、かやうな關心は、人格に於て中心的な地位を有しないことが屢々あるが故に、比較的容易に變化せしめることができる。「當てがひ扶持」"handout"が有效なのは、眼の前に在るもの、重要性を著も評價することなくして、只管に熱心に讀まれるやうな印刷物中に、それが掲載されるからである。公共關係顧問は大衆が求めてゐるものを發見し、多くの場合には後暗いやうなやり方で、彼自身が大衆に持つて貰ひ度いと思つてゐるものをこれに與へる。ニョーク矯風會又は休日協會の宣傳の如きものは逐日成功の可能性を薄くして行つてゐる。米國及び米國人は、この種の自己鞭撻を脱却しつゝある。これに對し、米國社會保險協會の如きは、養老年金制度

現の機熟しつゝある米國の社會に於ては、漸次その目的達成に接近しつゝある。有色人種福利増進の爲めの全國協會が或る黑人をして人種的意識を獲得せしめ、或る白人をして黑人に對して同情の念慮を抱かしめることはできて、黑人の平等待遇といふこの協會の主張は人種的偏見の社會的根基が最早存在しないやうにならぬ以上は、決して成功しはしないであらう。米國共產黨も亦、この思想を敵視する社會的傳統といふハンディキャップの下に活動してゐる。米國に於て革命が起るか否かを決定するものは經濟的條件であつて、共產黨の用ひる宣傳の型ではない。獨逸に於てはナチスは、ゲッペルスの言葉によれば、「大衆の眼を以て見る」といふことが如何に重要なことであるかを證明した。彼等は、獨逸人の多數が求めてゐるものを約束することにより、(そして實際にはその一部分しか與へないのに)、全獨逸國を劫掠して了つたのである。戰爭宣傳家は常に人々の偏見を弄んだのみならず、檢閲及び捏造により、人爲的な精神的環境を創り出すことに成功したのである。そして、これによつて、餘程の大儒學者でも三舍を避ける程の大規模な狂亂状態が惹起されることになつたのである。最後に、兵器製造業者が販賣外交員として成功し得たのは、彼等の顧客の大多數が豫め好戰的意圖を藏してゐたからである。

最後には數多の、そして廣範圍の傳達手段が分析され、そして、その孰れもが、宣傳の現實的又は潜在的用具であるといふことを述べた。人間は天賦の睿智により、凡ゆる時代を通じて、人々を協同せしめるやうな工夫、方法を考へることができた筈である。然るに、現實には、人間の努力は、宣傳によつて集團や國家を分離せしめる手段として用ひられた。同時にこれ等の手段は、文化的遺産を一時代から他の時代へと傳へる作用としても役立つ、そこでこれ等の手段は不知不識裡に社會を安全的、非進歩的に保つやうな傾向を持つのである。

總ての宣傳は知覺されることを要する。そして、それは暗示を通じて人々の人格を部分的に、又は比較的完全に再構

成することにより、人々を變化せしめねばならない。これ等宣傳の原理は普遍的に適用し得るやうに見える。その根本的重要性に就いては疑問の餘地がない。併し、かやうな概括論は危念な場合に餘り役に立たない。實際的な、臨床的な目的から云へば、現時に於て最も頻繁に用ひられつゝある特殊な系を選択することが極めて大切である。

反覆の二つの原理、即ち知覺に關する反覆の原理と補強に關する反覆の原理は特に重要なやうに思はれる。宣傳家は、人々が覺るには仲々時間がかかること、彼等は別種の宣傳の影響も受けてゐるのだといふこと、人々は宣傳の刺激に對して直ちに反應を呈するだけの時間の餘裕もエネルギーの餘裕も持たぬといふこと、を知つてゐる。廣告が「引き合ふ」のは實業家が宣傳を持続的に行ひ得るだけの資力を持つてゐるからである。無意圖的宣傳家は強力である。そして常に強力であり続けるであらう。即ち、彼は社會が尊敬すべき人とする人の代表として、どこにでも入り込むことができ、人々は彼を躲すことができないからである。

顯示的宣傳であることが明瞭なもの、多くは、結局は、利潤遞減の法則の支配を受ける點に到達する運命を有する。即ち、人々は彼等が何事かを教へ込まれつゝあることを覺るやうになり、自身を防衛し始めるに至る。かうなつた場合には宣傳家は其の戰術を變更することを餘儀なくされ、別の態度を喚起せしめねばならぬやうになる。併し、概して云へば、牽強附會が次第に嵩じて、隱蔽的宣傳が擡頭するやうになるといふことは想像に難くない。公共關係顧問の諷刺、全世界の殆んど總ての國に於て見られるところの、教育機關の完全な統制、兵器製造業者の暗中飛躍等は確かに如上の方向への傾きを意味するものである。

將來に於て重要な武器となることを豫想されるところの、宣傳の第三の原理は局限の原理である。現今に於ても尙、成功を収めた宣傳の大多數は、無智な大衆あればこそ成果を挙げ得たのである。例へば、消費者は、彼の眼を眩惑させ

てゐる總ての近代的の細々した品物に就いて一々判斷を下さねばならぬといふことになれば、全く困惑して了ふに相違ない。併し、大衆の知識が次第に發達して最早宣傳によつて思ふが儘に操縦され得ないやうな場合が屢々ある。かゝる場合には嚴密な檢閲が行はれ始め、大衆が知り得る事實を局限するのである。戰爭の際には、正確な知識を獲得し得る可能性が極めて稀薄にさせられる。宣傳家は態々誤れる認識を作り上げる爲めに努力を行ひ、何等かの外聞のよい口實を設けてかゝる措置を正常化しようとする。それ故に、平均のとれない文化が宣傳家をして彼等の地位を保持することを努めるべく餘儀なくしてゐるやうな世界の現狀に於ては、抑壓、捏造、歪曲等は必然的に榮える筈である。

意圖的宣傳も、無意圖的宣傳も、特に、人間同志の間の關係といふ世界に於て繁榮する、といふことは銘記せられねばならない。生存のこの重要な様相に對しては、科學的に首肯できるやうな解決方法が無いやうに思はれる。或る機械にも一つ齒車の齒を附加すべきか否かといふことに就いては、宣傳が働きかける餘地は殆んど無いと云つて差支へない。何故かと云へば、かゝる附加の効果は適當な機械師なり、技師なりによつて決定されるからである。併し、例へば、失業保險の制度を設けようといふ企圖に就いては、必然的に論争や宣傳が隨伴する。これは最近の最高法院の判決を見ても判るのである。かやうな場合に就いては、事案の得失を確定し得る専門家もゐないし、何れになりとも最後の決定を與へ得る程の勢威を有する者も居ないのである。社會問題の解決に關する限りに於ては、社會は惡蹄きをし續けるのである。そして、かゝる蹄きに登否兩方の宣傳が付き纏ふことは避け得ない。宣傳も、宣傳の暴露も、過去の時代に於ては重要かと思はれた社會的價値の大多數を禱弄し、正體を暴露したつたのである。かうしたことによつて人々が無感覺になるだけならばまだよい。かゝる態度は人々をして餘りに懷疑的ならしめ、何事をも信じ得ぬやうにして了ふのである。而も、行動に對する要求は已むに已まれぬものがある。

右の如き混沌たる状態があり、そこから相抗する宣傳の複雑なる交錯が生ずるのを見て、心ある人々は次の如き問を發する。然らば、如何なる宣傳を探るべきか。科學が吾々の當面する種々な困難を解決し盡すことができぬ以上は宣傳は必要なのであるが、吾々が受容れるべき宣傳は如何なるものであり、吾々が排撃すべき宣傳は如何なるものであるか。凡ゆる方面に於て宣傳家は吾々の支持又は吾々の金を狙つてゐる。吾々は何人に、そして何事に、吾々の忠誠を誓ふべきか。何に吾々の金を費やすべきか。

如何なる宣傳？この間がある理由は痛い程明瞭である。併しその答は？この答は存在しない。

人々が自ら進んで服従的になるやうな社會的價値は存在しないが故に、この間に對する答が存在しないのである。醫者は（病人自身が死ぬことを欲する場合でさへも）病人を治癒することを決して躊躇しない。それは醫者は、生は死よりも尊重すべきであるといふ生物學的價値論によつて動かされてゐるからである。併し、選挙人が或る公職の候補者に投票する場合には、彼等は投票の標準となり得るやうな確實な社會的價値を發見し得ない。その代りに彼等は候補者の約束や政綱に耳を傾けるのである。而もかやうな約束は選挙人の支持を得んが爲めになされた詭計以上の何物でもないことが多いのである。例へば、最良の政體は何であるか。政治的に、社會學的に、心理學的に、或は哲學的に、如何に尤もらしい顔付をしてゐる人であつても、植物學者が植物の種の存続の爲めの最善の諸條件の概要を述べ得ると同じやうに、この間に答へ得る者はないのである。宣傳家が利用する社會的價値は現存する價値である。あり得べき、又は當にあるべき價値ではない。

併し、何れの宣傳を？問題を別の形で述べてみよう。科學者又は科學者以外の何人にもあれ、宣傳が據つて以て選擇し得られる如き社會的價値を供給し得る者があらうか。苟くも文化的傳統のお蔭を蒙り、他の人々が如何に生活してゐる

かに就いての知識によつて幾分なりとも裨益されてゐる人であるならば、右の如き社會的價値が少數の人々の集團、例へば、工學の原理に關する知識と、人間は飲食、婚姻、睡眠を要するといふ觀察とによる思ひ上つた全知全能の感じを抱くに至つた相當りの技術萬能論者の集團の如きものによつて、形成され得るものではないといふことは容易に判るのである。如何に困惑に包まれてゐるからと云つても、餘りに向ふ見ずになり、煽動的政治家の唱導する一、二の公式の中に永遠的な萬能の秘藥を發見することを期待するが如きは採らざるところである。又、變遷しつゝある社會内の動的人格に對して靜的解決を豫見するといふやうな先走つた態度も感心できない。されば、社會的價値は非永久的なものとして止まり、程度の差こそあれ、流動的な性質を帯びざるを得ない。絶對の眞理なるものは存在し得ず、従つて、宣傳は存在せねばならない。

それ故に、人々が支持する宣傳は彼等自身によつて選擇されることを要する。多くの人々が子供の時に信じ又は採用すべしと教へられたことを信じ續けるといふことは當然考へられる。そしてかくして生じた種々な信仰や主義に對する矛盾した忠義立てが、お互に相殺するやうな結果を生み出すのである。彼等にとつては「宣傳」といふ言葉が依然として或る不祥な響きを傳へるのである。より多數の腰抜け共に専ら自己の利益を追求し、そして彼等に個人的利得を齎らす「眞實」を宣傳する。本當を云へば、大多數の人々が彼等が没頭してゐることの正非を辨別し得ると考へる方が理窟に合はないのである。

とは云へ、一群の社會的價値を生起せしめる争點の鮮明を希望することは必らずしも全然實現不可能ではないのである。けれども、宣傳の諸原理を把握し、高い王座の上に坐るといふことは、人をして、「所謂」自由主義者といふ娛樂的觀客の地位に陥らしめる惧れがある。緩徐な化石化の過程を回避しようと欲する者は、徒らにこの高處から傍觀する

の態度を探らずして、能ふ限り合理的に彼の社會的價値を選択せねばならない。この選擇が全然合理的にのみ行はれ得ぬことは勿論であり、その爲めには或る程度の感情的突込みが伴ふことを要する。何故かと云へば、極めて穩健な思想は不決斷を齎らずに對し、行動はより深い、より原始的な動機づけを要求するからである。

大衆及びその指導者は、彼等の價値に對する比較的合理的な基礎を發見する爲めに幫助を求め、これを意識的に努力せねばならない。この幫助は専門家に向つて求めねばならない。こゝに云ふ専門家とは能率屋とか技術熟練者といふ意味ではなく、深い理解を持ち、而も人間を擧取することを求めてゐない人の謂である。この意味に於ける専門家は社會が既に所有する一群の知識の裡に訓練を受け、或はかやうな知識を知つてゐる者である。彼等は醫學によつて健康に關する諸般の事實を發見する。社會的訓練から傳統、組織、行爲等の事實を知る。殘餘の範圍からして物質的環境の事實を知らず。かやうな知識は分量も尨大であり、仲々に難解ではあるが、それが綜合されて指導者が旗幟とし、大衆が多少なりとも自發的に追隨する宣傳の體系を決定するところの社會的價値を生み出すやうにせねばならない。茲には快刀亂麻を斷つが如き解答はあり得ない。右の如き知識の源泉の意見を求めることによつて社會的價値はより適當に決定せられるであらうといふほんの暗示でしかない。「先生方」は彼等自身が知つてゐることの重要性を意識しないことが屢々ある。併し、苟くも指導者たる者はこの重要な知識を利用することができ、かくすることによつて成功の可能性をより大きくすべきである。單なる知識は不決斷又は頹廢に導く。これに對して、知識を基礎とする行動の設計はより結實的であり、又、しからねばならない。これ等の新たな社會價値は宣傳によつて獲得することができる。これ等新社會價値のみが宣傳を正當化し得る。但し宣傳の過程を自ら自體が、これ等社會價値の表象する進歩を破壊しないことを要する。」

指導者の用ひる宣傳の仕組みが如何に複雑微妙であらうとも指導者は奇蹟を實現する者ではない。假に總ての人が欺

き易く、意圖的又は無意圖的宣傳家の好餌であるとするならば、新たな社會的價値を發見し、然る後にこれを確立するといふ仕事は殆んど不可能となる。「眞理」の裡に虚偽を發見し、「虚偽」の裡に眞理を探る人がもつと殖へなければならぬ。かくして初めて社會の害悪を成す法螺を絶滅することができる。かくして初めて、眞價、宣傳共に欺瞞的ならざる眞の指導者が認められるやうになる。かくして初めて、ファシズムの如き教説に動かされなくなる。それは可能な筈である。が、果して實際に可能であらうか。

附 録

宣傳の諸原理

1. 宣傳家の意圖の原理。意圖的宣傳に於て、宣傳家は彼の爲めにするとあらんとする目的を承知してゐる。無意圖的宣傳に於て、宣傳家は彼自身の行爲の社會的效果を自覺しない。
2. 知覺の原理。宣傳家は彼の刺戟情勢を、これと效果を争ふ背景から極立たせるやうにする。
 - a. 補助的知覺の原理。宣傳家は補助的知覺を喚起することによつて彼の刺戟情勢を極立たせる。
 - b. 反覆の知覺の原理。宣傳家は彼の刺戟情勢を知覺される蓋然性を増加する爲めに、刺戟情勢を反覆せしめる。
 - c. 單純化の知覺の原理。宣傳家は彼の刺戟情勢を知覺の手の届くところに齎らす爲めにそれを單純化する。
3. 宣傳の型の原理。宣傳家は次に掲げる宣傳の型の一つか或はその總てを用ひる。顯示的宣傳、遅延的顯示的宣傳、及び隱蔽的宣傳が是である。
 - a. 顯示的宣傳の原理。顯示的宣傳に於て宣傳家は直接の暗示によつて人々をして彼の目的を知覺せしめる。
 - b. 遅延的顯示的宣傳の原理。遅延的顯示的宣傳に於ては、宣傳家は關係的態度を喚起した後初めて彼の目的を顯示する。
 - b. 1. 遅延的顯示的宣傳の時間的原理。遅延的顯示的宣傳に於ては、宣傳家は彼の目的を、その目的が豫め喚起さ

(406)

- れた關係的態度に統合せられ得る瞬間に於て、人々によつて知覺せられ得るやうに仕組む。
- c. 隱蔽的宣傳の原理。隱蔽的宣傳に於ては、宣傳家は彼の目的を開陳することを差控へ、間接的暗示によつて、喚起せられたる關係的態度を統合し、人々をして彼の目的の方向はしめるやうに豫め傾向づけるところの一つの新たな態度を作り上げる。
4. 關係的態度の原理。暗示の過程に於て、宣傳家は、所期の統合を齎らすに助けとなるべき關係的態度を喚起する。
 - a. 關係的、支配的態度の原理。宣傳家は既に支配的になつてゐる態度を關係的態度として用ひるか、又は、或る期間を通じて支配的なものとして持續する關係的態度を喚起する。
 - b. 關係的、中心の態度の原理。宣傳家は中心の態度たる關係的態度を喚起する。
 - c. 關係的、補助的態度の原理。宣傳家は關係的態度としての機能を有する補助的態度を喚起する。
 - d. 變化の原理。宣傳家は、種々な人々に於ける關係的態度を喚起する爲め、及び彼等のステロ版を變化せしめることにより、積極的暗示を通じて他の人々の中に新たな態度を築き上げる爲めに、彼の刺戟情勢の内容に變化を與へる。
5. 所期の統合の原理。宣傳家は、彼の目的の方向に人々を豫め傾向づける如き所期の統合を確保する。
 - a. 統合の型の原理。所期の統合は中心の態度なるか、又は斷節的態度である。
 - b. 行動の原理。宣傳家は行動に導くべき所期の統合を確保する。
6. 豫測し得べからざることの範圍の原理。關係的態度の間に所期の統合が成就する以前に、そして、隱蔽的宣傳の

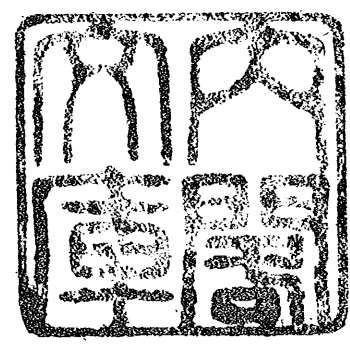
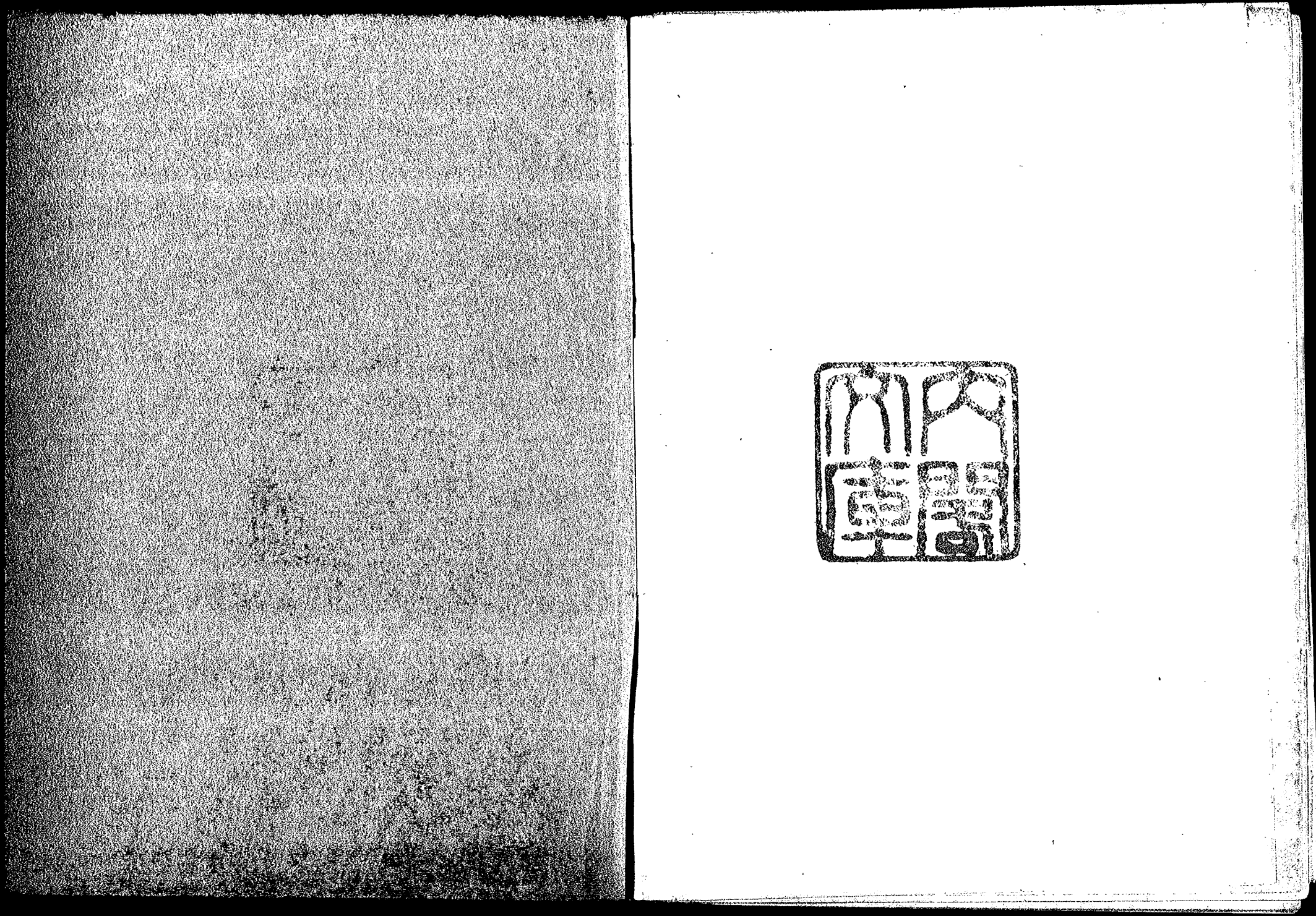
(407)

場合を除き、宣傳家の目的の理解の以前に、及びそれが行動にまで導かれる以前に、宣傳の時間的性質、競争の立場に在る他の宣傳家の存在、及び宣傳家の対象とせねばならぬ集団内の諸人格の複雑性の故に、豫測し得べからざることの範囲がある。

- a. 補助的、服従的態度の原理。宣傳家は、勢威を有し、被暗示性を増加せしめる効果を有するが如き刺戟情勢に對する服従的態度の喚起を通じ、心界を局限することによつて豫測し得べからざることの範囲を縮小する。
- a. 1 積極的社會的價値の原理。宣傳家は彼の刺戟情勢の中に、積極的社會的價値を有する物や人を含ましめる。
- a. 2 普遍性の印象の原理。宣傳家は普遍性の印象を生ぜしめる。
- a. 3 宣傳選擇の原理。宣傳家又は刺戟情勢の勢威が宣傳家の目的の顯示によつて減少を見ない場合には、顯示的宣傳が用ひられる。目的の顯示によつて勢威が減少する場合には隠蔽的宣傳が用ひられる。即時的顯示によつては減少するが後に顯示しても減少せぬ場合には、遅延的顯示的宣傳が用ひられる。
- b. 行動の経路指示の原理。顯示的宣傳及び遅延的顯示的宣傳に於て宣傳家は、所期の統合が導くべき行動の経路を指示することによつて豫測し得べからざることの範囲を縮小する。
- c. 補強の原理。宣傳家は所期の統合が潛伏的なものとして止まつたり、或は分解したりすることを防ぐことにより、豫測し得べからざることの範囲を縮小する。
- c. 1 反覆の補強的原理。宣傳家は同一の又は同種の刺戟情勢を反覆せしめる。
- c. 2 附加的、關係的既存態度の原理。宣傳家は他の既存の關係的態度をも喚起する。
- c. 3 附加的、關係的新態度の原理。宣傳家は人々のステロ版を變化せしめることにより、積極的暗示によつて新たな態度を形成せしめる。
- d. 局限の原理。宣傳家は歪曲、抑壓、抑造を通じて刺戟情勢を局限することにより、豫測し得べからざることの範囲を縮小する。
- e. 始原性の原理。宣傳家は最初の、比較的安定的な統合を惹起することによつて豫測し得べからざることの範囲を縮小する。

7. 逆宣傳の原理。宣傳家は、抵觸する態度があつて所期の統合の出現を妨げる傾向がある場合には、逆宣傳を用ひる。

- a. 逆宣傳に於ける消極的暗示の原理。逆宣傳に於て宣傳家は、抵觸する態度を無力ならしめる爲めに消極的暗示を用ひる。
 - b. 逆宣傳に於ける積極的暗示の原理。逆宣傳に於て宣傳家は、抵觸する態度に對抗すべき新たな關係的態度を形成する爲めに、積極的暗示を用ひる。
8. 説得の原理。宣傳家は補足的手段として説得を用ひる。
- a. 説得の勢威原理。宣傳家は後の他の者が服従的態度を以て接するが如き、勢威ある人々に對して説得を行ふ。
 - b. 説得の時間的原理。説得は、或る人々の間に所期の統合と行動とを齎らすべき重要な瞬間に於て、宣傳を補足する。



(本書は限定規格A判)